

木津川市
男女共同参画に関するアンケート調査
報 告 書

令和7年3月

木 津 川 市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査設計	1
4.	回収結果	1
5.	報告書の見方	2
6.	標本誤差について	2
II	調査結果の概要	3
1.	市民アンケート調査	3
2.	事業所アンケート調査	9
III	市民アンケート調査結果	12
1.	回答者の属性	12
(1)	性別	12
(2)	年齢	12
(3)	職業	13
(4)	子どもの有無	14
(5)	家族構成	15
(6)	年間収入	16
2.	家庭生活について	17
(1)	性別役割分担意識についての考え方	17
(2)	家庭内の役割分担の理想	19
(3)	家庭内の役割分担	26
(4)	「仕事」「家庭生活」「プライベート」の関わり方	34
(5)	男性が家事、子育て、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと	38
(6)	職業生活における女性の活躍を推進するために必要な支援	41
3.	子育て・教育について	43
(1)	子どもにどのように育ててほしいか	43
(2)	男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと	47
4.	地域活動・防災について	50
(1)	地域活動の参加状況	50
(2)	地域活動に参加する際に支障となること	53
(3)	大規模災害に備えた「性別による違い」に配慮した取り組みの必要性	56
(4)	避難所運営等への関わり	62
5.	仕事について	64
(1)	女性の就労についての考え方	64
(2)	今の職場・仕事に対する不満や悩み	67
(3)	今後の就労意向	70
(4)	就労する上での不安	71

6. ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて	73
(1) DVにあたる行為を受けた経験.....	73
(2) DVの相談状況.....	76
(3) DVを相談しなかった理由.....	79
(4) ハラスメント等を受けた経験.....	82
(5) 男女関係の問題の認知度.....	85
7. 男女共同参画社会について.....	90
(1) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に関して市で取り組む必要 があるもの	90
(2) 各分野の男女の地位の平等感.....	92
(3) 男女共同参画に関する用語の認知度.....	99
(4) この10年間の男女共同参画の変化.....	107
(5) 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと	114
8. 自由意見	118
IV 事業所アンケート調査結果.....	128
1. 事業所の概要	128
(1) 業種.....	128
(2) 従業員数・雇用形態.....	129
(3) 育児・介護休業の取得状況.....	130
2. 女性の登用について	131
(1) 女性の雇用状況の変化.....	131
(2) 今後の雇用についての考え方.....	132
(3) 女性の積極的登用のための取組の状況.....	133
(4) 労働力不足解消のための女性が活躍できるような取組の状況	135
(5) 女性を管理職に登用するうえでの課題.....	136
3. 男女がともに働きやすい環境について.....	138
(1) 企業認定・認証制度の認知度.....	138
(2) ハラスメント防止のための取組の状況.....	140
(3) ハラスメントなどの相談事例の有無.....	142
4. 子育て・介護との両立支援について.....	143
(1) 両立支援のための取組の状況.....	143
(2) 今後実施を考えている両立支援のための取組	145
(3) 男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題	146
(4) 結婚や妊娠、出産、介護などのライフステージの節目に選ぶ働き方	147
(5) 両立支援を推進するうえでの課題.....	148
5. 男女共同参画に関する今後の取組について.....	150
(1) 男女がともに働きやすい環境をつくるために行政に対して希望すること	150
6. 自由意見	152

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、木津川市における男女共同参画社会の構築を目指して、市民の生活等の実態や男女共同参画社会に関する意識を調査し、木津川市にふさわしい男女共同参画計画の策定と今後の施策展開の基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査項目

市民アンケート調査	事業所アンケート調査
(1) 回答者の属性 (2) 家庭生活について (3) 子育て・教育について (4) 地域活動・防災について (5) 仕事について (6) ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて (7) 男女共同参画社会について	(1) 事業所の概要 (2) 女性の登用について (3) 男女がともに働きやすい環境について (4) 子育て・介護との両立支援について (5) 男女共同参画に関する今後の取組について

3. 調査設計

	市民アンケート調査	事業所アンケート調査
調査対象区域	木津川市全域	
調査対象者	市内在住の18歳以上の市民3,000人	市内 200 事業所 (従業員数 6 人以上、かつ女性従業員及び男性従業員がそれぞれ 2 人以上)
標本抽出法	住民基本台帳より無作為抽出法	事業所母集団データベースから無作為抽出
調査方法	郵送配布－郵送・WEB 回答	
調査期間	令和 6 年（2024 年）10 月 24 日（木）～11 月 15 日（金）	

4. 回収結果

		配布数		回収数		回収率
				調査票	WEB	
市民アンケート		3,000	1,059	753	306	35.3%
(性別内訳)	男性	1,380	445	277	168	32.3%
	女性	1,620	603	468	135	37.2%
	不明	—	11	8	3	—
事業所アンケート		200	76	57	19	38.0%

5. 報告書の見方

- 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- 選択肢「その他」については比較の対象から除外している。
- 回答者数（n）が30人未満の場合、母数が少ないことから一概に適正な比率とは言えないため注意が必要である。

6. 標本誤差について

本調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおり。

調査結果の信頼度95%レベルにおける信頼区間を、主な%について求めたのが下記の表である。

この表から、たとえば、本調査結果で30%の女性が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が3.8%であるから、100回調査をすると95回まで26.2%から33.8%の間の回答が得られるというようにみることができる（男性の場合は25.8%から34.2%）。

【標本誤差の1/2幅を求める公式】（信頼度95%の場合）

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

P (%)	標本誤差	
	女性	男性
50%	±4.1	±4.6
45%または55%	±4.1	±4.5
40%または60%	±4.0	±4.5
35%または65%	±3.9	±4.4
30%または70%	±3.8	±4.2
25%または75%	±3.6	±4.0
20%または80%	±3.3	±3.7
15%または85%	±2.9	±3.3
10%または90%	±2.5	±2.7
5%または95%	±1.8	±2.0

ただし

N = 母集団数 女性：41,143

男性：38,222

n = 標本数 女性：603

男性：445

P = 標本測定値（回答率：%）

Ⅱ 調査結果の概要

1. 市民アンケート調査

【家庭生活について】

(1) 性別役割分担意識についての考え方（問7）

性別役割分担意識についての考え方については、『否定的』（「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」の合計）は74.5%で、『肯定的』（「同感する」と「どちらかといえば同感する」の合計）の24.4%を大きく上回っている。

性別にみると、『肯定的』は女性より男性のほうが9.5ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、『肯定的』は前回より11.4ポイント低くなっている。

(2) 家庭内の役割分担の理想と現実（問8・9）

家庭内の役割分担について、理想では、いずれも4割以上の人が「男性と女性が同じ程度」と回答しているが、実際に同じ程度行っているのは、「日常の買い物」の22.3%が最も高く、次いで「町内会や地域の活動」が22.0%、「掃除」が21.2%で、それ以外は2割に満たない状況である。

食事のしたくや日常の買い物については、理想でも3～4割は「主に女性で男性は補助程度」と回答しており、生活費を得るのは「主に男性で女性は補助程度」の回答が5割近い。ただし、実際には食事のしたくやあとかたづけ、洗濯、掃除などは「いつも女性」の割合が高く、「生活費を得る」は「いつも男性」の割合が高くなっており、男女の役割に偏りがみられる。

(3) 「仕事」「家庭生活」「プライベート」の関わり方（問10）

男女ともに、希望では「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」優先したいと考える人が多数を占めるが、現実にはバランスよく優先できている割合は低くなっている。希望に比べて現実には、女性は「家庭生活」を、男性は「仕事」を優先している割合が高い。

前回調査と比較すると、男女とも希望では、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」優先したいと考える人の割合が高くなっているが、現実では、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」優先している人全体の割合は、男女とも前回調査と大きく変わらない。

(4) 男性が家事、子育て、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと（問11）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が64.3%で最も多く、次いで「男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が57.2%、「男性が子育てや家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が52.1%となっている。性別にみると、ほとんどの項目で女性の回答割合が男性より高い。

（５）職業生活における女性の活躍を推進するために必要な支援（問 12）

「子育てや介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備・周知（浸透）」が35.6%で最も多く、次いで「保育施設や介護施設の整備など、子育てや介護をサポートする設備やサービスの整備」が34.4%、「長時間労働の見直し（改善）やテレワークの推進など、子育てや介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備」が28.8%となっており、性別での大きな差異はみられない。

【子育て・教育について】

（１）子どもにどのように育ってほしいか（問 13）

女の子と男の子に対する期待で差が大きいのは、「経済的な自立ができるように」が男の子に対しては82.5%の人が挙げているが、女の子に対しては65.9%であり、16.6ポイントの差がみられている。他にも「責任感をもてるように」（女の子：54.5%、男の子：67.1%）など、いわゆる“男らしさ”とされる項目は、男の子に対してより強く期待されている。

一方、「やさしさと思いやりをもてるように」（女の子：75.4%、男の子：67.5%）は、女の子が7.9ポイント高いなど、女の子と男の子では期待することがやや異なっていることがわかる。

性別にみると、女の子と男の子それぞれに対して期待することにやや違いがあるのは、男女とも共通している。

前回調査と比較すると、女の子では、「周りに気配りができるように」の割合が前回より11.2ポイント、男の子では、「社会に役立つように」の割合が前回より7.5ポイント、それぞれ低くなっている。

（２）男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと（問 14）

「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が58.2%で最も多く、次いで「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」が57.7%、「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える」が53.4%となっている。

性別にみると、女性では「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」が64.5%で最も多く、男性の回答を15.7ポイント上回っている。

他に男女で回答の差が大きいのは、「男の子だから」「女の子だから」といった役割や、性別でふるまいを決めつけるような言い方をしない」（男性：40.4%、女性：54.9%）、「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える」（男性：42.5%、女性：59.5%）などとなっている。

【地域活動・防災について】

（１）地域活動の参加状況（問 15）

参加している地域活動は、「町内会、PTA、子ども会などの活動」が41.8%で最も多く、次いで「地域活動に参加していない」が36.4%、「趣味やスポーツのグループ活動など」が21.7%となっている。

性別による違いはほとんどみられず、年齢による違いが大きい。

「町内会、PTA、子ども会などの活動」は、男女ともに40歳代以上では4割以上が参加

しているのに対し、男性の10・20歳代、30歳代では1割余り、女性の10・20歳代では1人も参加していない。

(2) 地域活動に参加する際に支障となること (問 16)

男女とも「仕事が忙しいこと」(男性：39.6%、女性：29.5%)が最も高く、次いで女性では「家事・育児・介護が忙しいこと」(21.2%)が、男性では「健康・体力に自信がないこと」(15.7%)がそれぞれ高くなっている。

「仕事が忙しいこと」では、男性が女性より10.1ポイント高く、「家事・育児・介護が忙しいこと」では、女性が男性より14.0ポイント高くなっており、地域活動参加の支障に男女の違いがみられる。

(3) 大規模災害に備えた「性別による違い」に配慮した取り組みの必要性 (問 17)

「性別による違い」に配慮した取り組みが『必要』(「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計)はすべての項目で過半数を占めており、なかでも“⑤乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際に配慮する”が94.6%で最も高くなっている。

性別にみると、すべての項目で女性に比べて男性のほうが高い割合となっている。

(4) 避難所運営等への関わり (問 18)

「避難所運営のサポート(手伝い役)として関わりたい」が58.0%で最も多く、次いで「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい」が30.2%となっており、性別の傾向も同様である。

【仕事について】

(1) 女性の就労についての考え方 (問 19)

「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が45.4%で最も多く、次いで「出産後は一時家庭に入り、子育てが終われば再び仕事に就く方がよい」が38.3%となっている。

性別にみると、男性は「出産後は一時家庭に入り、子育てが終われば再び仕事に就く方がよい」(43.1%)、女性は「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」(49.9%)が最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が前回より9.5ポイント高くなっている。

(2) 今の職場・仕事に対する不満や悩み (問 20)

「収入が少ない」が37.0%で最も多く、次いで「休暇が取りにくい」が21.0%、「労働時間が長い、労働時間が不規則」が16.8%となっている。一方で、「特にない」は32.2%となっている。性別の傾向も同様である。

(3) 今後の就労意向 (問 21)

現在就労していないと回答した人に、今後の就労意向をたずねると、「仕事につきたいと思

わない」が45.7%で最も多く、次いで「できれば、仕事につきたい」が16.5%、「ぜひ、仕事につきたい」が11.1%となっている。「仕事につきたいと思わない」は女性に比べて男性のほうが7.4ポイント高くなっている。

(4) 就労する上での不安 (問 21-1)

仕事につきたいと回答した人の就労する上での不安は、「労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか」が58.8%で最も多く、次いで「自分の健康状態や体力」が56.3%、「自分のしたい仕事につけるか」と「職場の人間関係がうまくいくか」、「年齢制限」がそれぞれ46.2%となっている。

性別にみると、女性に比べて男性のほうが、「自分のしたい仕事につけるか」では14.0ポイント、「自分の資格や能力が通用するか」では13.3ポイント高くなっている。

【ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて】

(1) DVにあたる行為を受けた経験 (問 22)

DVにあたる行為を受けた経験については、「いずれもない」が77.2%で最も多く、次いで「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉による行為」が9.4%、「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的な行為」が5.8%、「たびたび無視するなどの精神的な行為」が5.5%となっている。

「いずれもない」は男性約8割、女性約7割となっている。

(2) DVの相談状況 (問 22-1)

DVにあたる行為を受けた経験がある人の相談状況は、「誰にも話さず、相談していない」が42.4%で最も多いが、話したり相談したことがある人では「同僚や友人」が29.4%で最も多く、次いで「家族・親族」が27.7%、「公的機関」が6.2%となっている。

性別にみると、「誰にも話さず、相談していない」は女性に比べて男性のほうが29.1ポイント高くなっている。

(3) DVを相談しなかった理由 (問 22-2)

DVにあたる行為を受けた際に誰にも相談しなかった理由は、「相談しても無駄だと思ったから」が38.7%で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が32.0%、「人に知られたくないから」が28.0%となっている。

性別にみると、男女とも「相談しても無駄だと思ったから」が最も多く、女性に比べて男性のほうが6.5ポイント高くなっている。また、「自分にも悪いところがあると思ったから」は女性に比べて男性のほうが12.8ポイント高くなっている。

(4) ハラスメント等を受けた経験 (問 23)

職場や学校、その他の活動の場でのハラスメント等を受けた経験は「いずれもない」が65.3%で最も多く、次いで「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」が14.4%、「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が12.1%となっている。

前回調査と比較すると、いずれのハラスメントも前回調査より高い割合となっている。

(5) 男女関係の問題の認知度（問 24）

男女関係の問題の認知度については、「よく知っている」と回答した人はいずれも 1 割前後である。認知度（「よく知っている」、「少しは知っている」、「言葉は聞いたことがある」の合計）は、“A V 出演強要”が67.0%で最も高く、次いで“③リベンジポルノ”が66.3%で、いずれの項目も 5 割を超えている。

性別にみると、認知度は“①デートDV”は男性に比べて女性のほうが高いが、それ以外の問題では男性のほうが高くなっている。

前回調査と比較すると、認知度は“②レイプドラッグ”の割合が前回より8.4ポイント高くなっている。

【男女共同参画社会について】

(1) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に関して市で取り組む必要があるものの（問 25）

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に関して市で取り組む必要があるものについては、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が45.1%で最も多く、次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が44.5%、「多種多様な問題に関する相談窓口の周知」が35.4%となっており、性別の傾向も同様である。

(2) 各分野の男女の地位の平等感（問 26）

“学校教育の場”と“地域”では「平等になっている」の割合が高いが、それら以外の分野では『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）がいずれも 5 割を超えている。なかでも、“政治の場”（81.9%）、“社会通念・慣習・しきたりなど”（78.1%）、“社会全体として”（76.3%）が高くなっている。

性別にみると、『男性優遇』の割合は、すべての分野において男性に比べて女性が高くなっている。

(3) 男女共同参画に関する用語の認知度（問 27）

認知度（「内容まで知っている」と「言葉を見たり聞いたりしたことはある」の合計）は、“⑤ジェンダー”が87.7%で最も高く、次いで“①男女共同参画社会”が81.8%となっている。一方、「全く知らない」は“⑨SOGI（ソジ）”が83.0%で最も高く、次いで“⑩木津川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度”が74.8%、“⑧アンコンシャス・バイアス”が69.2%となっている。

性別にみると、「内容まで知っている」は、“⑩木津川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度”以外の用語ではいずれも女性に比べて男性のほうが高くなっている。認知度では、“⑦ダイバーシティ”は女性に比べて男性のほうが13.5ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、認知度は、前回に比べて“⑤ジェンダー”の割合が16.7ポイント、“③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）”が8.3ポイント高くなっている。

(4) この10年間の男女共同参画の変化（問28）

この10年間の男女共同参画の変化については、『前進』（「前進した」と「どちらかといえば前進した」の合計）は“①男女平等の考え方”が68.0%で最も高く、次いで“②職場における女性の活躍”が62.4%、“⑤男女の平等な子育てへの参加”が57.0%となっている。「変わらない」は“⑥男女の平等な介護への参加”が48.5%で最も高く、次いで“⑦DVなどの暴力をなくすための取組”が36.9%となっている。

性別にみると、『前進』はすべての項目で女性に比べて男性のほうが高い。

前回調査と比較すると、『前進』は、前回に比べて“③地域活動における男女共同参画”の割合が11.8ポイント、“⑦DVなどの暴力をなくすための取組”の割合が7.3ポイント低くなっている。

(5) 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと（問29）

「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が32.6%で最も多く、次いで「保育所や放課後学級の施設などの子育て支援サービスを充実させる」が30.1%、「高齢者や障がいのある人に対する社会サービスを充実させる」が27.5%となっている。

性別にみると、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」は男性に比べて女性のほうが15.0ポイント高くなっている。

2. 事業所アンケート調査

【事業所の概要】

(1) 従業員数・雇用形態（問2）

管理職数は、男性が419人、女性が69人となっており、回答事業所全体の管理職数に占める女性割合は14.1%となっている。また、正規従業員の女性割合は38.9%、非正規従業員の女性割合はフルタイム勤務が62.3%、短時間勤務が76.3%となっている。

(2) 育児・介護休業の取得状況（問3）

直近3年間の育児休業の取得者数は、男性が60人、女性が101人となっている。

直近3年間の介護休業の取得者数は、男性が3人、女性が14人となっている。

【女性の登用について】

(1) 女性の雇用状況の変化（問4）

女性の雇用状況の変化については、従業員数は、「減っている」が40.8%で最も多く、次いで「変わらない」が31.6%、「増えている」が27.6%となっている。

従業員のうち女性の割合は、「増えている」が32.9%、管理職のうち女性の割合が、「増えている」が17.1%となっている。

前回調査と比較すると、従業員のうち女性の割合は「増えている」の割合が前回より14.5ポイント高くなっている。

(2) 今後の雇用についての考え方（問5）

今後、雇用をどうしたいかについては、従業員数は、「増やしたい」と「どちらともいえない」がそれぞれ47.4%で最も多く、次いで「減らしたい」が5.3%となっている。

従業員のうち女性の割合を「増やしたい」が27.6%、管理職のうち女性の割合を「増やしたい」が25.0%となっている。

前回調査と比較すると、従業員のうち女性の割合は「増やしたい」の割合が前回より9.2ポイント低くなっている。

管理職のうち女性の割合は、「増やしたい」の割合が前回より10.6ポイント低くなっている。

(3) 女性の積極的登用のための取組の状況（問6）

「現在、取り組んでいる又は、既に実施済み」は“⑤勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映する”が67.1%で最も高く、次いで“④女性従業員の積極的な採用”と“⑦職場環境の改善について意見要望を取り上げる”がともに59.2%、“⑥従業員の資格取得や社会貢献活動を支援する”が52.6%となっている。

前回調査と比較すると、「現在、取り組んでいる又は、既に実施済み」は、前回に比べて“④女性従業員の積極的な採用”では9.8ポイント、“⑤勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映する”では5.0ポイント高くなっている。

(4) 女性を管理職に登用するうえでの課題（問7）

「女性自身が管理職を望まない傾向がある」が38.2%で最も多く、次いで「残業や休日出

勤、出張などができない女性が多い」が31.6%、「出産、子育て、介護等で離職する女性が多い」と「特に課題となることはない」がともに26.3%となっている。

前回調査と比較すると、「出産、子育て、介護等で離職する女性が多い」の割合が前回より13.9ポイント、「女性の就いている職種、部門が限定的である」の割合が前回より8.9ポイント、それぞれ低くなっている。

【男女がともに働きやすい環境について】

（１）企業認定・認証制度の認知度（問８）

いずれも「知らない」が過半数を占めており、「えるぼし認定」が69.7%で最も高く、次いで「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証」が68.4%となっている。一方、「取得済み」は「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証」と「健康経営優良法人認定制度」がともに7.9%で最も高くなっている。

前回調査と比較すると、「取得済み」は「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証」の割合が前回より2.2ポイント高くなっている。

「知っている」も「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証」の割合が前回より4.2ポイント高くなっている。

（２）ハラスメント防止のための取組の状況（問９）

「就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける」が61.8%で最も多く、次いで「事業所内に相談窓口を設ける」が46.1%、「ハラスメント防止に関する社員教育・研修を行う」が43.4%となっている。

前回調査と比較すると、「ハラスメント防止に関する社員教育・研修を行う」の割合が前回より17.0ポイント、「就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける」の割合が前回より7.8ポイント、それぞれ高くなっている。

（３）ハラスメントなどの相談事例の有無（問１０）

この３年間のハラスメントに関する相談事例の有無については、「いずれもない」が72.4%で最も多いが、相談があった事業所では、「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」が17.1%で最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメントとみられる相談があった」が6.6%となっている。

前回調査と比較すると、「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」の割合が前回に比べて9.1ポイント高くなっている。

【子育て・介護との両立支援について】

（１）両立支援のための取組の状況（問１１）

「現在、取り組んでいる又は、既に実施済み」は「半日又は時間単位で取得できるような休暇制度」が72.4%で最も高く、「有給休暇の計画的な取得の推進」が69.7%、「育児・介護における休業制度の導入」が67.1%となっている。

「今後、取り組みたい」は「子育て・介護を理由に退職した従業員の再雇用制度」と「次世代育成支援対策推進法に基づく事業主行動計画の策定」がともに43.4%で最も高くなって

いる。

前回調査と比較すると、「現在、取り組んでいる又は、既に実施済み」は“男性の育児休業・介護休業の取得の促進”の割合が前回より19.8ポイント、“半日又は時間単位で取得できるような休暇制度”の割合が前回より16.1ポイント、それぞれ高くなっている。

(2) 男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題（問12）

「休業中の代替要員の確保」が59.2%で最も多く、次いで「周囲の従業員による業務分担」が47.4%、「休業を取得しやすい職場の雰囲気づくり」が30.3%となっている。

(3) 結婚や妊娠、出産、介護などのライフステージの節目に選ぶ働き方（問13）

「育児休業制度や介護休業制度を利用して、その後復職する場合が多い」が42.1%で最も多く、次いで「パートタイムに転換するなど、勤務形態を変更して就労を継続する場合が多い」が22.4%、「結婚を機に退職を選ぶ場合が多い」と「妊娠または出産を機に退職を選ぶ場合が多い」がそれぞれ17.1%となっている。

(4) 両立支援を推進するうえでの課題（問14）

「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が48.7%で最も多く、次いで「業務の効率や質が落ちる」が23.7%、「育児・介護両立支援制度の導入には、コストの増加が伴う」と「公的及び民間の保育・介護サービスが不足している」がそれぞれ19.7%となっている。

前回調査と比較すると、「全体的に休暇取得率が低い」の割合が前回に比べて16.4ポイント低くなっている。

【男女共同参画に関する今後の取組について】

(1) 男女がともに働きやすい環境をつくるために行政に対して希望すること（問15）

「特になし」が35.5%で最も多いものの、望むことがある事業所では「結婚や出産、子育てによる退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる」と「男女共同参画に関して、事業所や労働者のための相談機能の充実を図る」がそれぞれ22.4%で最も多く、次いで「広報誌やパンフレットなどで、事業所に向けての啓発を行う」が19.7%となっている。

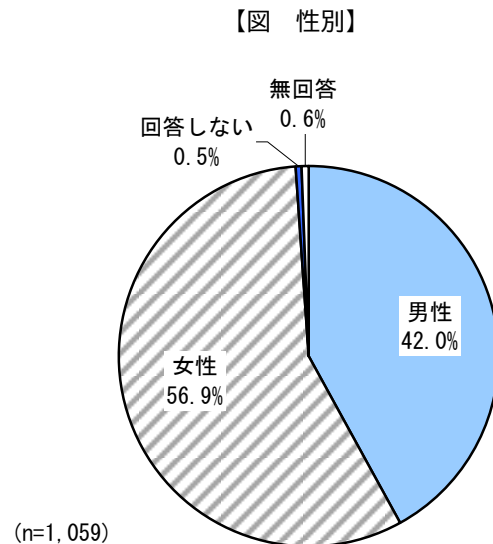
前回調査と比較すると、「男女平等に向けた雇用・労働条件確保のために、指導的役割の強化を図る」の割合が前回より8.0ポイント、「結婚や出産、子育てによる退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる」の割合が前回より6.3ポイント、それぞれ低くなっている。

Ⅲ 市民アンケート調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が42.0%、「女性」が56.9%、「回答しない」が0.5%となっている。

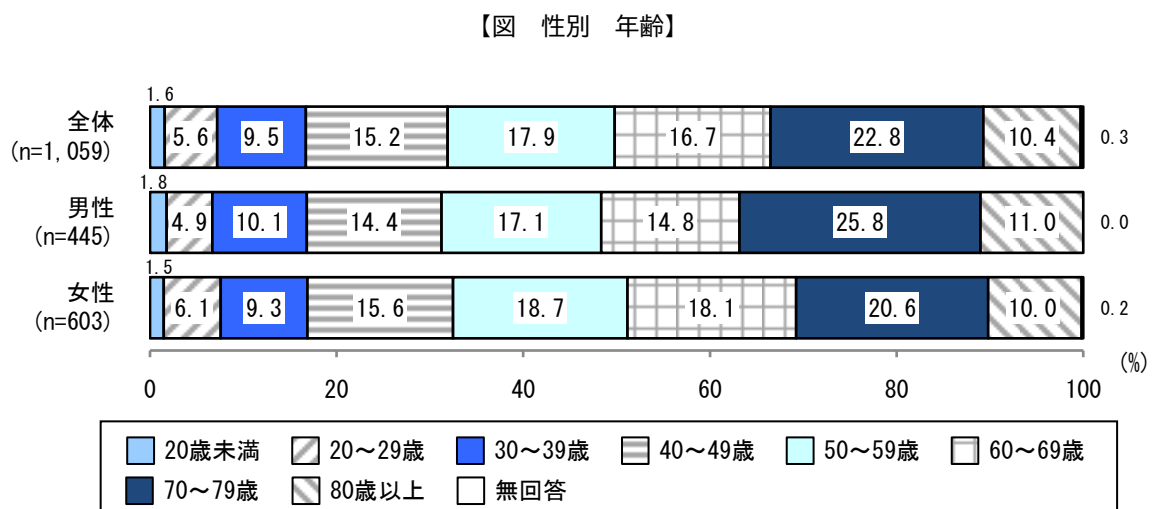


(2) 年齢

回答者の年齢は、「70～79歳」が22.8%で最も多く、次いで「50～59歳」が17.9%、「60～69歳」が16.7%となっている。

性別にみると、男性は、「70～79歳」が25.8%で最も多く、次いで「50～59歳」が17.1%、「60～69歳」が14.8%となっている。

女性は、「70～79歳」が20.6%で最も多く、次いで「50～59歳」が18.7%、「60～69歳」が18.1%となっている。



(3) 職業

回答者の職業は、「正規の社員や職員」が27.8%で最も多く、次いで「無職（年金生活者、定年退職者を含む）」が27.4%、「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が22.0%となっている。

性別にみると、男性は、「正規の社員や職員」が41.8%で最も多く、次いで「無職（年金生活者、定年退職者を含む）」が32.6%、「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が10.1%となっている。

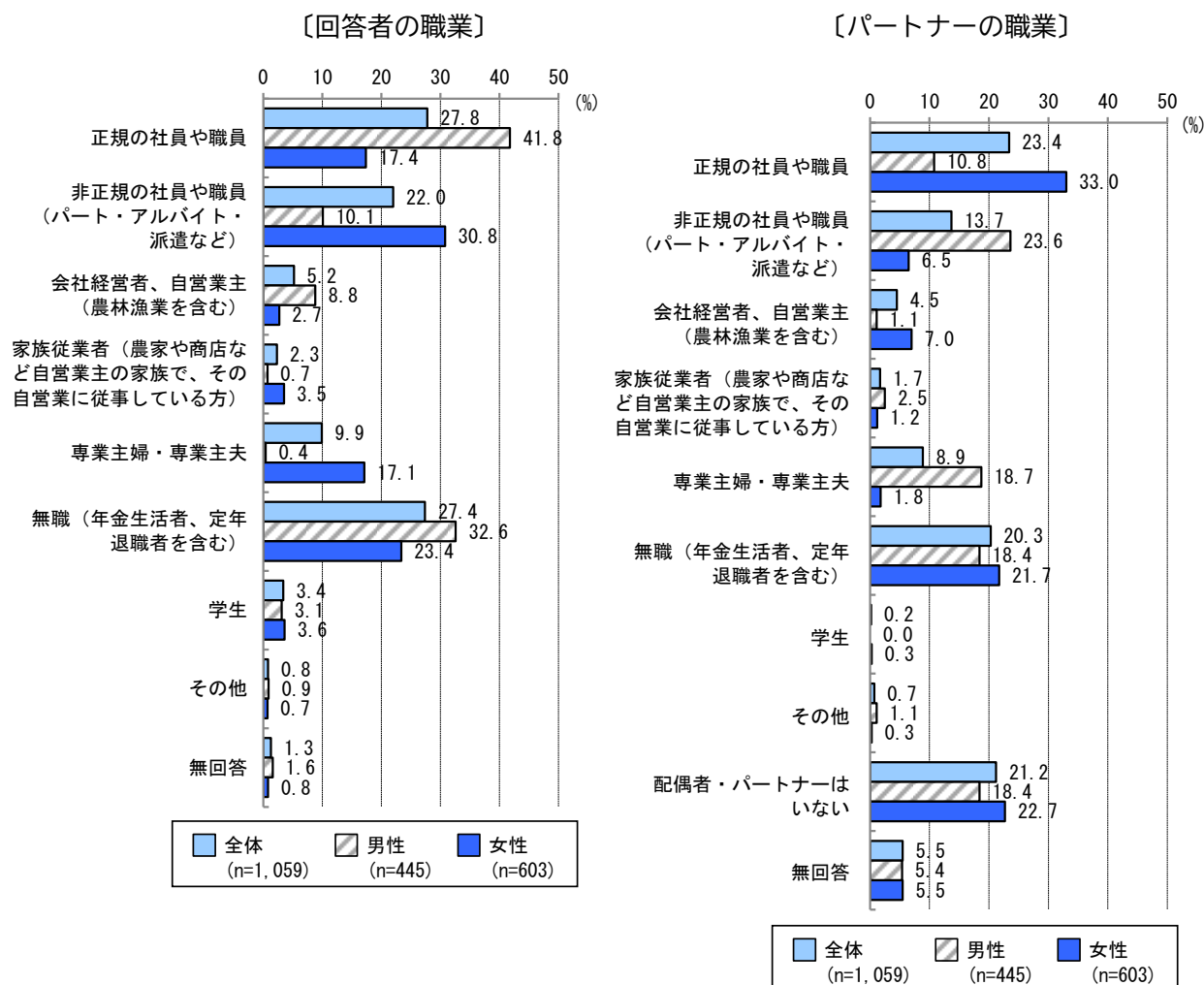
女性は、「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が30.8%で最も多く、次いで「無職（年金生活者、定年退職者を含む）」が23.4%、「正規の社員や職員」が17.4%となっている。

パートナーの職業は、「正規の社員や職員」が23.4%で最も多く、次いで「配偶者・パートナーはいない」が21.2%、「無職（年金生活者、定年退職者を含む）」が20.3%となっている。

性別にみると、男性は、「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」が23.6%で最も多く、次いで「専業主婦・専業主夫」が18.7%、「無職（年金生活者、定年退職者を含む）」と「配偶者・パートナーはいない」がともに18.4%となっている。

女性は、「正規の社員や職員」が33.0%で最も多く、次いで「配偶者・パートナーはいない」が22.7%、「無職（年金生活者、定年退職者を含む）」が21.7%となっている。

【図 性別 職業】

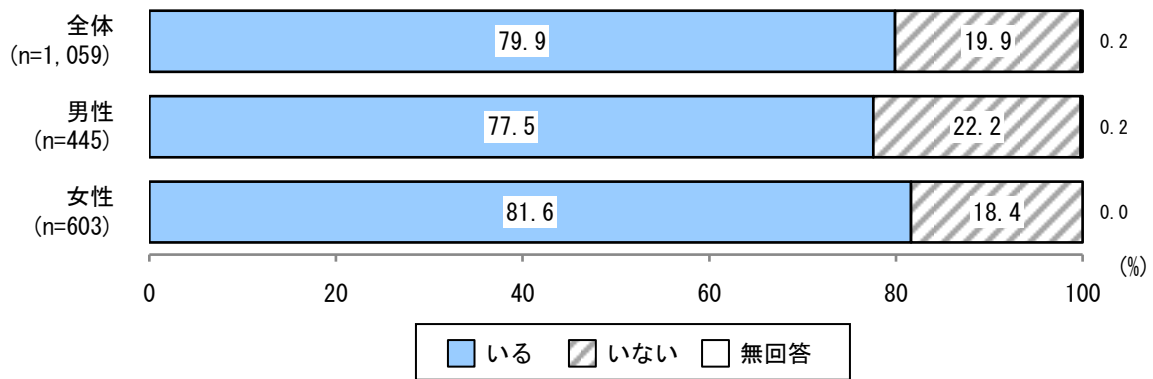


(4) 子どもの有無

子どもの有無については、「いる」が79.9%、「いない」が19.9%となっている。

性別にみると、「いる」は男性（77.5%）より女性（81.6%）のほうが4.1ポイント高くなっている。

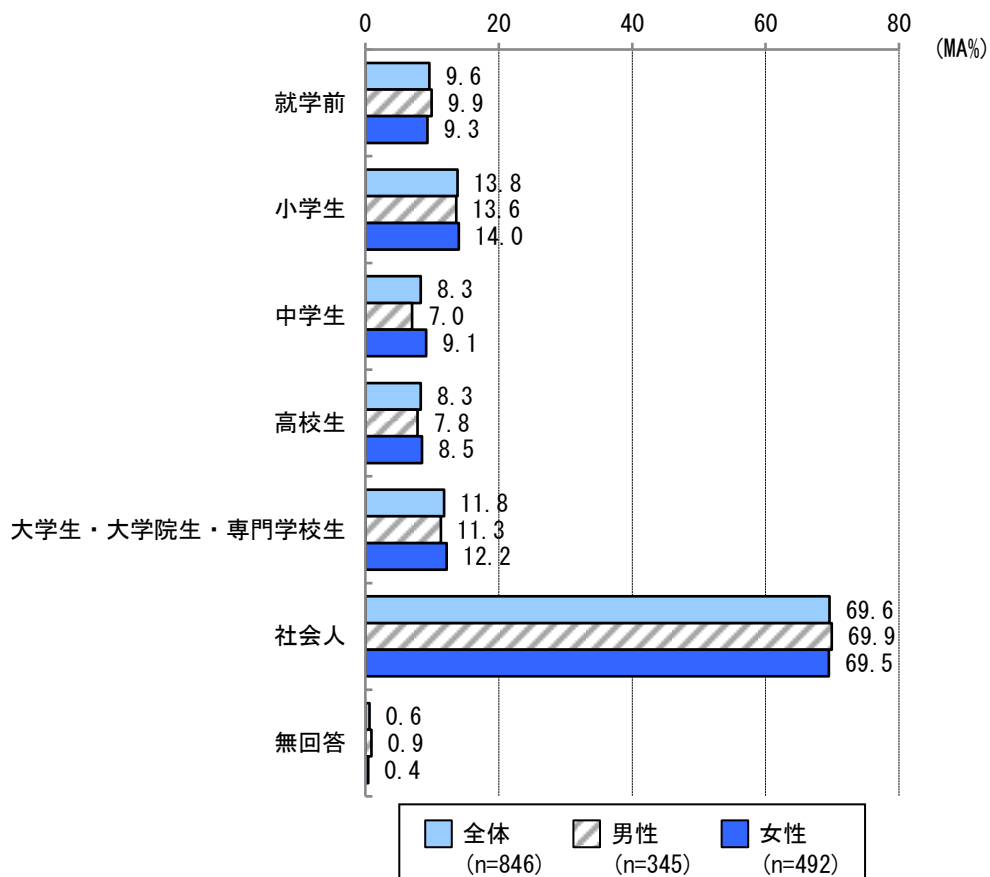
【図 性別 子どもの有無】



子どもがいないと回答した人に、子どもの年代をたずねると、「社会人」が69.6%で最も多く、次いで「小学生」が13.8%、「大学生・大学院生・専門学校生」が11.8%となっている。

性別でみても、大きな差はみられない。

【図 性別 子どもの年代】

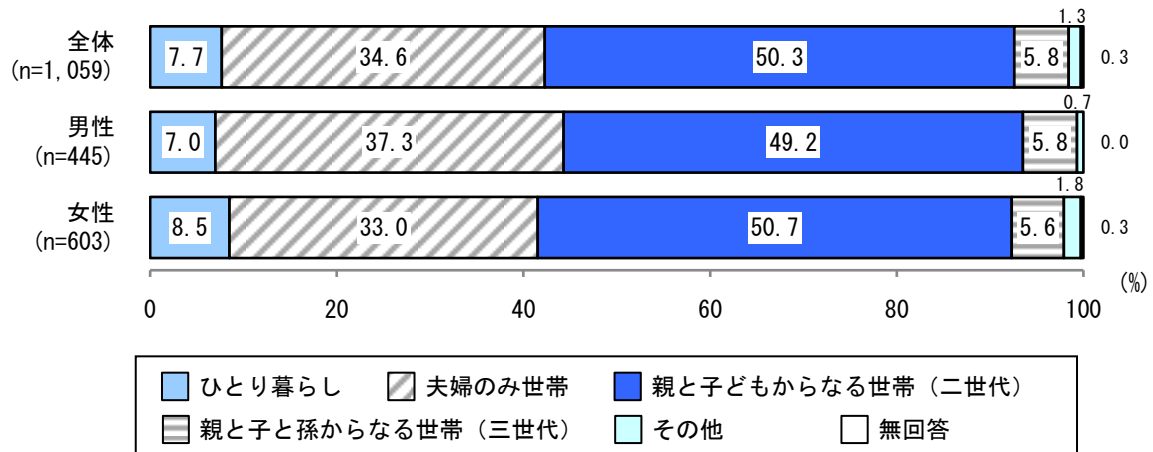


(5) 家族構成

回答者の家族構成は、「親と子どもからなる世帯（二世帯）」が50.3%で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」が34.6%、「ひとり暮らし」が7.7%となっている。

性別にみると、「夫婦のみ世帯」は女性（33.0%）より男性（37.3%）のほうが4.3ポイント高くなっている。

【図 性別 家族構成】



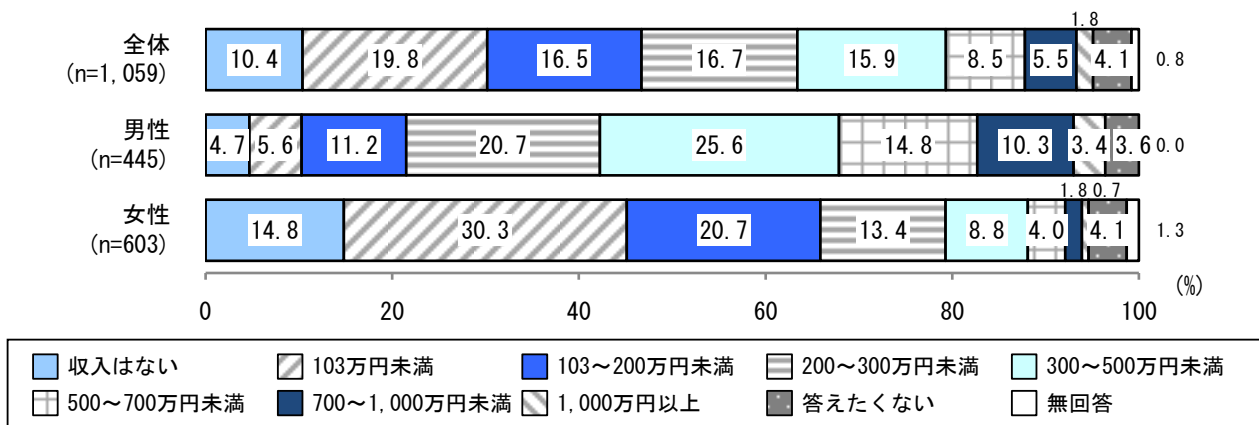
(6) 年間収入

回答者の年間収入は、「103万円未満」が19.8%で最も多く、次いで「200～300万円未満」が16.7%、「103～200万円未満」が16.5%となっている。

性別にみると、男性は「300～500万円未満」が25.6%で最も多く、次いで「200～300万円未満」が20.7%、「500～700万円未満」が14.8%となっている。

女性は、「103万円未満」が30.3%で最も多く、次いで「103～200万円未満」が20.7%、「収入はない」が14.8%となっている。

【図 性別 年間収入】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性の10・20歳代は「103万円未満」が33.3%で最も多くなっている。男性の30歳代、60歳代は「300～500万円未満」、40歳代は「500～700万円未満」が最も多くなっている。女性では、いずれの年代も「103万円未満」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 年間収入】

		回答者数 (n)	収入はない	103万円未満	103～200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000万円以上	答えたくない	無回答
全 体		1,059	10.4	19.8	16.5	16.7	15.9	8.5	5.5	4.1	1.8	0.8
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	23.3	33.3	3.3	3.3	26.7	10.0	—	—	—
		30歳代	45	8.9	2.2	2.2	8.9	42.2	26.7	6.7	2.2	—
		40歳代	64	—	3.1	3.1	6.3	21.9	29.7	25.0	3.1	7.8
		50歳代	76	1.3	2.6	5.3	5.3	17.1	21.1	26.3	13.2	7.9
		60歳代	66	3.0	3.0	10.6	24.2	28.8	16.7	7.6	—	6.1
		70歳以上	164	4.3	4.9	21.3	38.4	25.0	3.0	1.2	1.2	0.6
	女 性	10・20歳代	46	21.7	41.3	8.7	8.7	10.9	4.3	—	—	4.3
		30歳代	56	19.6	21.4	16.1	12.5	19.6	3.6	1.8	1.8	3.6
		40歳代	94	8.5	21.3	19.1	12.8	18.1	10.6	1.1	2.1	4.3
		50歳代	113	14.2	23.9	14.2	21.2	6.2	6.2	7.1	0.9	6.2
		60歳代	109	20.2	35.8	20.2	13.8	4.6	0.9	0.9	—	2.8
		70歳以上	184	12.0	35.9	30.4	9.8	4.3	1.1	—	—	3.8

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

2. 家庭生活について

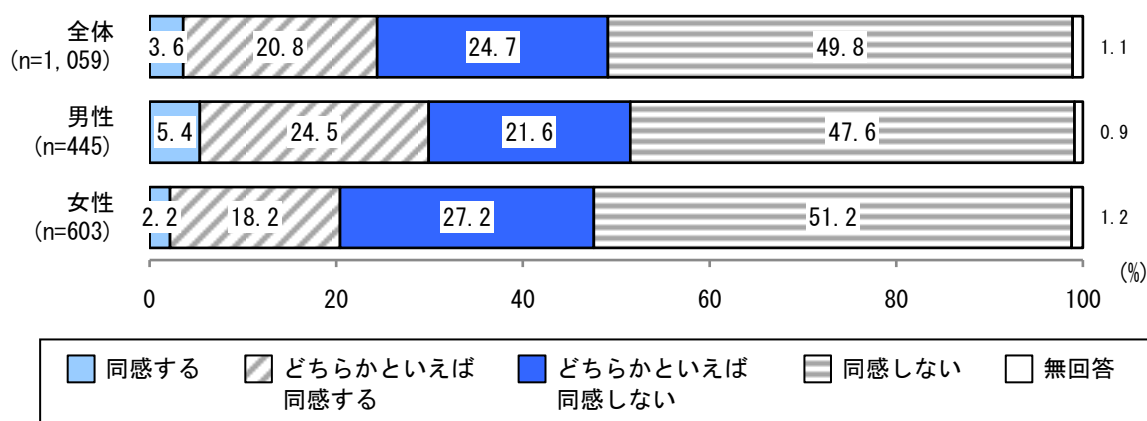
(1) 性別役割分担意識についての考え方

問7 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように考えますか。(〇は1つ)

性別役割分担意識についての考え方については、「同感しない」が49.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば同感しない」が24.7%、「どちらかといえば同感する」が20.8%となっており、「同感する」と「どちらかといえば同感する」をあわせた『肯定的』は24.4%、「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」をあわせた『否定的』は74.5%となっている。

性別にみると、『肯定的』は女性（20.4%）より男性（29.9%）のほうが9.5ポイント高くなっている。

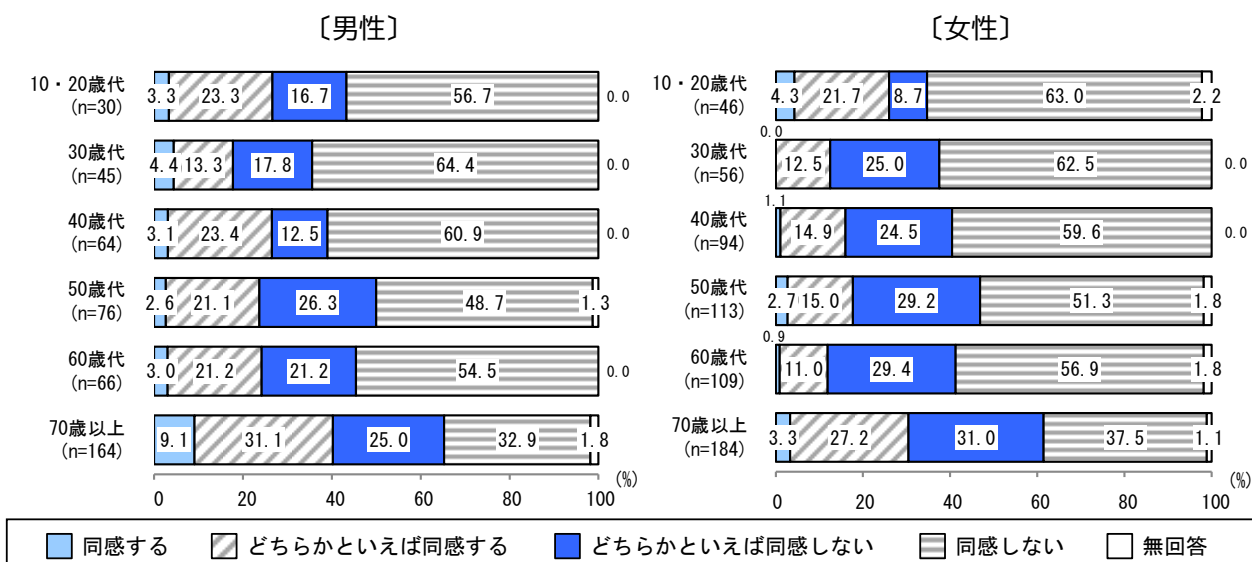
【図 性別 性別役割分担意識についての考え方】



【性年齢別】

性年齢別にみると、『肯定的』は男女とも70歳以上が最も高く、次いで10・20歳代となっている。一方、『否定的』は男女とも30歳代が最も多くなっている。

【図 性年齢別 性別役割分担意識についての考え方】

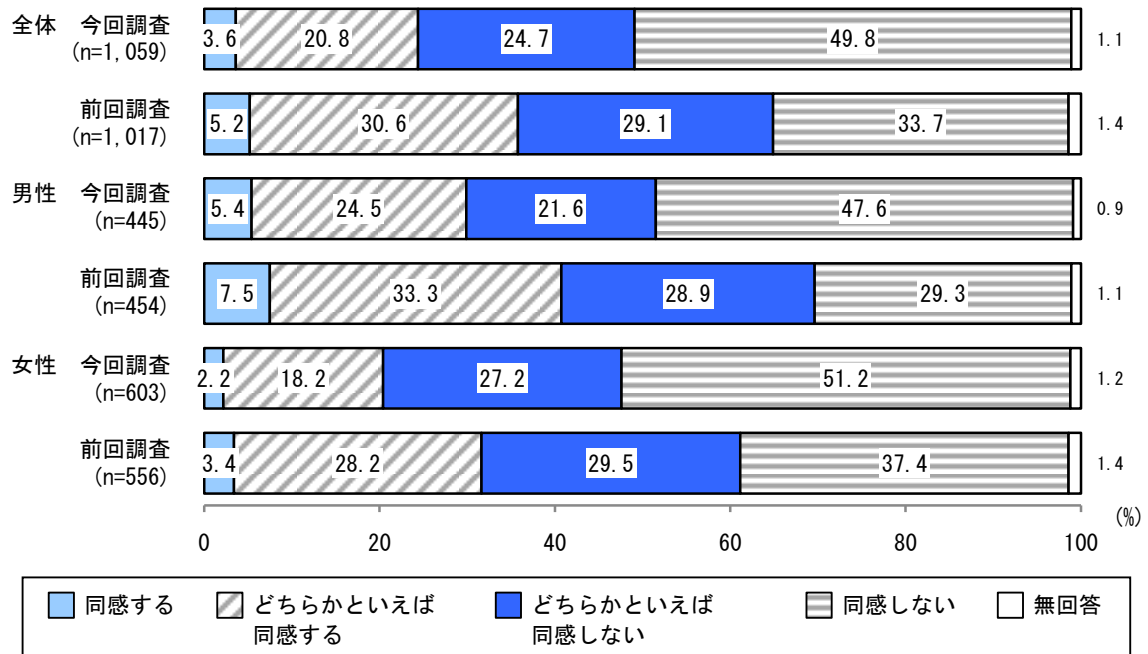


《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「同感しない」は前回より16.1ポイント高く、『肯定的』は前回より11.4ポイント低くなっている。

性別にみると、男女とも「同感しない」の割合は前回より高く、『肯定的』は前回より男性は10.9ポイント、女性は11.2ポイント、それぞれ低くなっている。

【図 性別 性別役割分担意識についての考え方（前回調査との比較）】

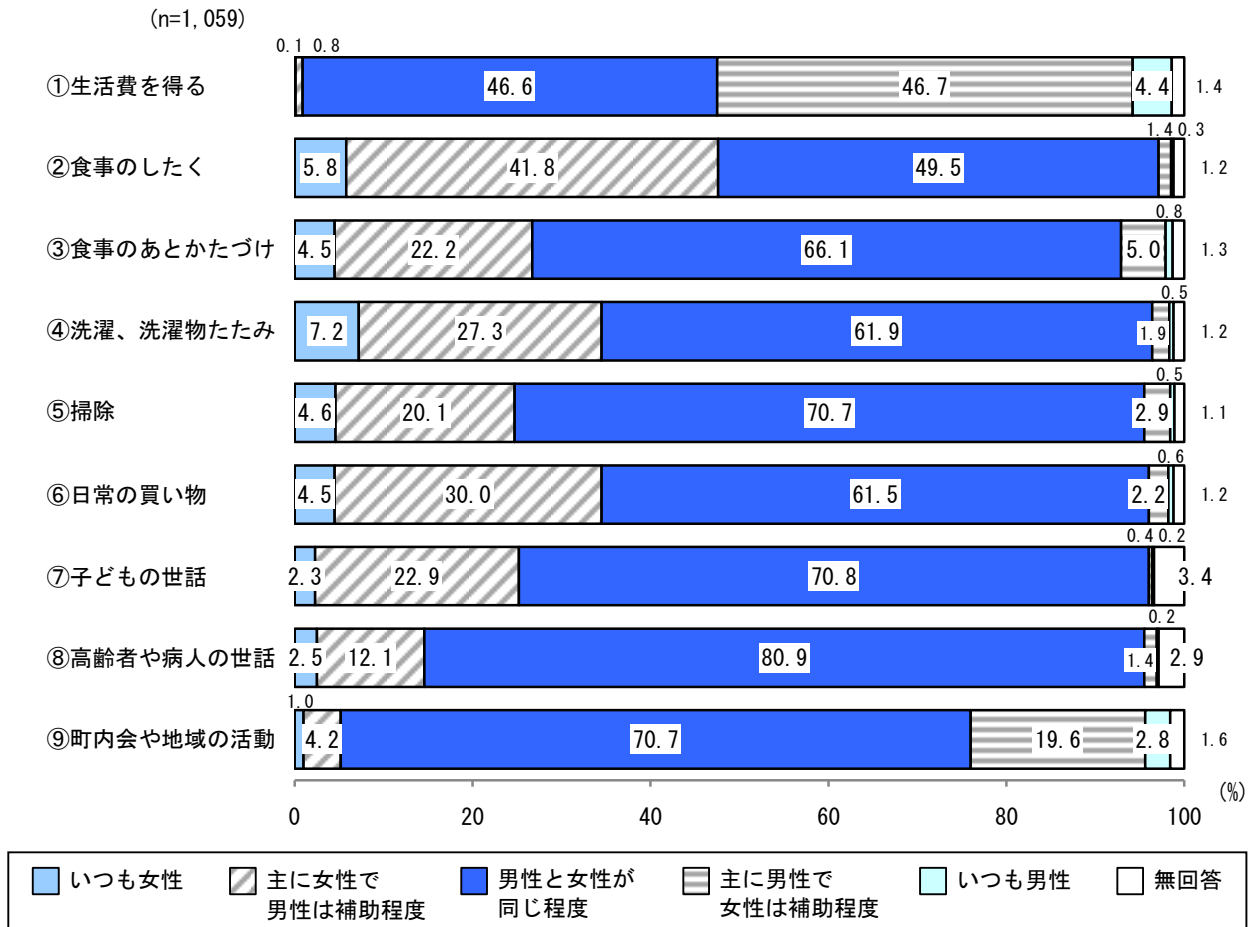


(2) 家庭内の役割分担の理想

問8 あなたは、次のことがらを男女のどちらがするのが、理想だと思いますか。

家庭内の役割分担の理想については、“①生活費を得る”では「主に男性で女性に補助程度」が46.7%で最も多いが、それ以外の項目ではいずれも「男性と女性が同じ程度」となっており、“③食事のあとかたづけ”、“④洗濯、洗濯物たたみ”、“⑤掃除”、“⑥日常の買い物”、“⑦子どもの世話”、“⑧高齢者や病人の世話”、“⑨町内会や地域の活動”では6割を超えている。

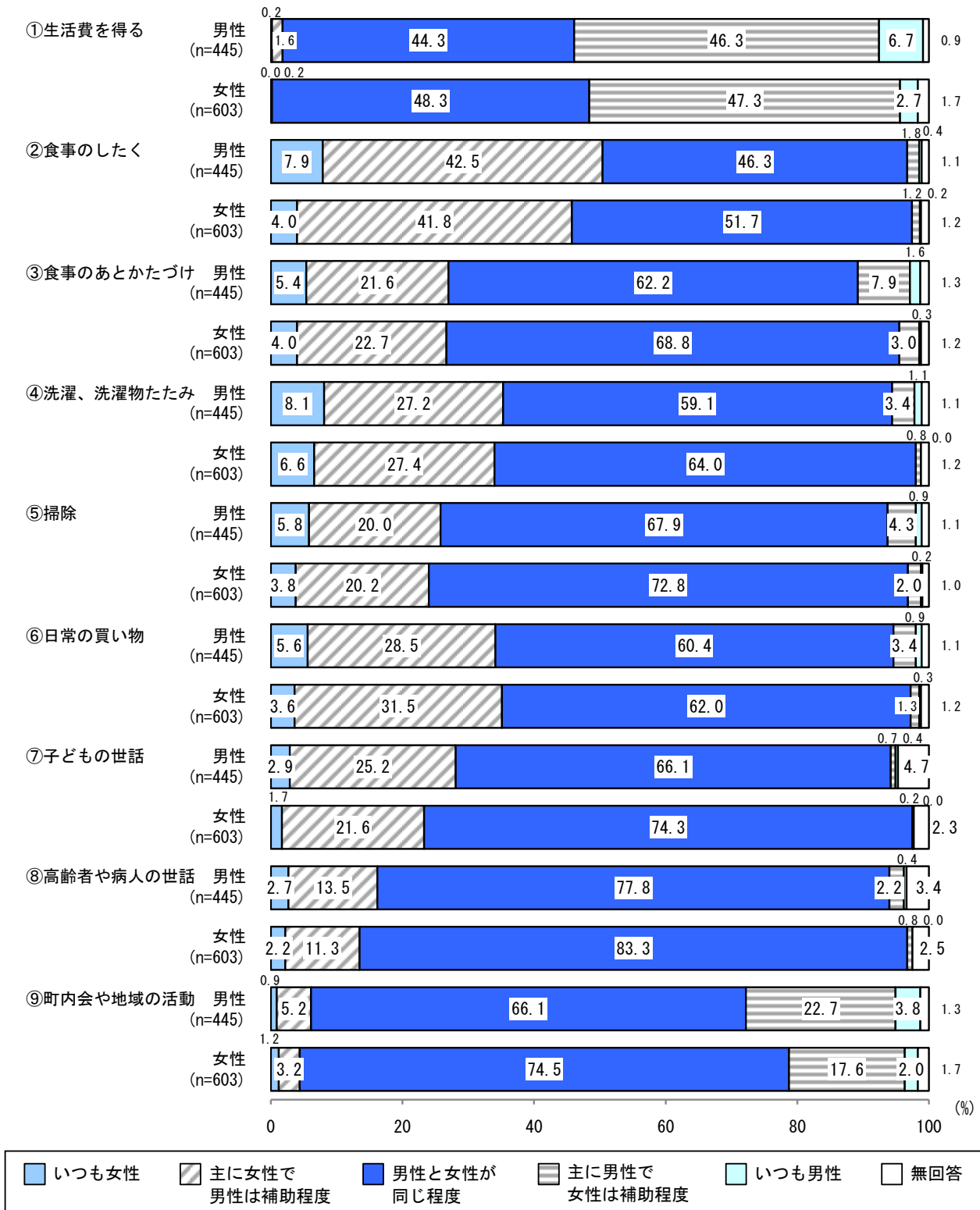
【図 家庭内の役割分担の理想】



【性別】

性別にみると、「男性と女性が同じ程度」はすべての項目で男性より女性のほうが割合が高く、なかでも“⑨町内会や地域の活動”では女性のほうが8.4ポイント高く、最も差が大きくなっている。

【図 性別 家庭内の役割分担の理想】



【性年齢別】

<①生活費を得る>

性年齢別にみると、男性では、50歳代までの年代では「男性と女性が同じ程度」が最も多いが、60歳代以上の年代では「主に男性で女性は補助程度」が最も多く、70歳以上では「いつも男性」が11.6%で他の年代に比べて高くなっている。女性では、10・20歳代、40～60歳代では「男性と女性が同じ程度」が最も多いが、それ以外の年代では「主に男性で女性は補助程度」が最も多くなっている。

<②食事のしたく>

性年齢別にみると、男性では、40歳代までの年代では「男性と女性が同じ程度」が最も多く、過半数を占めている。50歳代および70歳代では「主に女性で男性は補助程度」が最も多くなっている。女性では、60歳代までの年代では「男性と女性が同じ程度」が最も多く、過半数を占めているが、70歳以上では「主に女性で男性は補助程度」が最も多くなっている。

<③食事のあとかたづけ>

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「男性と女性が同じ程度」が最も多く、男性の70歳以上を除く年代で過半数を占めている。

<④洗濯、洗濯物たたみ>

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「男性と女性が同じ程度」が最も多く、男性は50歳代までの年代、女性は60歳代までの年代で6割を超えている。

<⑤掃除>

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「男性と女性が同じ程度」が過半数を超えて最も多く、男性では「主に女性で男性は補助程度」が概ね年代が上がるほど割合が高くなっている。

<⑥日常の買い物>

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「男性と女性が同じ程度」が最も多く、男性の10・20歳代、30歳代、女性の10・20歳代では7割を超えている。

<⑦子どもの世話>

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「男性と女性が同じ程度」が過半数を超えて最も多く、男性では10・20歳代、女性では10・20歳代、30歳代が8割を超えている。

<⑧高齢者や病人の世話>

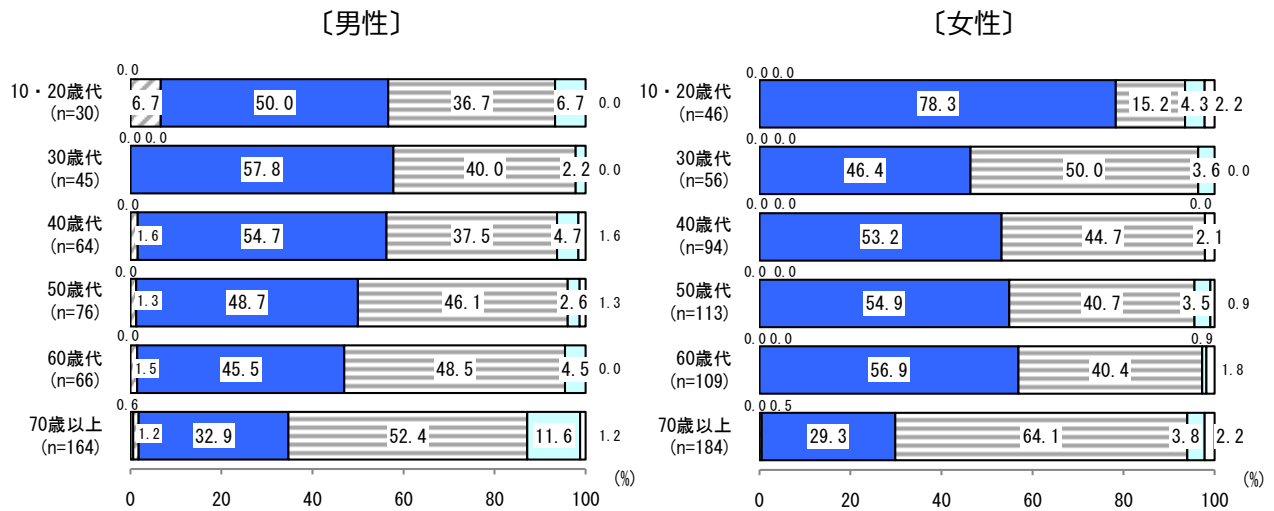
性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「男性と女性が同じ程度」が過半数を超えて最も多く、男性では60歳代までの年代、女性ではすべての年代で7割を超えている。

<⑨町内会や地域の活動>

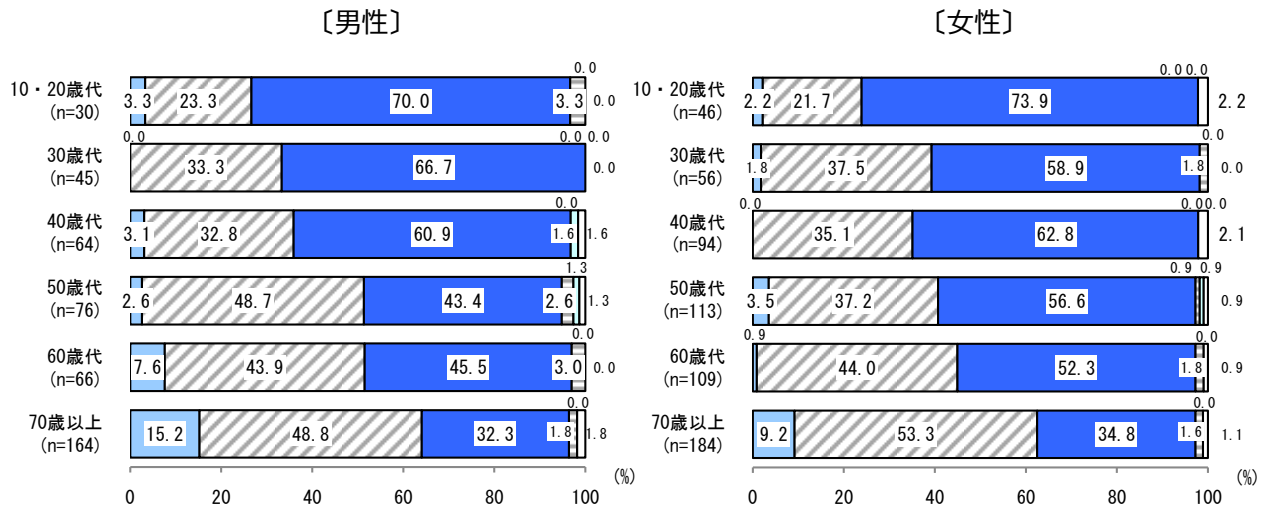
性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「男性と女性が同じ程度」が過半数を超えて最も多く、男性では「主に男性で女性は補助程度」が40歳代を除く年代で2割台となっている。

【図 性年齢別 家庭内の役割分担の理想】

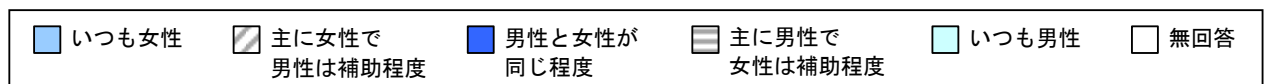
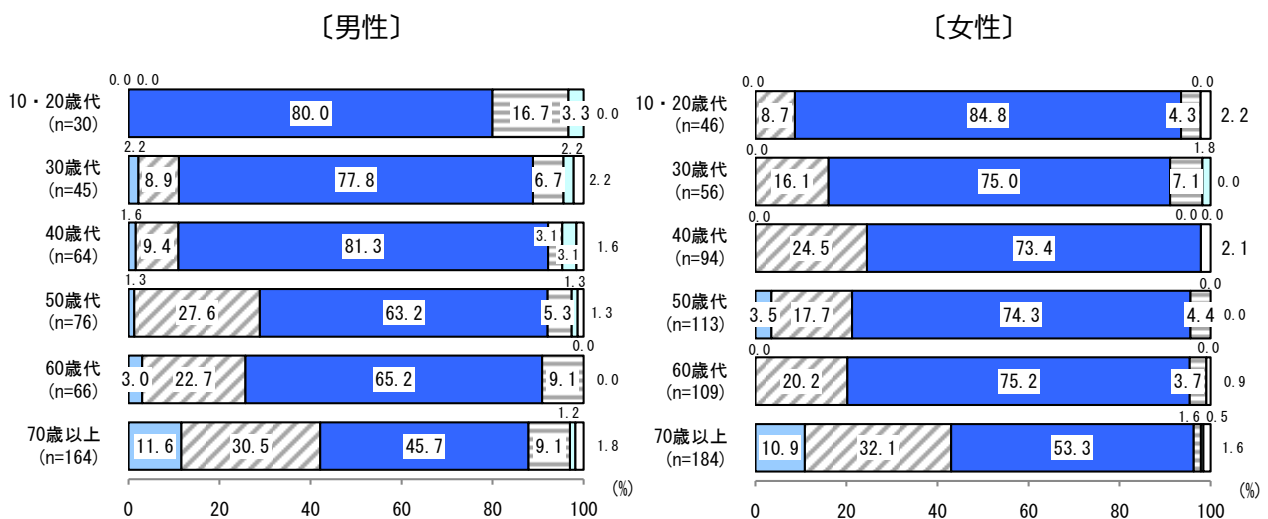
①生活費を得る



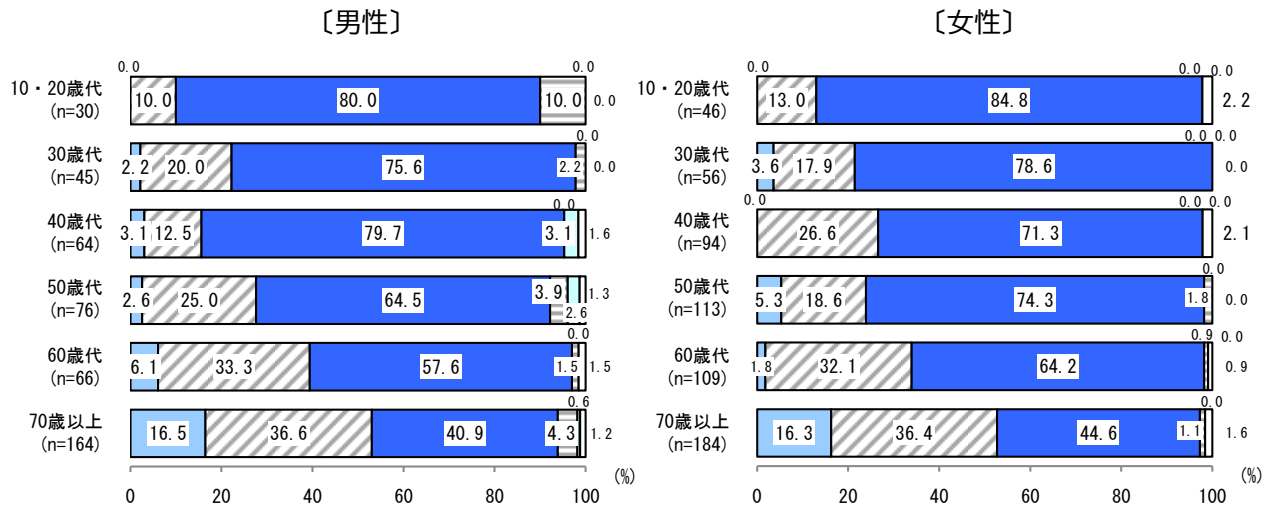
②食事のしたく



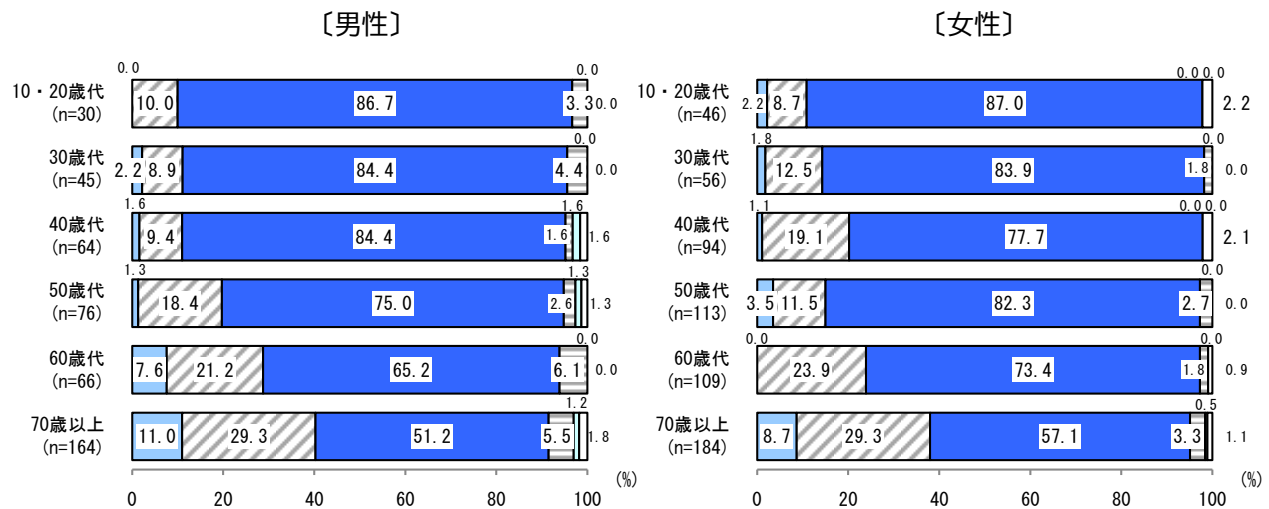
③食事のあとかたづけ



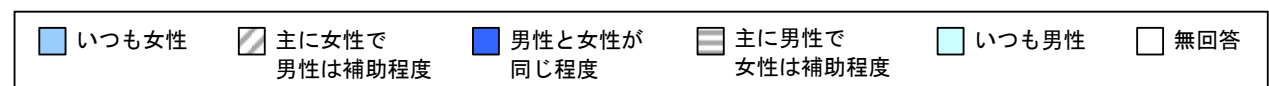
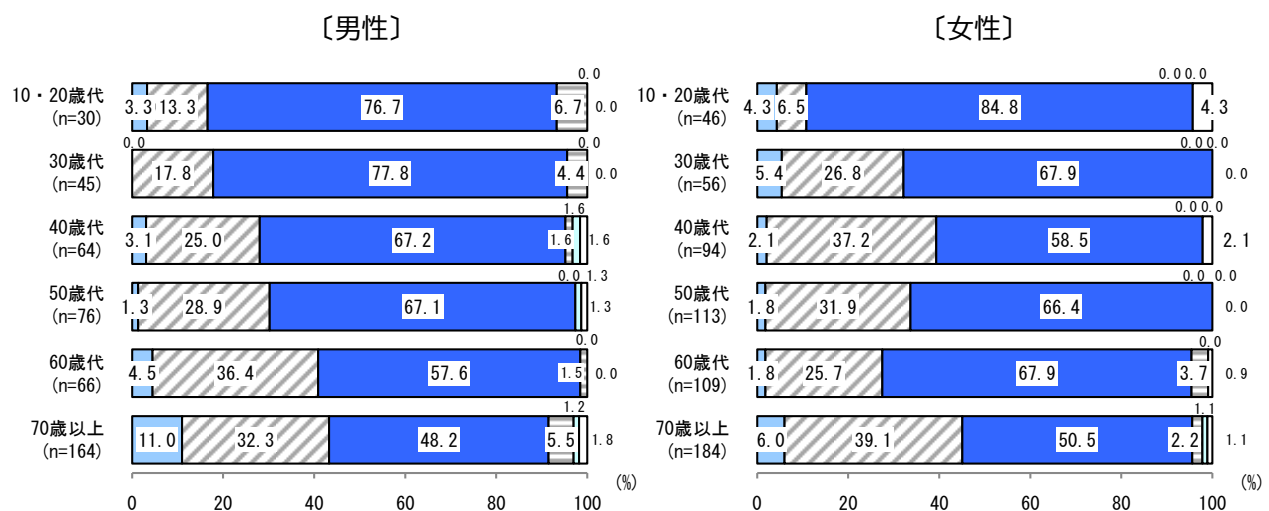
④洗濯、洗濯物たたみ



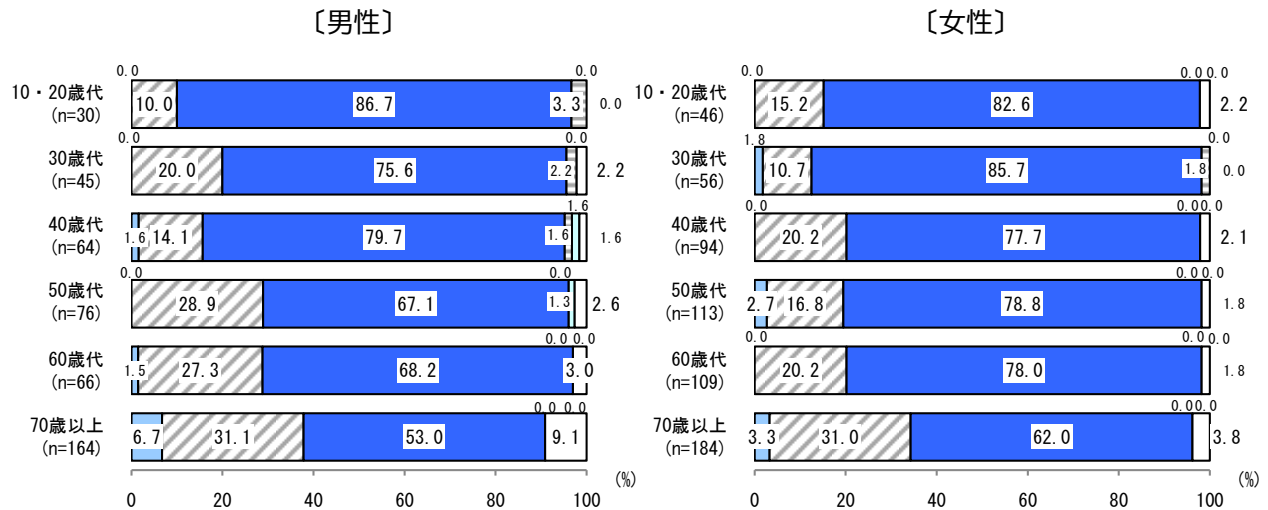
⑤掃除



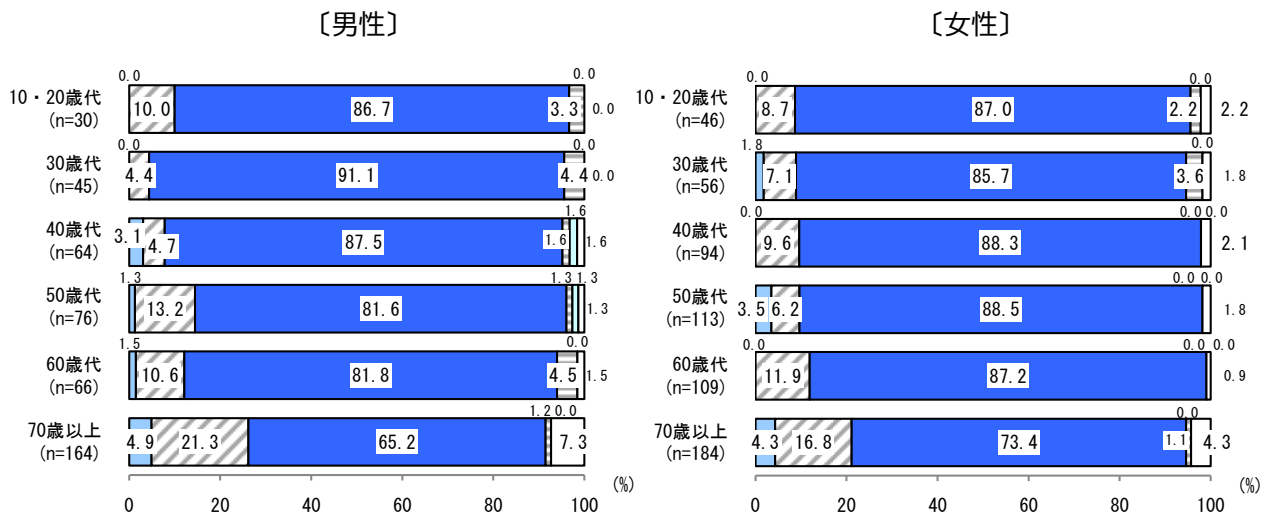
⑥日常の買い物



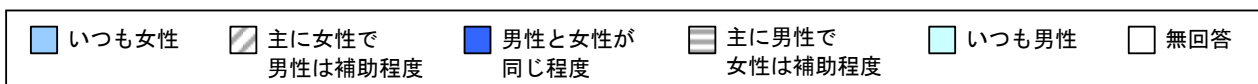
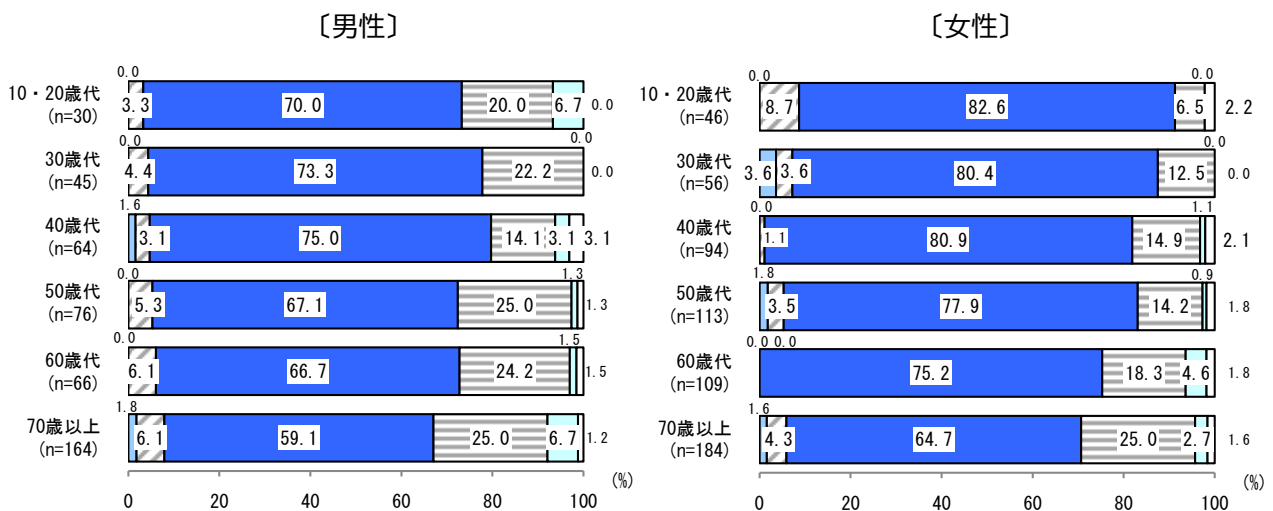
⑦子どもの世話



⑧高齢者や病人の世話



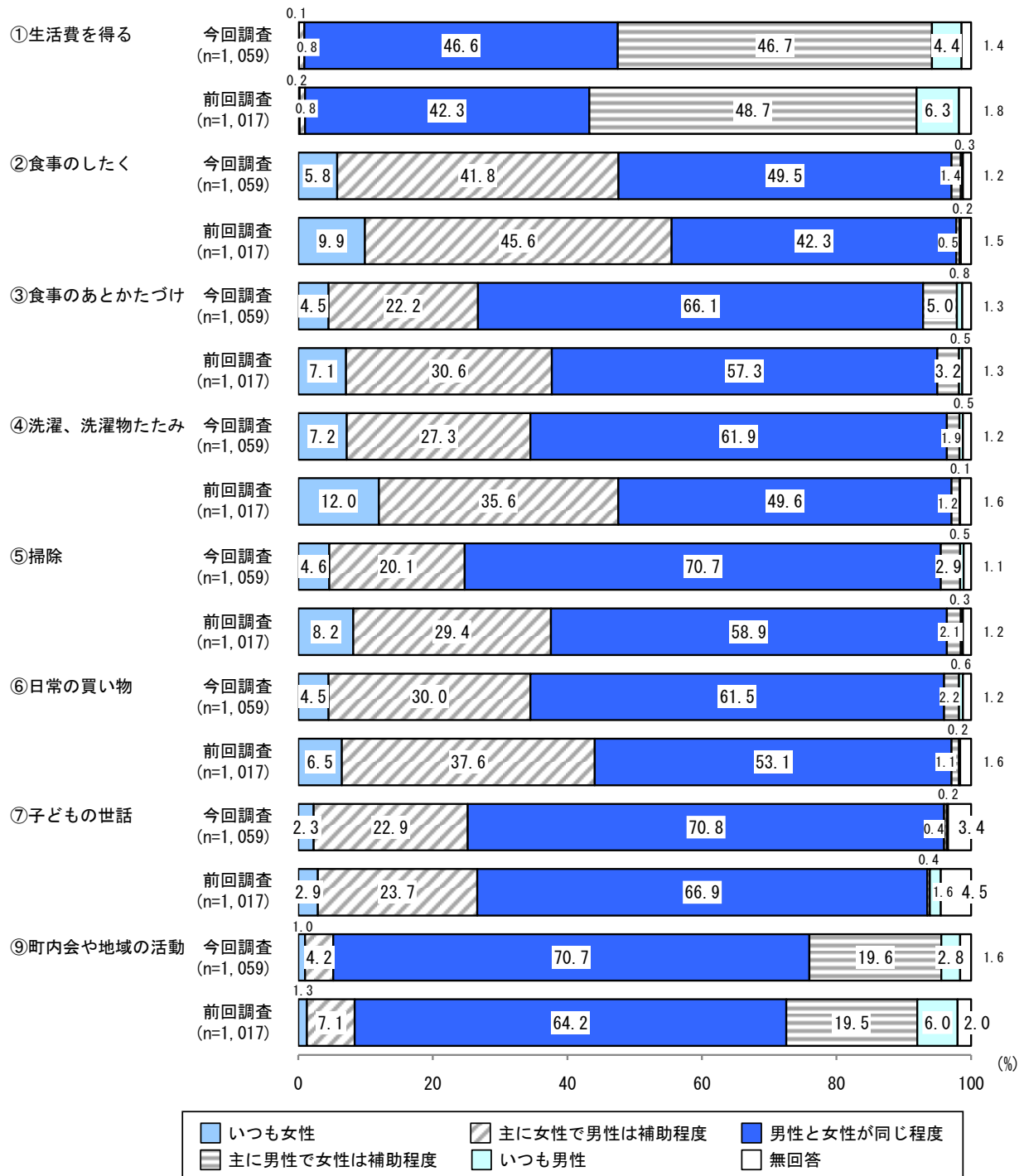
⑨町内会や地域の活動



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、すべての項目で「いつも女性」の割合は前回より低くなっている。
「男性と女性が同じ程度」の割合はすべての項目で前回より高く、なかでも“④洗濯、洗濯物たたみ”では前回より12.3ポイント高くなっている。

【図 家庭内の役割分担の理想（前回調査との比較）】



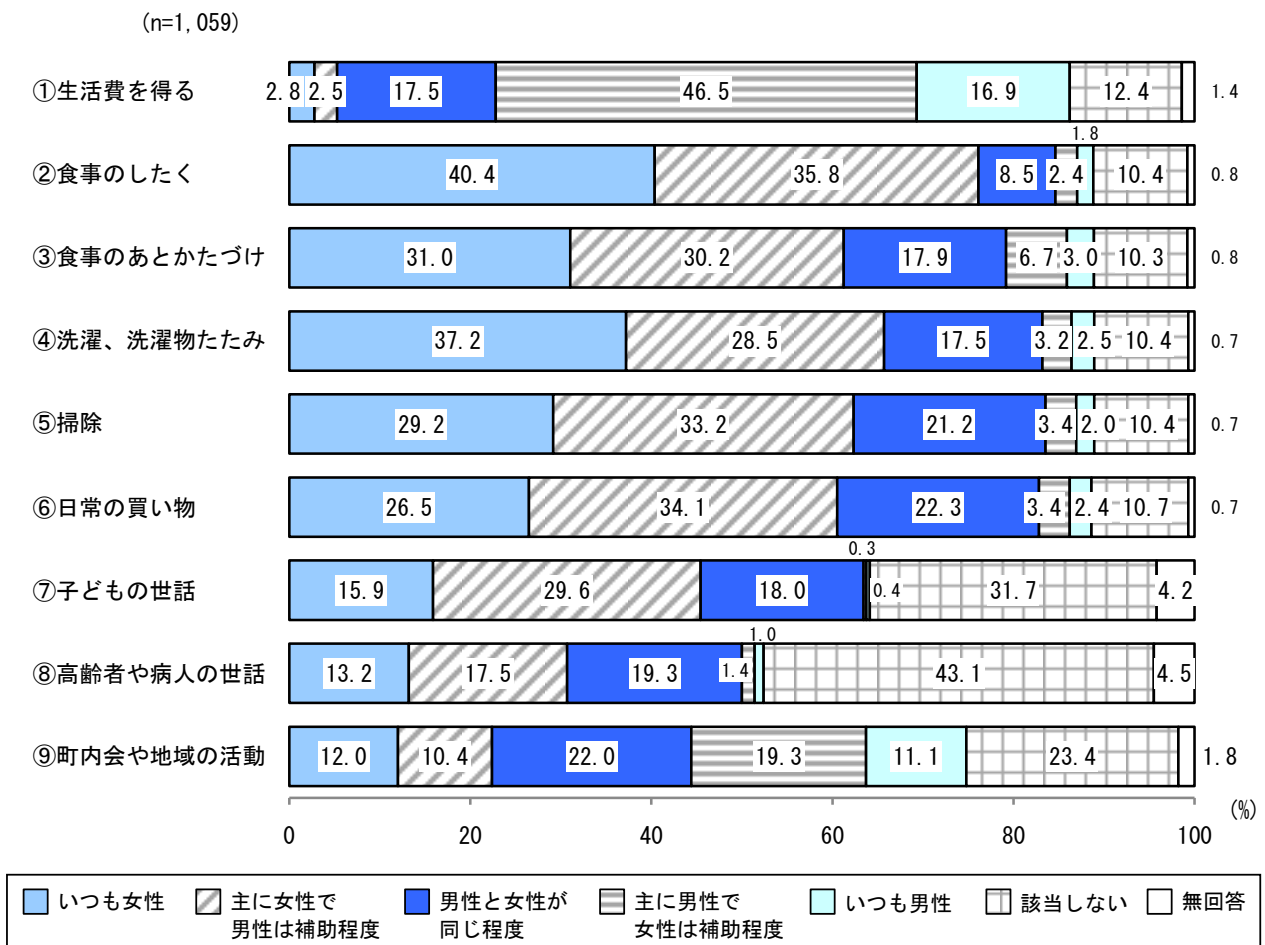
※「⑧高齢者や病人の世話」は新規項目。

(3) 家庭内の役割分担

問9 あなたのご家庭では、次のことがらを男女のどちらが、実際にされていますか。
※ひとり暮らしの方は、「6 該当しない」をお答えください。

実際の家庭内の役割分担については、“②食事のしたく”、“③食事のあとかたづけ”、“④洗濯、洗濯物たたみ”では「いつも女性」が最も多く、「主に女性で男性は補助程度」をあわせると、“②食事のしたく”、“③食事のあとかたづけ”、“④洗濯、洗濯物たたみ”、“⑤掃除”、“⑥日常の買い物”で6割以上を占めている。“①生活費を得る”では「主に男性で女性補助程度」が46.5%で最も多く、「いつも男性」をあわせると63.4%を占めている。

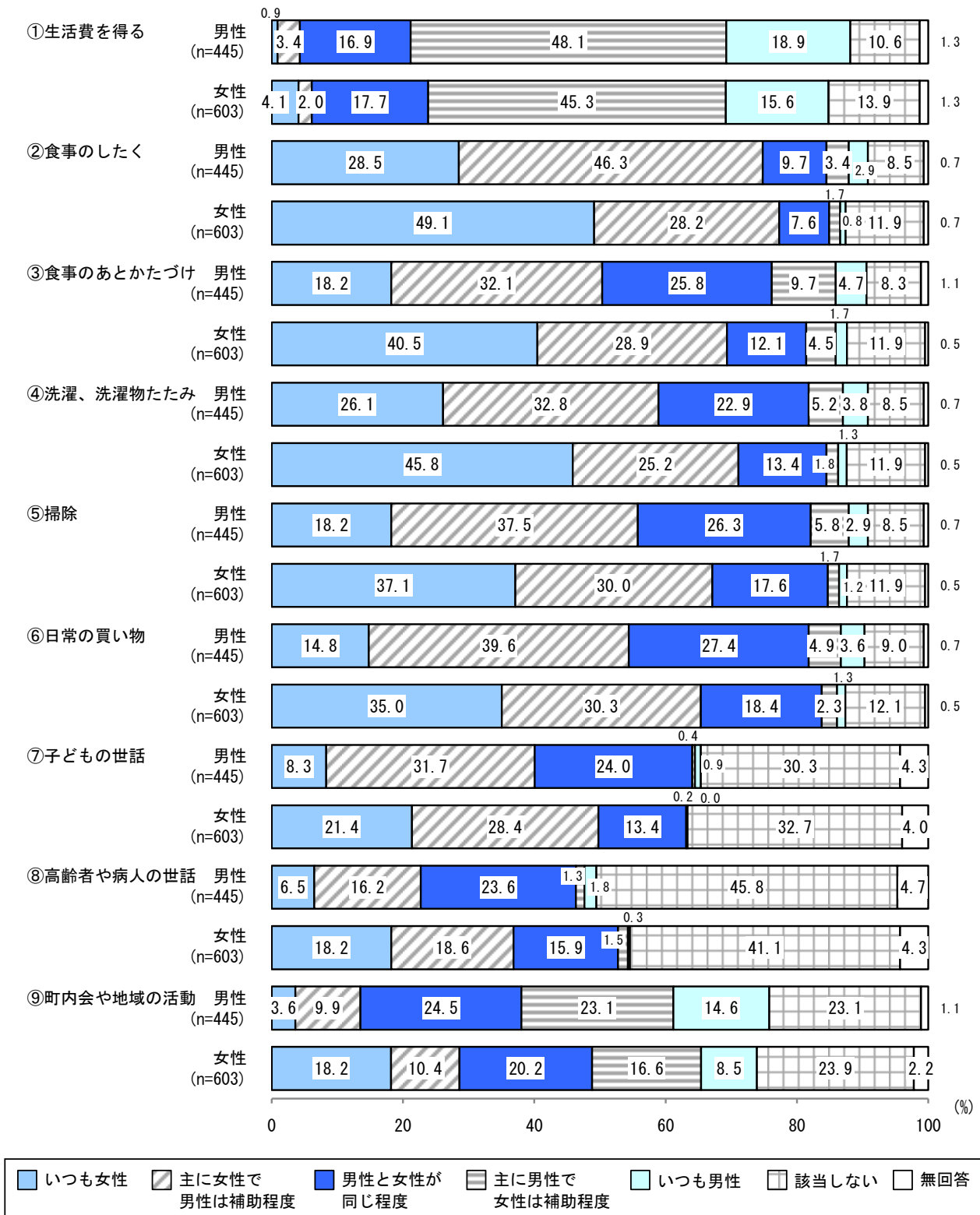
【図 家庭内の役割分担】



【性別】

性別にみると、「いつも女性」はすべての項目で男性より女性のほうが高く、なかでも“②食事のしたく”、“③食事のあとかたづけ”、“④洗濯、洗濯物たたみ”、“⑤掃除”、“⑥日常の買い物”では20ポイント前後の差となっている。

【図 性別 家庭内の役割分担】



【性年齢別】

<①生活費を得る>

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「主に男性で女性は補助程度」が最も多く、「いつも男性」をあわせると、男女ともすべての年代で過半数を占めている。

<②食事のしたく>

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代は「いつも女性」が最も多いが、30歳代以上の年代では「主に女性で男性は補助程度」が最も多くなっている。女性では、すべての年代で「いつも女性」が最も多く4～5割を占めている。

<③食事のあとかたづけ>

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代では「男性と女性が同じ程度」が33.3%で最も多く、50歳代では「主に女性で男性は補助程度」と「男性と女性が同じ程度」が同率の31.6%で最も多くなっている。女性ではすべての年代で「いつも女性」が最も多く、「主に女性で男性は補助程度」をあわせると、40～60歳代では7割台と高くなっている。

<④洗濯、洗濯物たたみ>

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代は「いつも女性」が40.0%で最も多いが、30歳代以上の年代では「主に女性で男性は補助程度」が最も多くなっている。女性では、すべての年代で「いつも女性」が最も多くなっている。

<⑤掃除>

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代は「いつも女性」が36.7%で最も多いが、30歳代以上の年代では「主に女性で男性は補助程度」が最も多くなっている。女性では、すべての年代で「いつも女性」が最も多く、60歳代では「主に女性で男性は補助程度」も同率の35.8%で最も多くなっている。

<⑥日常の買い物>

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代は「男性と女性が同じ程度」が36.7%で最も多いが、30歳代以上の年代では「主に女性で男性は補助程度」が最も多くなっている。女性では、60歳代までの年代では「いつも女性」が最も多いが、70歳以上では「主に女性で男性は補助程度」が最も多くなっている。

<⑦子どもの世話>

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代は「男性と女性が同じ程度」が36.7%で最も多いが、30～60歳代では「主に女性で男性は補助程度」、70歳以上では「該当しない」が最も多くなっている。女性では、10・20歳代と60歳代、70歳以上では「該当しない」が最も多いが、30～50歳代では「主に女性で男性は補助程度」が最も多くなっている。

<⑧高齢者や病人の世話>

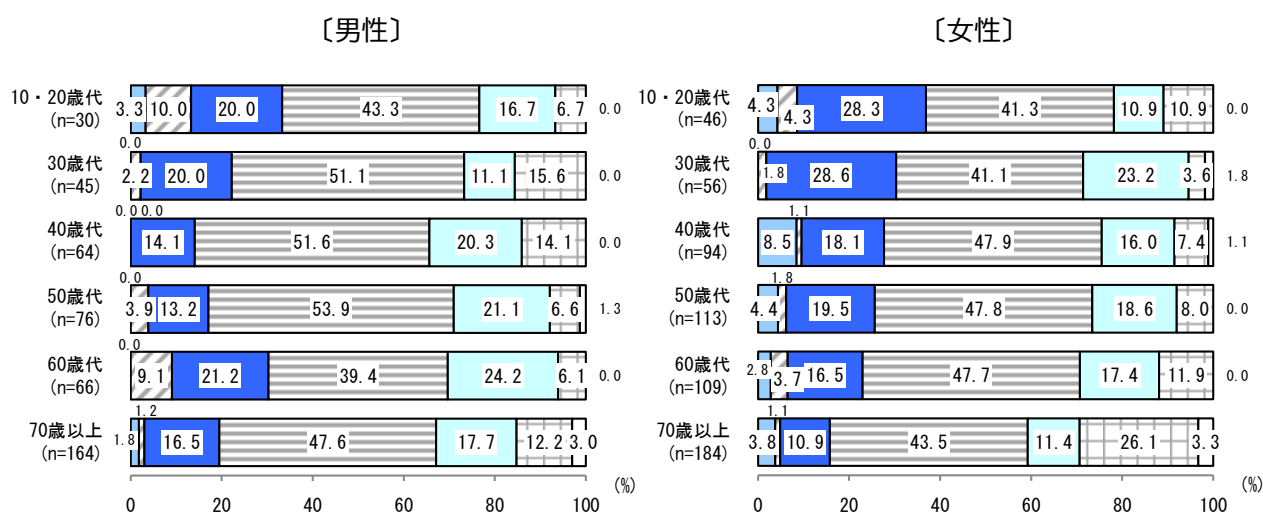
性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「該当しない」が最も多く、男性の50歳代では「男性と女性が同じ程度」が同率の35.5%で最も多くなっている。

<⑨町内会や地域の活動>

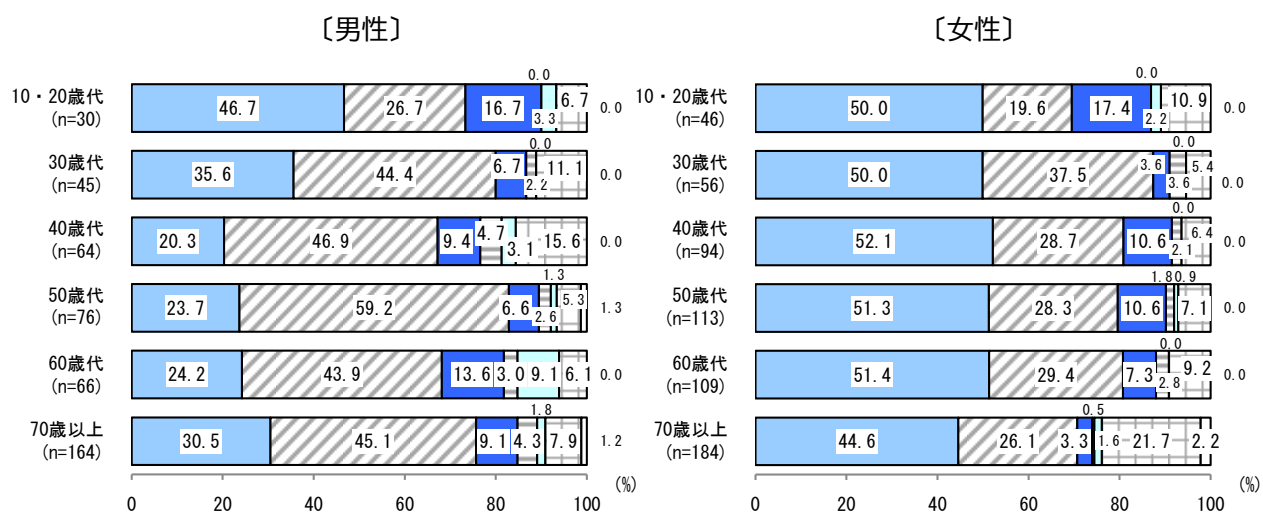
性年齢別にみると、男性では、10・20歳代は「いつも男性」が26.7%で最も多く、50歳代と70歳以上では「男性と女性が同じ程度」、60歳代では「主に男性で女性は補助程度」が最も多くなっている。女性では、40歳代では「いつも女性」が28.7%で最も多いが、50歳代では「男性と女性が同じ程度」が22.1%、60歳代では「いつも女性」と「男性と女性が同じ程度」が同率の22.0%で最も多くなっている。

【図 性年齢別 家庭内の役割分担】

①生活費を得る

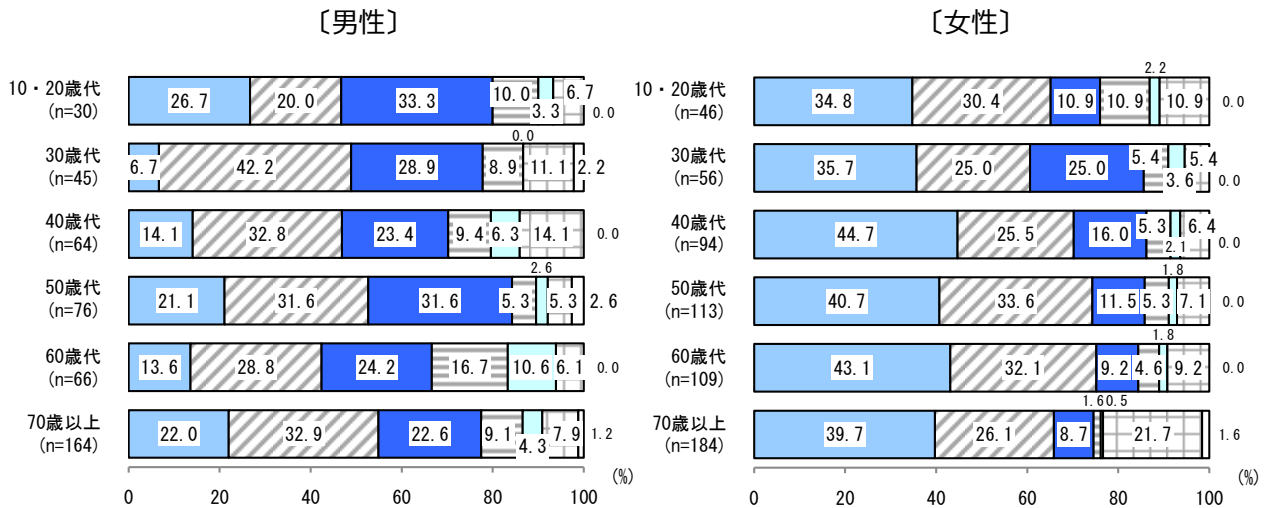


②食事のしたく

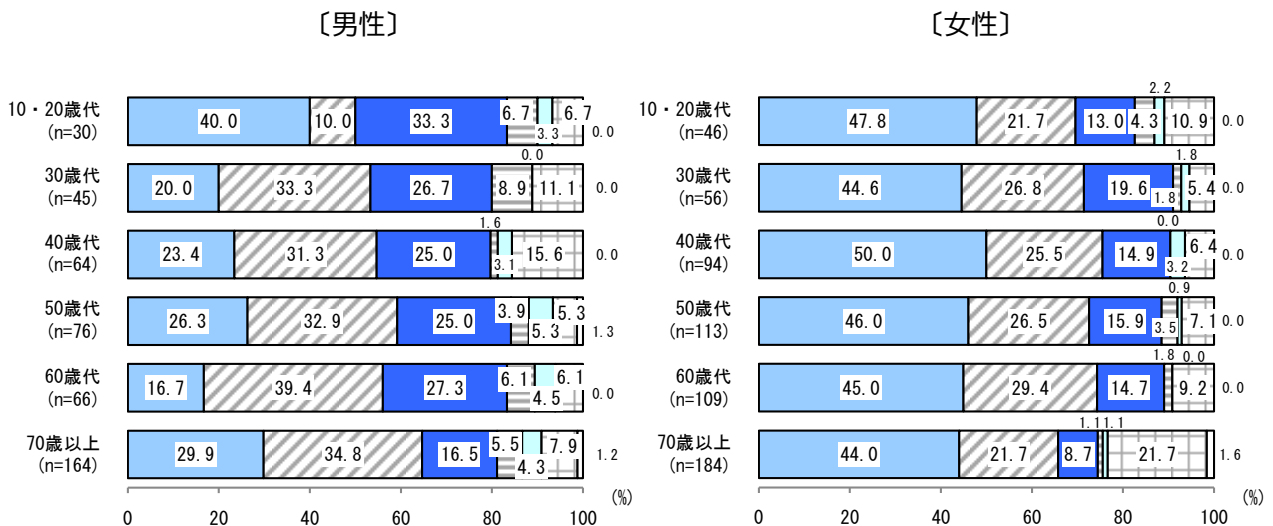


いつも女性
 主に女性で男性は補助程度
 男性と女性が同じ程度
 主に男性で女性は補助程度
 いつも男性
 該当しない
 無回答

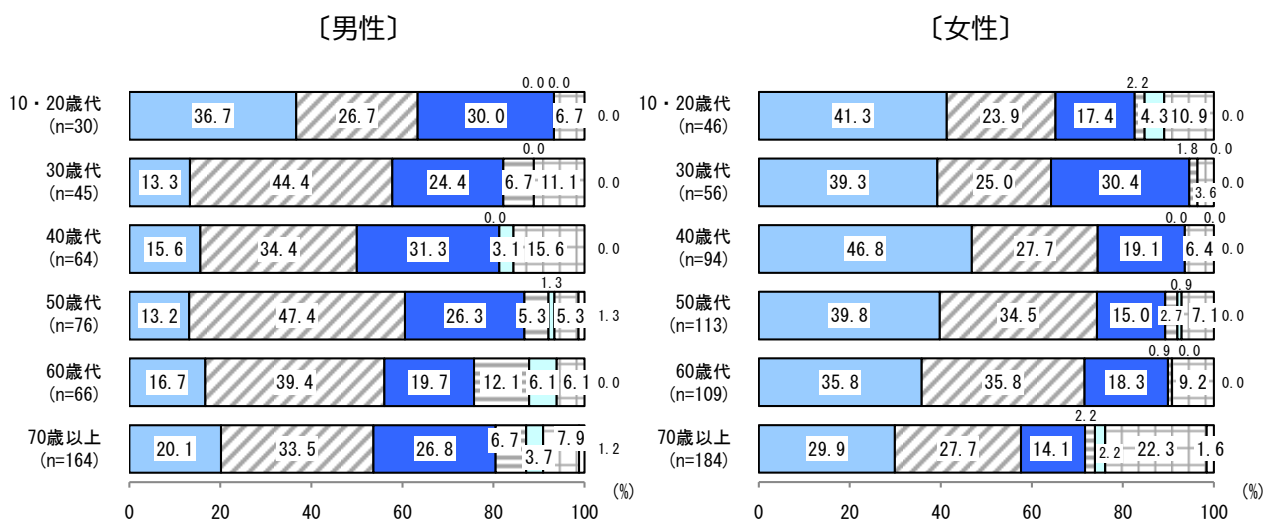
③食事のあとかたづけ



④洗濯、洗濯物たたみ

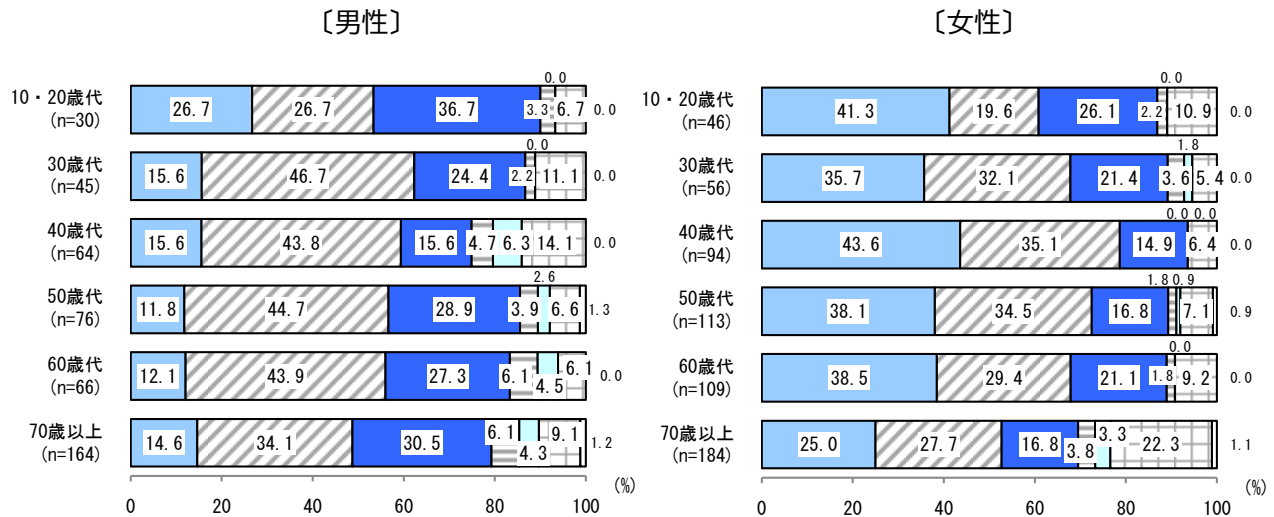


⑤掃除

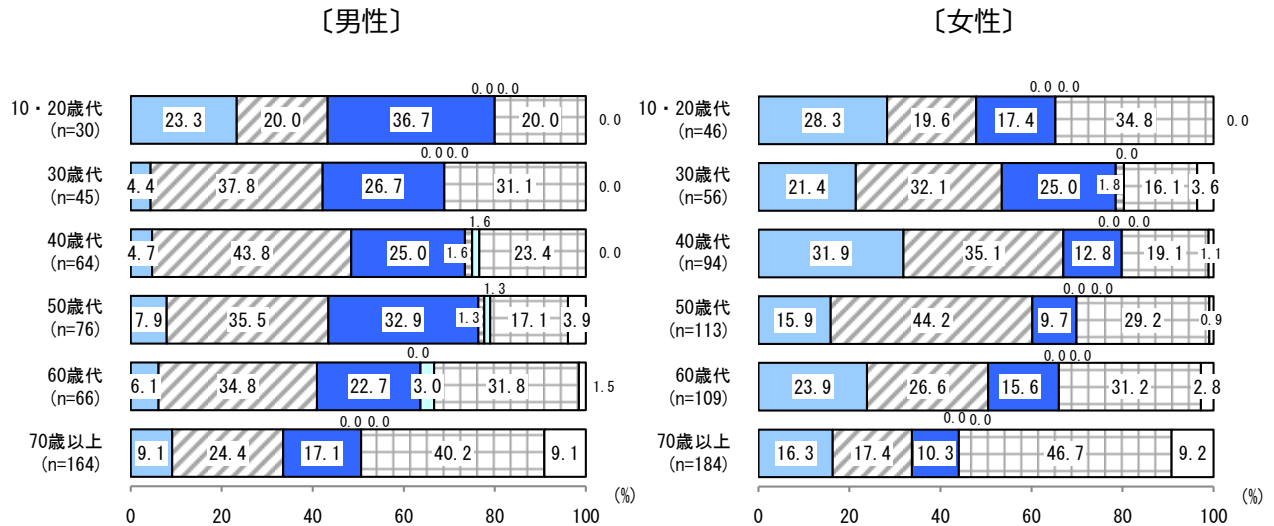


いつも女性
 主に女性で男性は補助程度
 男性と女性が同じ程度
 主に男性で女性は補助程度
 いつも男性
 該当しない
 無回答

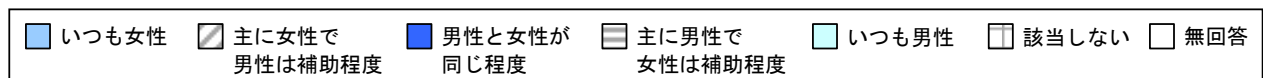
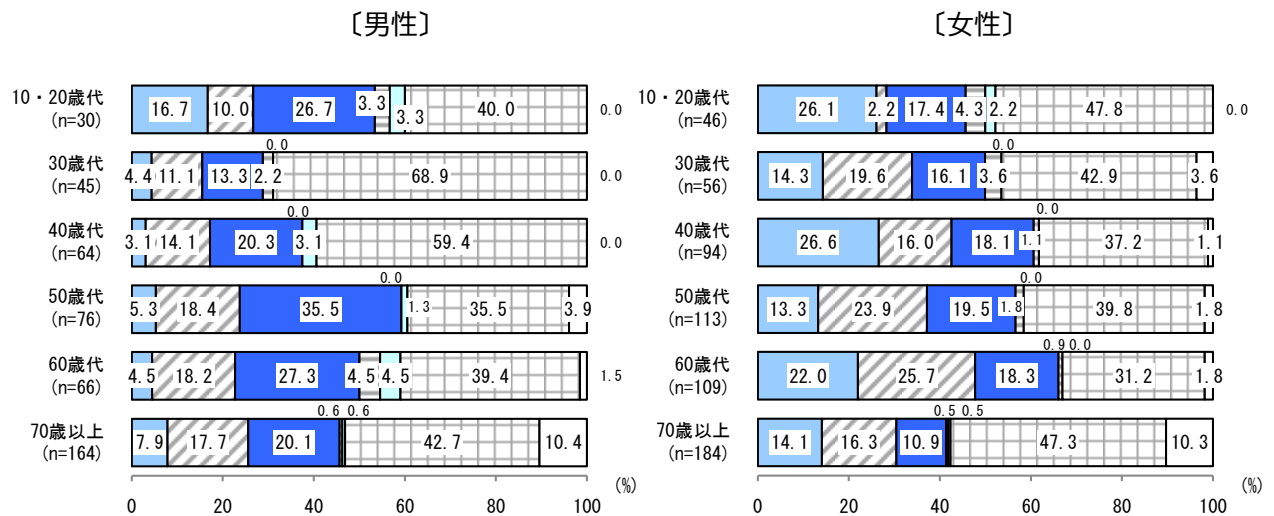
⑥日常の買い物



⑦子どもの世話



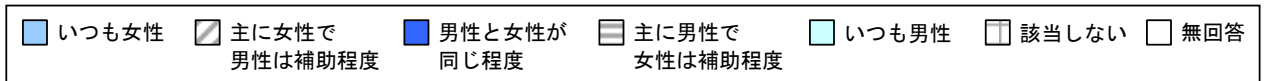
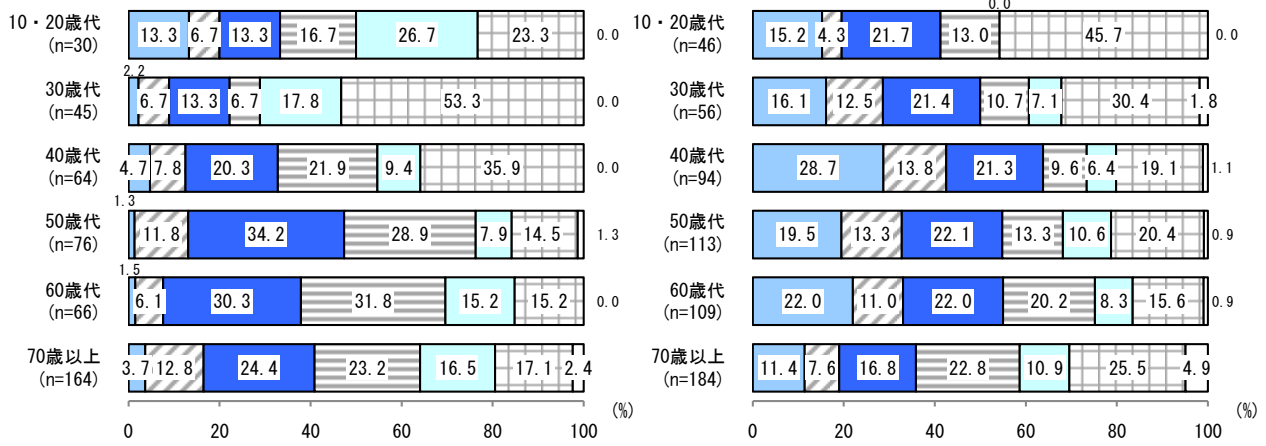
⑧高齢者や病人の世話



⑨町内会や地域の活動

〔男性〕

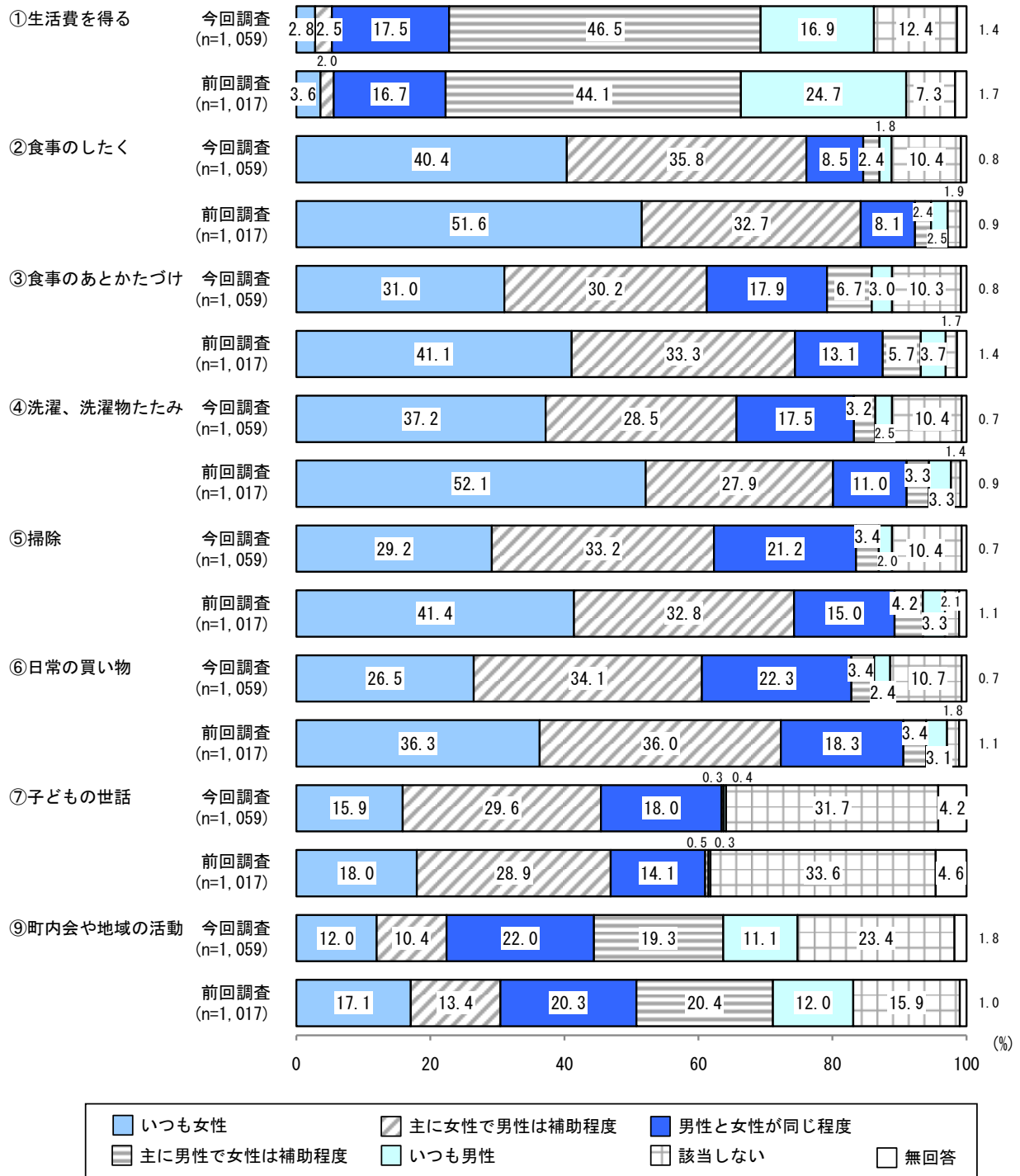
〔女性〕



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、すべての項目で「いつも女性」の割合は前回より低くなっており、なかでも“④洗濯、洗濯物たたみ”は前回より14.9ポイント低くなっている。「男性と女性が同じ程度」の割合はすべての項目で前回より高く、“④洗濯、洗濯物たたみ”では前回より6.5ポイント、“⑤掃除”では前回より6.2ポイント、それぞれ高くなっている。

【図 家庭内の役割分担（前回調査との比較）】



※「⑧高齢者や病人の世話」は新規項目。

(4)「仕事」「家庭生活」「プライベート」の関わり方

問10 あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「プライベート（趣味や学習・社会参加活動・地域活動）」で何を優先しますか。希望と現実（現状）それぞれに、最も近いものをそれぞれお答えください。

<希望>

希望の優先度は、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」が36.5%で最も多く、次いで「家庭生活とプライベートの両方」が20.2%、「家庭生活」が12.5%となっている。

性別にみると、男性では、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」が31.0%で最も多く、次いで「家庭生活とプライベートの両方」が17.8%、「仕事と家庭生活の両方」が13.7%となっている。女性では、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」が40.8%で最も多く、次いで「家庭生活とプライベートの両方」が21.6%、「家庭生活」が12.6%となっている。

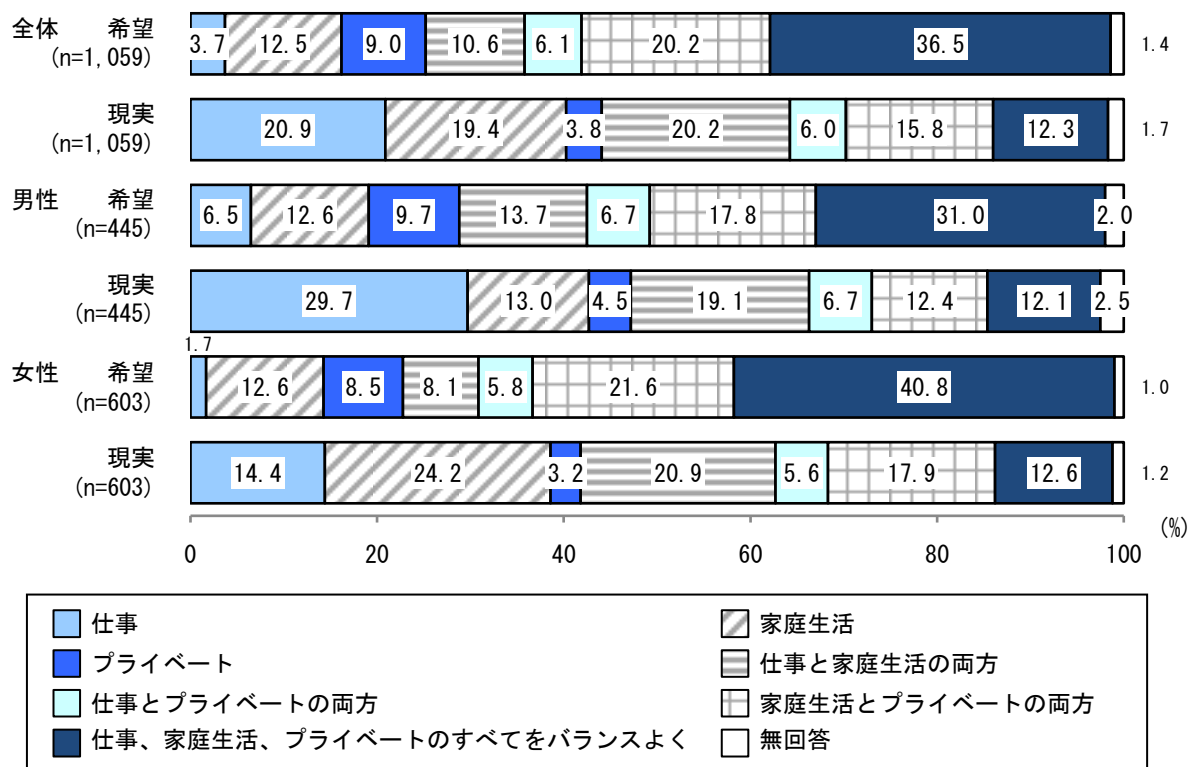
<現実>

現実の優先度は、「仕事」が20.9%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活の両方」が20.2%、「家庭生活」が19.4%となっている。

性別にみると、男性では、「仕事」が29.7%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活の両方」が19.1%、「家庭生活」が13.0%となっている。

女性では、「家庭生活」が24.2%で最も多く、次いで「仕事と家庭生活の両方」が20.9%、「家庭生活とプライベートの両方」が17.9%となっている。

【図 性別 「仕事」「家庭生活」「プライベート」の関わり方】



【性年齢別】

<希望>

希望の優先度を性年齢別にみると、女性の10・20歳代は「プライベート」が28.3%で最も多いが、それ以外の年代は男女とも「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 「仕事」「家庭生活」「プライベート」の関わり方<希望>】

			回答者数 (n)	仕事	家庭生活	プライベート	仕事と家庭生活の両方	仕事とプライベートの両方	家庭生活とプライベートの両方	仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく	無回答
全 体			1,059	3.7	12.5	9.0	10.6	6.1	20.2	36.5	1.4
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	6.7	10.0	16.7	10.0	13.3	13.3	30.0	-
		30歳代	45	2.2	13.3	11.1	6.7	6.7	15.6	44.4	-
		40歳代	64	9.4	15.6	7.8	18.8	4.7	14.1	29.7	-
		50歳代	76	5.3	10.5	11.8	17.1	10.5	9.2	34.2	1.3
		60歳代	66	6.1	9.1	15.2	15.2	4.5	16.7	30.3	3.0
		70歳以上	164	7.3	14.0	5.5	12.2	5.5	25.0	26.8	3.7
	女 性	10・20歳代	46	2.2	6.5	28.3	4.3	13.0	19.6	26.1	-
		30歳代	56	5.4	10.7	10.7	5.4	5.4	21.4	41.1	-
		40歳代	94	-	17.0	8.5	8.5	2.1	11.7	51.1	1.1
		50歳代	113	-	8.8	9.7	9.7	8.0	14.2	49.6	-
		60歳代	109	1.8	9.2	3.7	7.3	6.4	23.9	45.9	1.8
		70歳以上	184	2.2	16.8	4.9	9.2	3.8	30.4	31.0	1.6

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

<現実>

現実の優先度を性年齢別にみると、男性では、60歳代までの年代では「仕事」が最も多く、60歳代は同率で「仕事と家庭生活の両方」も最も多くなっている。女性では、10・20歳代は「仕事」が28.3%で最も多いが、30～60歳代では「仕事と家庭生活の両方」が最も多くなっている。70歳以上では男女とも「家庭生活とプライベートの両方」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 「仕事」「家庭生活」「プライベート」の関わり方<現実>】

			回答者数 (n)	仕事	家庭生活	プライベート	仕事と家庭生活の両方	仕事とプライベートの両方	家庭生活とプライベートの両方	仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく	無回答
全 体			1,059	20.9	19.4	3.8	20.2	6.0	15.8	12.3	1.7
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	36.7	6.7	20.0	3.3	10.0	3.3	16.7	3.3
		30歳代	45	35.6	17.8	4.4	15.6	13.3	-	13.3	-
		40歳代	64	46.9	10.9	1.6	32.8	3.1	-	4.7	-
		50歳代	76	48.7	6.6	2.6	22.4	5.3	1.3	10.5	2.6
		60歳代	66	24.2	15.2	-	24.2	7.6	12.1	13.6	3.0
		70歳以上	164	13.4	15.9	5.5	14.0	6.1	27.4	14.0	3.7
	女 性	10・20歳代	46	28.3	10.9	13.0	8.7	19.6	10.9	8.7	-
		30歳代	56	17.9	21.4	1.8	25.0	10.7	10.7	12.5	-
		40歳代	94	21.3	28.7	2.1	30.9	2.1	3.2	10.6	1.1
		50歳代	113	18.6	20.4	2.7	28.3	7.1	7.1	15.9	-
		60歳代	109	13.8	22.0	1.8	23.9	3.7	19.3	13.8	1.8
		70歳以上	184	4.3	29.9	2.7	11.4	2.2	35.3	12.0	2.2

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

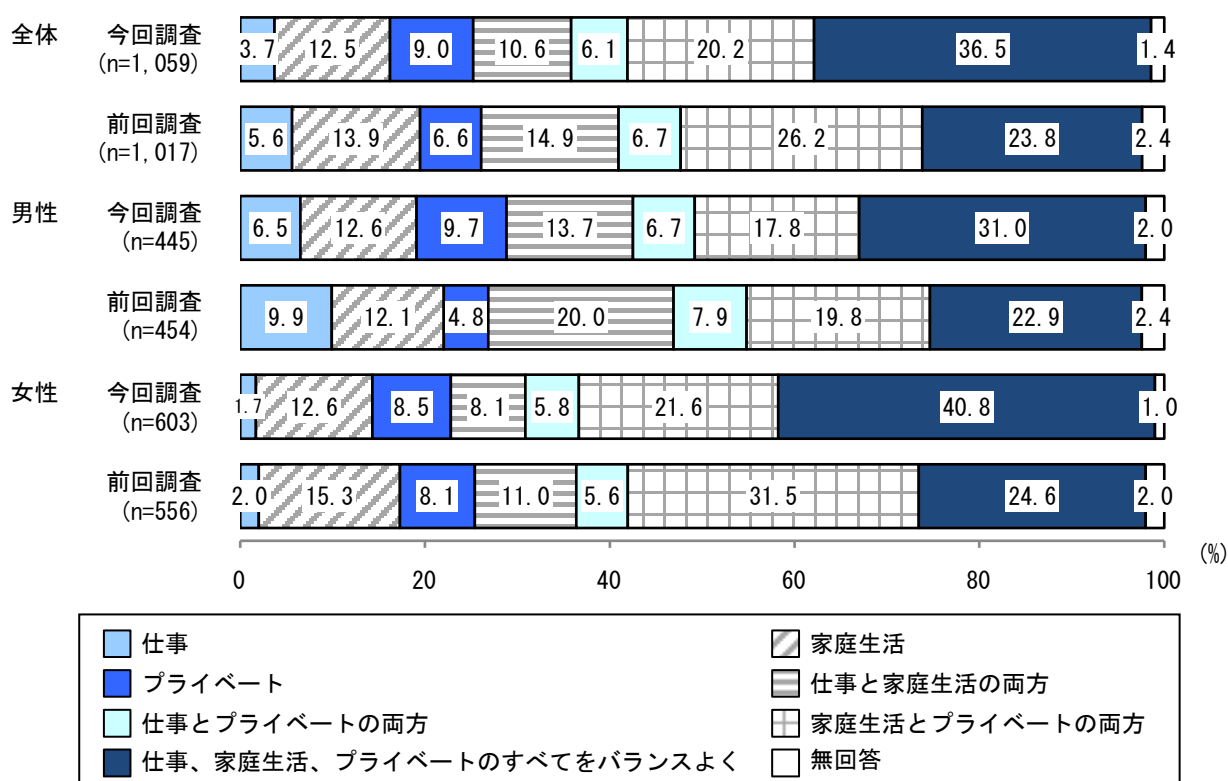
《前回調査との比較》

<希望>

前回調査と比較すると、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」の割合は前回より12.7ポイント高くなっている。

性別にみると、男性では、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」の割合が前回より8.1ポイント高く、「仕事と家庭生活の両方」が前回より6.3ポイント低くなっている。女性では、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」の割合が前回より16.2ポイント高く、「家庭生活とプライベートの両方」が前回より9.9ポイント低くなっている。

【図 性別 「仕事」「家庭生活」「プライベート」の関わり方<希望>（前回調査との比較）】

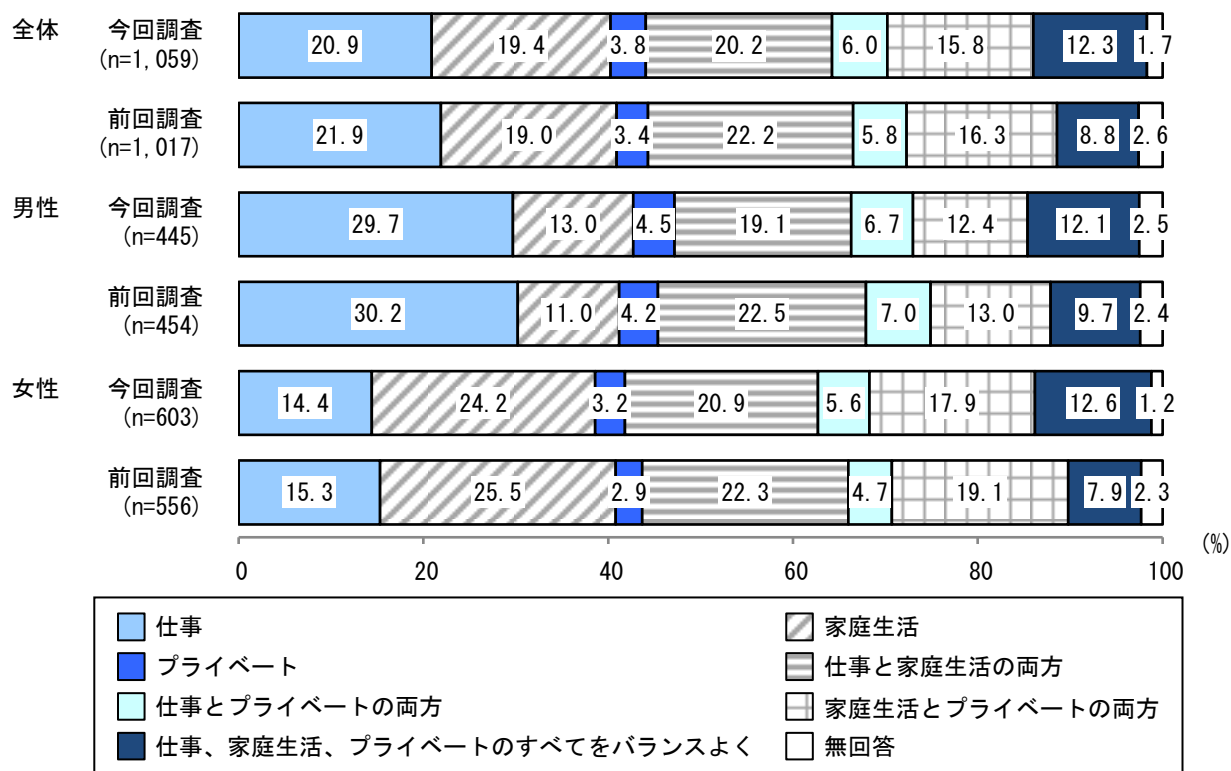


<現実>

前回調査と比較すると、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」の割合は前回より3.5ポイント高くなっている。

性別にみると、男性では、「仕事と家庭生活の両方」の割合が前回より3.4ポイント低くなっている。女性では、「仕事、家庭生活、プライベートのすべてをバランスよく」の割合が前回より4.7ポイント高くなっている。

【図 性別 「仕事」「家庭生活」「プライベート」の関わり方<現実>（前回調査との比較）】



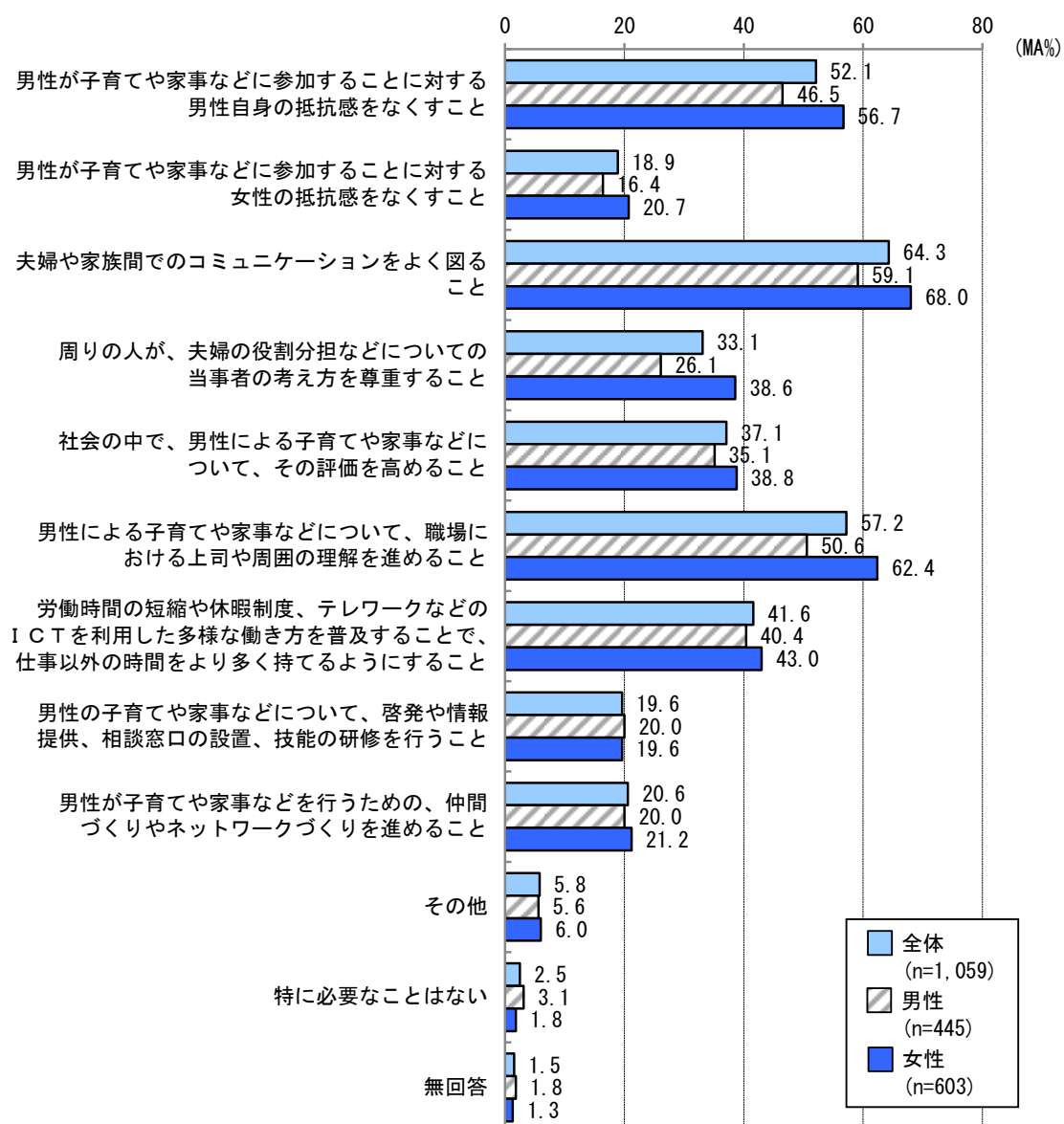
(5) 男性が家事、子育て、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問11 あなたは、今後、男性が子育てや介護、家事、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男性が家事、子育て、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が64.3%で最も多く、次いで「男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が57.2%、「男性が子育てや家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が52.1%となっている。

性別にみると、男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が59.1%で最も多く、次いで「男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が50.6%、女性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が68.0%で最も多く、次いで「男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が62.4%となっている。

【図 性別 男性が家事、子育て、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代と40歳代以上の年代は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も多く、50歳代では同率の55.3%で「男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」も最も多くなっている。30歳代では「男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」と「労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」がともに62.2%で最も多くなっている。

女性では、10・20歳代、50歳代、60歳代では「男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が最も多く、30歳代、40歳代、70歳以上では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 男性が家事、子育て、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと】

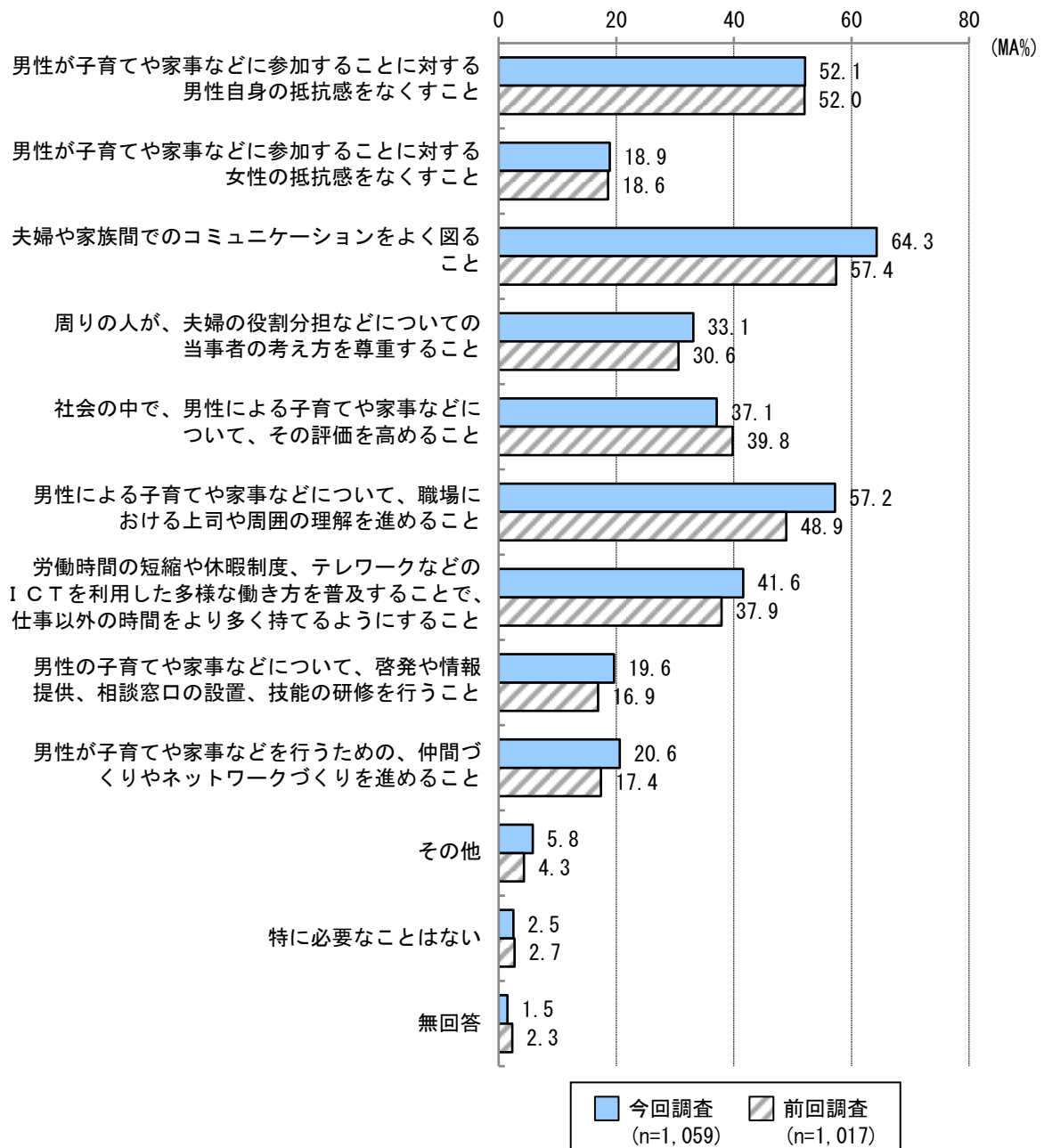
														(MA%)	
		回答者数 (n)	男性が自身の抵抗感をなくすこと	男性が子育てや家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による子育てや家事などについて、その評価を高めること	男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及すること、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の子育てや家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が子育てや家事などを行うための、仲間づくりやネットワークを進めること	その他	特に必要なことはない	無回答	
全 体		1,059	52.1	18.9	64.3	33.1	37.1	57.2	41.6	19.6	20.6	5.8	2.5	1.5	
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	50.0	23.3	66.7	50.0	46.7	60.0	46.7	36.7	30.0	3.3	-	-
		30歳代	45	28.9	17.8	55.6	26.7	33.3	62.2	62.2	8.9	20.0	11.1	2.2	-
		40歳代	64	42.2	21.9	48.4	29.7	37.5	45.3	35.9	18.8	25.0	10.9	3.1	-
		50歳代	76	44.7	13.2	55.3	28.9	38.2	55.3	50.0	18.4	22.4	7.9	3.9	2.6
		60歳代	66	48.5	12.1	60.6	27.3	34.8	53.0	40.9	15.2	19.7	3.0	1.5	1.5
		70歳以上	164	52.4	15.9	64.0	18.3	31.1	44.5	30.5	23.2	15.2	2.4	4.3	3.0
	女 性	10・20歳代	46	52.2	15.2	67.4	34.8	50.0	73.9	47.8	21.7	26.1	8.7	2.2	-
		30歳代	56	44.6	19.6	69.6	39.3	37.5	64.3	55.4	14.3	14.3	7.1	3.6	-
		40歳代	94	46.8	18.1	62.8	38.3	34.0	55.3	48.9	12.8	17.0	5.3	1.1	1.1
		50歳代	113	61.1	15.9	62.8	35.4	46.9	66.4	38.9	18.6	15.9	8.0	1.8	0.9
	60歳代	109	64.2	21.1	67.9	48.6	33.9	68.8	44.0	22.9	20.2	6.4	1.8	0.9	
	70歳以上	184	59.8	26.6	73.4	35.9	36.4	56.0	37.0	22.8	28.3	3.8	1.6	2.7	

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「男性による子育てや家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が前回より8.3ポイント、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が6.9ポイント、それぞれ高くなっている。

【図 男性が家事、子育て、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと（前回調査との比較）】



※ 今回調査の選択肢の「子育てや家事」は、前回調査では「家事・育児」であった。

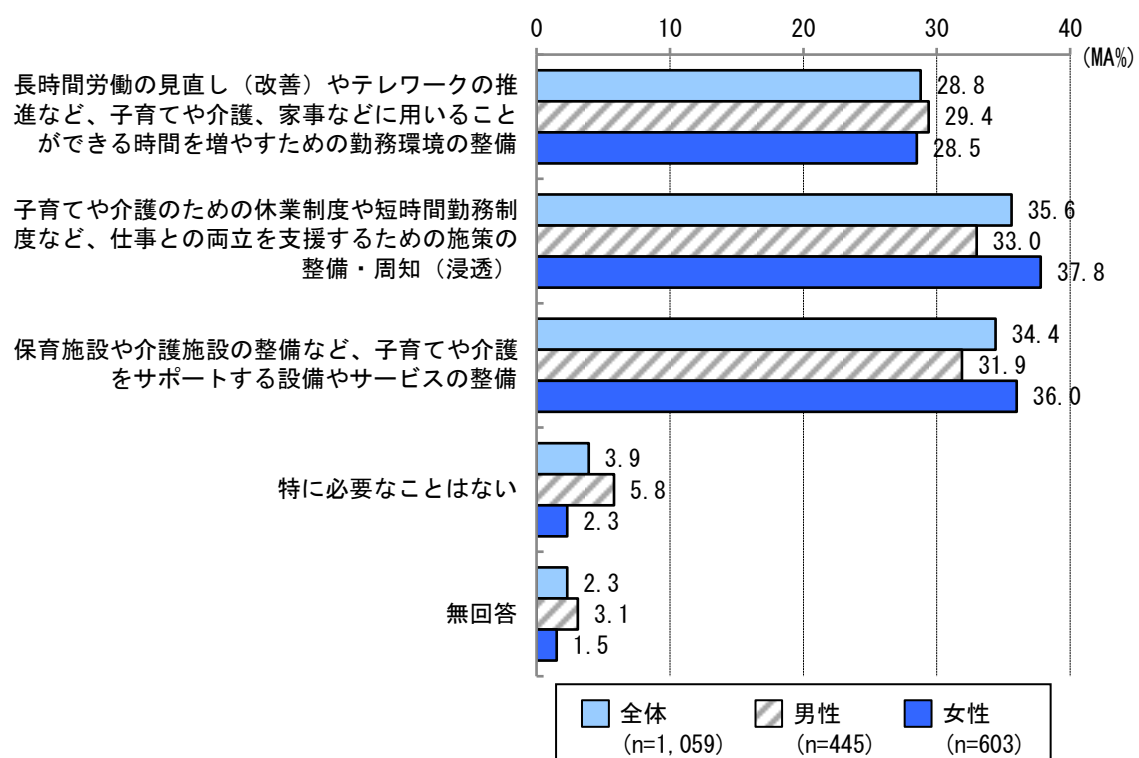
（６）職業生活における女性の活躍を推進するために必要な支援

問12 あなたは、子育てや介護、家事などに費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍をさらに推進するためには、特にどのような支援が必要だと思いますか。（○は最も必要だと思うもの１つ）

職業生活における女性の活躍を推進するために必要な支援については、「子育てや介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備・周知（浸透）」が35.6%で最も多く、次いで「保育施設や介護施設の整備など、子育てや介護をサポートする設備やサービスの整備」が34.4%、「長時間労働の見直し（改善）やテレワークの推進など、子育てや介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備」が28.8%となっている。

性別にみると、男女とも「子育てや介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備・周知（浸透）」が最も多く、男性（33.0%）より女性（37.8%）のほうが4.8ポイント高くなっている。

【図 性別 職業生活における女性の活躍を推進するために必要な支援】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代、50歳代、60歳代では「子育てや介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備・周知（浸透）」が最も多く、30歳代、40歳代は「長時間労働の見直し（改善）やテレワークの推進など、子育てや介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備」、70歳以上では「保育施設や介護施設の整備など、子育てや介護をサポートする設備やサービスの整備」が最も多くなっている。

女性では、10・20歳代、30歳代では「長時間労働の見直し（改善）やテレワークの推進など、子育てや介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備」、40歳代、50歳代では「子育てや介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備・周知（浸透）」、60歳代、70歳以上では「保育施設や介護施設の整備など、子育てや介護をサポートする設備やサービスの整備」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 職業生活における女性の活躍を推進するために必要な支援】

			(MA%)							
			無回答	特に必要なことはない			整備や介護施設やサポートする設備やサービスの整備など、子育てや介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備・周知（浸透）	長時間労働の見直し（改善）やテレワークの推進など、子育てや介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備	回答者数（n）	
全 体			2.3	3.9	34.4	35.6	28.8	1,059		
年齢別	男性	10・20歳代	－	3.3	26.7	53.3	30.0	30		
		30歳代	－	4.4	24.4	33.3	44.4	45		
		40歳代	－	10.9	20.3	28.1	40.6	64		
		50歳代	2.6	6.6	31.6	35.5	28.9	76		
		60歳代	3.0	3.0	28.8	40.9	25.8	66		
		70歳以上	6.1	5.5	40.9	26.8	22.6	164		
	女性	10・20歳代	－	－	21.7	39.1	47.8	46		
		30歳代	－	1.8	17.9	37.5	42.9	56		
		40歳代	1.1	2.1	27.7	38.3	37.2	94		
		50歳代	2.7	3.5	38.1	41.6	25.7	113		
		60歳代	0.9	3.7	38.5	32.1	30.3	109		
		70歳以上	2.2	1.6	46.7	38.0	15.8	184		

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

3. 子育て・教育について

(1) 子どもにどのように育ってほしいか

問13 あなたは、子どもにどのように育ってほしいですか（ほしかったですか）。子どものいない方もいるとしたらと仮定してお答えください。（女の子、男の子それぞれ〇はいくつでも）

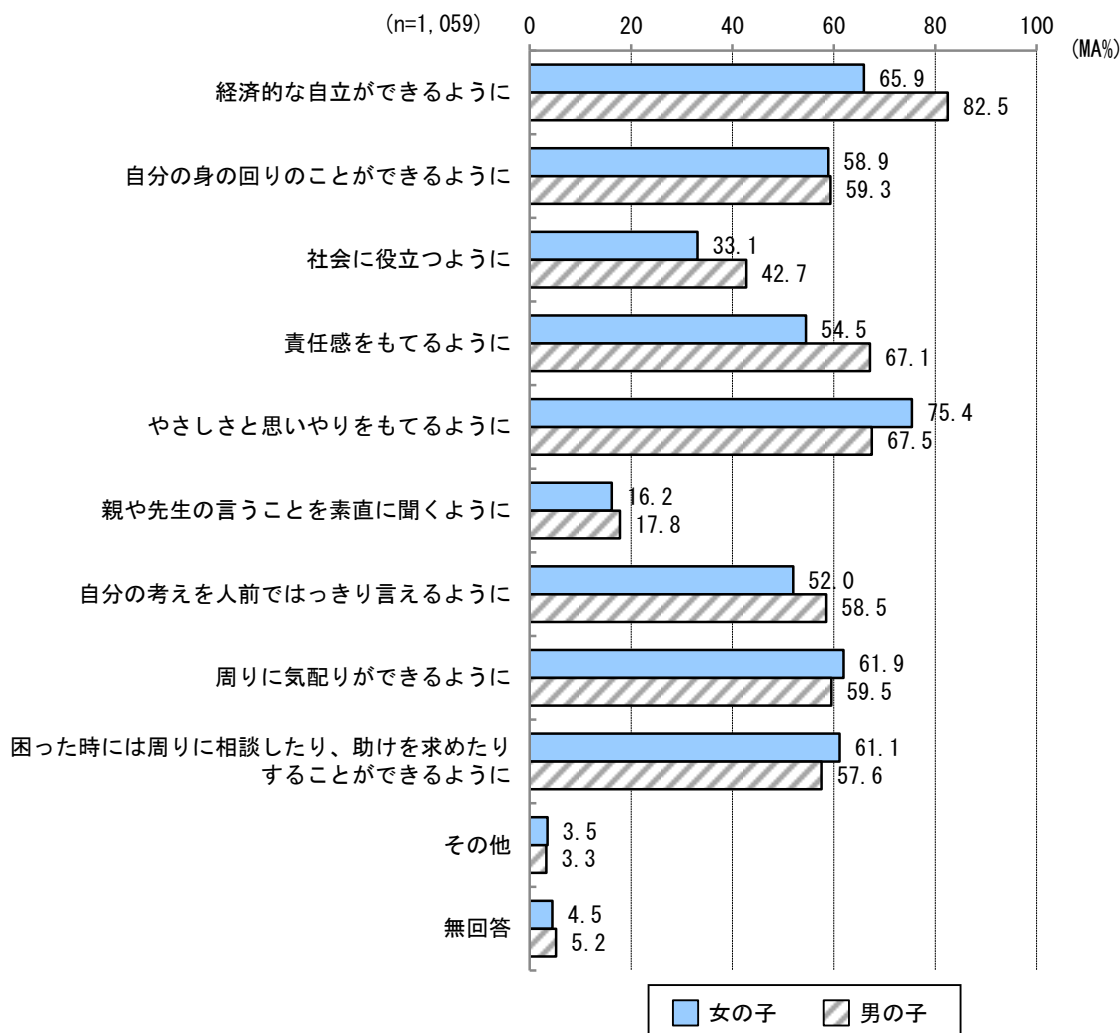
<女の子に>

女の子は、「やさしさと思いやりをもてるように」が75.4%で最も多く、次いで「経済的な自立ができるように」が65.9%、「周りに気配りができるように」が61.9%となっている。

<男の子に>

男の子は、「経済的な自立ができるように」が82.5%で最も多く、次いで「やさしさと思いやりをもてるように」が67.5%、「責任感をもてるように」が67.1%となっている。

【図 子どもにどのように育ってほしいか】



【性別】

<女の子に>

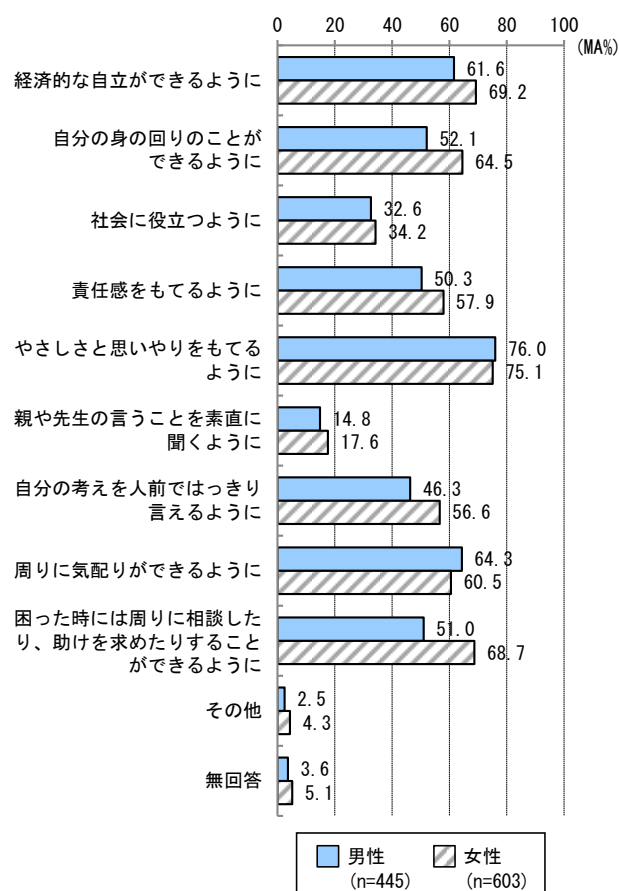
性別にみると、男女とも「やさしさと思いやりをもてるように」が最も多く、次いで男性は「周りに気配りができるように」、女性では「経済的な自立ができるように」となっている。

<男の子に>

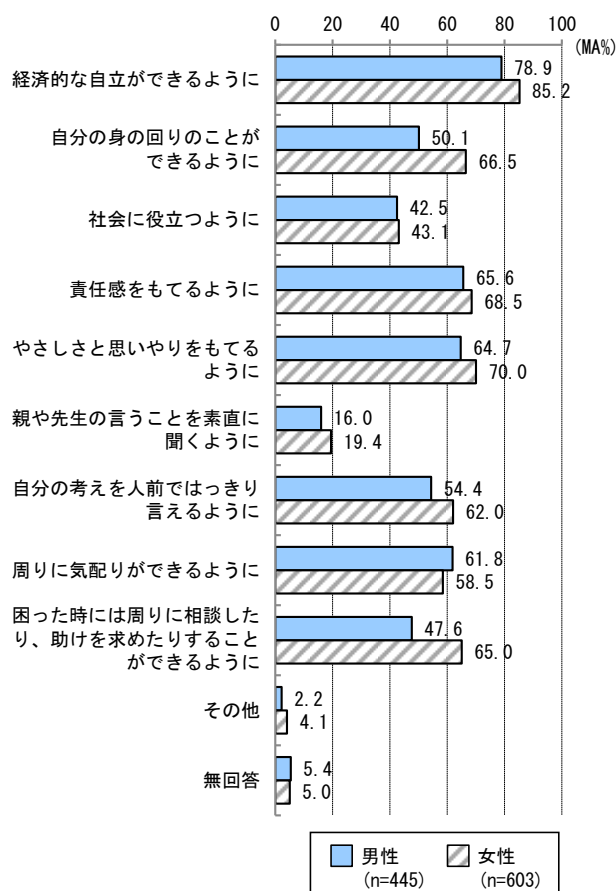
性別にみると、男女とも「経済的な自立ができるように」が最も多く、次いで男性では「責任感をもてるように」、女性では「やさしさと思いやりをもてるように」となっている。

【図 性別 子どもにどのように育ってほしいか】

〔女の子〕



〔男の子〕



【性年齢別】

<女の子に>

性年齢別にみると、男性では、60歳代は「周りに気配りができるように」が最も多く、女性では、10・20歳代は「自分の身の回りのことができるように」、50歳代は「経済的な自立ができるように」が最も多くなっており、男女ともそれ以外の年代は「やさしさと思いやりをもてるように」が最も多くなっている。

<男の子に>

性年齢別にみると、男性では、10・20歳代は「経済的な自立ができるように」、「責任感をもてるように」、「やさしさと思いやりをもてるように」が同率の76.7%で最も多くなっている。

る。30歳代では「やさしさと思いやりをもてるように」が82.2%で最も多くなっている。女性では、10・20歳代は「経済的な自立ができるように」と「自分の身の回りのことができるように」が同率の80.4%で最も多く、40歳代では「やさしさと思いやりをもてるように」が81.9%で最も多くなっている。男女ともそれ以外の年代は「経済的な自立ができるように」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 子どもにどのように育ってほしいか】

<女の子に>

(MA%)														
		回答者数（n）	に経済的な自立ができるよう	自分の身の回りのことができるように	社会に役立つように	責任感をもてるように	やさしさと思いやりをもてるように	親や先生の言うことを素直に聞くように	自分の考えを人前ではっきり言えるように	周りに気配りができるよう	困った時には周りに相談したり、助けを求めたりすることができるように	その他	無回答	
全 体		1,059	65.9	58.9	33.1	54.5	75.4	16.2	52.0	61.9	61.1	3.5	4.5	
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	53.3	76.7	23.3	60.0	86.7	30.0	50.0	66.7	63.3	3.3	-
		30歳代	45	62.2	73.3	31.1	55.6	91.1	22.2	55.6	64.4	77.8	4.4	-
		40歳代	64	64.1	65.6	35.9	45.3	81.3	14.1	60.9	60.9	65.6	3.1	-
		50歳代	76	60.5	53.9	38.2	46.1	72.4	10.5	42.1	61.8	52.6	2.6	6.6
		60歳代	66	71.2	40.9	34.8	51.5	71.2	10.6	34.8	72.7	37.9	1.5	6.1
		70歳以上	164	58.5	40.2	29.9	50.6	71.3	14.0	43.9	62.8	40.2	1.8	4.3
	女 性	10・20歳代	46	58.7	82.6	34.8	54.3	76.1	28.3	69.6	60.9	78.3	4.3	2.2
		30歳代	56	80.4	85.7	25.0	64.3	89.3	30.4	71.4	75.0	85.7	1.8	3.6
		40歳代	94	61.7	69.1	28.7	55.3	77.7	16.0	54.3	54.3	70.2	7.4	8.5
		50歳代	113	77.9	72.6	38.1	54.9	76.1	15.9	54.9	57.5	74.3	2.7	7.1
		60歳代	109	72.5	56.9	36.7	56.0	74.3	13.8	48.6	66.1	66.1	3.7	3.7
		70歳以上	184	64.7	50.5	35.9	61.4	69.0	15.2	56.0	58.2	58.7	4.9	4.3

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

<男の子に>

(MA%)														
		回答者数（n）	に経済的な自立ができるよう	自分の身の回りのことができるように	社会に役立つように	責任感をもてるように	やさしさと思いやりをもてるように	親や先生の言うことを素直に聞くように	自分の考えを人前ではっきり言えるように	周りに気配りができるよう	困った時には周りに相談したり、助けを求めたりすることができるように	その他	無回答	
全 体		1,059	82.5	59.3	42.7	67.1	67.5	17.8	58.5	59.5	57.6	3.3	5.2	
年 齢 別	男性	10・20歳代	30	76.7	70.0	50.0	76.7	76.7	30.0	60.0	70.0	63.3	3.3	-
		30歳代	45	73.3	71.1	40.0	62.2	82.2	22.2	60.0	60.0	66.7	4.4	6.7
		40歳代	64	81.3	62.5	45.3	57.8	79.7	15.6	59.4	67.2	62.5	3.1	-
		50歳代	76	72.4	53.9	39.5	57.9	67.1	13.2	47.4	64.5	56.6	2.6	6.6
		60歳代	66	83.3	47.0	39.4	69.7	59.1	13.6	48.5	62.1	30.3	-	7.6
		70歳以上	164	81.1	35.4	43.3	69.5	53.0	14.0	55.5	57.3	36.6	1.8	6.7
	女性	10・20歳代	46	80.4	80.4	45.7	69.6	71.7	34.8	67.4	73.9	71.7	2.2	2.2
		30歳代	56	92.9	89.3	35.7	83.9	87.5	30.4	69.6	83.9	89.3	1.8	-
		40歳代	94	80.9	73.4	38.3	70.2	81.9	20.2	68.1	58.5	72.3	8.5	4.3
		50歳代	113	86.7	72.6	46.0	57.5	72.6	15.9	56.6	52.2	65.5	2.7	8.8
		60歳代	109	88.1	63.3	44.0	68.8	71.6	14.7	58.7	59.6	64.2	3.7	3.7
		70歳以上	184	83.7	50.5	45.1	69.6	55.4	16.8	60.9	50.5	52.7	4.3	6.0

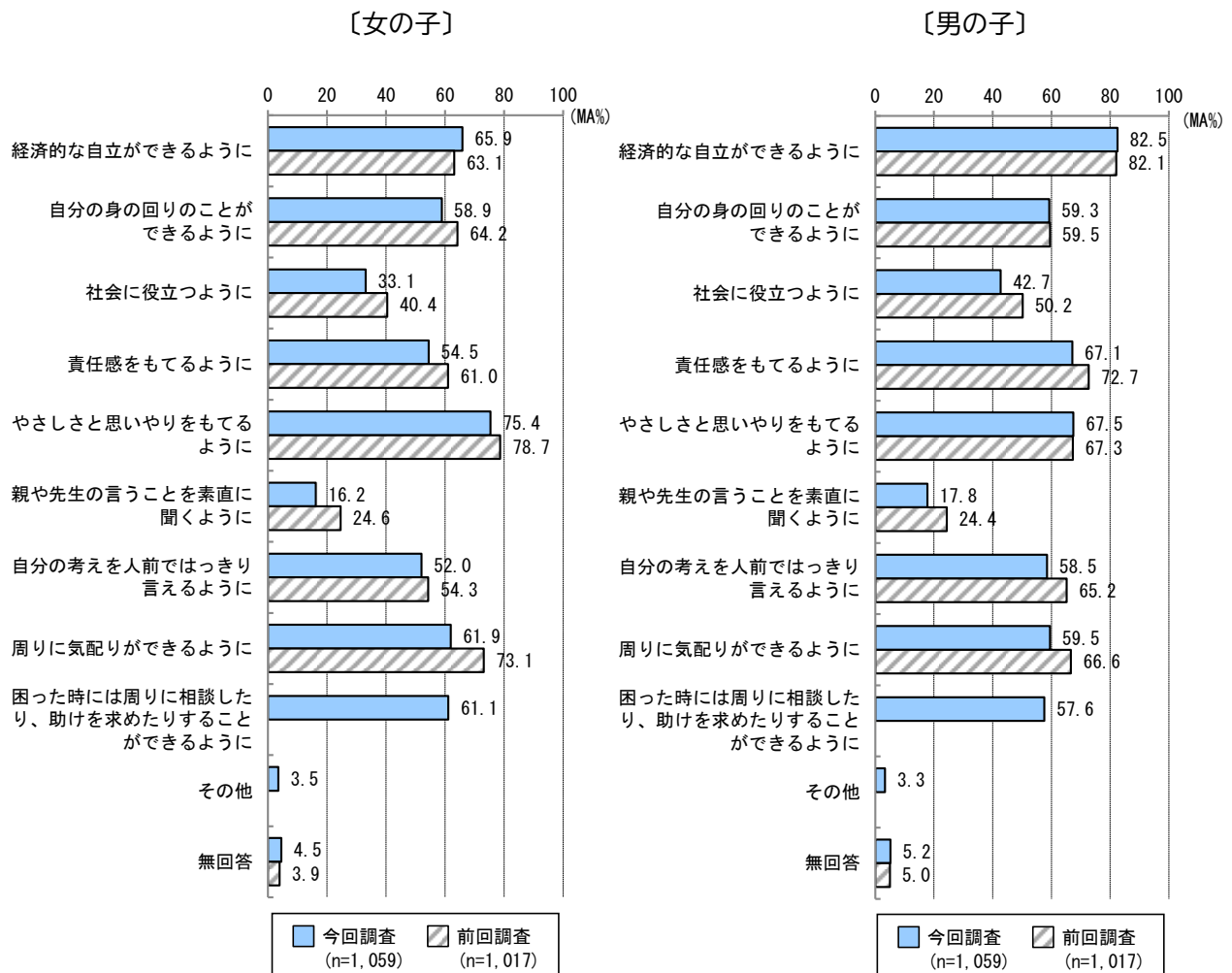
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、女の子では、「周りに気配りができるように」の割合が前回より11.2ポイント、「親や先生の言うことを素直に聞くように」の割合が前回より8.4ポイント、それぞれ低くなっている。

男の子では、「社会に役立つように」の割合が前回より7.5ポイント、「周りに気配りができるように」の割合が前回より7.1ポイント、それぞれ低くなっている。

【図 子どもにどのように育ってほしいか（前回調査との比較）】



※「困った時には周りに相談したり、助けを求めたりすることができるように」、「その他」は新規項目。

(2) 男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと

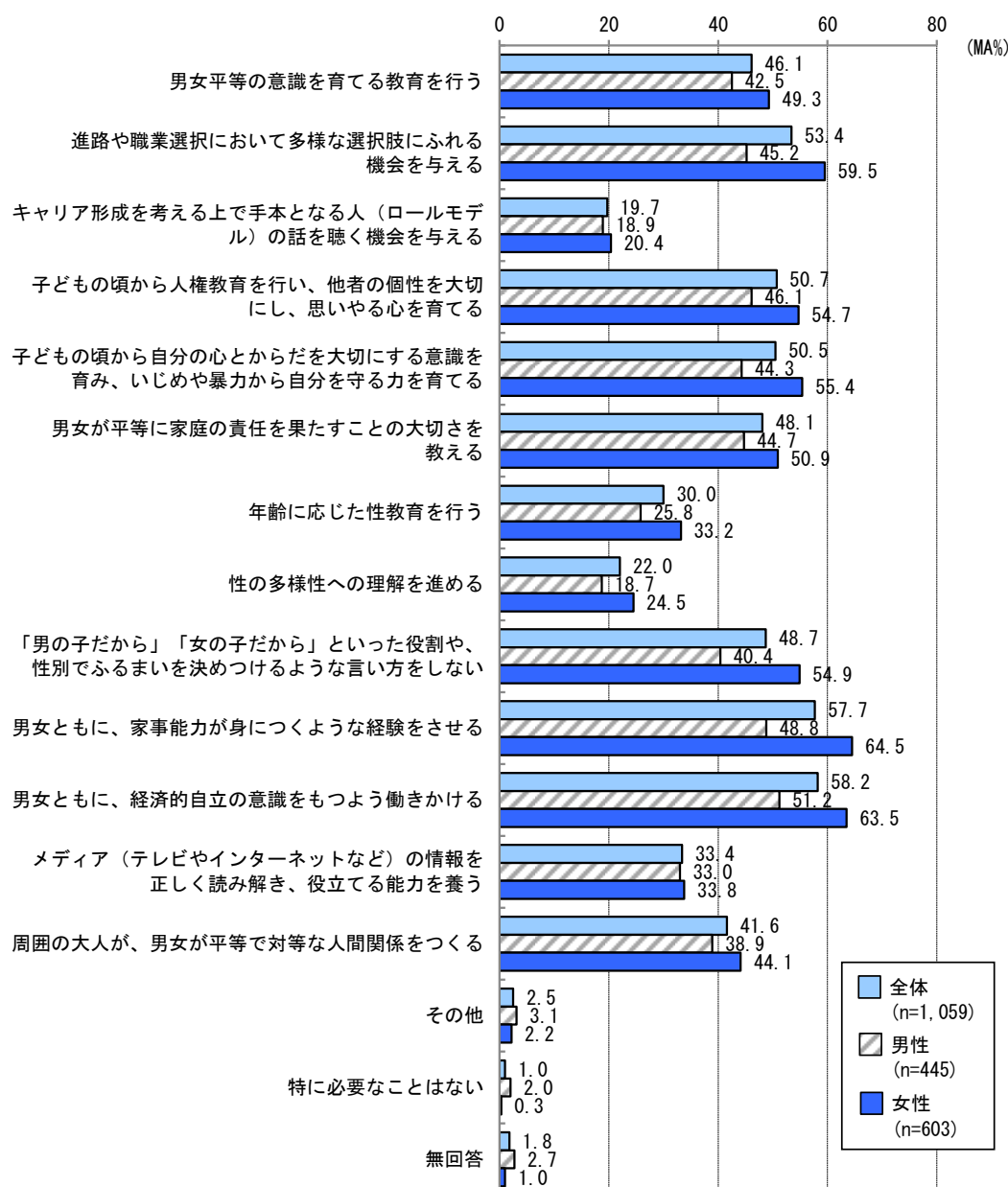
問14 あなたは、男女共同参画を進めるために、子どもへの教育においてどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男女共同参画を進めるために子どもへの教育で必要なことについては、「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が58.2%で最も多く、次いで「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」が57.7%、「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える」が53.4%となっている。

性別にみると、男性は、「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が51.2%で最も多く、次いで「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」が48.8%となっている。

女性は、「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」が64.5%で最も多く、次いで「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が63.5%となっている。

【図 性別 男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性では、30歳代、40歳代は「男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる」が最も多く、50歳代、60歳代は「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が最も多くなっている。

女性では、30歳代、40歳代は「進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える」が最も多く、50歳代、70歳以上では「男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと】

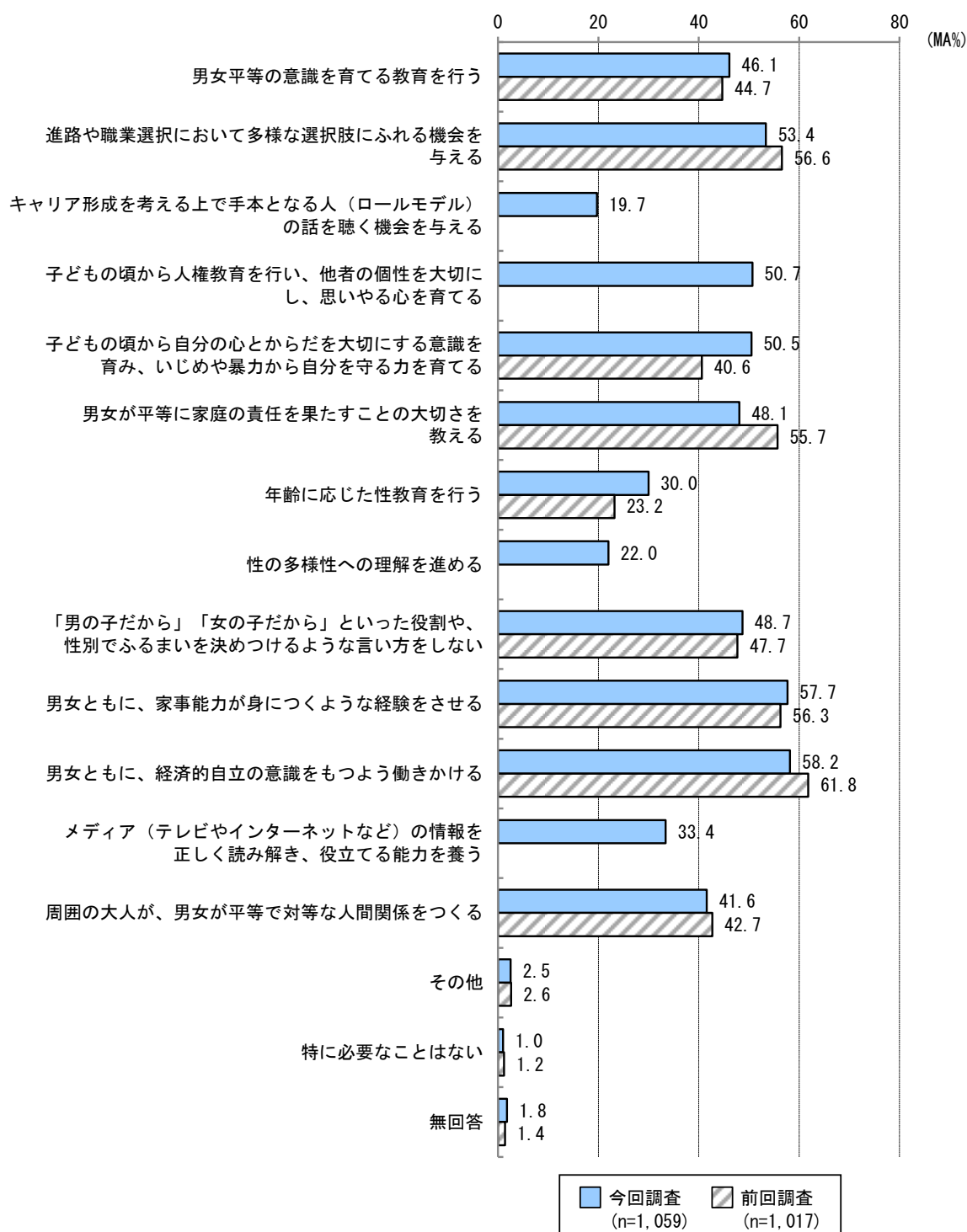
(MA%)																				
		無回答	特に必要なことはない	その他	周囲の大人が、男女が平等で対等な人間関係をつくる	メディア（テレビやインターネットなど）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う	男女ともに、経済的自立の意識をもつよう働きかける	男女ともに、家事能力が身につくような経験をさせる	「男の子だから」「女の子だから」といった役割や、性別でふるまいを決めつけるような言い方をしない	性の多様性への理解を進める	年齢に応じた性教育を行う	男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える	子どもの頃から自分の心とからだを大切にすることを育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる	子どもの頃から人権教育を行い、他者の個性を大切にし、思いやる心を育てる	キャリア形成を考える上で手本となる人（ロールモデル）の話を聴く機会を与える	進路や職業選択において多様な選択肢にふれる機会を与える	男女平等の意識を育てる教育を行う	回答者数（n）		
全 体		1.8	1.0	2.5	41.6	33.4	58.2	57.7	48.7	22.0	30.0	48.1	50.5	50.7	19.7	53.4	46.1	1,059		
年 齢 別	男 性	10・20歳代	-	-	-	53.3	46.7	56.7	63.3	26.7	50.0	40.0	50.0	56.7	20.0	63.3	50.0	30		
		30歳代	-	4.4	6.7	37.8	55.6	57.8	64.4	42.2	24.4	40.0	33.3	51.1	48.9	28.9	57.8	26.7	45	
		40歳代	1.6	1.6	4.7	37.5	32.8	50.0	56.3	40.6	21.9	29.7	46.9	53.1	39.1	23.4	51.6	35.9	64	
		50歳代	3.9	3.9	2.6	44.7	27.6	57.9	47.4	34.2	18.4	19.7	40.8	38.2	43.4	19.7	48.7	36.8	76	
		60歳代	4.5	0.0	3.0	33.3	27.3	50.0	42.4	33.3	19.7	24.2	47.0	42.4	39.4	19.7	40.9	33.3	66	
	女 性	70歳以上	3.0	1.8	2.4	36.6	28.0	48.2	43.3	41.5	14.0	19.5	48.8	41.5	50.0	13.4	36.0	54.3	164	
		10・20歳代	-	-	-	58.7	47.8	52.2	69.6	65.2	34.8	41.3	50.0	45.7	50.0	26.1	65.2	54.3	46	
		30歳代	-	1.8	-	39.3	39.3	75.0	75.0	60.7	32.1	50.0	46.4	62.5	58.9	23.2	82.1	42.9	56	
		40歳代	1.1	-	5.3	44.7	34.0	66.0	64.9	42.6	28.7	42.6	39.4	66.0	61.7	37.2	77.7	44.7	94	
		50歳代	0.9	-	1.8	46.0	29.2	66.4	62.8	63.7	25.7	24.8	48.7	53.1	47.8	20.4	55.8	46.0	113	
		60歳代	0.9	0.9	2.8	48.6	32.1	56.0	62.4	59.6	18.3	25.7	56.0	59.6	52.3	16.5	51.4	48.6	109	
		70歳以上	1.6	-	1.6	38.0	32.6	64.7	62.0	48.4	20.7	31.0	56.5	49.5	56.5	12.0	48.9	54.3	184	

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「子どもの頃から自分の心とからだを大切にする意識を育み、いじめや暴力から自分を守る力を育てる」の割合が前回より9.9ポイント、「年齢に応じた性教育を行う」の割合が前回より6.8ポイント、それぞれ高くなっている。

【図 男女共同参画を進めるために子どもへの教育において必要なこと（前回調査との比較）】



※ 「キャリア形成を考える上で手本となる人（ロールモデル）の話を聴く機会を与える」、「子どもの頃から人権教育を行い、他者の個性を大切にし、思いやる心を育てる」、「性の多様性への理解を進める」「メディア（テレビやインターネットなど）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う」は新規項目。

4. 地域活動・防災について

(1) 地域活動の参加状況

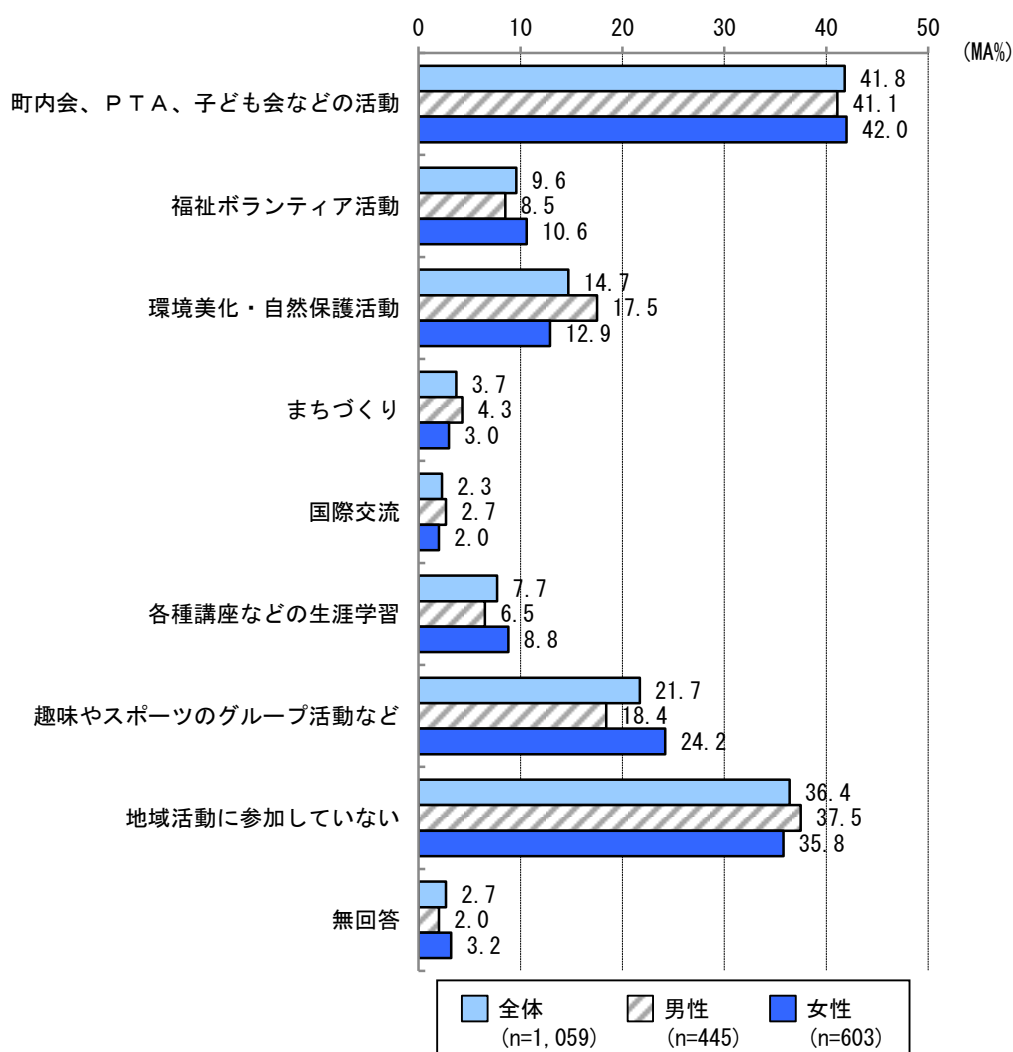
問15 あなたは、次のような地域活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

地域活動の参加状況については、「町内会、PTA、子ども会などの活動」が41.8%で最も多く、次いで「地域活動に参加していない」が36.4%、「趣味やスポーツのグループ活動など」が21.7%となっている。

性別にみると、男性は、「町内会、PTA、子ども会などの活動」が41.1%で最も多く、次いで「地域活動に参加していない」が37.5%、「趣味やスポーツのグループ活動など」が18.4%となっている。

女性は、「町内会、PTA、子ども会などの活動」が42.0%で最も多く、次いで「地域活動に参加していない」が35.8%、「趣味やスポーツのグループ活動など」が24.2%となっている。

【図 性別 地域活動の参加状況】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性の10・20歳代、30歳代、40歳代、女性の10・20歳代、30歳代では「地域活動に参加していない」が最も多いが、男性の50歳代以上と女性の40歳代以上では「町内会、PTA、子ども会などの活動」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 地域活動の参加状況】

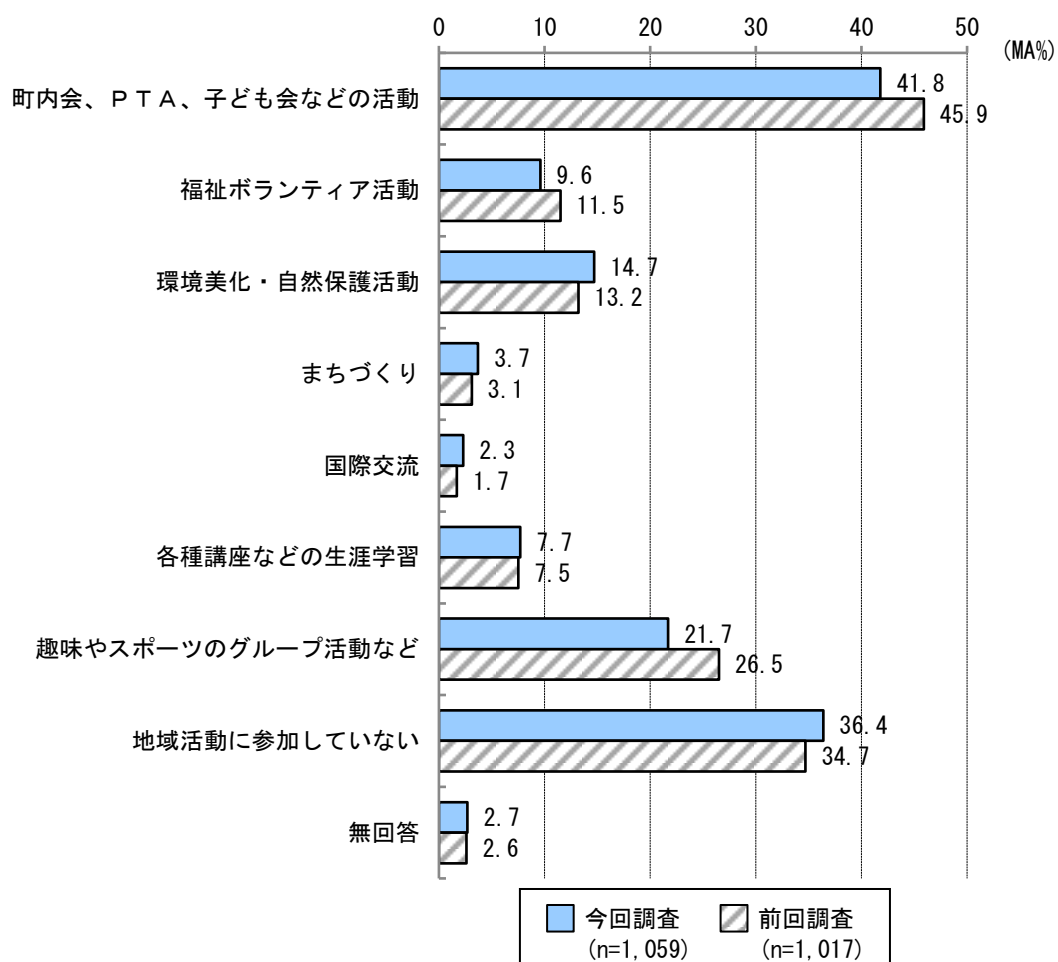
(MA%)												
			回答者数（n）	町内会、PTA、子ども会などの活動	福祉ボランティア活動	環境美化・自然保護活動	まちづくり	国際交流	各種講座などの生涯学習	趣味やスポーツのグループ活動など	地域活動に参加していない	無回答
全 体			1,059	41.8	9.6	14.7	3.7	2.3	7.7	21.7	36.4	2.7
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	16.7	6.7	16.7	－	3.3	－	6.7	70.0	－
		30歳代	45	13.3	4.4	2.2	4.4	－	6.7	6.7	73.3	－
		40歳代	64	40.6	1.6	14.1	1.6	1.6	3.1	10.9	46.9	－
		50歳代	76	52.6	7.9	21.1	3.9	3.9	3.9	11.8	25.0	1.3
		60歳代	66	54.5	7.6	13.6	3.0	4.5	7.6	12.1	31.8	3.0
		70歳以上	164	42.7	13.4	23.2	6.7	2.4	9.8	32.3	26.2	3.7
	女 性	10・20歳代	46	－	2.2	6.5	－	4.3	2.2	4.3	84.8	2.2
		30歳代	56	33.9	－	1.8	－	3.6	－	5.4	58.9	1.8
		40歳代	94	46.8	4.3	7.4	2.1	2.1	5.3	17.0	42.6	1.1
		50歳代	113	48.7	9.7	11.5	3.5	2.7	10.6	21.2	31.9	3.5
		60歳代	109	53.2	11.0	15.6	4.6	1.8	5.5	27.5	26.6	3.7
		70歳以上	184	41.8	19.6	20.1	3.8	0.5	15.8	38.6	20.7	4.3

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「趣味やスポーツのグループ活動など」の割合が前回より4.8ポイント、「町内会、PTA、子ども会などの活動」の割合が前回より4.1ポイント、それぞれ低くなっている。

【図 地域活動の参加状況（前回調査との比較）】



(2) 地域活動に参加する際に支障となること

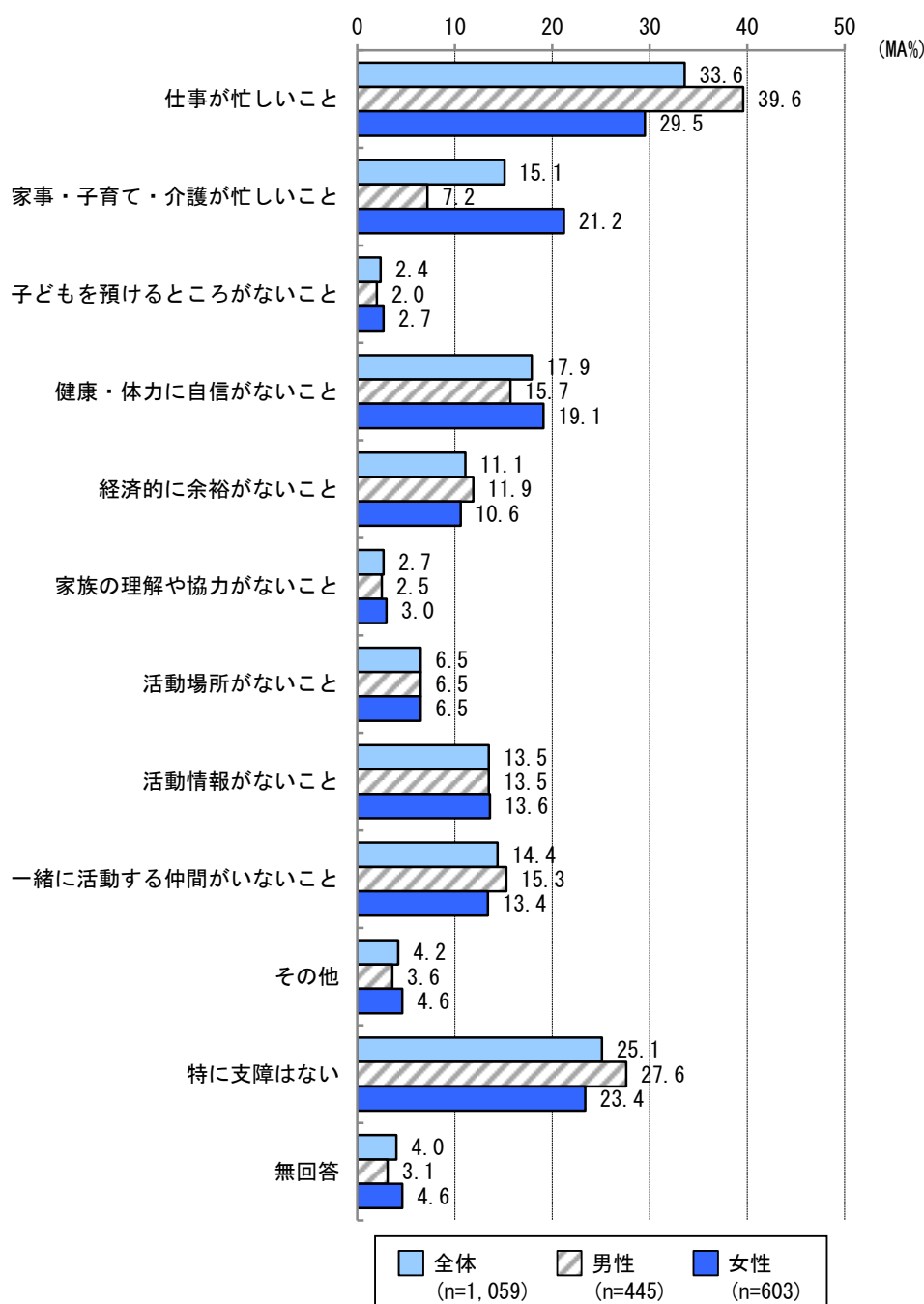
問16 あなたが、地域活動に参加する際に支障となることはありますか。(〇はいくつでも)

地域活動に参加する際に支障となることについては、「仕事が忙しいこと」が33.6%で最も多く、次いで「健康・体力に自信がないこと」が17.9%、「家事・子育て・介護が忙しいこと」が15.1%となっている。一方、「特に支障はない」は25.1%となっている。

性別にみると、男性は、「仕事が忙しいこと」が39.6%で最も多く、次いで「健康・体力に自信がないこと」が15.7%、「一緒に活動する仲間がいないこと」が15.3%となっている。

女性は、「仕事が忙しいこと」が29.5%で最も多く、次いで「家事・子育て・介護が忙しいこと」が21.2%、「健康・体力に自信がないこと」が19.1%となっている。

【図 性別 地域活動に参加する際に支障となること】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性では、60歳代までの年代、女性では50歳代までの年代では「仕事が忙しいこと」が最も多くなっている。女性の70歳以上では、「健康・体力に自信がないこと」が34.2%で最も多くなっている。

【表 性年齢別 地域活動に参加する際に支障となること】

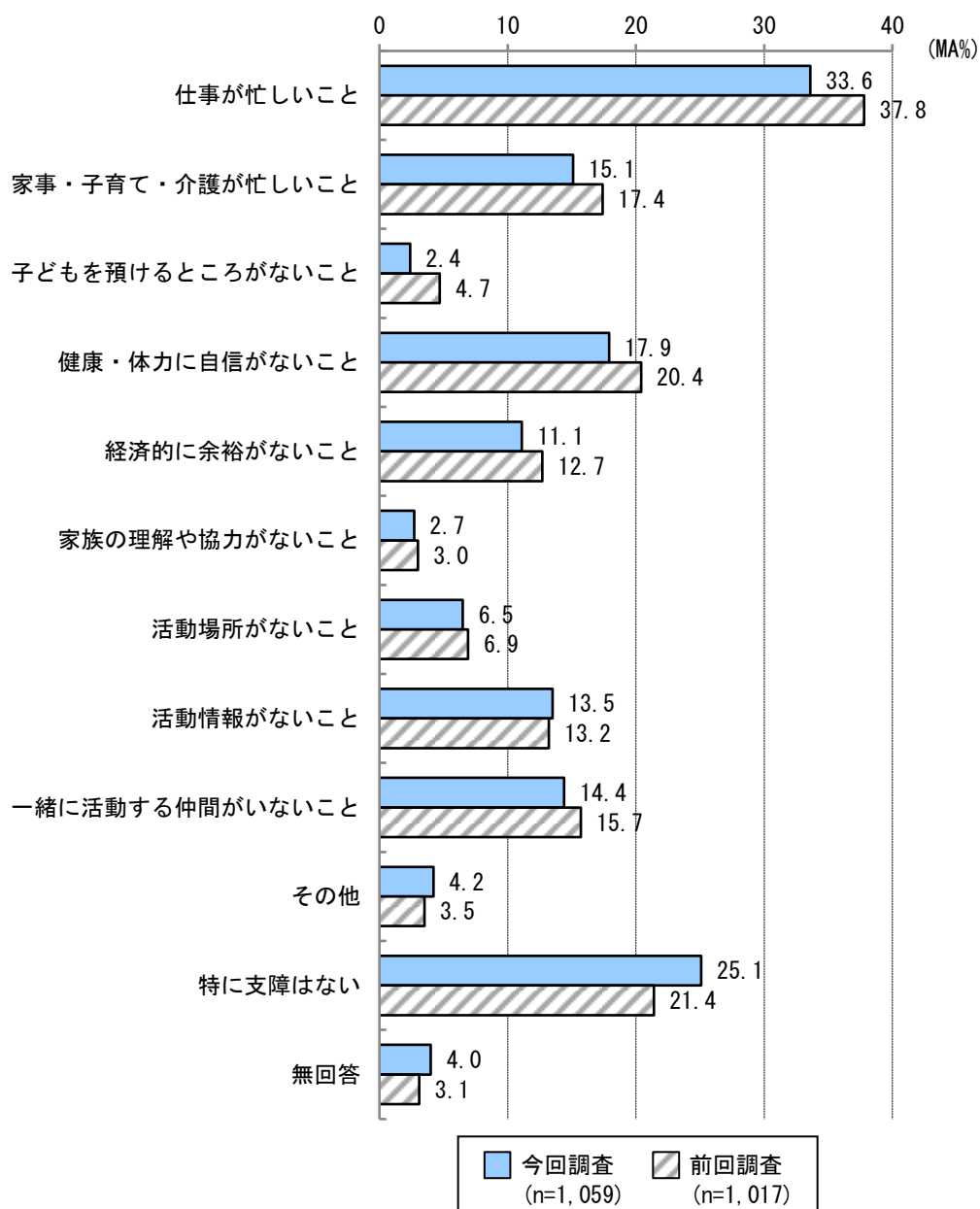
(MA%)															
		回答者数（n）	仕事が忙しいこと	家事・子育て・介護が忙しいこと	子どもを預けるところがないこと	健康・体力に自信がないこと	経済的に余裕がないこと	家族の理解や協力がないこと	活動場所がないこと	活動情報がないこと	一緒に活動する仲間がいないこと	その他	特に支障はない	無回答	
全 体		1,059	33.6	15.1	2.4	17.9	11.1	2.7	6.5	13.5	14.4	4.2	25.1	4.0	
年 齢 別	男性	10・20歳代	30	56.7	3.3	3.3	3.3	16.7	3.3	6.7	23.3	20.0	－	26.7	－
		30歳代	45	62.2	26.7	11.1	2.2	17.8	2.2	11.1	17.8	20.0	4.4	20.0	－
		40歳代	64	60.9	12.5	3.1	9.4	21.9	4.7	12.5	21.9	20.3	6.3	15.6	－
		50歳代	76	63.2	9.2	－	3.9	13.2	2.6	3.9	11.8	17.1	1.3	18.4	1.3
		60歳代	66	39.4	1.5	－	15.2	6.1	3.0	4.5	10.6	12.1	3.0	31.8	1.5
		70歳以上	164	11.0	1.8	0.6	29.9	7.3	1.2	4.9	9.1	11.6	4.3	37.2	7.3
	女性	10・20歳代	46	39.1	6.5	－	4.3	13.0	－	8.7	17.4	23.9	8.7	34.8	－
		30歳代	56	44.6	41.1	14.3	8.9	16.1	1.8	5.4	19.6	25.0	8.9	16.1	－
		40歳代	94	53.2	39.4	5.3	11.7	16.0	1.1	2.1	14.9	13.8	5.3	16.0	－
		50歳代	113	45.1	30.1	1.8	12.4	13.3	2.7	10.6	15.9	15.0	5.3	15.0	2.7
60歳代		109	20.2	17.4	－	18.3	11.9	4.6	6.4	10.1	10.1	3.7	26.6	5.5	
70歳以上	184	6.5	6.5	0.5	34.2	3.3	4.3	6.0	10.9	8.2	2.2	29.3	10.3		

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「仕事が忙しいこと」の割合が前回より4.2ポイント低くなっている。

【図 地域活動に参加する際に支障となること（前回調査との比較）】

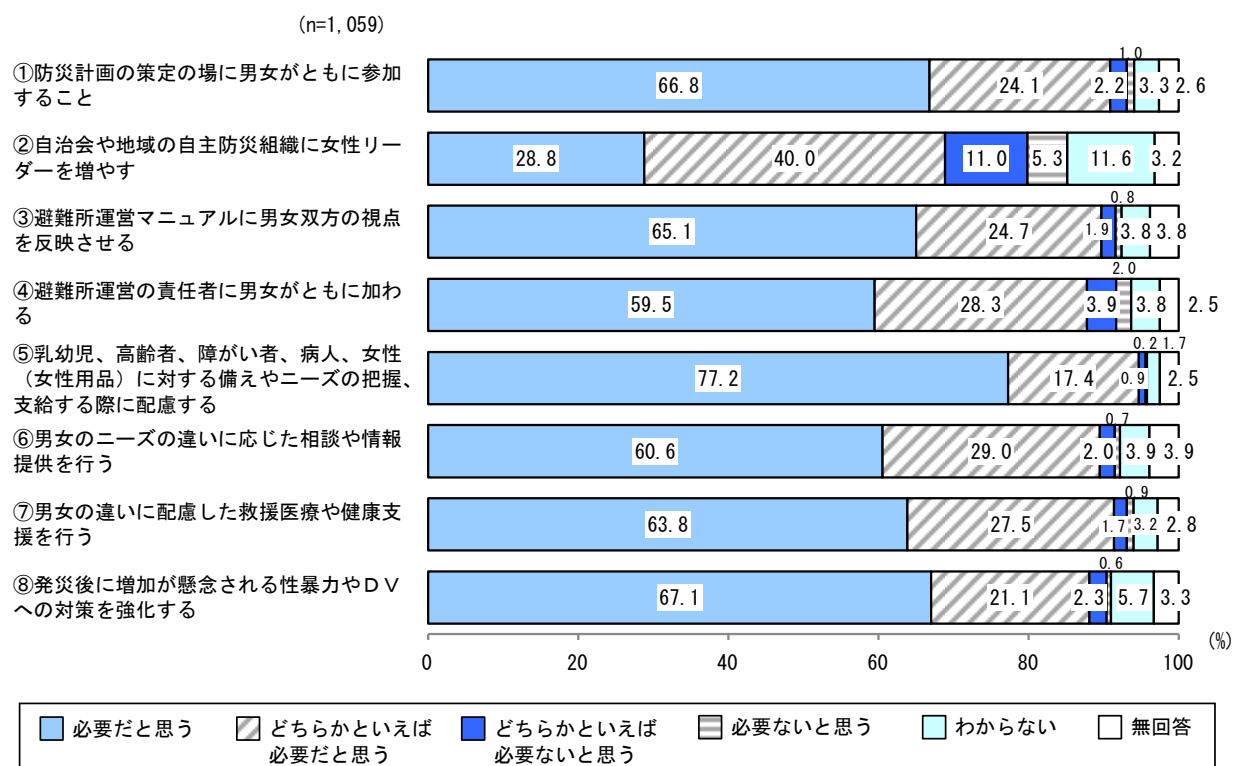


(3) 大規模災害に備えた「性別による違い」に配慮した取り組みの必要性

問17 今後の大規模災害に備え、「性別による違い」に配慮した取り組みはどの程度必要だと思いますか。

大規模災害に備えた「性別による違い」に配慮した取り組みの必要性については、“②自治会や地域の自主防災組織に女性リーダーを増やす”は「どちらかといえば必要だと思う」が40.0%で最も多いが、それ以外の項目ではいずれも「必要だと思う」が最も多く、「どちらかといえば必要だと思う」をあわせた『必要』はすべての項目で過半数を占めており、なかでも“⑤乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際に配慮する”が94.6%で最も高くなっている。

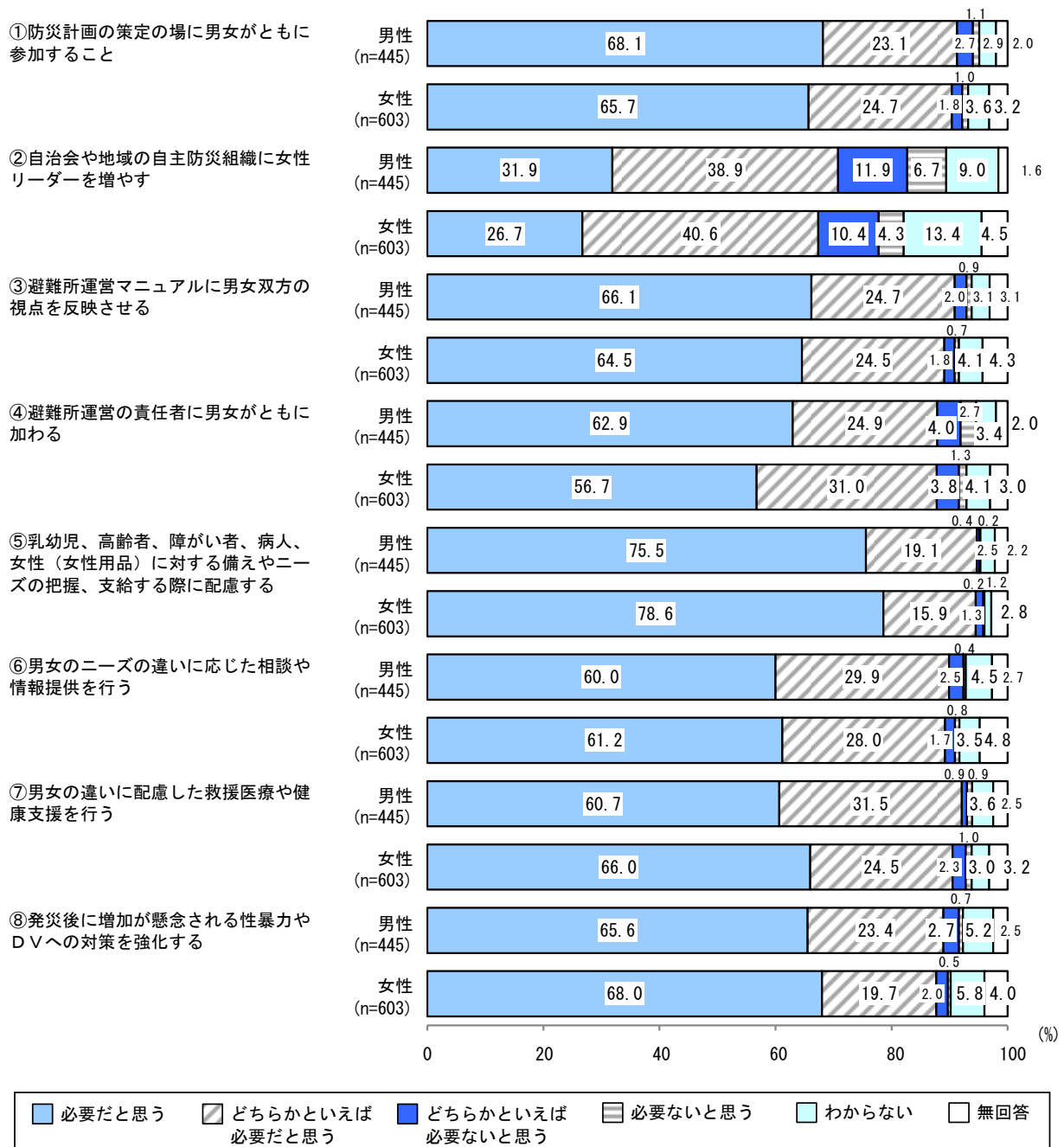
【図 大規模災害に備えた「性別による違い」に配慮した取り組みの必要性】



【性別】

性別にみると、『必要』は男女とも“②自治会や地域の自主防災組織に女性リーダーを増やす”を除いたすべての項目で9割前後を占めて高く、すべての項目で女性より男性のほうが高い割合となっている。

【図 性別 大規模災害に備えた「性別による違い」に配慮した取り組みの必要性】



【性年齢別】

<①防災計画の策定の場に男女がともに参加すること>

性年齢別にみると、男女とも『必要』はすべての年代で9割前後を占めており、男性では30歳代が95.6%で最も高く、女性では10・20歳代が93.5%で最も高くなっている。

<②自治会や地域の自主防災組織に女性リーダーを増やす>

性年齢別にみると、男性では、『必要』は60歳代が83.3%で最も高く、50歳代以上の年代で7割を超えている。女性では、『必要』は10・20歳代が76.1%で最も高く、次いで60歳代が70.7%となっている。

<③避難所運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる>

性年齢別にみると、男性では、『必要』はすべての年代で9割前後を占めており、60歳代が95.4%で最も高くなっている。女性でも、『必要』はすべての年代で9割前後を占めており、40歳代と60歳代がともに93.6%で最も高くなっている。

<④避難所運営の責任者に男女がともに加わる>

性年齢別にみると、男性では、『必要』は60歳代が92.4%で最も高いが、40歳代が79.7%で最も低くなっている。女性では、『必要』は10・20歳代が95.7%で最も高くなっている。

<⑤乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際に配慮する>

性年齢別にみると、男性では、『必要』はすべての年代で9割以上を占めており、50歳代が98.7%で最も高くなっている。女性でも、『必要』はすべての年代で9割以上を占めているが、70歳以上が90.8%で最も低くなっている。

<⑥男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う>

性年齢別にみると、男性では、『必要』はすべての年代で9割前後を占めており、40歳代が93.7%で最も高くなっている。女性では、『必要』は70歳以上では79.4%となっているが、60歳までの年代では9割以上を占めている。

<⑦男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う>

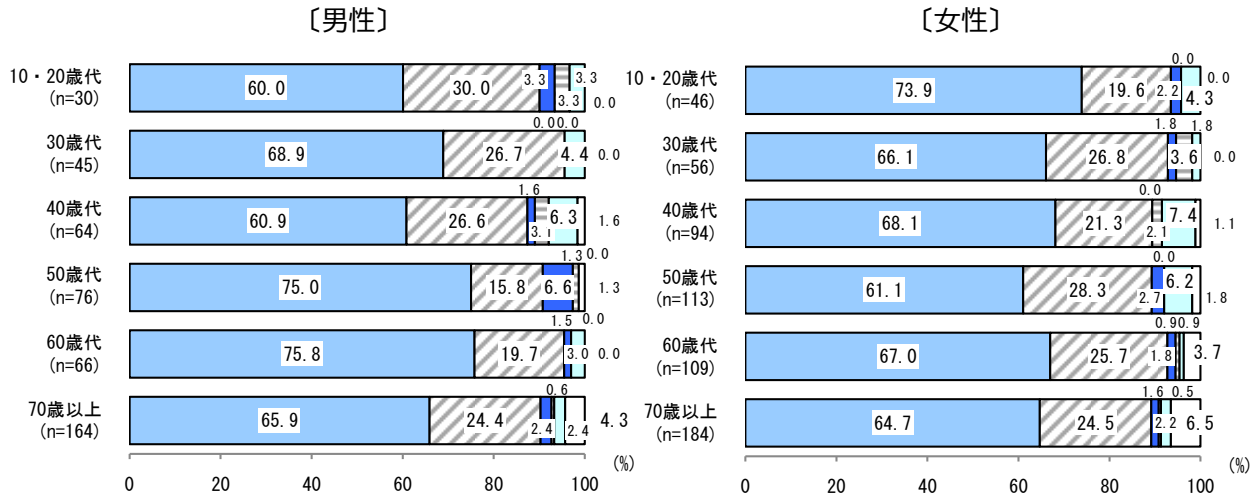
性年齢別にみると、男性では、『必要』はすべての年代で9割前後を占めており、50歳代が96.0%で最も高くなっている。女性では、『必要』もすべての年代で9割前後を占めており、10・20歳代が95.6%で最も高くなっている。

<⑧発災後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する>

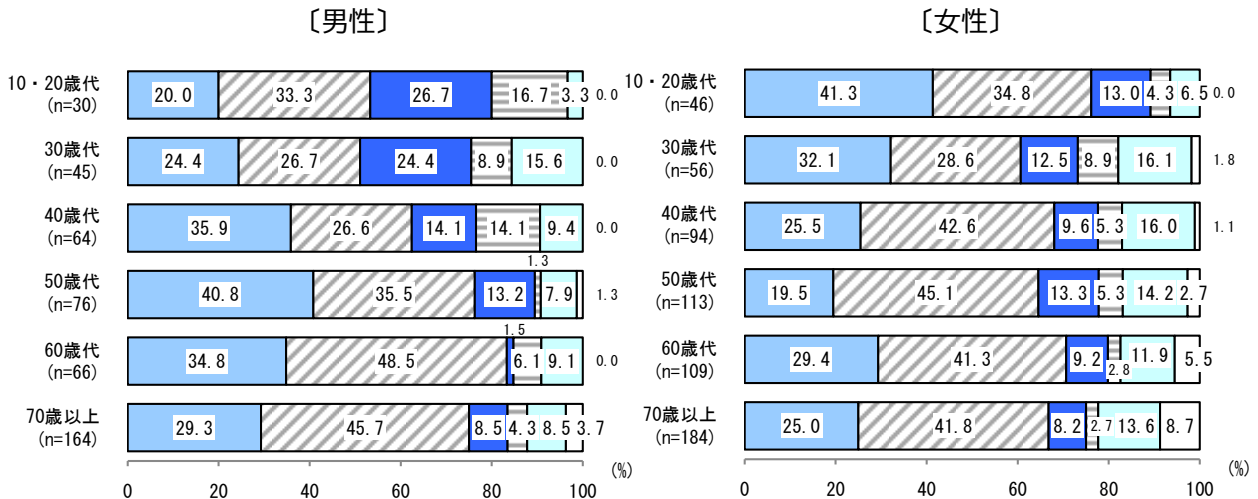
性年齢別にみると、男性では、『必要』は30歳代が95.6%で最も高く、70歳以上が83.5%で最も低くなっている。女性でも、『必要』は30歳代が96.5%で最も高く、70歳以上が78.3%で最も低くなっている。

【図 性年齢別 大規模災害に備えた「性別による違い」に配慮した取り組みの必要性】

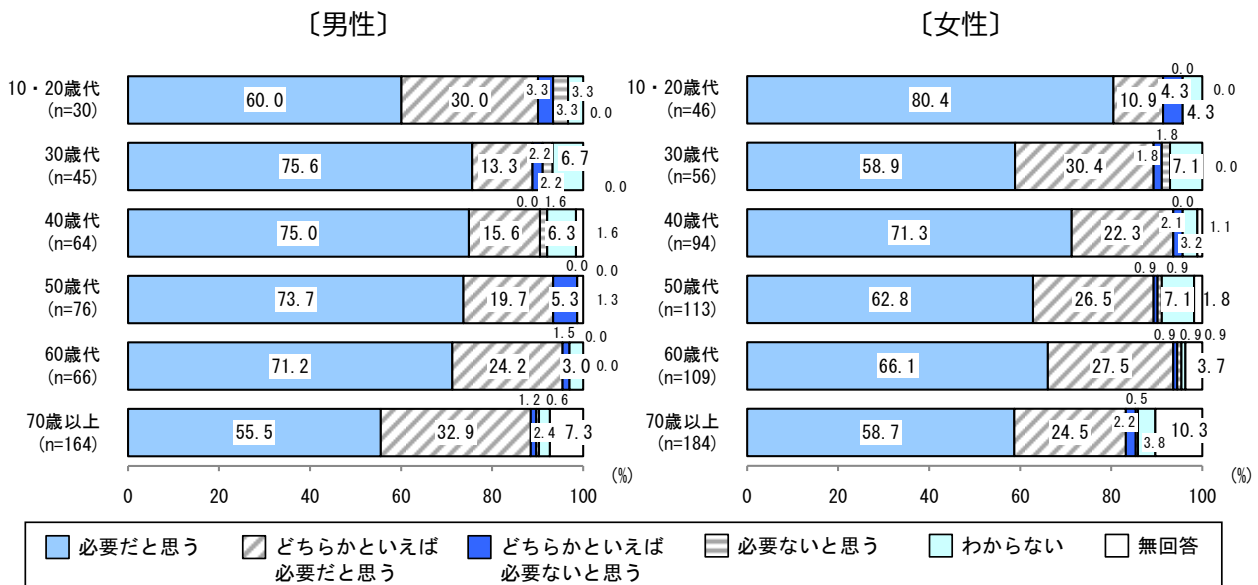
①防災計画の策定の際に男女がともに参加すること



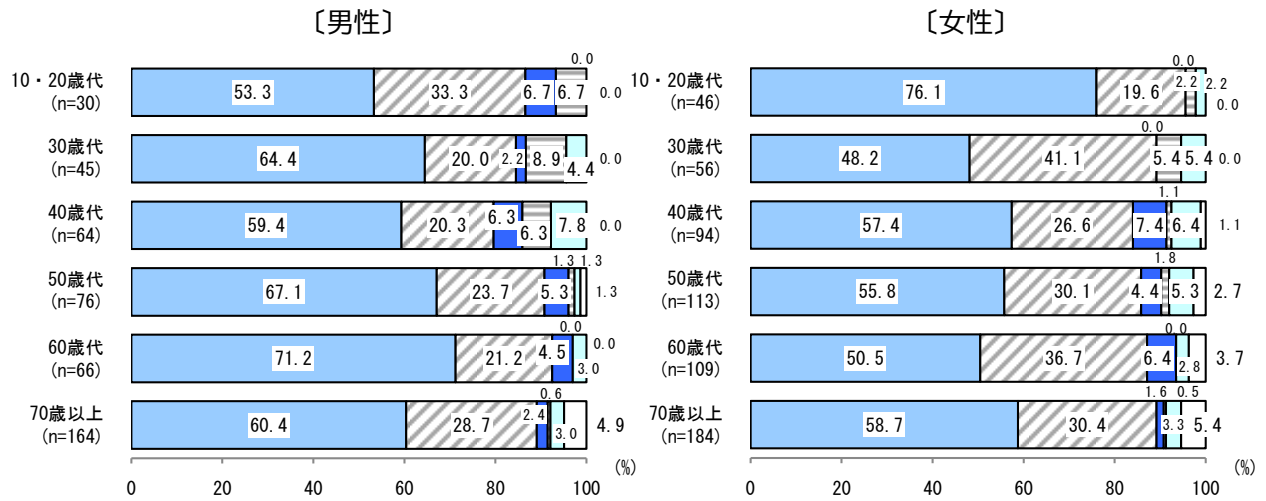
②自治会や地域の自主防災組織に女性リーダーを増やす



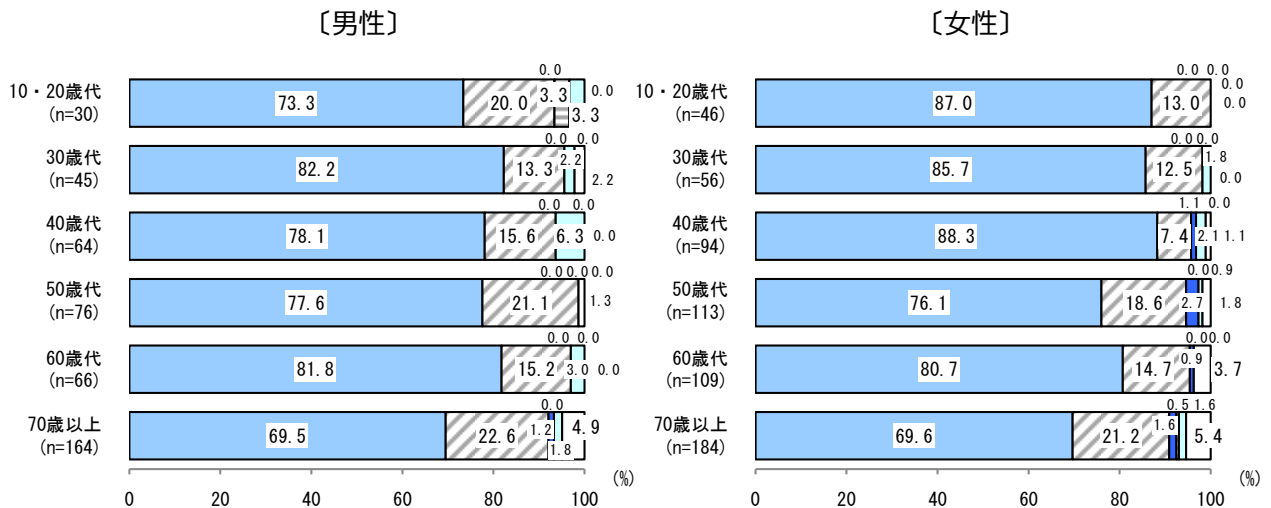
③避難所運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる



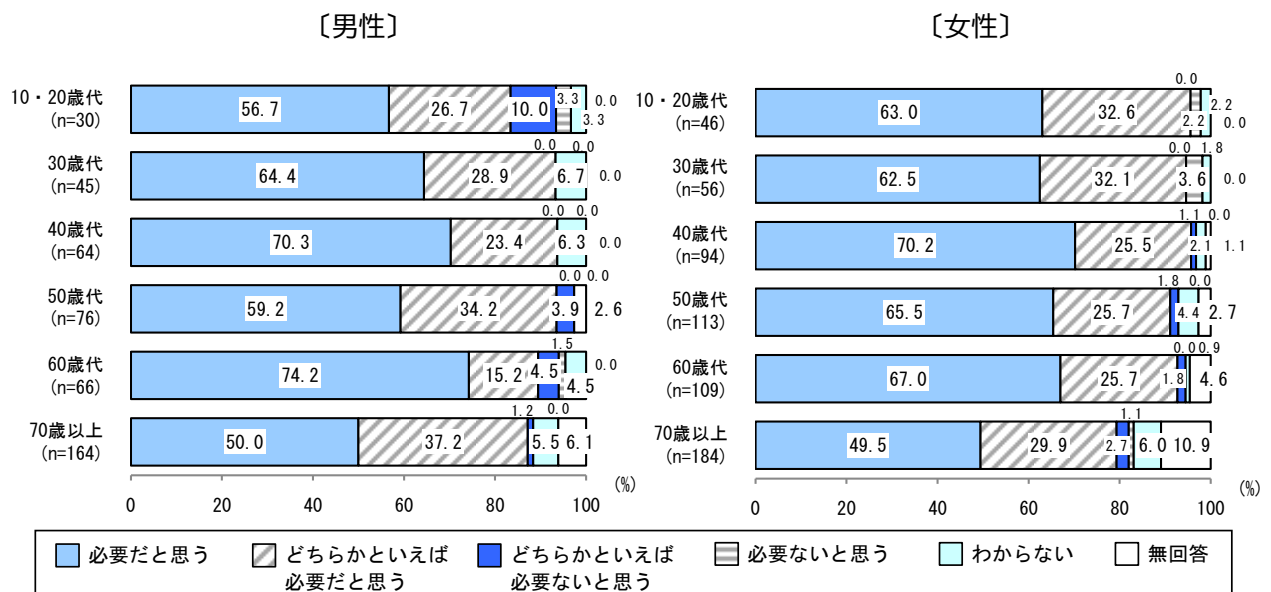
④避難所運営の責任者に男女がともに加わる



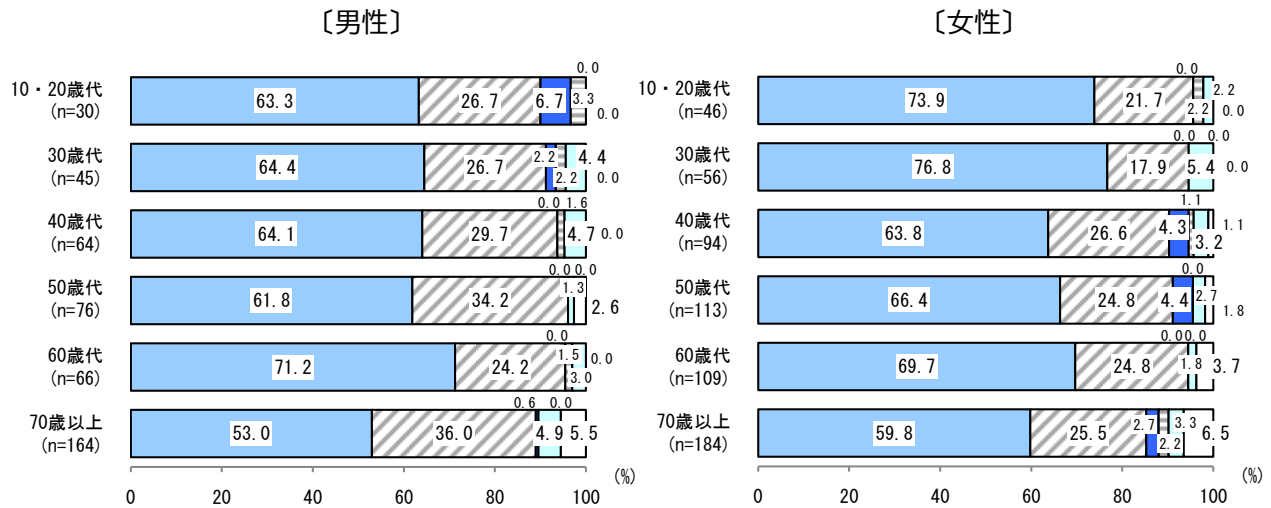
⑤乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際に配慮する



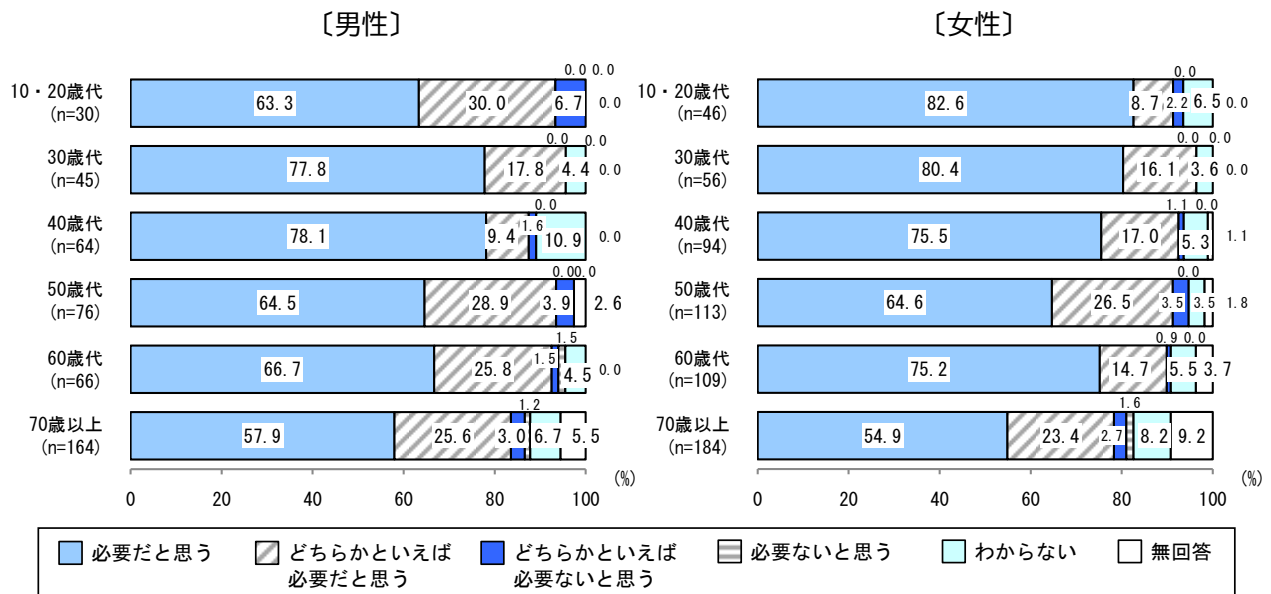
⑥男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う



⑦男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う



⑧発災後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する



(4) 避難所運営等への関わり

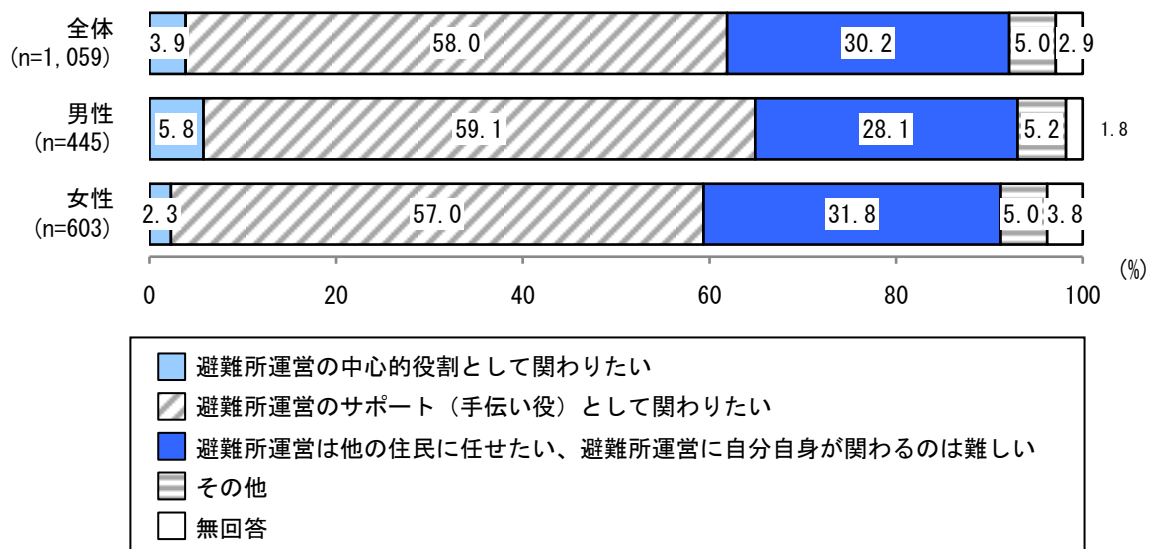
問18 大規模災害が発生した場合、避難所生活を強いられる可能性があります。仮に避難所生活になった場合、あなたは避難所の運営等に何らかの形で関わりたいと思いますか。
(○は1つ)

避難所生活になった場合の避難所運営等への関わりについては、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が58.0%で最も多く、次いで「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身に関わるのは難しい」が30.2%、「避難所運営の中心的役割として関わりたい」が3.9%となっている。

性別にみると、男性は、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が59.1%で最も多く、次いで「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身に関わるのは難しい」が28.1%となっている。

女性は、「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が57.0%で最も多く、次いで「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身に関わるのは難しい」が31.8%となっている。

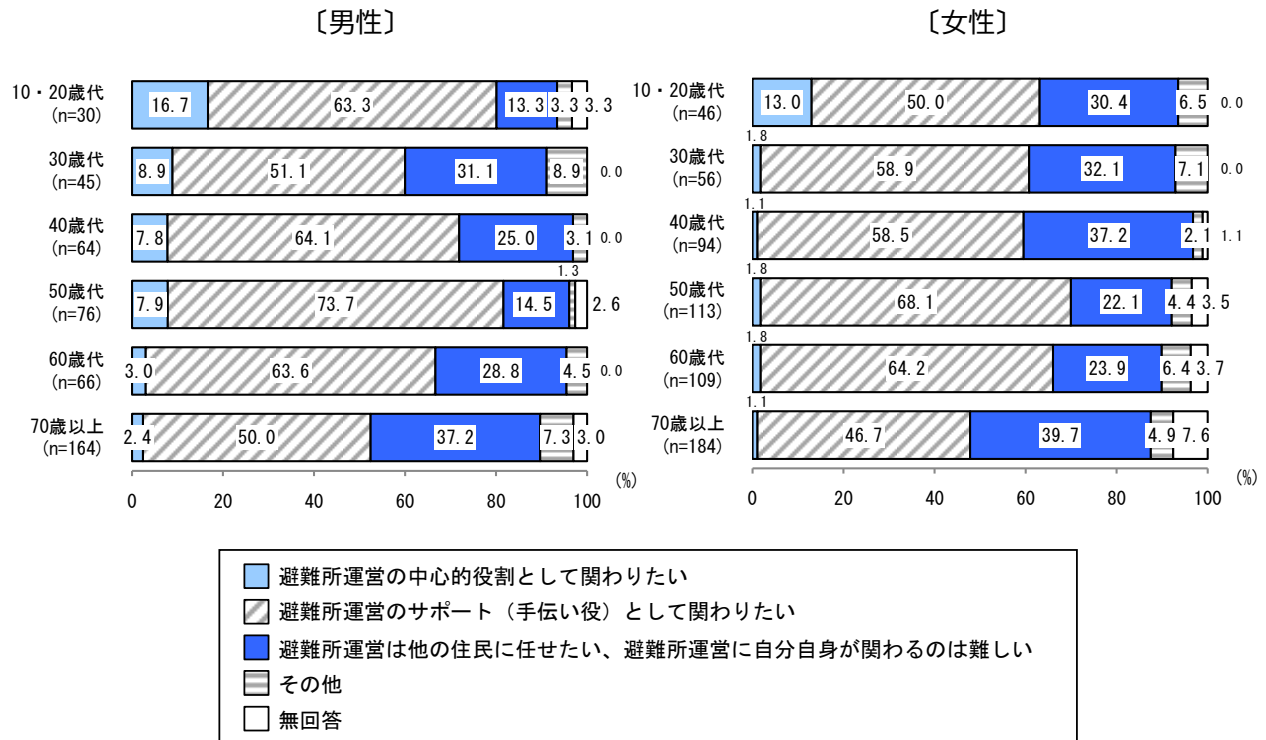
【図 性別 避難所運営等への関わり】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「避難所運営のサポート（手伝い役）として関わりたい」が最も多く、「避難所運営の中心的役割として関わりたい」は男女とも10・20歳代が最も高くなっている。

【図 性年齢別 避難所運営等への関わり】



5. 仕事について

(1) 女性の就労についての考え方

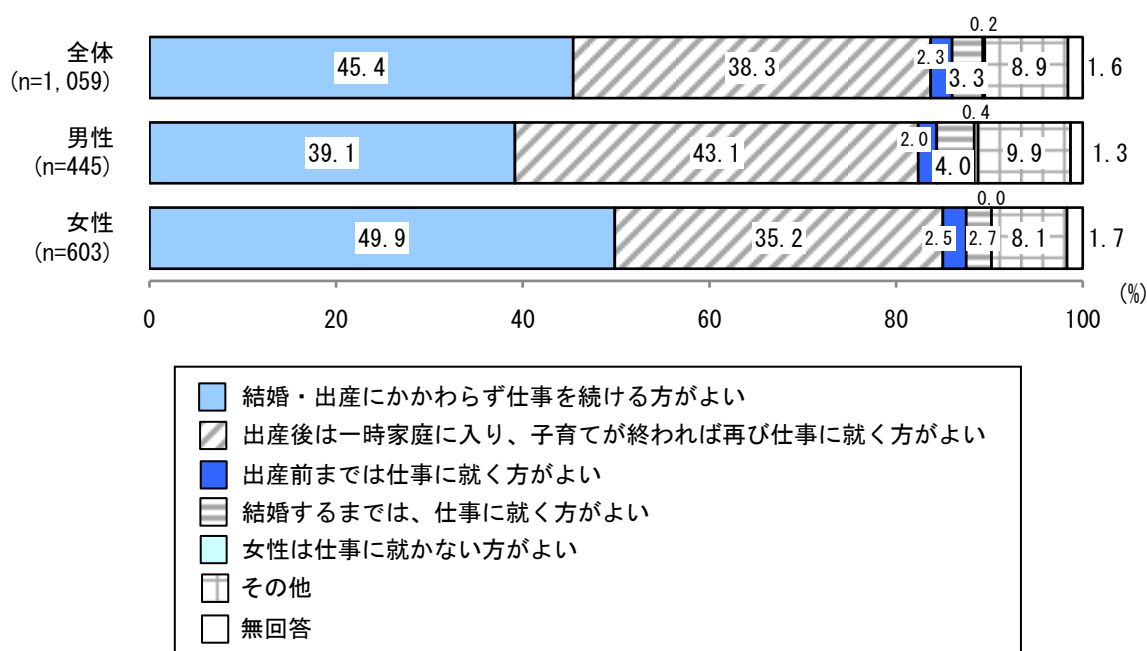
問19 女性が仕事をするということについてあなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

女性の就労についての考え方については、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が45.4%で最も多く、次いで「出産後は一時家庭に入り、子育てが終われば再び仕事に就く方がよい」が38.3%、「結婚するまでは、仕事に就く方がよい」が3.3%となっている。

性別にみると、男性は、「出産後は一時家庭に入り、子育てが終われば再び仕事に就く方がよい」が43.1%で最も多く、次いで「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が39.1%となっている。

女性は、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が49.9%で最も多く、次いで「出産後は一時家庭に入り、子育てが終われば再び仕事に就く方がよい」が35.2%となっている。

【図 性別 女性の就労についての考え方】

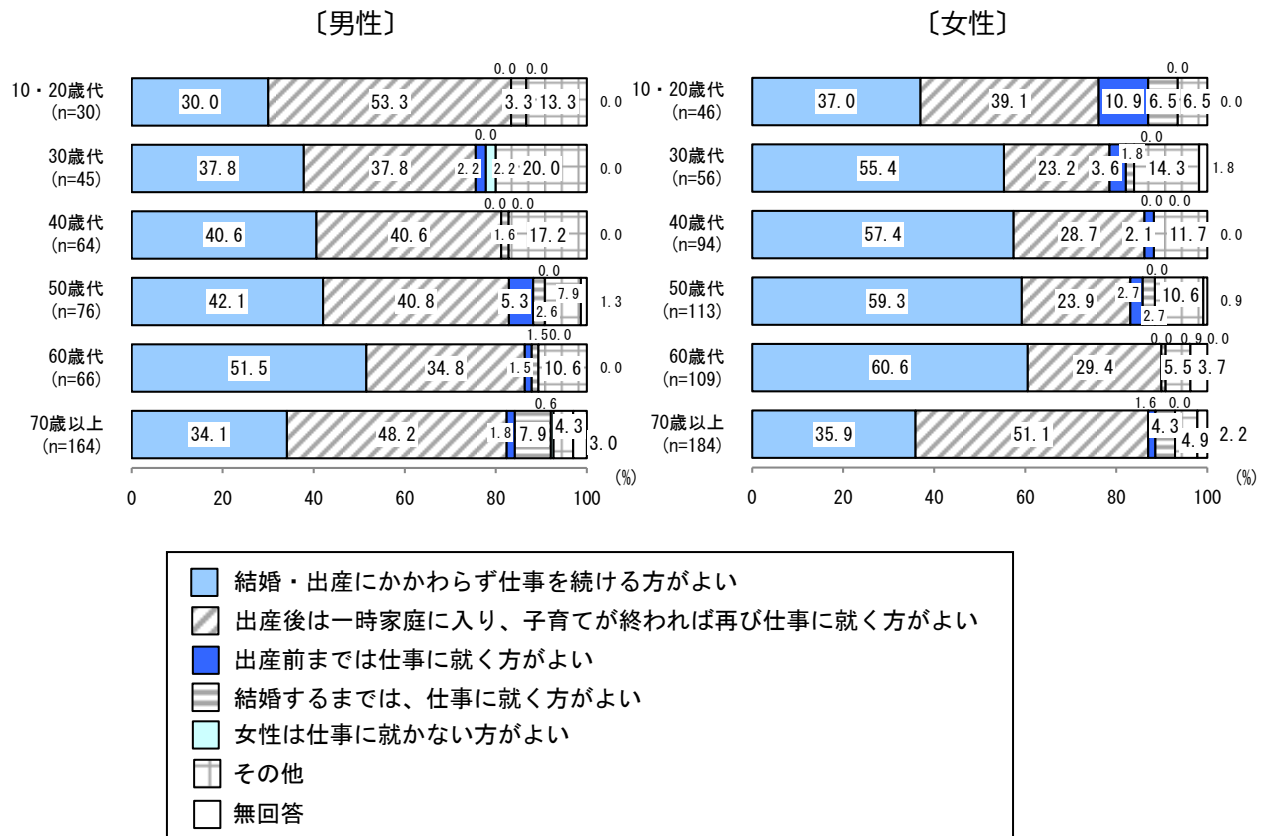


【性年齢別】

性年齢別にみると、男性では、30歳代と40歳代では「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」と「出産後は一時家庭に入り、子育てが終われば再び仕事に就く方がよい」が同率で最も多くなっている。

女性では、10・20歳代と70歳以上は「出産後は一時家庭に入り、子育てが終われば再び仕事に就く方がよい」が最も多いが、それ以外の年代では「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が最も多くなっている。

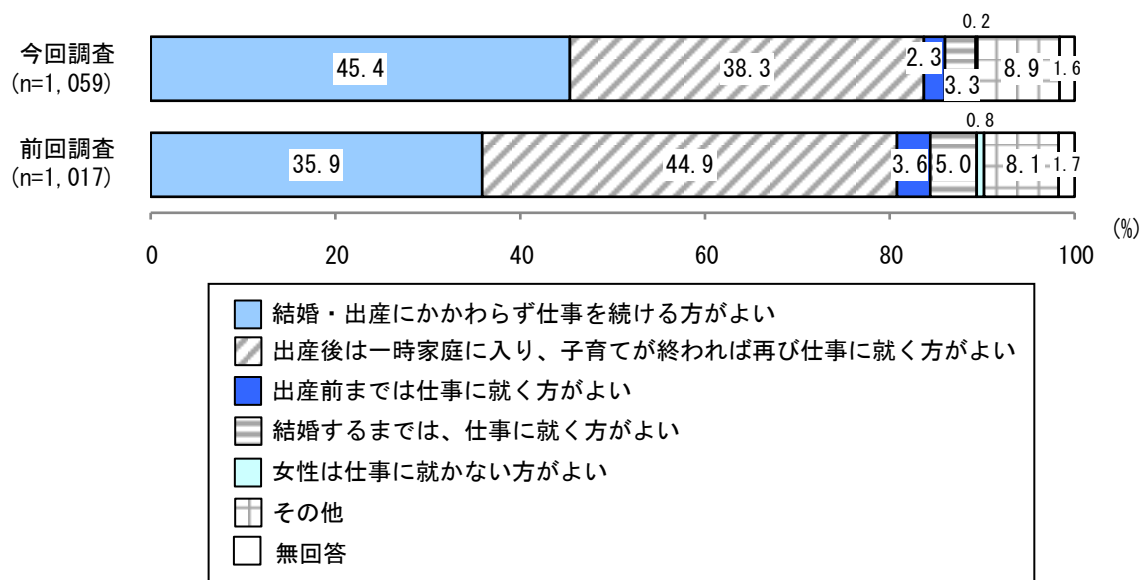
【図 性年齢別 女性の就労についての考え方】



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」の割合が前回より9.5ポイント高くなっている。

【図 女性の就労についての考え方（前回調査との比較）】



(2) 今の職場・仕事に対する不満や悩み

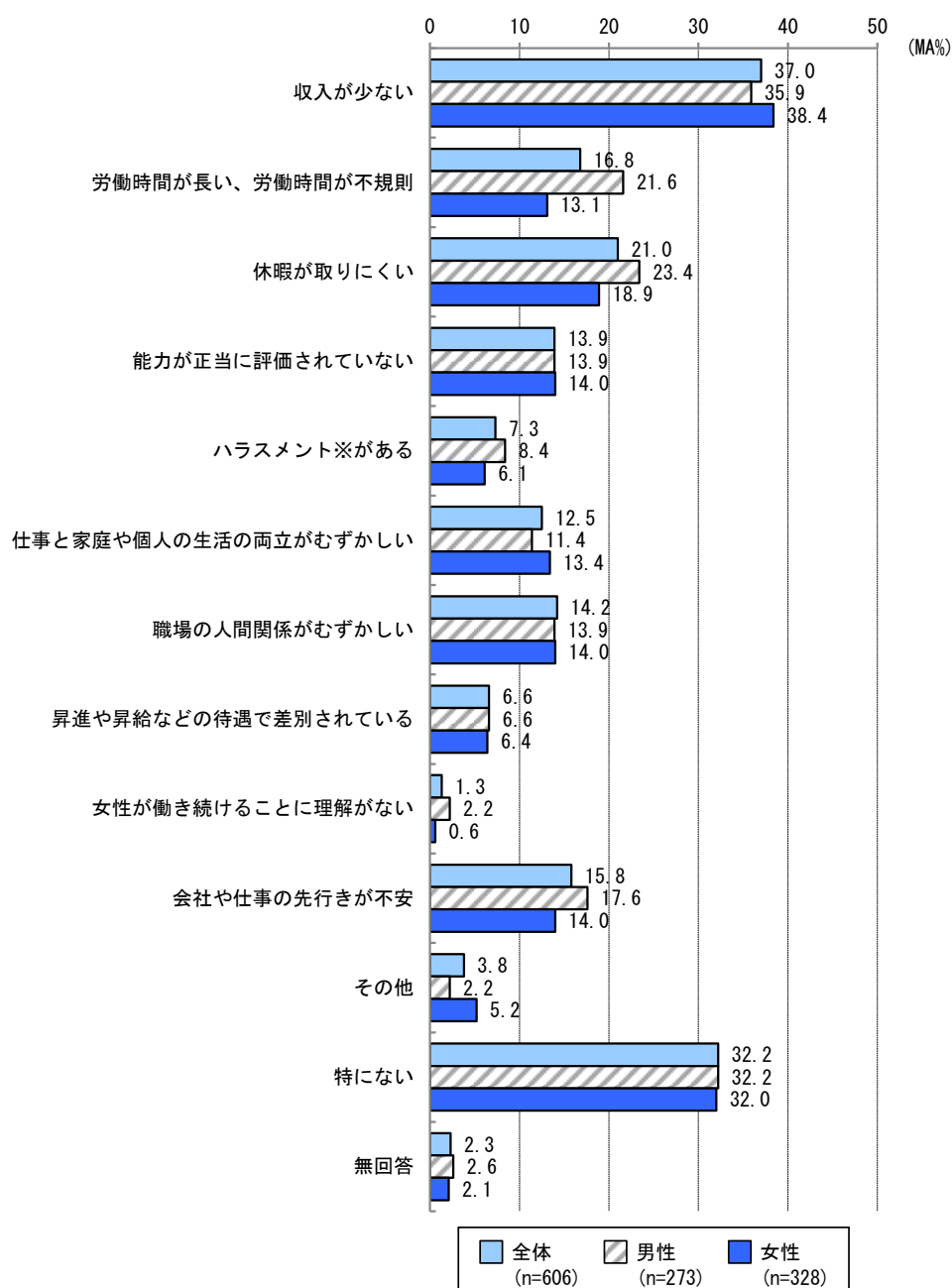
現在就労している方（問3（1）で「1」～「4」と回答した方）にお聞きます
問20 あなたは、今の職場・仕事に不満や悩みがありますか。（〇はいくつでも）

現在就労していると回答した人に、今の職場・仕事に対する不満や悩みについてたずねると、「収入が少ない」が37.0%で最も多く、次いで「休暇が取りにくい」が21.0%、「労働時間が長い、労働時間が不規則」が16.8%となっている。一方で、「特にない」は32.2%となっている。

性別にみると、男性は、「収入が少ない」が35.9%で最も多く、次いで「休暇が取りにくい」が23.4%となっている。

女性は、「収入が少ない」が38.4%で最も多く、次いで「休暇が取りにくい」が18.9%となっている。

【図 性別 今の職場・仕事に対する不満や悩み】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「収入が少ない」が最も多くなっている。男性では、「労働時間が長い、労働時間が不規則」は30歳代が32.5%で最も高く、次いで40歳代が26.6%となっている。女性では、「仕事と家庭や個人の生活の両立がむずかしい」は30歳代が23.4%で最も高くなっている。

【表 性年齢別 今の職場・仕事に対する不満や悩み】

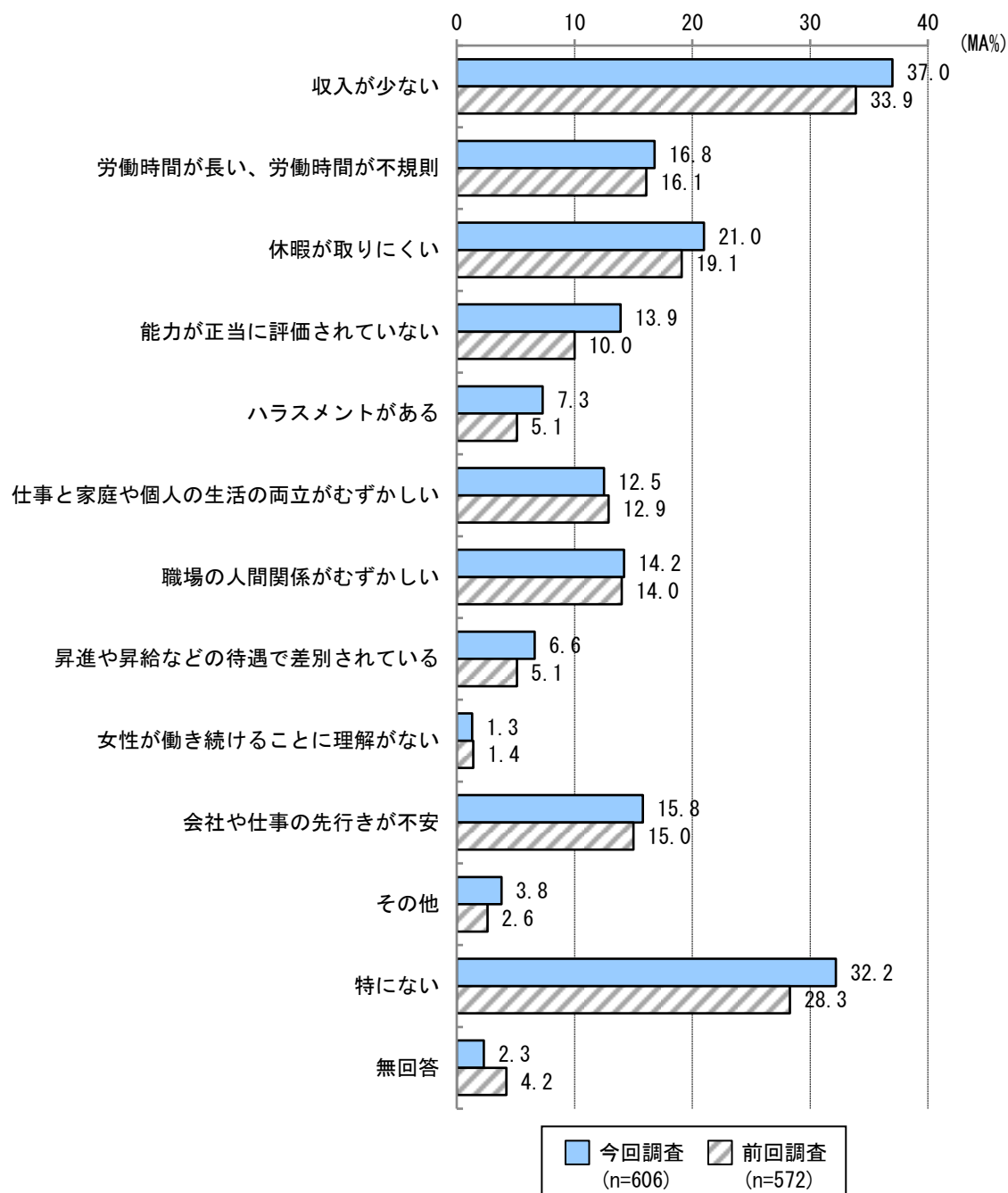
(MA%)																
		回答者数 (n)	収入が少ない	労働時間が長い、労働時間が不規則	休暇が取りにくい	能力が正當に評価されていない	ハラスメントがある	仕事と家庭や個人の生活の両立がむずかしい	職場の人間関係がむずかしい	昇進や昇給などの待遇で差別されている	女性が働き続けることに理解がない	会社や仕事の先行きが不安	その他	特にない	無回答	
全 体		606	37.0	16.8	21.0	13.9	7.3	12.5	14.2	6.6	1.3	15.8	3.8	32.2	2.3	
年 齢 別	男 性	10・20歳代	17	52.9	5.9	29.4	11.8	5.9	11.8	23.5	5.9	—	11.8	—	35.3	—
		30歳代	40	45.0	32.5	25.0	17.5	12.5	17.5	20.0	10.0	—	22.5	5.0	17.5	—
		40歳代	64	34.4	26.6	31.3	17.2	10.9	15.6	18.8	4.7	6.3	21.9	1.6	28.1	1.6
		50歳代	70	32.9	22.9	25.7	14.3	10.0	14.3	11.4	12.9	—	21.4	4.3	27.1	2.9
		60歳代	48	35.4	16.7	20.8	14.6	6.3	4.2	10.4	2.1	2.1	12.5	—	41.7	—
		70歳以上	34	26.5	11.8	2.9	2.9	—	—	2.9	—	2.9	5.9	—	52.9	11.8
	女 性	10・20歳代	23	43.5	21.7	13.0	4.3	4.3	13.0	13.0	—	—	13.0	4.3	34.8	—
		30歳代	47	44.7	19.1	21.3	14.9	4.3	23.4	12.8	4.3	2.1	14.9	8.5	27.7	—
		40歳代	84	47.6	13.1	22.6	16.7	9.5	19.0	17.9	9.5	—	14.3	6.0	20.2	2.4
		50歳代	95	35.8	13.7	18.9	20.0	7.4	8.4	10.5	9.5	—	16.8	4.2	33.7	—
60歳代		56	25.0	7.1	10.7	8.9	3.6	8.9	17.9	1.8	1.8	12.5	3.6	44.6	1.8	
	70歳以上	22	27.3	4.5	27.3	—	—	4.5	9.1	4.5	—	4.5	—	45.5	18.2	

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「能力が正当に評価されていない」の割合が前回より3.9ポイント高くなっている。

【図 今の職場・仕事に対する不満や悩み（前回調査との比較）】



※ 前回調査の「身体的負担が大きい」は今回調査では削除

(3) 今後の就労意向

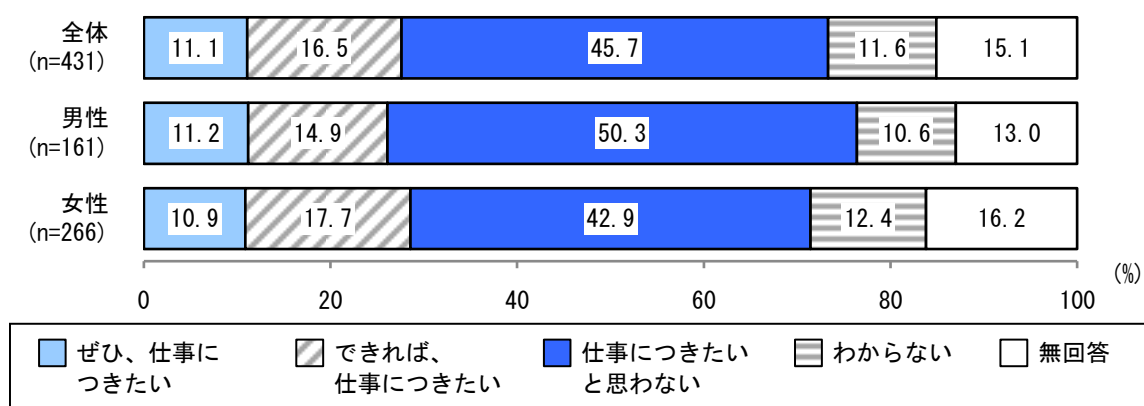
現在就労していない方（問3（1）で「5」～「7」と回答した方）にお聞きます
問21 あなたは今後、仕事につきたいと思いますか。（○は1つ）

現在就労していないと回答した人に、今後の就労意向をたずねると、「仕事につきたいと思わない」が45.7%で最も多く、次いで「できれば、仕事につきたい」が16.5%、「ぜひ、仕事につきたい」が11.1%となっている。

性別にみると、男性は、「仕事につきたいと思わない」が50.3%で最も多く、次いで「できれば、仕事につきたい」が14.9%となっている。

女性は、「仕事につきたいと思わない」が42.9%で最も多く、次いで「できれば、仕事につきたい」が17.7%となっている。

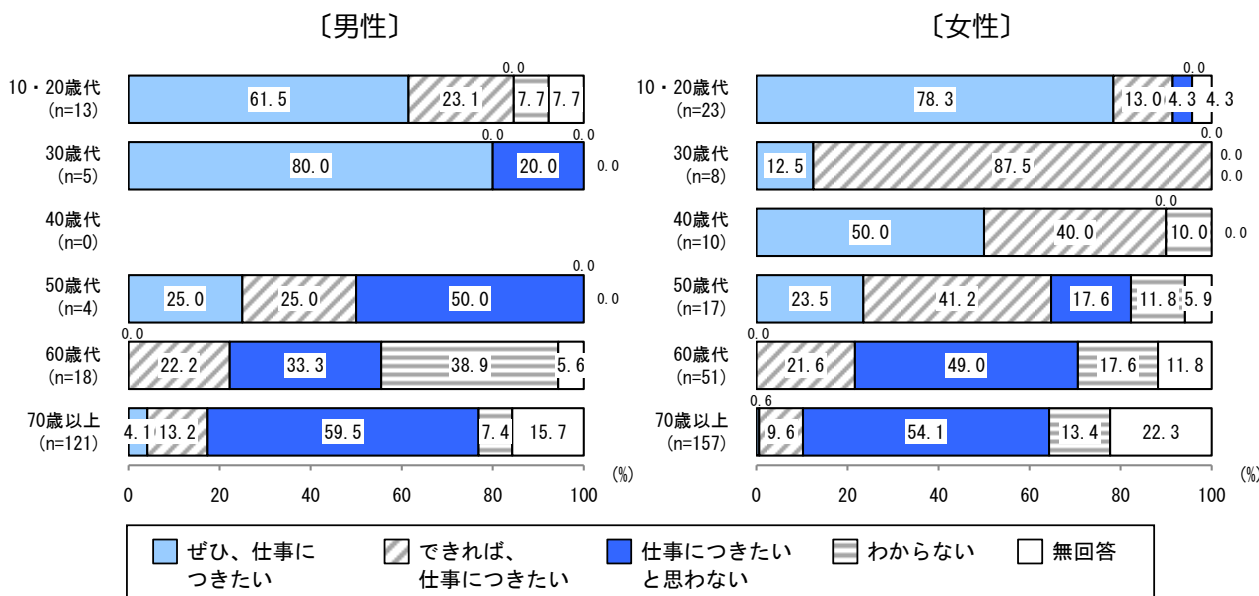
【図 性別 今後の就労意向】



【性年齢別】

性年齢別にみると、母数が少ないため一概にはいえないが、男女とも10・20歳代は「ぜひ、仕事につきたい」が過半数を占めている。

【図 性年齢別 今後の就労意向】



(4) 就労する上での不安

問21で「1」または「2」と回答した方にお聞きします

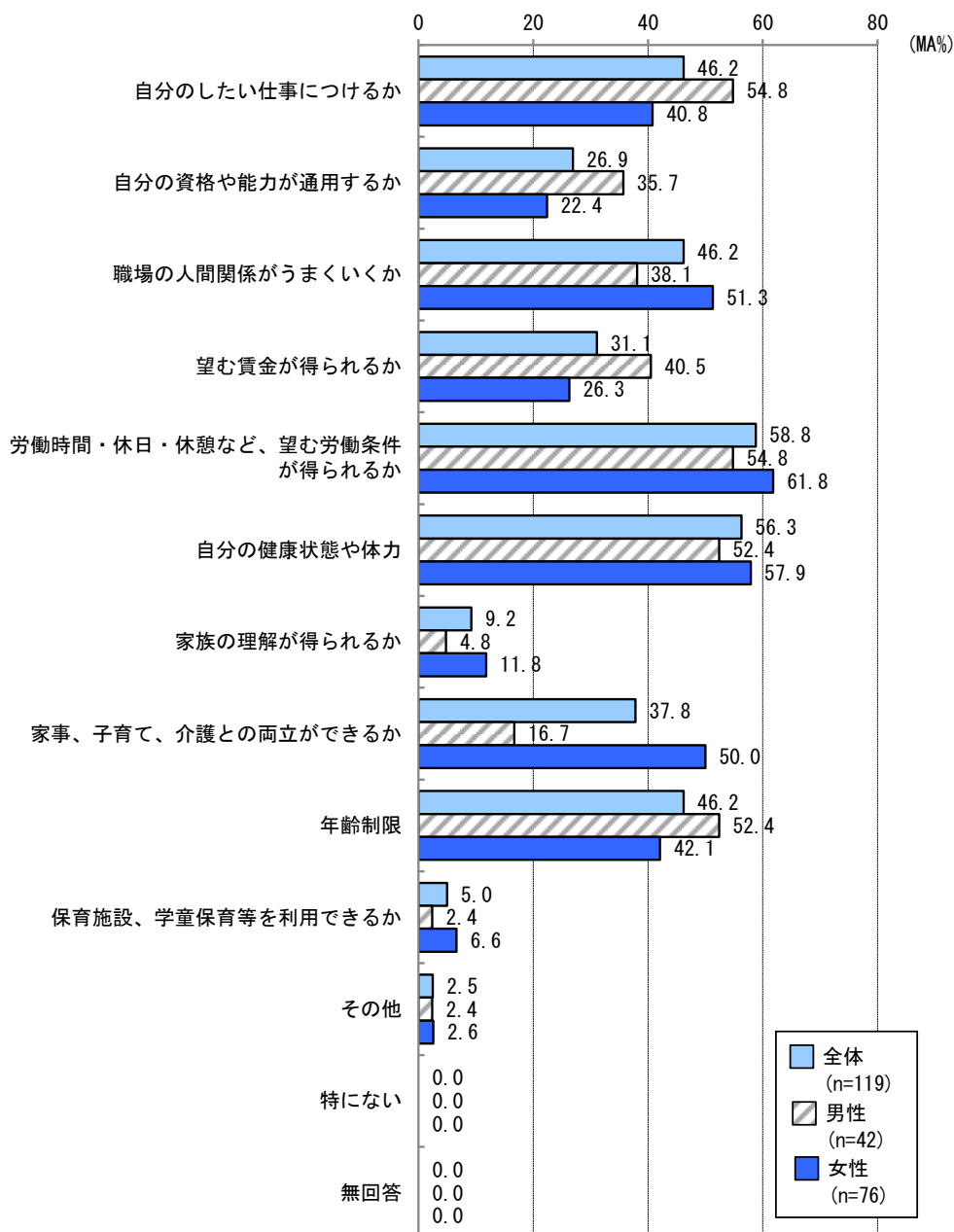
問21-1 あなたは、今後、仕事につく上で何か不安はありますか。(〇はいくつでも)

仕事につきたいと回答した人に、就労する上での不安についてたずねると、「労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか」が58.8%で最も多く、次いで「自分の健康状態や体力」が56.3%、「自分のしたい仕事につけるか」と「職場の人間関係がうまくいくか」、「年齢制限」がそれぞれ46.2%となっている。

性別にみると、男性は、「自分のしたい仕事につけるか」と「労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか」がそれぞれ54.8%で最も多くなっている。

女性は、「労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか」が61.8%で最も多く、次いで「自分の健康状態や体力」が57.9%となっている。

【図 性別 就労する上での不安】



【性年齢別】

性年齢別にみると、母数が少ないため一概にはいえないが、女性では、「家事、子育て、介護との両立ができるか」が50歳代までの年代で過半数を占めている。

【表 性年齢別 就労する上での不安】

		回答者数 (n)	自分のしたい仕事につけるか	自分の資格や能力が通用するか	職場の人間関係がうまくいえるか	望む賃金が得られるか	労働時間・休日・休憩など、望む労働条件が得られるか	自分の健康状態や体力	家族の理解が得られるか	家事、子育て、介護との両立ができるか	年齢制限	保育施設、学童保育等を利用できるか	その他	特になし	無回答
全 体		119	46.2	26.9	46.2	31.1	58.8	56.3	9.2	37.8	46.2	5.0	2.5	-	-
年 齢 別	男 性	10・20歳代	11	54.5	45.5	72.7	72.7	18.2	9.1	27.3	9.1	9.1	-	-	-
		30歳代	4	75.0	100.0	75.0	75.0	75.0	25.0	25.0	50.0	-	25.0	-	-
		40歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		50歳代	2	50.0	100.0	50.0	100.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-	-
		60歳代	4	-	25.0	-	25.0	75.0	100.0	-	25.0	50.0	-	-	-
		70歳以上	21	61.9	14.3	19.0	19.0	33.3	57.1	-	9.5	71.4	-	-	-
	女 性	10・20歳代	21	61.9	33.3	66.7	61.9	76.2	38.1	4.8	52.4	4.8	9.5	4.8	-
		30歳代	8	50.0	12.5	75.0	25.0	87.5	37.5	12.5	100.0	-	12.5	-	-
		40歳代	9	11.1	33.3	66.7	-	66.7	55.6	-	66.7	11.1	22.2	-	-
		50歳代	11	63.6	27.3	63.6	27.3	90.9	90.9	36.4	81.8	72.7	-	9.1	-
		60歳代	11	45.5	27.3	27.3	18.2	54.5	54.5	18.2	36.4	72.7	-	-	-
		70歳以上	16	6.3	-	18.8	-	12.5	75.0	6.3	-	87.5	-	-	-

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

6. ドメスティック・バイオレンス、ハラスメントなどについて

(1) DVにあたる行為を受けた経験

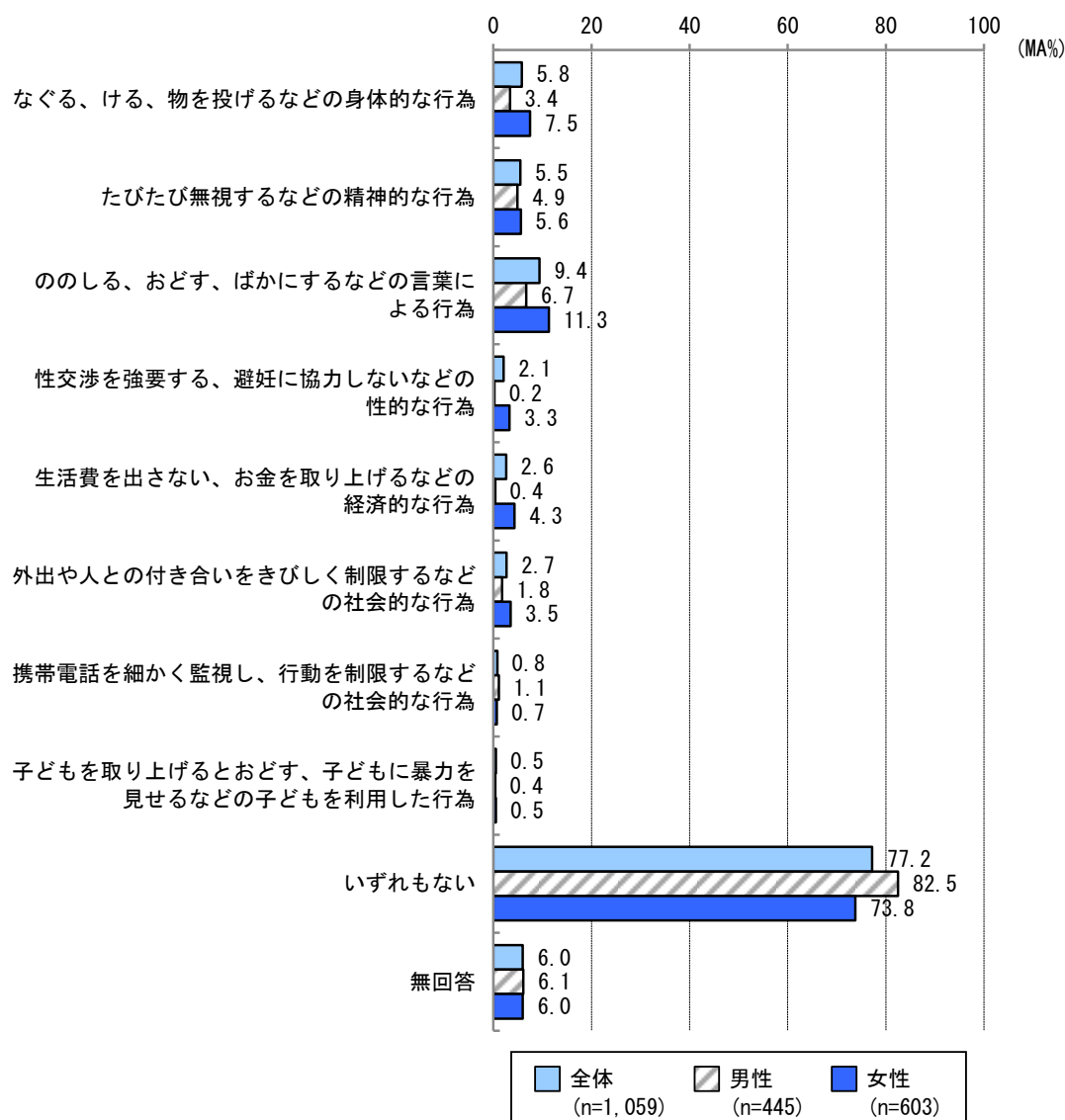
問22 あなたは、配偶者・パートナーや恋人から一度でも次のような行為を受けた経験がありますか。(○はいくつでも)

DVにあたる行為を受けた経験については、「いずれもない」が77.2%で最も多く、次いで「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉による行為」が9.4%、「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的な行為」が5.8%、「たびたび無視するなどの精神的な行為」が5.5%となっている。

性別にみると、男性は、「いずれもない」が82.5%で最も多く、次いで「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉による行為」が6.7%、「たびたび無視するなどの精神的な行為」が4.9%となっている。

女性は、「いずれもない」が73.8%で最も多く、次いで「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉による行為」が11.3%、「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的な行為」が7.5%となっている。

【図 性別 DVにあたる行為を受けた経験】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「いずれもない」が最も多い。受けた経験がある人では、男性は60歳代以外の年代では「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉による行為」が最も多く、女性では、10・20歳代は「外出や人との付き合いをきびしく制限するなどの社会的な行為」が4.3%で最も多くなっている。

【表 性年齢別 DVにあたる行為を受けた経験】

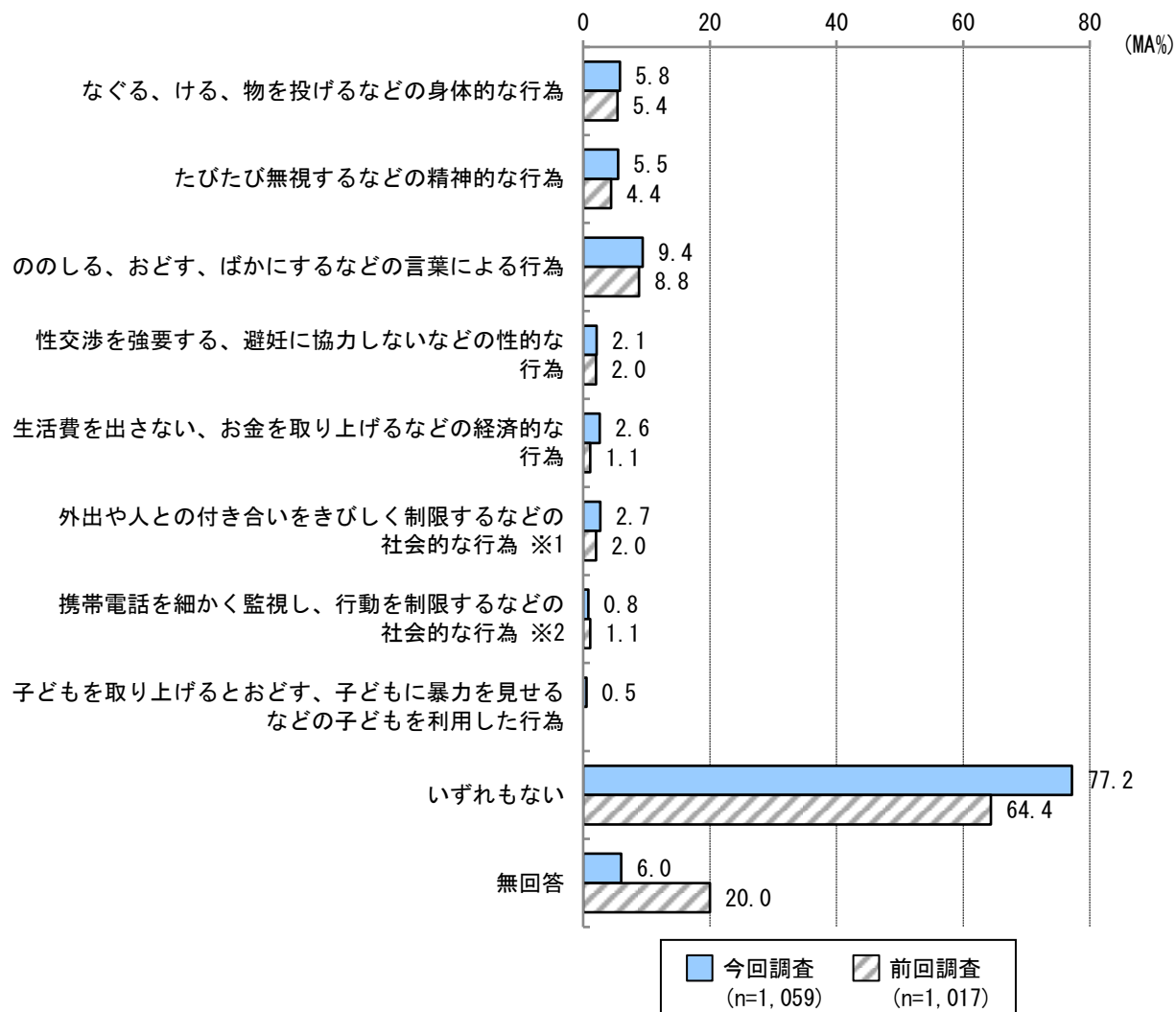
(MA%)													
		回答者数（n）	ど の 身 体 的 な 行 為	た び た び 無 視 す る な ど の 精 神 的 な 行 為	の の し る 、 お ど す 、 ば か に す る な ど の 言 葉 に よ る 行 為	性 交 渉 を 強 要 す る 、 避 妊 に 協 力 し な い な ど の 性 的 な 行 為	生 活 費 を 出 さ な い 、 お 金 を 取 り 上 げ る な ど の 経 済 的 な 行 為	行 う し く 制 限 す る な ど の 付 き 合 い を き び し く 制 限 す る な ど の 社 会 的 な 行 為	携 帯 電 話 を 細 か く 監 視 し 、 行 動 を 制 限 す る な ど の 社 会 的 な 行 為	す 、 子 ど も に 暴 力 を 見 せ る な ど の 子 ど も を 利 用 し た 行 為	い ず れ も な い	無 回 答	
全 体		1,059	5.8	5.5	9.4	2.1	2.6	2.7	0.8	0.5	77.2	6.0	
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	-	-	-	-	-	3.3	-	90.0	6.7	
		30歳代	45	2.2	2.2	8.9	-	-	2.2	-	2.2	88.9	-
		40歳代	64	12.5	12.5	14.1	-	-	6.3	3.1	1.6	79.7	-
		50歳代	76	3.9	3.9	9.2	1.3	1.3	1.3	-	-	81.6	5.3
		60歳代	66	3.0	9.1	4.5	-	-	1.5	1.5	-	84.8	3.0
		70歳以上	164	0.6	2.4	4.3	-	0.6	0.6	0.6	-	79.9	11.6
	女 性	10・20歳代	46	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	4.3	-	2.2	84.8	6.5
		30歳代	56	5.4	5.4	12.5	5.4	3.6	7.1	1.8	-	78.6	-
		40歳代	94	8.5	8.5	17.0	5.3	5.3	3.2	1.1	-	67.0	5.3
		50歳代	113	11.5	8.0	17.7	3.5	6.2	3.5	-	1.8	72.6	0.9
		60歳代	109	4.6	2.8	11.9	3.7	3.7	3.7	1.8	-	78.9	5.5
		70歳以上	184	8.2	5.4	6.0	1.6	3.8	2.2	-	-	70.7	11.4

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「いずれもない」の割合が前回より12.8ポイント高くなっている。

【図 DVにあたる行為を受けた経験（前回調査との比較）】



※1 前回調査では「外出や人との付き合いをきびしく制限するなどの精神的暴力」

※2 前回調査では「携帯電話を細かく監視し、行動を制限するなどの精神的暴力」

(2) DVの相談状況

問22で、「1」～「8」のいずれかの行為を受けた経験がある方にお聞きします

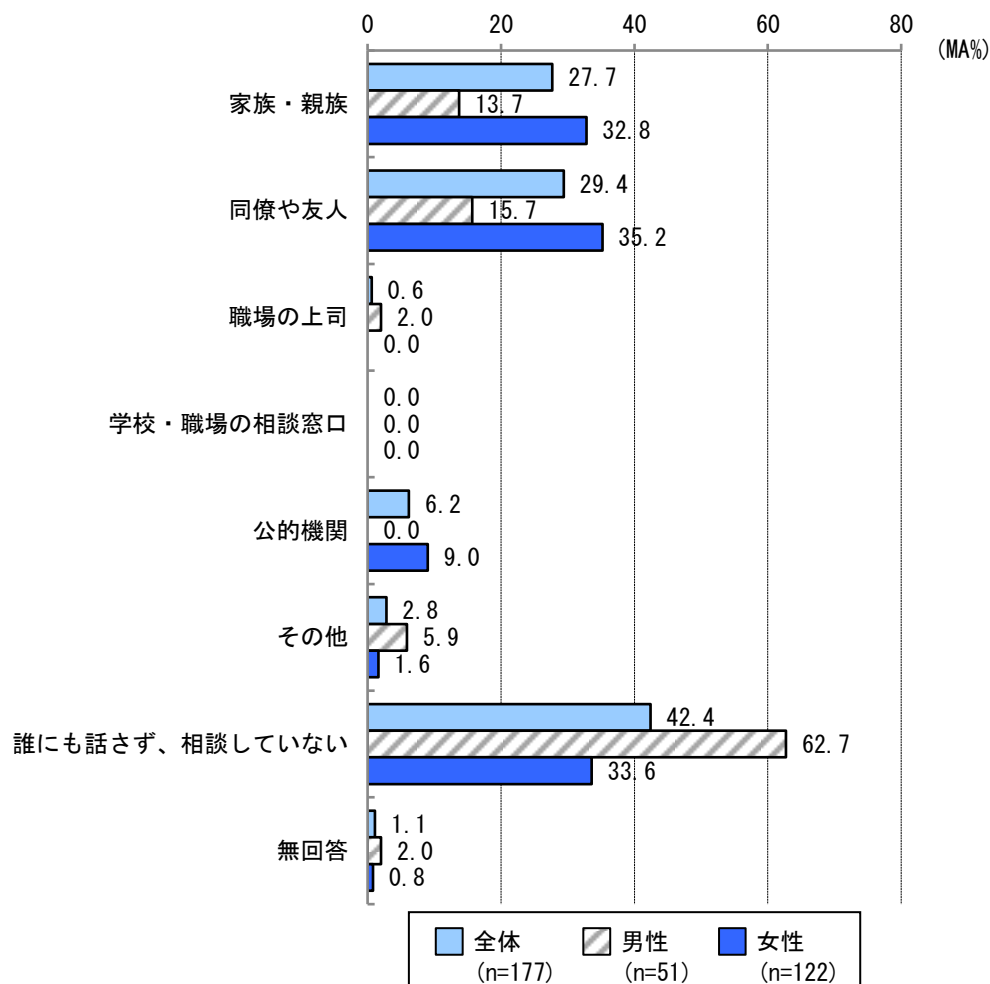
問22-1 あなたは、そのことを誰かに話したり、相談したことがありますか。(〇はいくつでも)

DVにあたる行為を受けた経験があると回答した人に、そのことを話したり相談した相手をたずねると、「誰にも話さず、相談していない」が42.4%で最も多いが、話したり相談したことがある人では「同僚や友人」が29.4%で最も多く、次いで「家族・親族」が27.7%、「公的機関」が6.2%となっている。

性別にみると、男性は、「誰にも話さず、相談していない」が62.7%で最も多く、次いで「同僚や友人」が15.7%、「家族・親族」が13.7%となっている。

女性は、「誰にも話さず、相談していない」が33.6%で最も多く、次いで「同僚や友人」が35.2%、次いで「家族・親族」が32.8%となっている。

【図 性別 DVの相談状況】



【性年齢別】

性年齢別にみると、母数が少ないため一概にはいえないが、男性では、すべての年代で「誰にも話さず、相談していない」が最も多いが、40歳代・50歳代では「同僚や友人」が3割台となっている。女性では、40歳代までの年代では「同僚や友人」が最も多く、60歳代では「家族・親族」が47.1%で最も多くなっている。

【表 性年齢別 DVの相談状況】

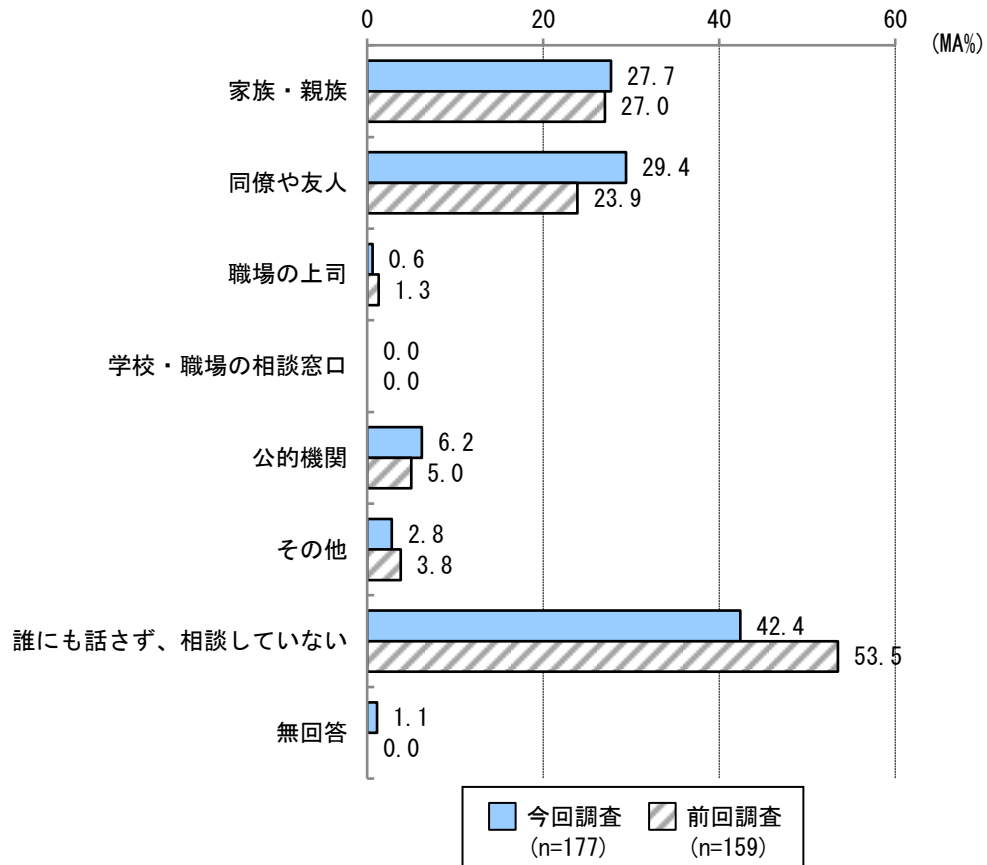
			回答者数 (n)	家族・親族	同僚や友人	職場の上司	学校・職場の相談窓口	公的機関	その他	誰にも話さず、相談しない	無回答 (MA%)
全 体			177	27.7	29.4	0.6	－	6.2	2.8	42.4	1.1
年 齢 別	男 性	10・20歳代	1	－	－	－	－	－	－	100.0	－
		30歳代	5	－	－	20.0	－	－	－	80.0	－
		40歳代	13	15.4	30.8	－	－	－	7.7	46.2	－
		50歳代	10	20.0	30.0	－	－	－	－	50.0	－
		60歳代	8	－	12.5	－	－	－	－	87.5	－
		70歳以上	14	21.4	－	－	－	－	14.3	64.3	7.1
	女 性	10・20歳代	4	25.0	50.0	－	－	25.0	－	50.0	－
		30歳代	12	16.7	58.3	－	－	8.3	－	33.3	－
		40歳代	26	34.6	46.2	－	－	11.5	－	19.2	－
		50歳代	30	30.0	33.3	－	－	3.3	3.3	40.0	3.3
		60歳代	17	47.1	23.5	－	－	11.8	5.9	29.4	－
		70歳以上	33	33.3	24.2	－	－	9.1	－	39.4	－

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「同僚や友人」の割合が前回より5.5ポイント高くなっている。

【図 DVの相談状況（前回調査との比較）】



(3) DVを相談しなかった理由

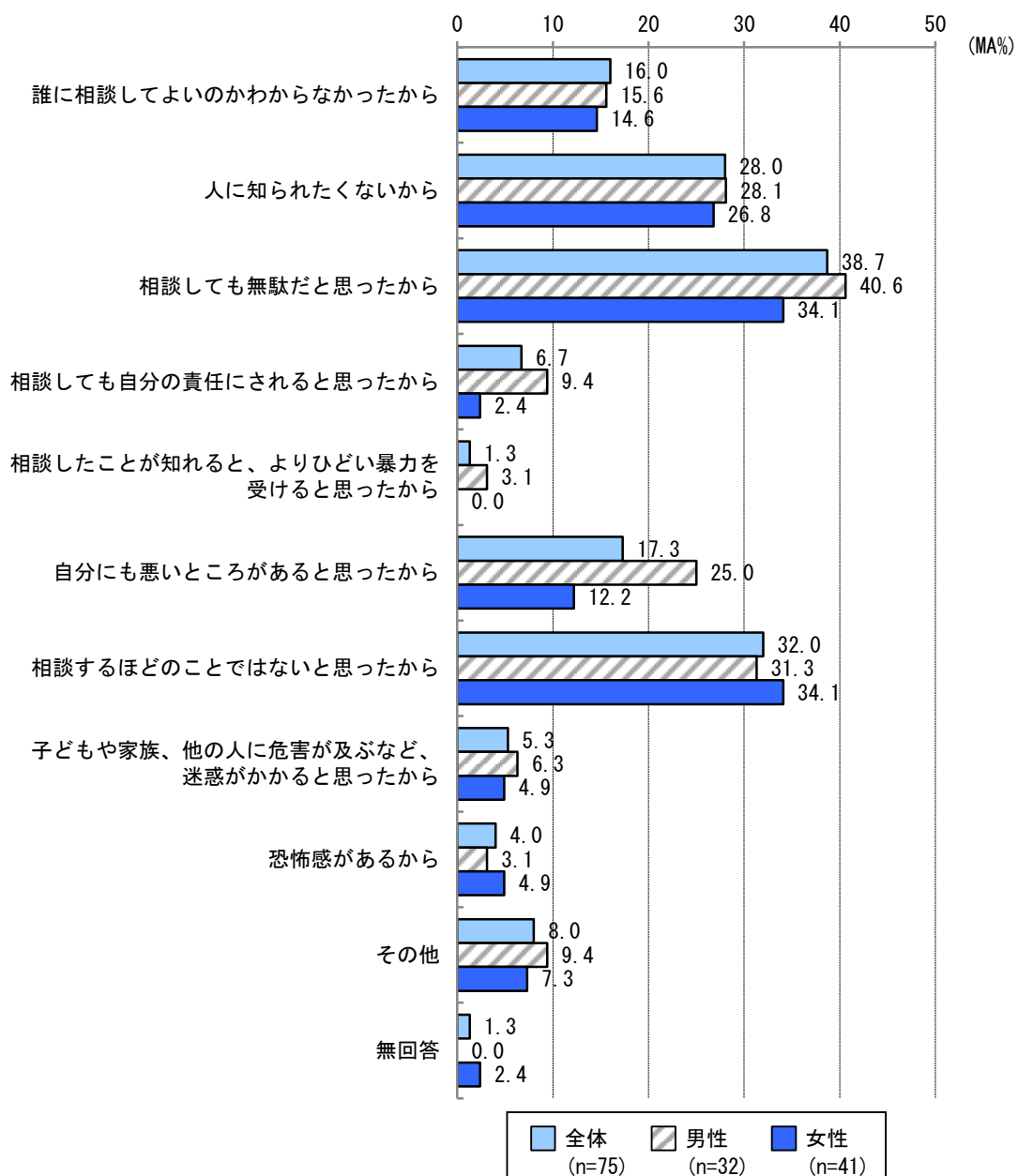
問22-1で、「7 誰にも話さず、相談していない」と回答した方にお聞きします
問22-2 誰にも話さず、相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

DVにあたる行為を受けた際に誰にも相談しなかったと回答した人に、その理由をたずねると、「相談しても無駄だと思ったから」が38.7%で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が32.0%、「人に知られたくないから」が28.0%となっている。

性別にみると、男性は、「相談しても無駄だと思ったから」が40.6%で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が31.3%、「人に知られたくないから」が28.1%となっている。

女性は、「相談しても無駄だと思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」がそれぞれ34.1%で最も多く、次いで「人に知られたくないから」が26.8%となっている。

【図 性別 DVを相談しなかった理由】



【性年齢別】

性年齢別にみると、母数が少ないため一概にはいえないが、男性では、「相談しても無駄だと思ったから」が30歳代、40歳代、50歳代で最も多くなっている。女性では、30歳代は「相談するほどのことではないと思ったから」が75.0%（3人）で最も多く、70歳以上では「相談しても無駄だと思ったから」が53.8%（7人）で最も多くなっている。

【表 性年齢別 DVを相談しなかった理由】

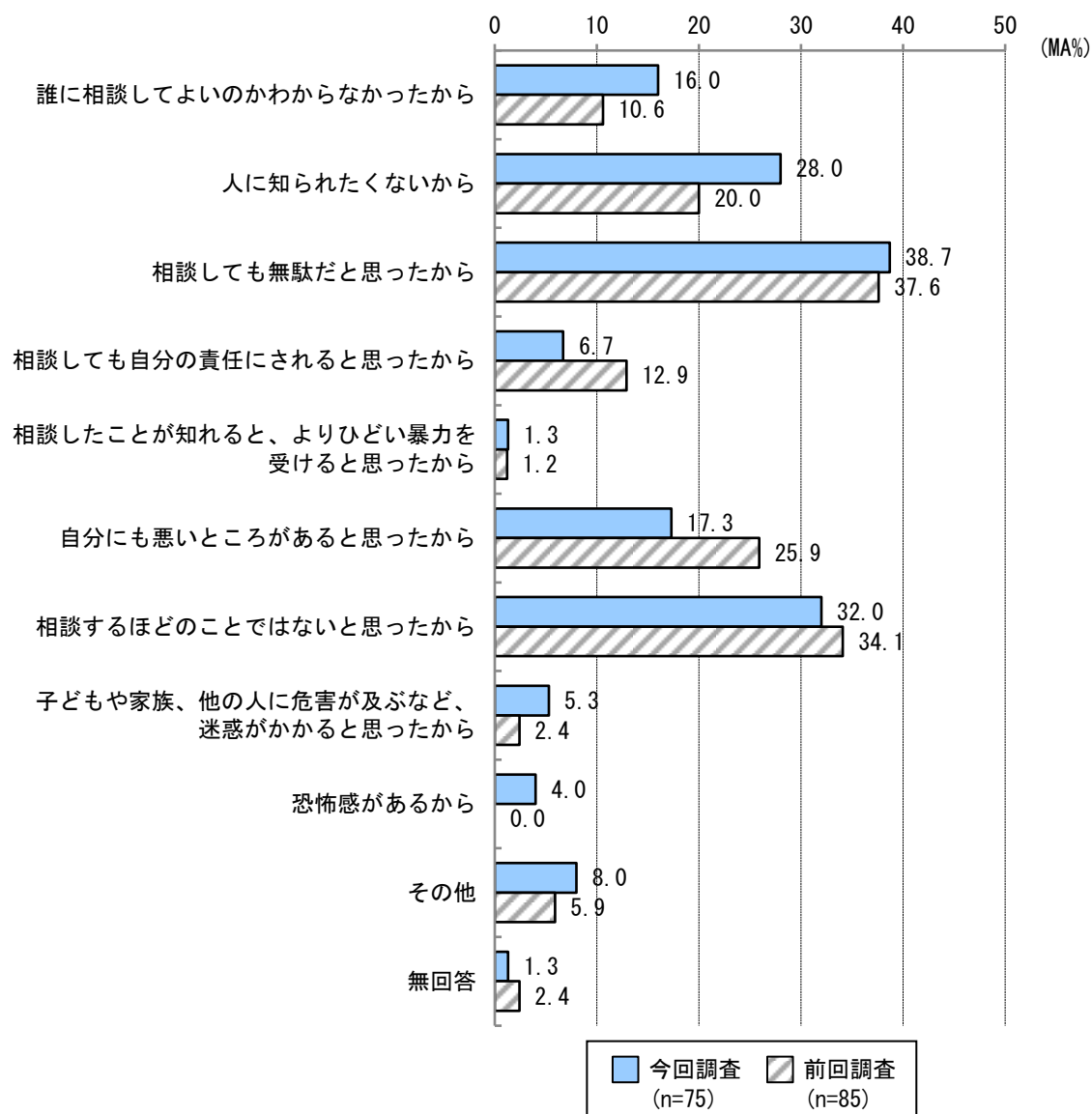
(MA%)														
			回答者数（n）	誰に相談してよいのかわからなかったから	人に知られたくないから	相談しても無駄だと思っただけ	相談しても自分の責任にされると思っただけ	相談したことが知れると、よりひどい暴力を受けると思っただけ	自分にも悪いところがあると思っただけ	相談するほどのことではないと思っただけ	子どもや家族、他の人に危害が及ぶなど、迷惑がかかると思っただけ	恐怖感があるから	その他	無回答
全 体			75	16.0	28.0	38.7	6.7	1.3	17.3	32.0	5.3	4.0	8.0	1.3
年 齢 別	男 性	10・20歳代	1	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
		30歳代	4	-	-	50.0	-	-	25.0	25.0	-	-	25.0	-
		40歳代	6	-	33.3	66.7	16.7	16.7	16.7	16.7	-	-	-	-
		50歳代	5	40.0	40.0	60.0	-	-	-	20.0	-	-	-	-
		60歳代	7	28.6	28.6	14.3	14.3	-	42.9	57.1	14.3	-	14.3	-
		70歳以上	9	11.1	22.2	33.3	11.1	-	33.3	22.2	11.1	11.1	11.1	-
	女 性	10・20歳代	2	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-
		30歳代	4	-	25.0	25.0	-	-	25.0	75.0	-	-	-	-
		40歳代	5	-	20.0	40.0	-	-	-	40.0	20.0	20.0	20.0	-
		50歳代	12	25.0	25.0	25.0	8.3	-	25.0	25.0	8.3	-	16.7	-
		60歳代	5	20.0	40.0	-	-	-	20.0	40.0	-	-	-	-
		70歳以上	13	15.4	23.1	53.8	-	-	-	23.1	-	-	-	7.7

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が前回より8.6ポイント低い、「人に知られたくないから」の割合が前回より8.0ポイント高くなっている。

【図 DVを相談しなかった理由（前回調査との比較）】



(4) ハラスメント等を受けた経験

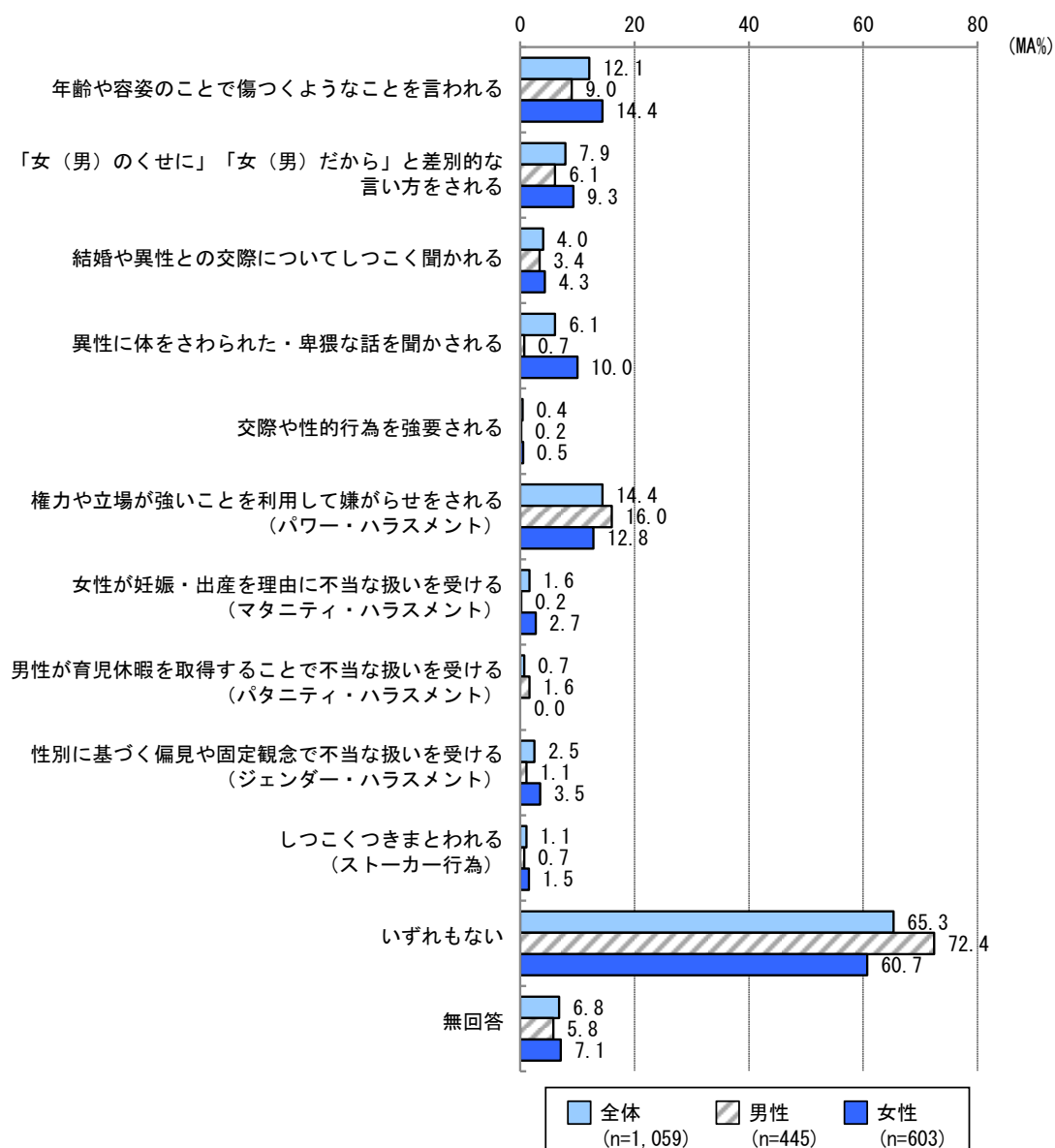
問23 あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような行為を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

職場や学校、その他の活動の場でのハラスメント等を受けた経験については、「いずれもない」が65.3%で最も多く、次いで「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」が14.4%、「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が12.1%となっている。

性別にみると、男性は、「いずれもない」が72.4%で最も多く、次いで「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」が16.0%、「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が9.0%となっている。

女性は、「いずれもない」が60.7%で最も多く、次いで「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が14.4%、「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」が12.8%となっている。

【図 性別 ハラスメント等を受けた経験】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男女ともすべての年代で「いずれもない」が最も多くなっている。ハラスメント等を受けた経験がある人では、男性は、30歳以上の年代で「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」が最も多くなっている。女性では、10・20歳代、30歳代、50歳代は「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 ハラスメント等を受けた経験】

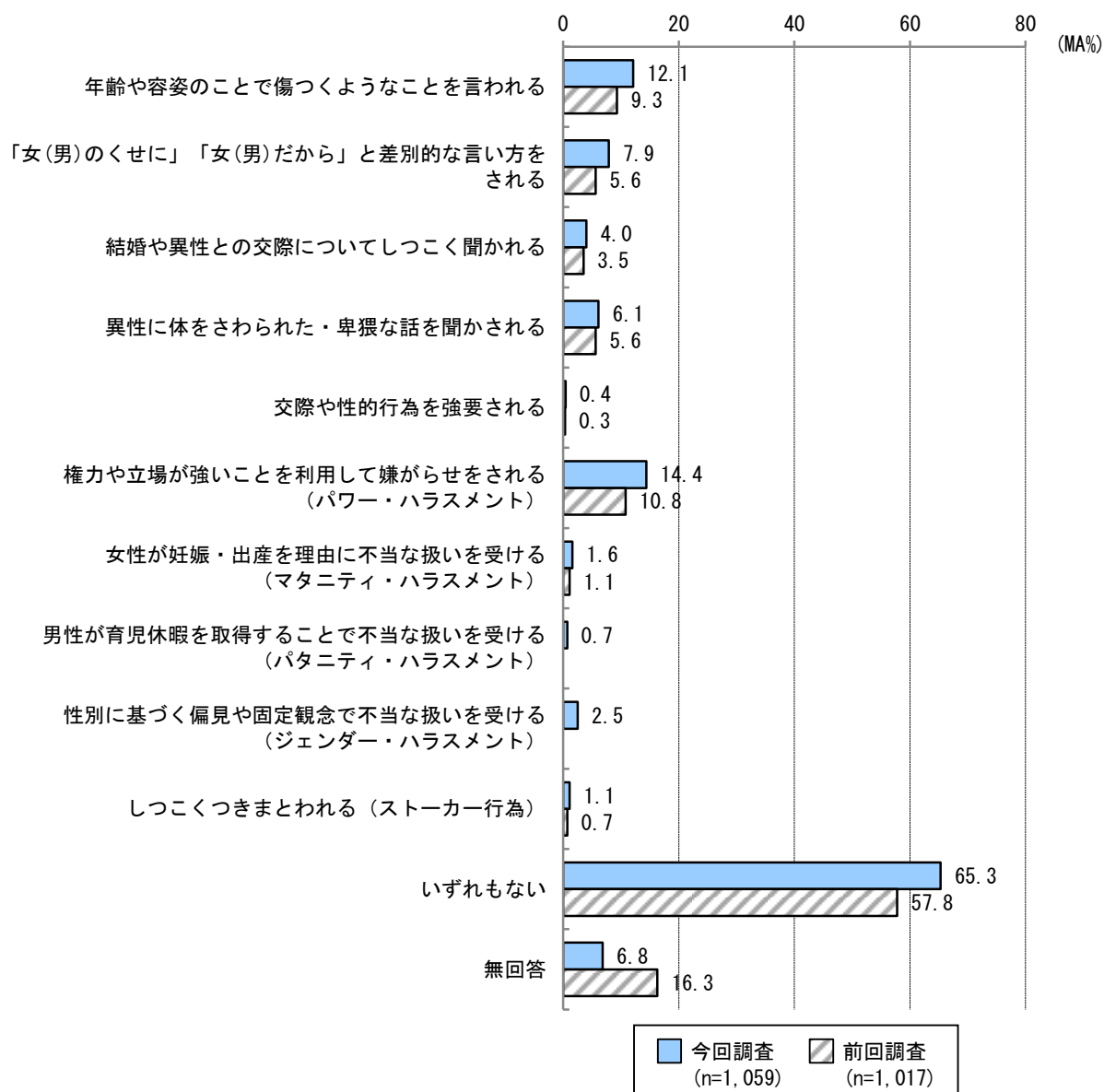
		回答者数（n）	年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる	「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされる	結婚や異性との交際についてしつこく聞かれる	異性に体をさわられた・卑猥な話を聞かされる	交際や性的行為を強要される	権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）	権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（マタニティ・ハラスメント）	男性が育児休暇を取得することや不当な扱いを受ける（パタニティ・ハラスメント）	性別に基づく偏見や固定観念で不当な扱いを受ける（ジェンダー・ハラスメント）	しつこくつきまとられる（ストーカー行為）	いずれもない	無回答
全 体		1,059	12.1	7.9	4.0	6.1	0.4	14.4	1.6	0.7	2.5	1.1	65.3	6.8
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	23.3	3.3	10.0	-	-	6.7	-	3.3	-	73.3	-
		30歳代	45	17.8	6.7	4.4	2.2	-	17.8	-	2.2	2.2	71.1	2.2
		40歳代	64	17.2	10.9	7.8	1.6	-	28.1	1.6	3.1	4.7	64.1	1.6
		50歳代	76	10.5	7.9	1.3	1.3	-	23.7	-	3.9	1.3	69.7	2.6
		60歳代	66	4.5	9.1	6.1	-	-	18.2	-	-	1.5	75.8	1.5
		70歳以上	164	1.8	2.4	-	-	0.6	7.9	-	-	-	75.6	12.8
	女 性	10・20歳代	46	26.1	13.0	6.5	2.2	-	15.2	2.2	-	2.2	60.9	-
		30歳代	56	28.6	3.6	14.3	23.2	-	21.4	8.9	-	3.6	44.6	-
		40歳代	94	12.8	7.4	4.3	12.8	-	14.9	2.1	-	2.1	59.6	5.3
		50歳代	113	22.1	12.4	2.7	13.3	1.8	20.4	4.4	-	4.4	61.1	0.9
		60歳代	109	13.8	10.1	4.6	14.7	-	11.9	2.8	-	5.5	60.6	5.5
		70歳以上	184	3.8	8.7	1.6	1.6	0.5	4.3	-	-	2.7	65.8	16.8

※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる（パワー・ハラスメント）」の割合が前回より3.6ポイント高くなっている。

【図 ハラスメント等を受けた経験（前回調査との比較）】



※ 「男性が育児休暇を取得することで不当な扱いを受ける（パタニティ・ハラスメント）」と「性別に基づく偏見や固定観念で不当な扱いを受ける（ジェンダー・ハラスメント）」は新規項目。

(5) 男女関係の問題の認知度

問24 あなたは、次の問題について知っていますか。

男女関係の問題の認知度については、“①デートDV”は、「知らない」が45.0%で最も多く、次いで「少しは知っている」が21.6%で、「よく知っている」と「少しは知っている」、「言葉は聞いたことがある」をあわせた認知度は52.0%となっている。

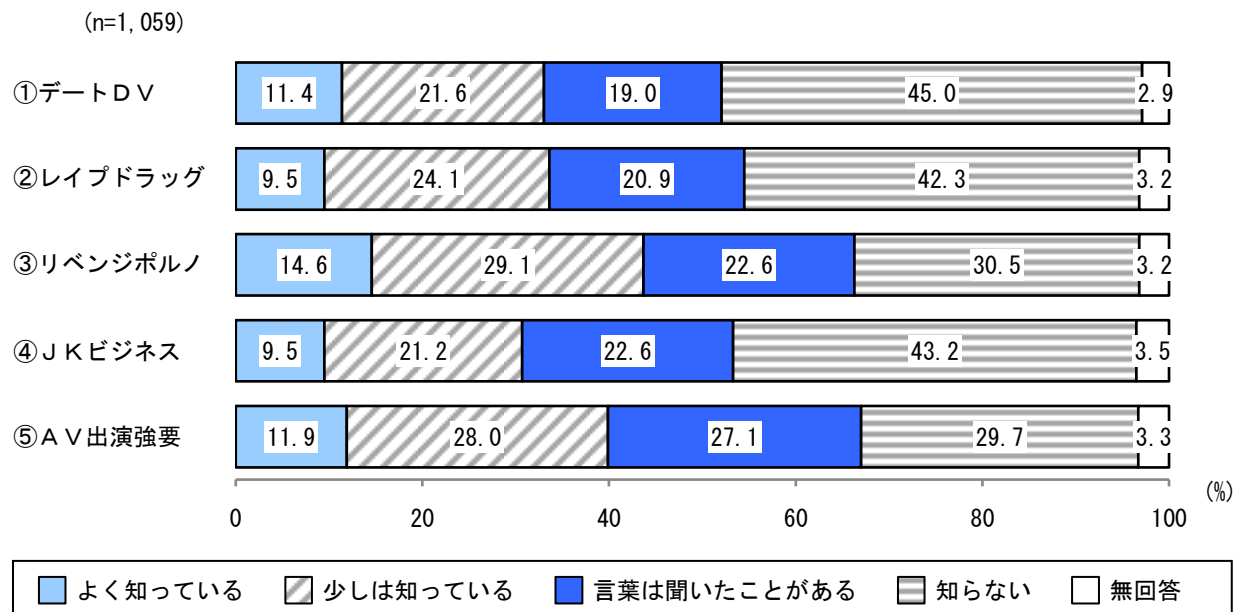
“②レイプドラッグ”は、「知らない」が42.3%で最も多く、次いで「少しは知っている」が24.1%で、認知度は54.5%となっている。

“③リベンジポルノ”は、「知らない」が30.5%で最も多く、次いで「少しは知っている」が29.1%で、認知度は66.3%となっている。

“④JKビジネス”は、「知らない」が43.2%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が22.6%で、認知度は53.3%となっている。

“⑤AV出演強要”は、「知らない」が29.7%で最も多く、次いで「少しは知っている」が28.0%で、認知度は67.0%となっており、他のより高い割合となっている。

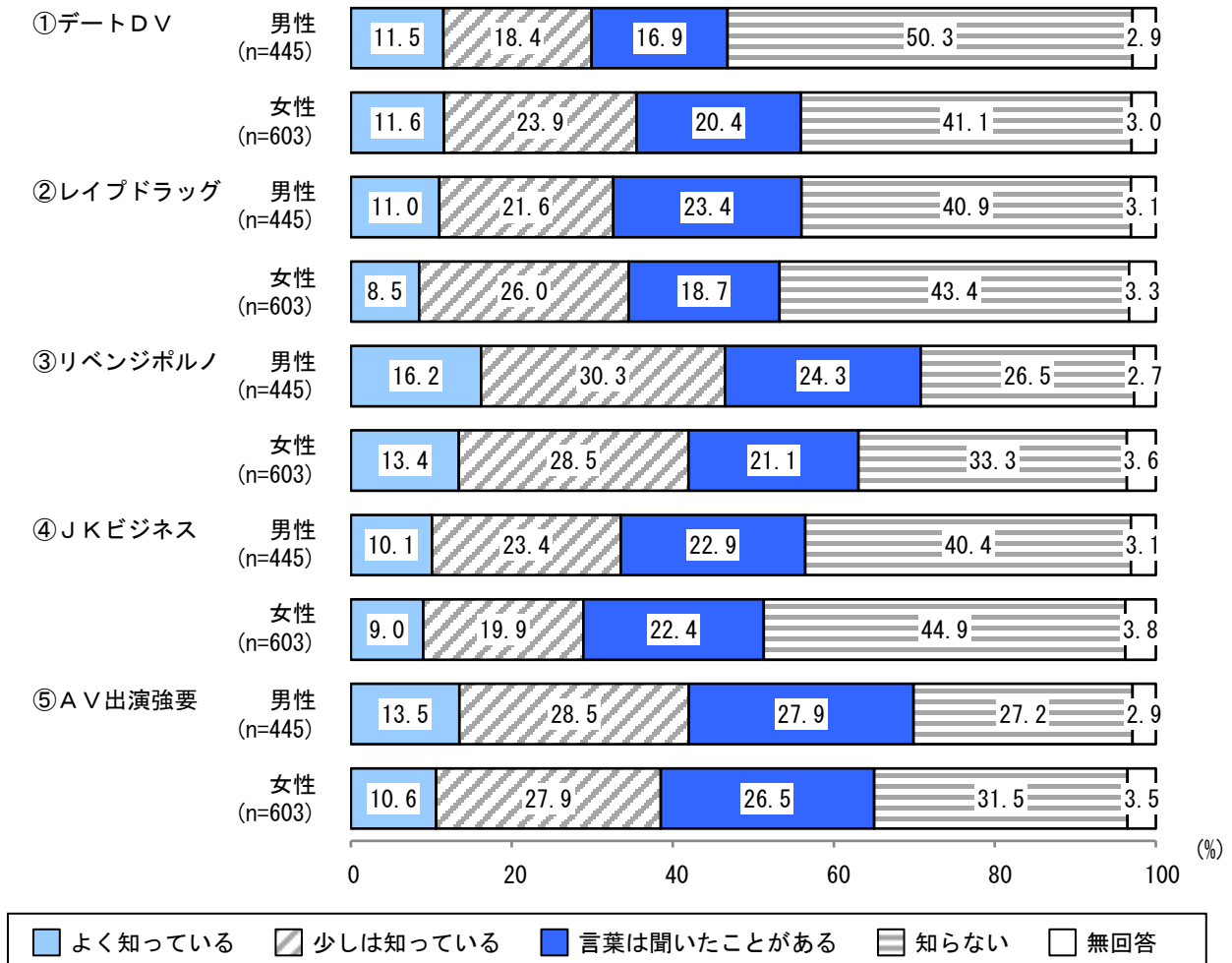
【図 男女関係の問題の認知度】



【性別】

性別にみると、「よく知っている」は“①デートＤＶ”以外の問題では女性より男性のほうが高く、認知度も“①デートＤＶ”は男性より女性のほうが高いが、それ以外の問題では男性のほうが高くなっている。

【図 性別 男女関係の問題の認知度】



【性年齢別】

<①デートDV>

性年齢別にみると、「よく知っている」は男女とも10・20歳代が最も高く、認知度も10・20歳代が最も高くなっている。

<②レイプドラッグ>

性年齢別にみると、男性では、「よく知っている」は40歳代が20.3%で最も高く、認知度は30歳代が82.2%で最も高くなっている。女性では、「よく知っている」は10・20歳代が17.4%で最も高く、認知度は40歳代が64.9%で最も高くなっている。

<③リベンジポルノ>

性年齢別にみると、男性では、「よく知っている」は10・20歳代が40.0%で最も高く、認知度は30歳代が91.0%で最も高くなっている。女性では、「よく知っている」は30歳代が26.8%で最も高く、認知度も30歳代が83.9%で最も高いが、70歳以上が30.4%と最も低くなっている。

<④JKビジネス>

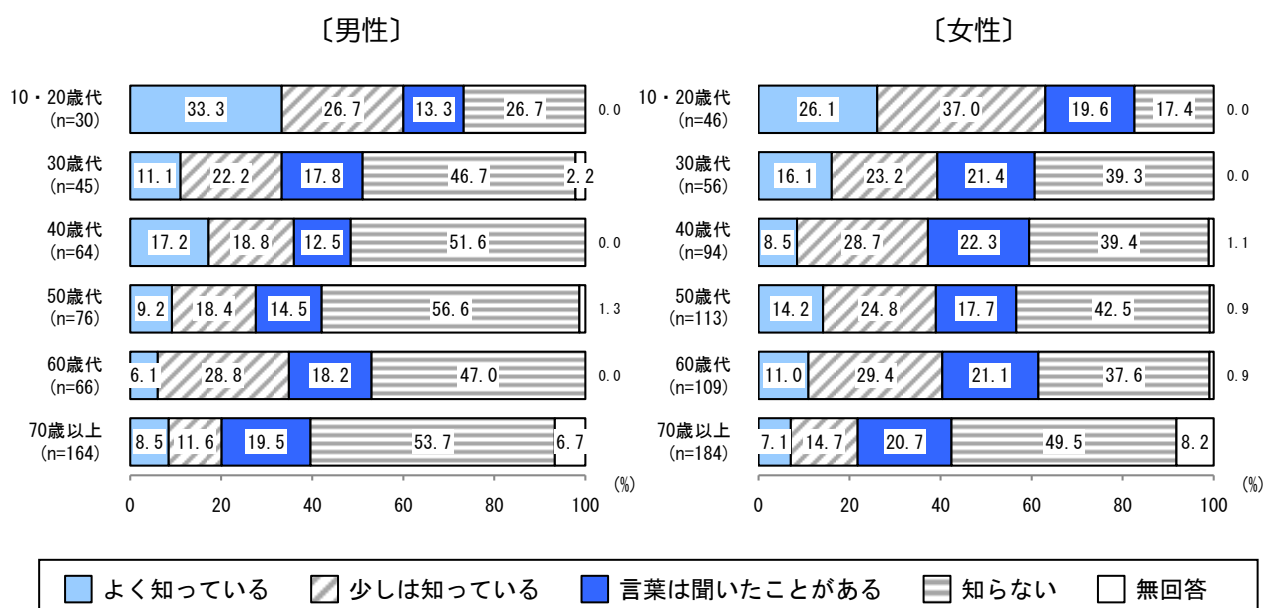
性年齢別にみると、男性では、「よく知っている」は10・20歳代が20.0%で最も高く、認知度は40歳代が75.0%で最も高くなっている。女性では、「よく知っている」は50歳代が15.0%で最も高く、認知度も50歳代が68.1%で最も高いが、70歳以上が27.8%と最も低くなっている。

<⑤AV出演強要>

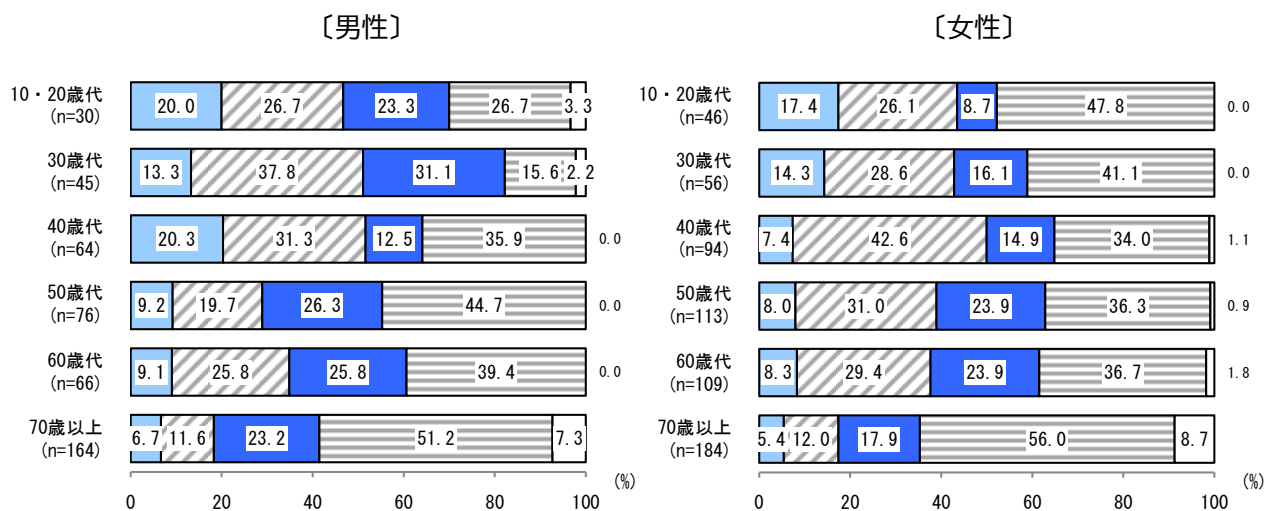
性年齢別にみると、男性では、「よく知っている」は10・20歳代が30.0%で最も高く、認知度は30歳代が84.5%で最も高くなっている。女性では、「よく知っている」は30歳代が17.9%で最も高く、認知度は40歳代が79.8%で最も高くなっている。

【図 性年齢別 男女関係の問題の認知度】

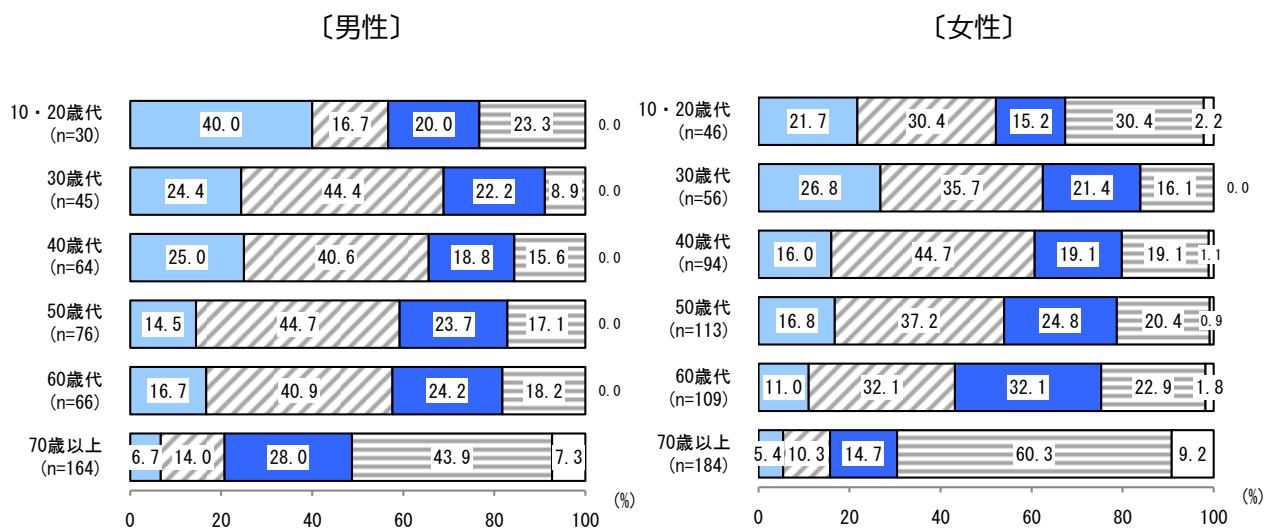
①デートDV



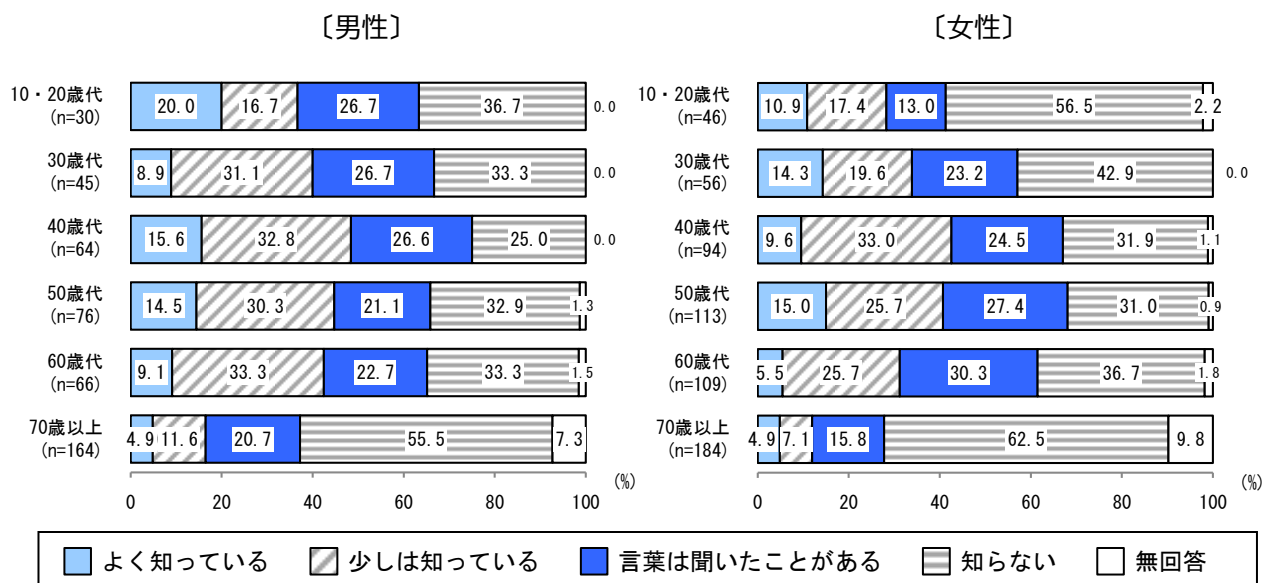
②レイプドラッグ



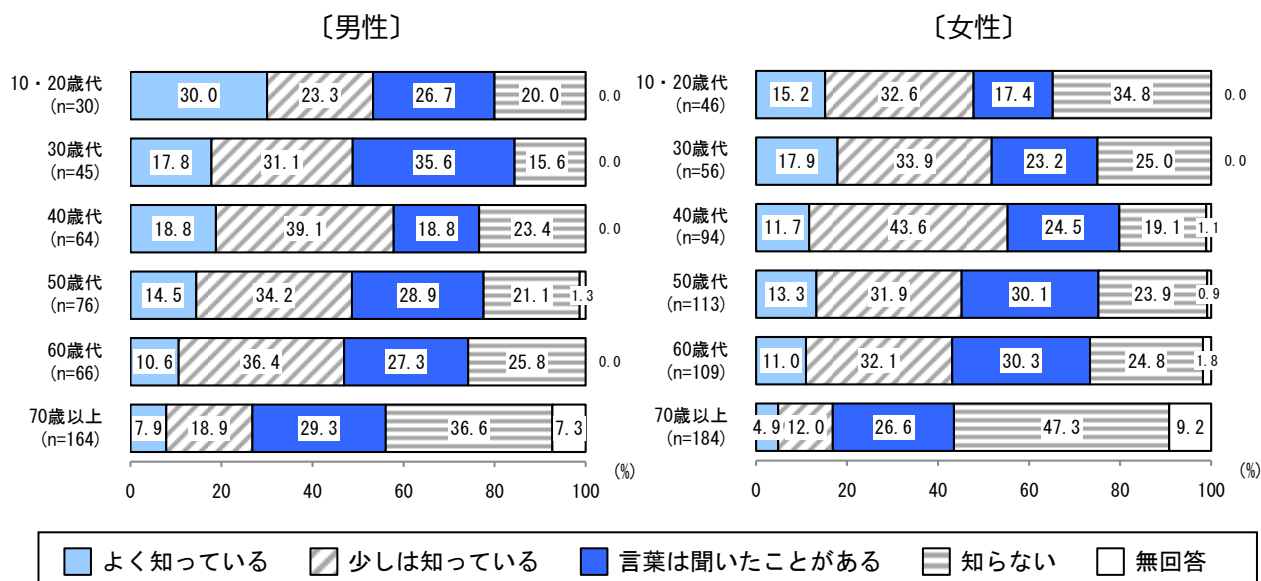
③リベンジポルノ



④J Kビジネス



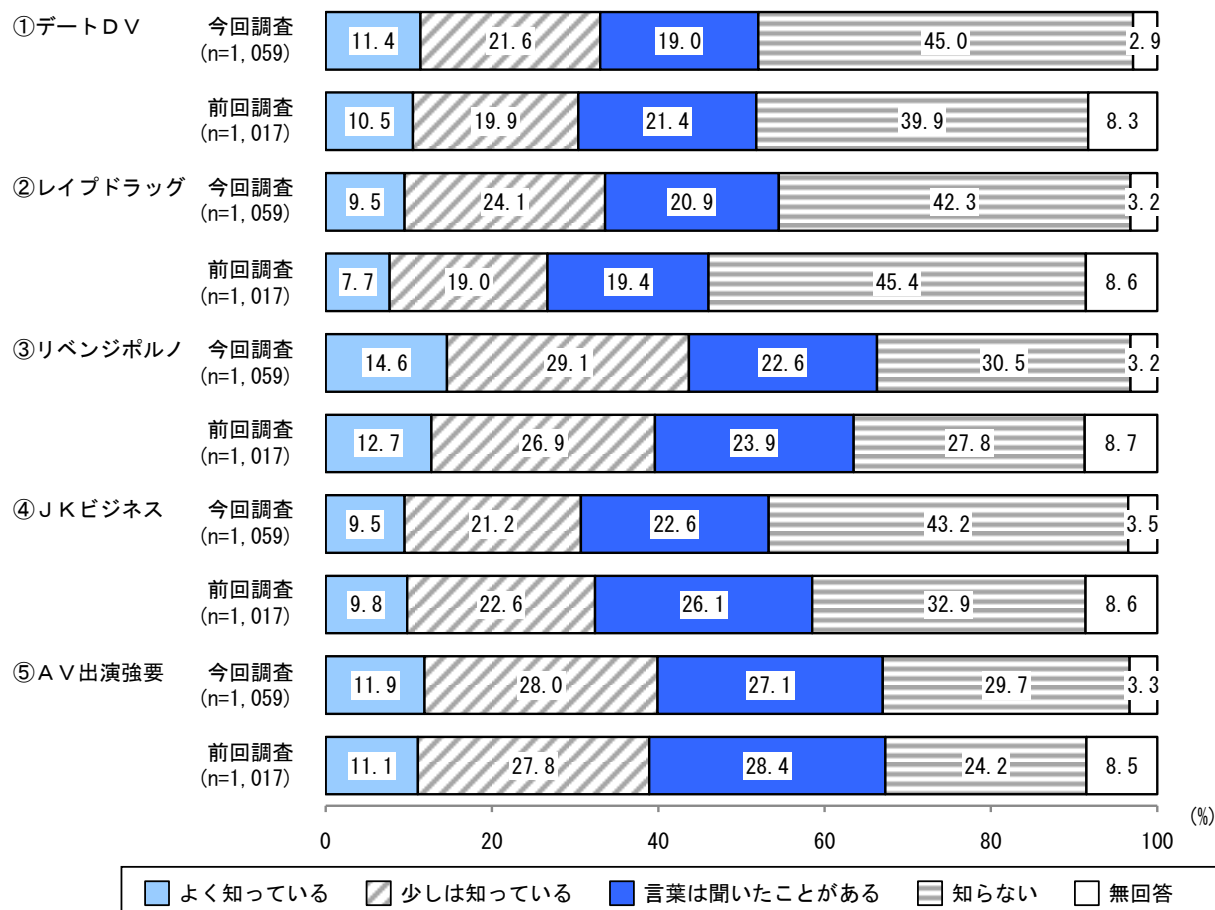
⑤AV出演強要



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、認知度は“②レイプドラッグ”の割合が前回より8.4ポイント高くなっている。

【図 男女関係の問題の認知度（前回調査との比較）】



7. 男女共同参画社会について

(1) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に関して市で取り組む必要があるもの

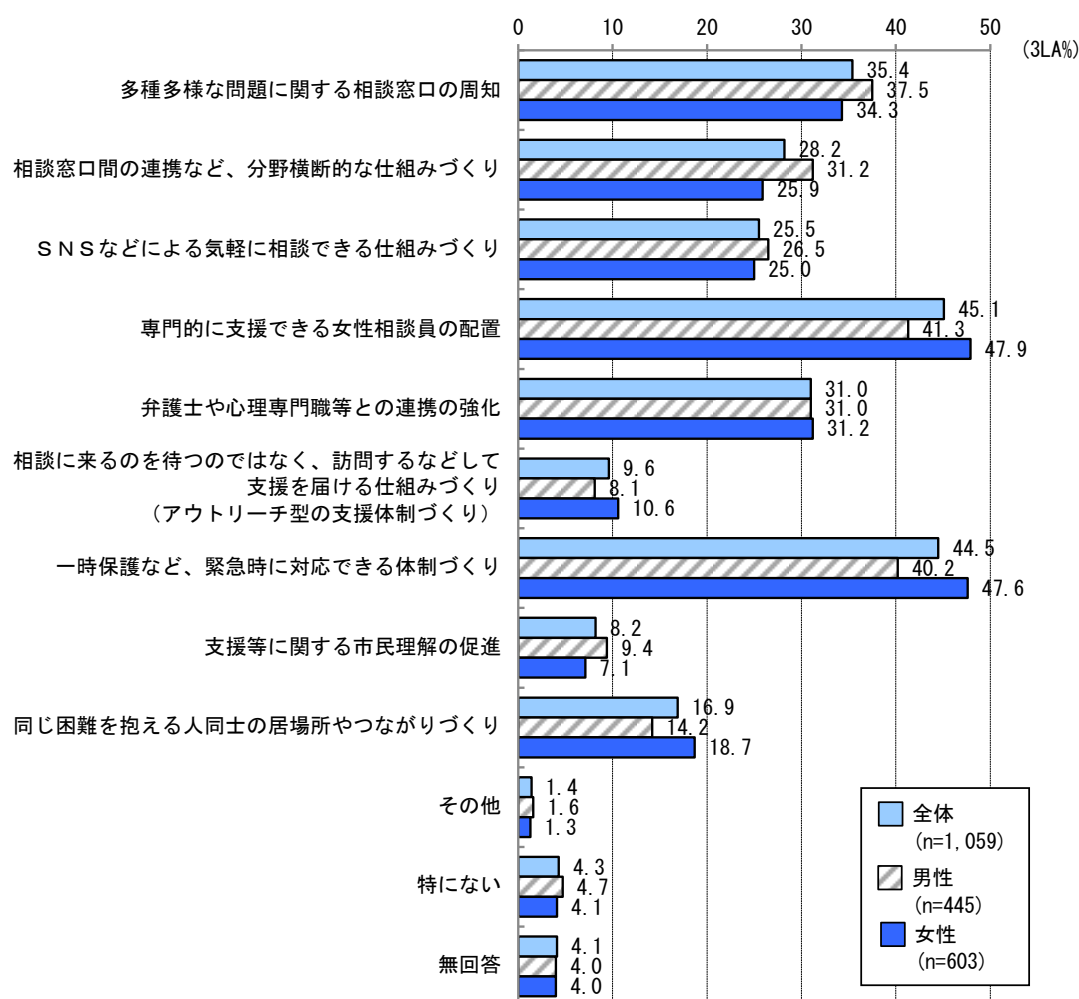
問25 令和4年5月に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が成立しました。この法律は、貧困やDV、性暴力などに直面する女性の自立に向けて公的支援を強化していくものですが、このことについて、特に市で取り組む必要があると思うものを教えてください。(〇は3つまで)

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に関して市で取り組む必要があるものについては、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が45.1%で最も多く、次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が44.5%、「多種多様な問題に関する相談窓口の周知」が35.4%となっている。

性別にみると、男性は、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が41.3%で最も多く、次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が40.2%、「多種多様な問題に関する相談窓口の周知」が37.5%となっている。

女性は、「専門的に支援できる女性相談員の配置」が47.9%で最も多く、次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が47.6%、「多種多様な問題に関する相談窓口の周知」が34.3%となっている。

【図 性別 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に関して市で取り組む必要があるもの】



【性年齢別】

性年齢別について、男性では、30歳代、60歳代では「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が最も多くなっている。50歳代、70歳以上では「多種多様な問題に関する相談窓口の周知」が最も多く、50歳代では「弁護士や心理専門職等との連携の強化」も同率で最も多くなっている。女性では、30歳代は、「専門的に支援できる女性相談員の配置」と「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」がともに50.0%で最も多く、50歳代と70歳以上では「専門的に支援できる女性相談員の配置」が、それ以外の年代では「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に関して市で取り組む必要があるもの】

		回答者数 (n)	口多 の種 多様 な問 題に 関す る相 談窓 口	断相 談窓 口の 連携 など、 分野 横	き S N S など によ る気 軽に 相談 で	の専 門的 に支 援で きる 女性 相談 員	の弁 護士 や心 理専 門職 等と の連 携	ける 相談 する のを 待つ の支 援は な 屈	き一 時保 護な ど、 緊急 時に 対応 で	支 援等 に関 する 市民 理解 の促 進	所や つな がり づ く る人 同 士の 居 場	そ の 他	特 に な い	無 回 答 (3LA%)
全 体		1,059	35.4	28.2	25.5	45.1	31.0	9.6	44.5	8.2	16.9	1.4	4.3	4.1
年 齢 別	10・20歳代	30	33.3	20.0	36.7	43.3	23.3	6.7	40.0	20.0	13.3	-	-	3.3
	30歳代	45	35.6	20.0	26.7	37.8	22.2	13.3	42.2	11.1	22.2	4.4	8.9	-
	40歳代	64	26.6	35.9	42.2	39.1	39.1	7.8	37.5	12.5	15.6	-	6.3	-
	50歳代	76	44.7	27.6	19.7	35.5	44.7	6.6	42.1	6.6	17.1	2.6	5.3	1.3
	60歳代	66	28.8	33.3	39.4	48.5	34.8	7.6	53.0	10.6	16.7	3.0	1.5	-
	70歳以上	164	43.3	35.4	16.5	42.7	23.8	7.9	34.8	6.7	9.1	0.6	4.9	9.8
	10・20歳代	46	26.1	15.2	47.8	37.0	34.8	19.6	69.6	10.9	23.9	-	-	2.2
	30歳代	56	37.5	17.9	37.5	50.0	33.9	16.1	50.0	1.8	19.6	5.4	3.6	-
	40歳代	94	29.8	30.9	30.9	45.7	38.3	16.0	51.1	6.4	17.0	2.1	3.2	-
	50歳代	113	32.7	30.1	28.3	49.6	36.3	9.7	48.7	8.8	20.4	1.8	2.7	1.8
	60歳代	109	30.3	33.0	18.3	58.7	28.4	5.5	59.6	5.5	14.7	-	0.9	4.6
	70歳以上	184	40.8	21.7	14.7	43.5	24.5	7.6	31.5	8.2	19.6	0.5	8.7	8.7

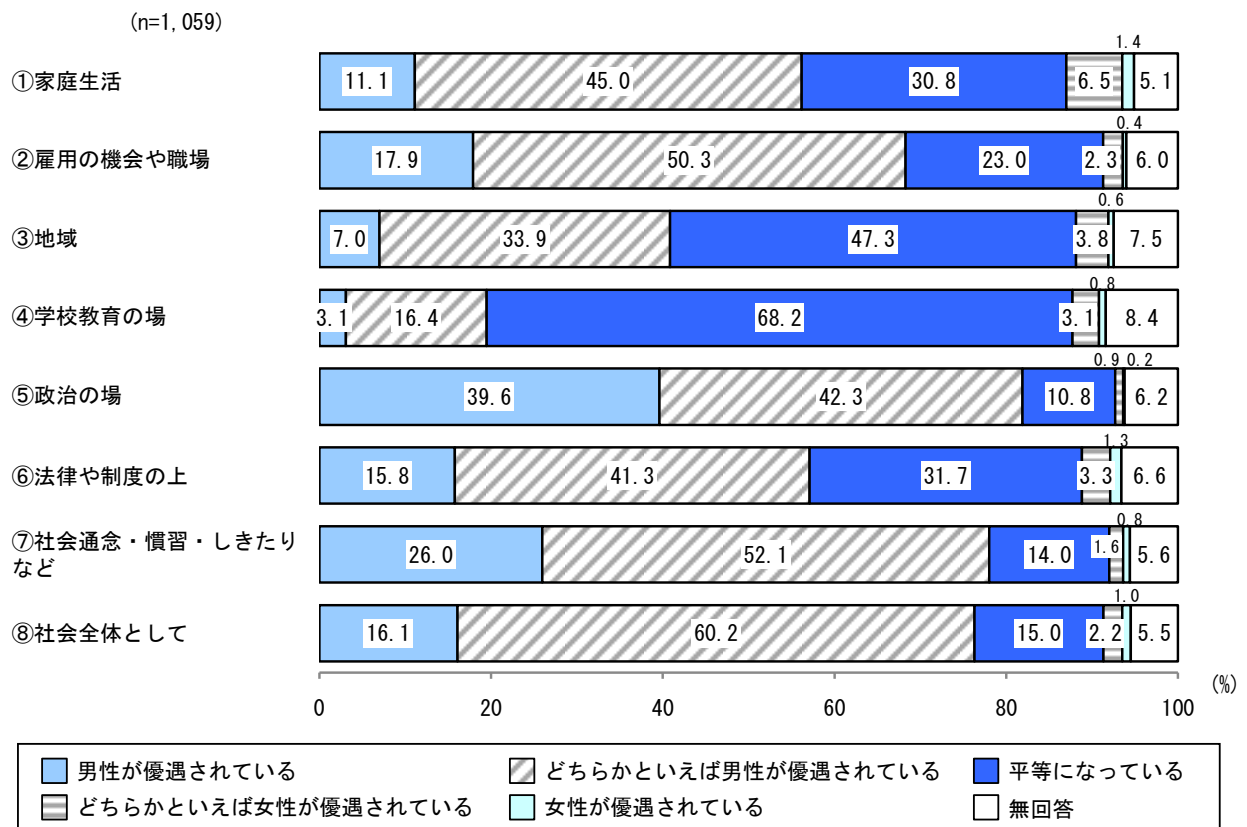
※濃い網掛けは全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは全体より5ポイント以上高い項目

(2) 各分野の男女の地位の平等感

問26 あなたは次の①～⑧で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。

各分野の男女の地位の平等感については、「平等になっている」は“④学校教育の場”が68.2%で最も高く、次いで“③地域”が47.3%となっている。「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性優遇』は“⑤政治の場”が81.9%で最も高く、次いで“⑦社会通念・慣習・しきたりなど”が78.1%、“⑧社会全体として”が76.3%、“②雇用の機会や職場”が68.2%となっている。

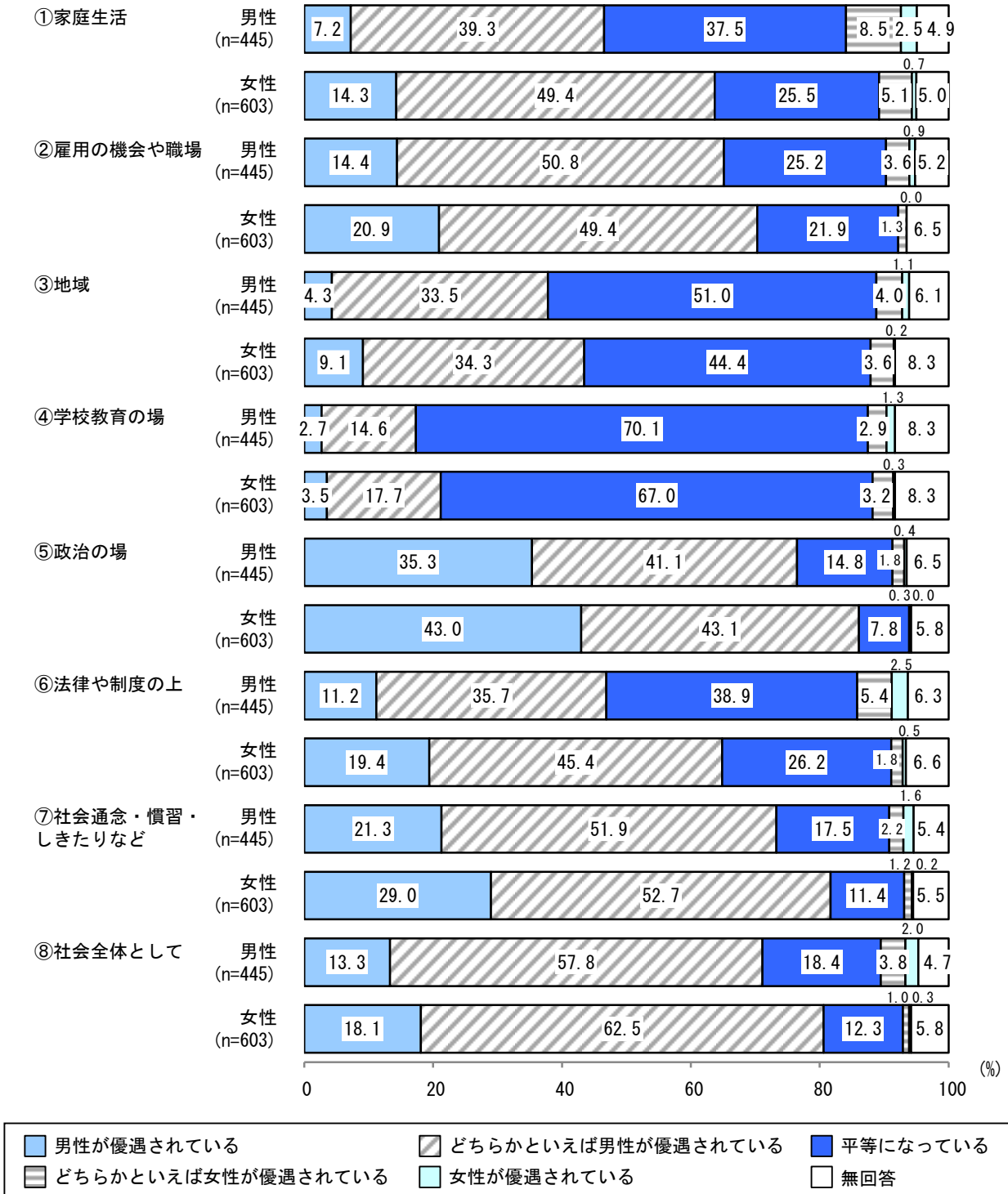
【図 各分野の男女の地位の平等感】



【性別】

性別にみると、すべての分野で『男性優遇』は女性が高くなっており、“⑥法律や制度の上”では男性より17.9ポイント高くなっている。一方、すべての分野で「平等になっている」は男性のほうが高くなっており、“⑥法律や制度の上”では女性より12.7ポイント高くなっている。

【図 性別 各分野の男女の地位の平等感】



【性年齢別】

<①家庭生活>

性年齢別にみると、男性では、『男性優遇』は60歳代が54.6%で最も高く、次いで70歳以上が47.6%となっている。「平等である」はすべての年代で女性より高い割合となっている。女性では、『男性優遇』は60歳代が70.6%で最も高く、次いで70歳以上が65.2%となっており、すべての年代で男性より高い割合となっている。

<②雇用の機会や職場>

性年齢別にみると、男性では、『男性優遇』は50歳代以上の年代でいずれも68%台と高くなっている。「平等である」は10・20歳代が46.7%で最も高い割合となっている。女性では、『男性優遇』は30歳代が76.7%で最も高く、30歳代～50歳代の年代で7割台と高くなっている。

<③地域>

性年齢別にみると、男性では、『男性優遇』は60歳代が47.0%で最も高く、次いで70歳以上が39.1%となっているが、60歳代を除く年代で『男性優遇』より「平等になっている」のほうが高い割合となっている。女性では、「平等になっている」は30歳代が66.1%で最も高く、次いで40歳代が57.4%となっている。『男性優遇』は60歳代が53.2%で最も高くなっている。

<④学校教育の場>

性年齢別にみると、男性では、「平等になっている」は40歳代が75.0%で最も高く、50歳代までの年代で7割を超えている。女性では、「平等になっている」は40歳代が81.9%で最も高く、『男性優遇』は60歳代以上の年代で約3割を占めている。

<⑤政治の場>

性年齢別にみると、男性では、『男性優遇』は10・20歳代、40歳代、50歳代、60歳代で8割台と高くなっている。女性では、『男性優遇』は30歳代が92.8%で最も高く、次いで50歳代が92.0%で、60歳代までの年代で9割前後を占めている。

<⑥法律や制度の上>

性年齢別にみると、男性では、『男性優遇』は50歳代が56.5%で最も高く、次いで60歳代が54.6%となっている。「平等になっている」は10・20歳代が50.0%で最も高くなっている。女性では、『男性優遇』は50歳代が72.6%で最も高く、次いで60歳代が69.7%、30歳代が69.6%となっている。

<⑦社会通念・慣習・しきたりなど>

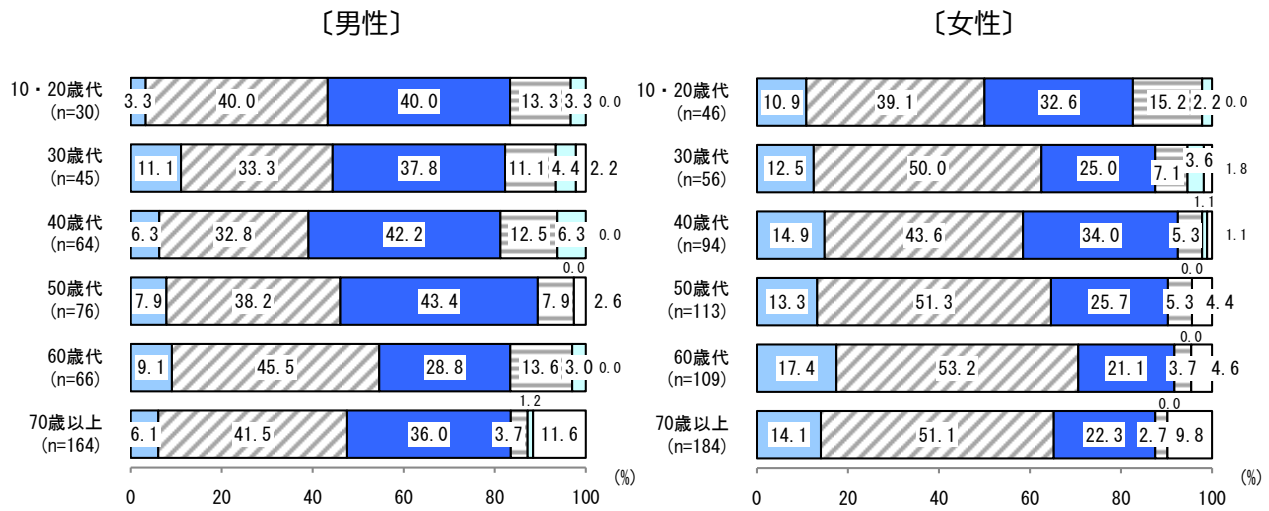
性年齢別にみると、男性では、『男性優遇』は40歳代が81.3%で最も高く、次いで60歳代が77.3%となっている。女性では、『男性優遇』は50歳代が91.1%で最も高く、すべての年代で7割を超えている。

<⑧社会全体として>

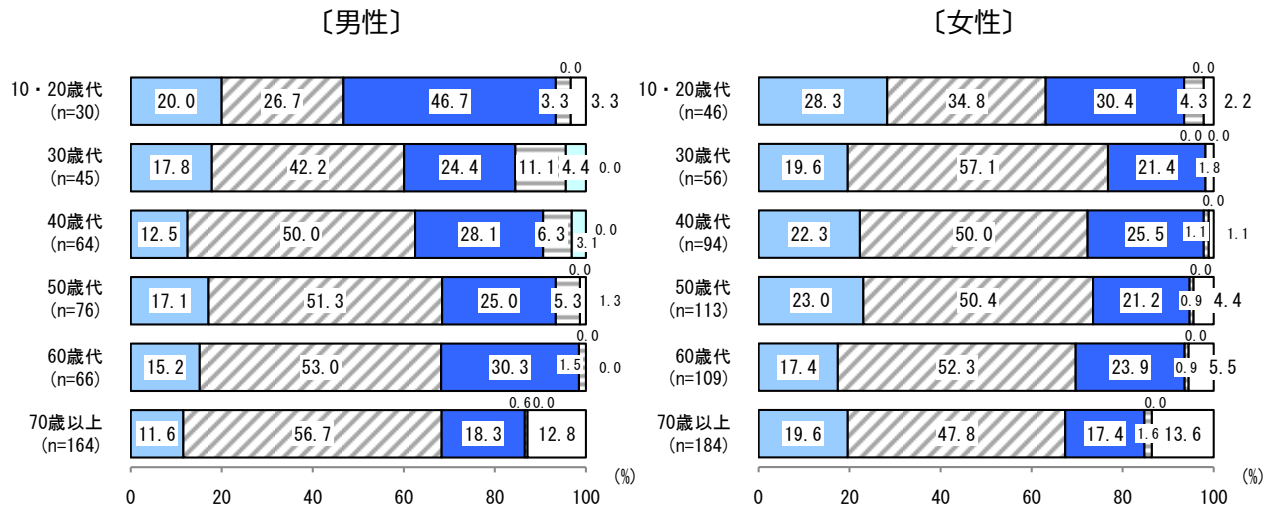
性年齢別にみると、男性では、『男性優遇』は40歳代以上の年代で7割を超えており、10・20歳代では「平等になっている」が40.0%と最も高くなっている。女性では、『男性優遇』はすべての年代で8割前後を占めている。

【図 性年齢別 各分野の男女の地位の平等感】

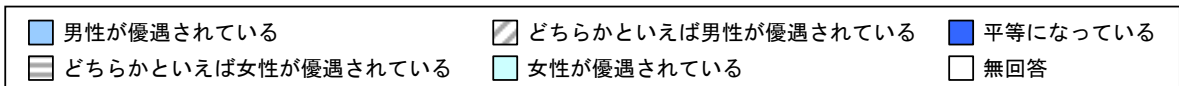
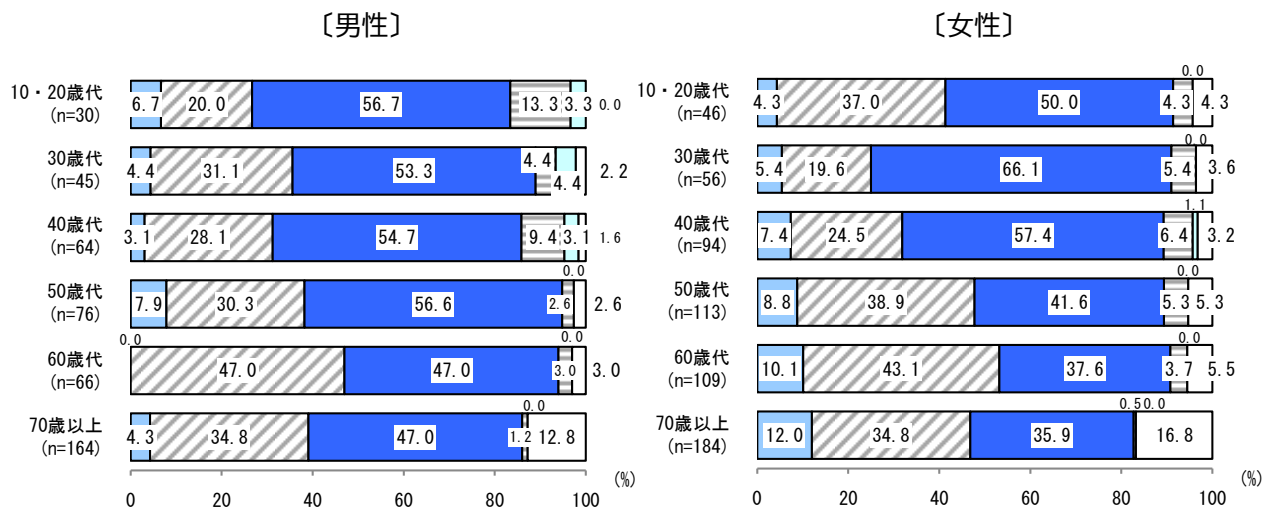
①家庭生活



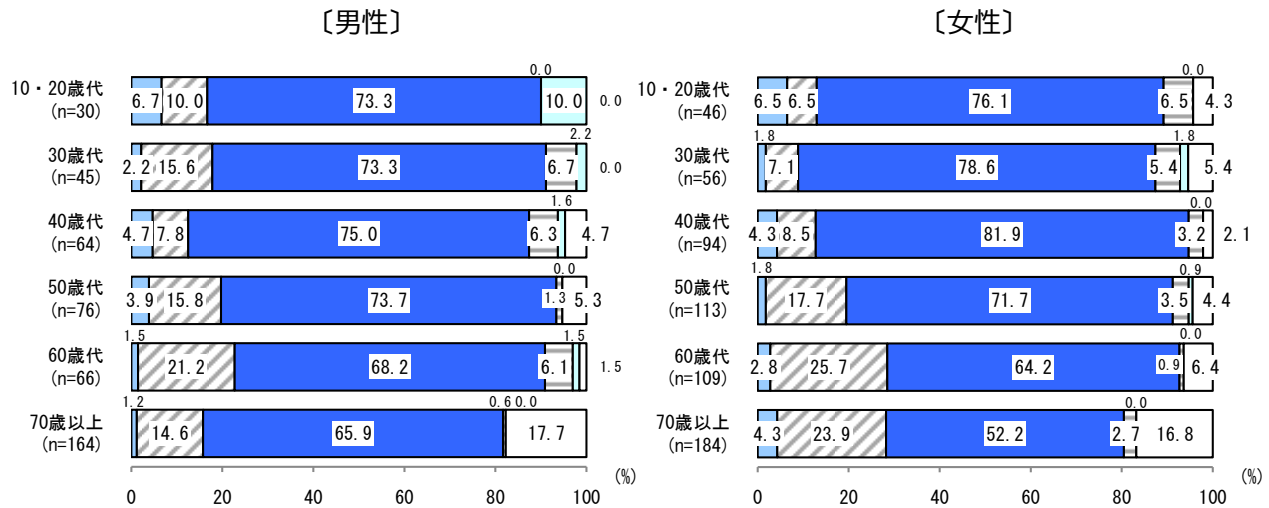
②雇用の機会や職場



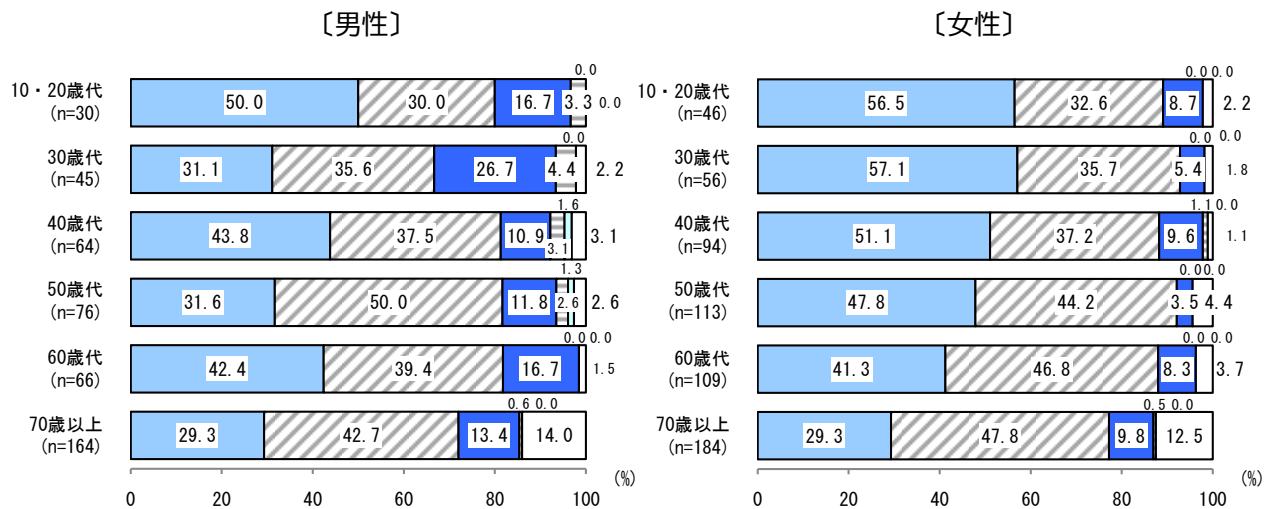
③地域



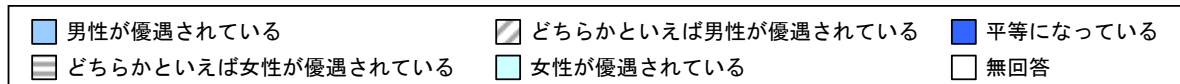
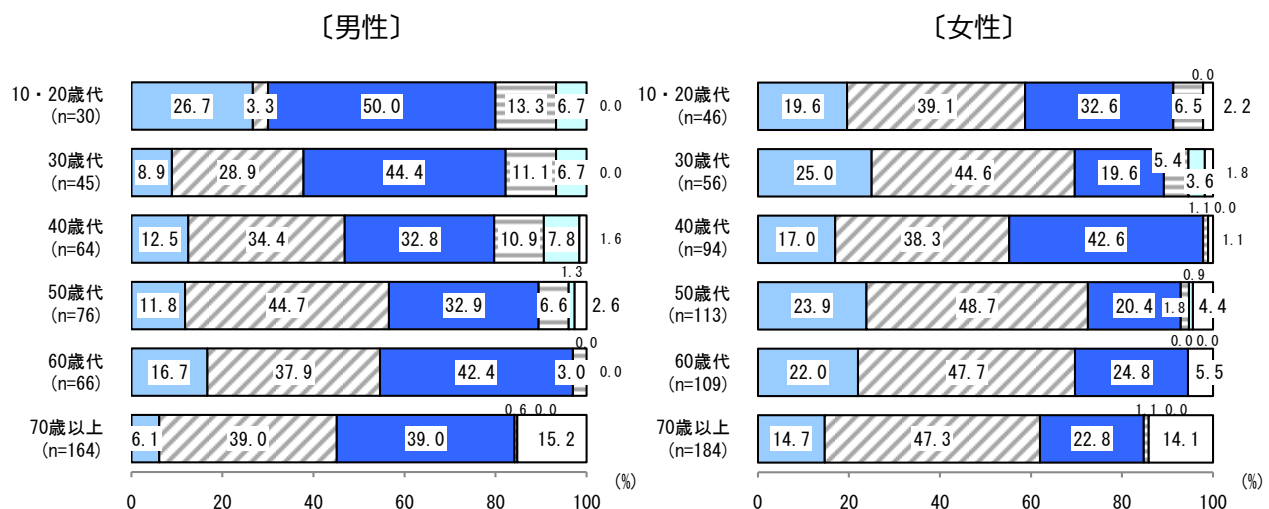
④学校教育の場



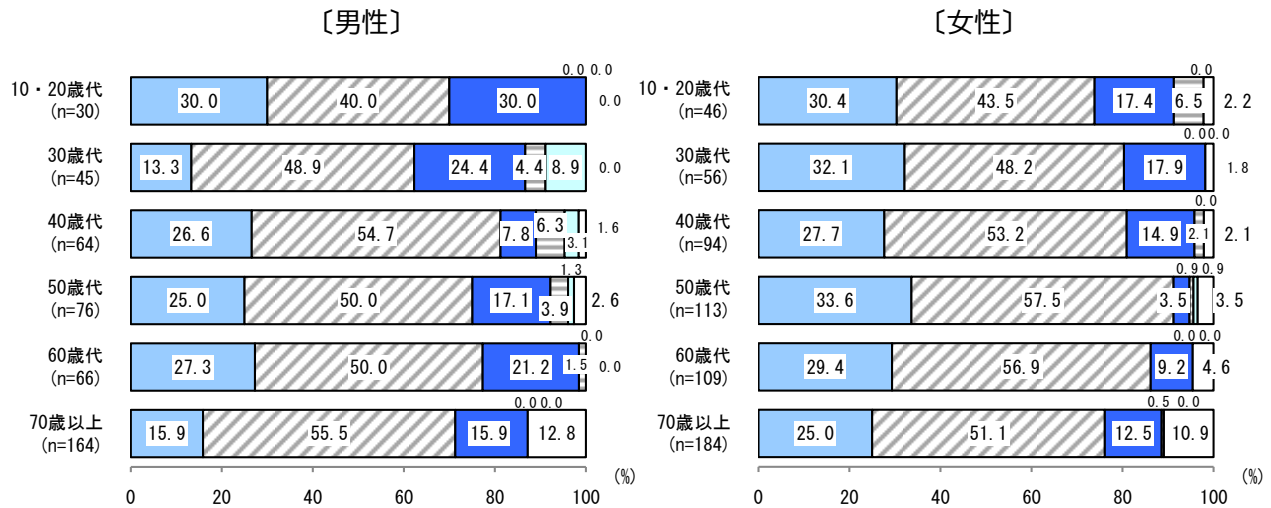
⑤政治の場



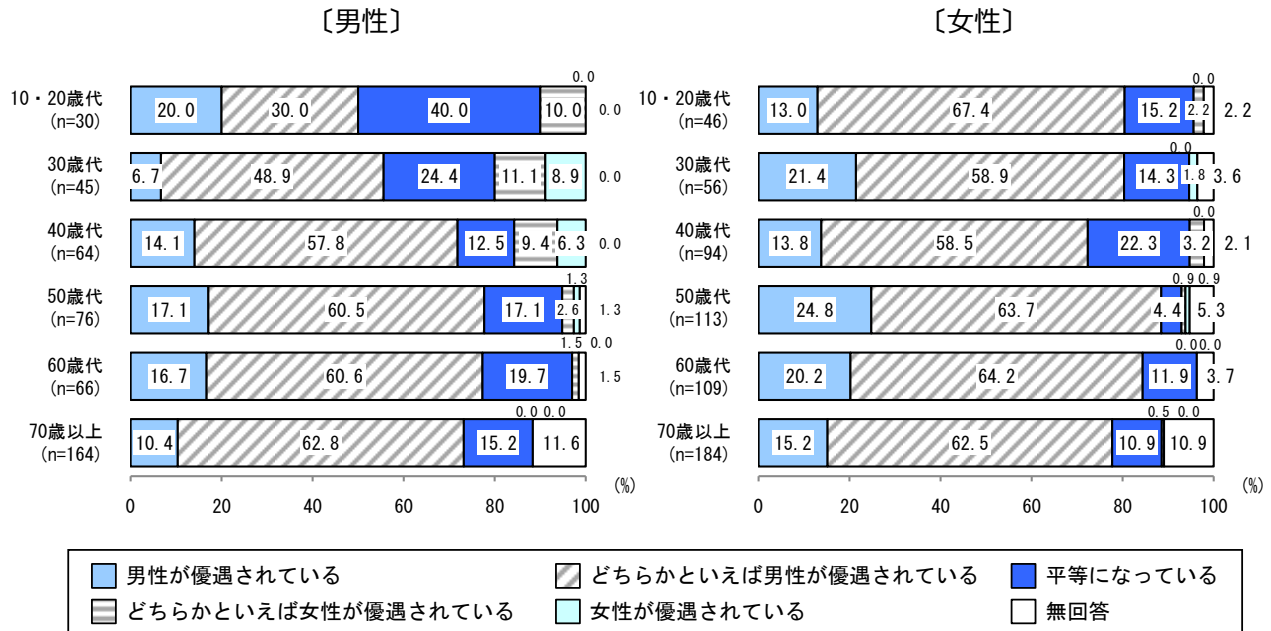
⑥法律や制度の上



⑦社会通念・慣習・しきたりなど



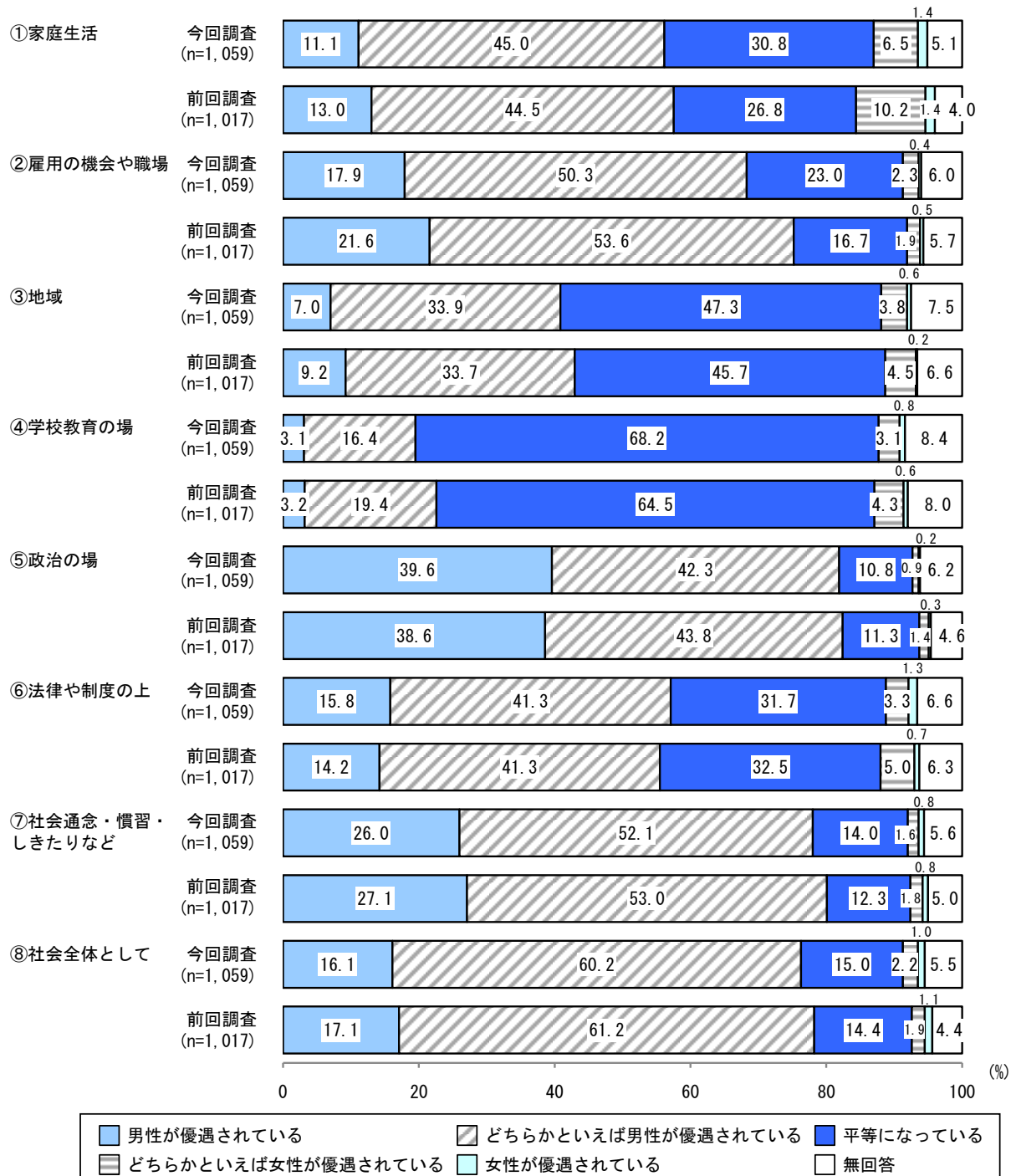
⑧社会全体として



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、『男性優遇』は“⑥法律や制度の上”を除いた項目で前回より割合が低くなっており、なかでも“②雇用の機会や職場”は前回より7.0ポイント低くなっている。

【図 各分野の男女の地位の平等感（前回調査との比較）】

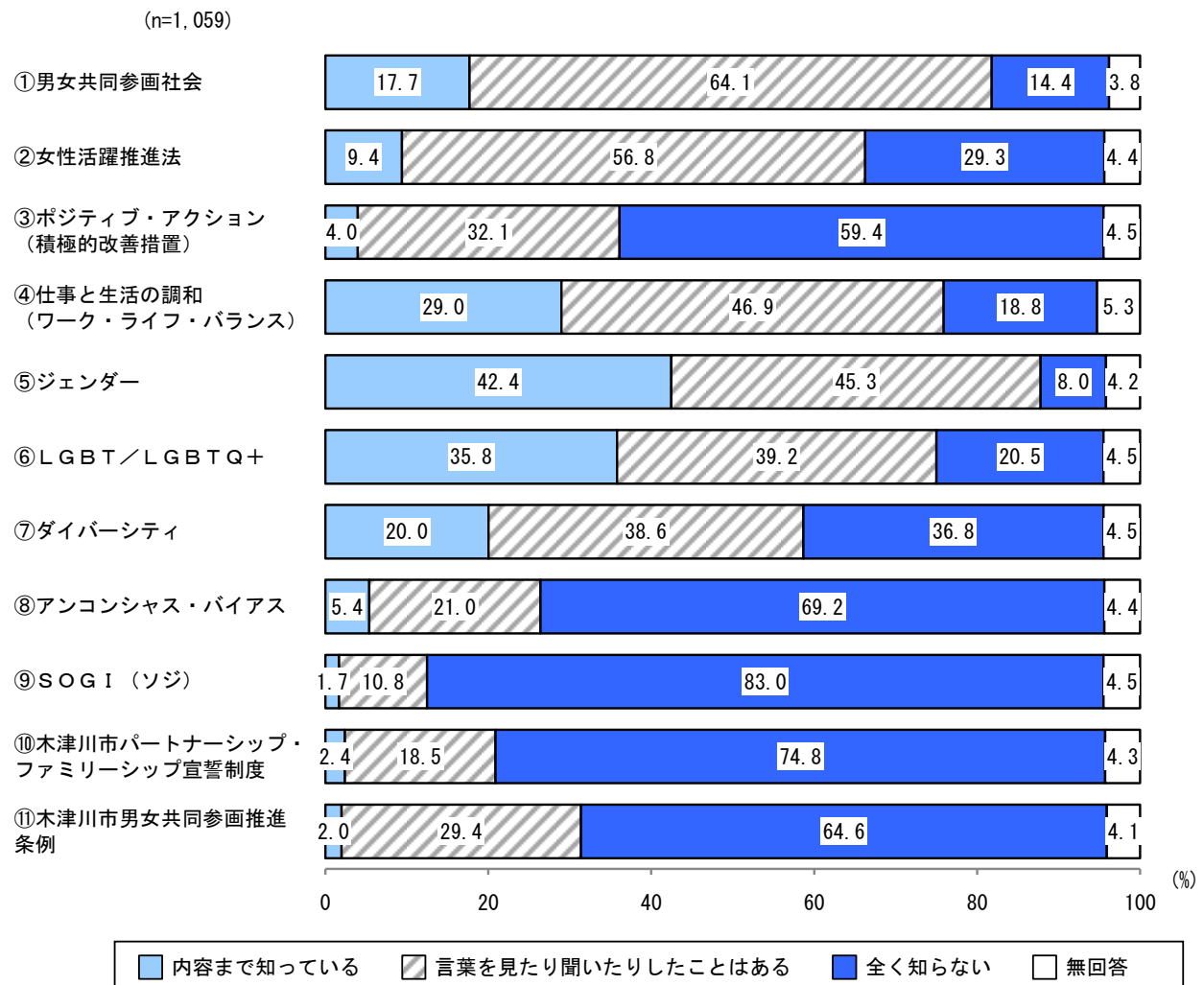


(3) 男女共同参画に関する用語の認知度

問27 あなたは、次の「言葉」や「事柄」、「取り組み」についてご存知ですか。

男女共同参画に関する用語の認知度をたずねたところ、「内容まで知っている」は“⑤ジェンダー”が42.4%で最も高く、次いで“⑥LGBT／LGBTQ+”が35.8%、“④仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）”が29.0%、“⑦ダイバーシティ”が20.0%となっている。「内容まで知っている」と「言葉を見たり聞いたりしたことはある」をあわせた認知度は、“⑤ジェンダー”が87.7%で最も高く、次いで“①男女共同参画社会”が81.8%となっている。一方、「全く知らない」は“⑨SOGI（ソジ）”が83.0%で最も高く、次いで“⑩木津川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度”が74.8%、“⑧アンコンシャス・バイアス”が69.2%となっている。

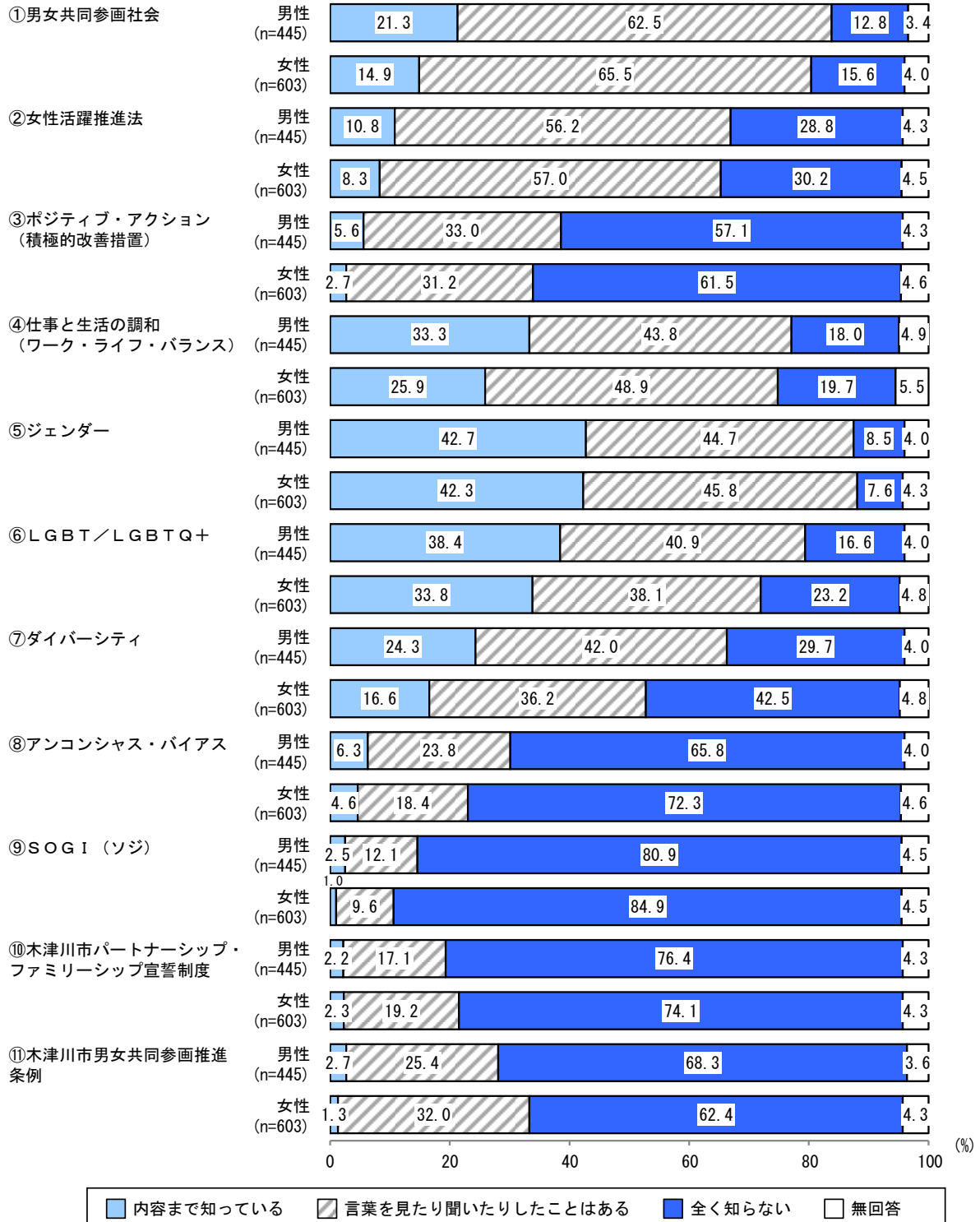
【図 男女共同参画に関する用語の認知度】



【性別】

性別にみると、「内容まで知っている」は、“⑩木津川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度”以外の用語ではいずれも女性より男性のほうが高くなっている。認知度では、“⑦ダイバーシティ”は女性より男性のほうが13.5ポイント高くなっている。

【図 性別 男女共同参画に関する用語の認知度】



【性年齢別】

<①男女共同参画社会>

性年齢別にみると、男性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が30.0%で最も高いが、認知度は60歳代が87.9%で最も高くなっている。女性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が30.4%で最も高く、認知度は60歳代が90.8%で最も高くなっている。

<②女性活躍推進法>

性年齢別にみると、男性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が23.3%で最も高いが、認知度は60歳代が77.3%で最も高くなっている。女性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が23.9%で最も高く、認知度は40歳代が77.6%で最も高くなっている。

<③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）>

性年齢別にみると、男性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が13.3%で最も高いが、認知度は50歳代が48.7%で最も高くなっている。女性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が8.7%で最も高く、認知度は10・20歳代が56.5%で最も高くなっている。

<④仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）>

性年齢別にみると、男性では、「内容まで知っている」は30歳代が60.0%で最も高く、認知度も30歳代が91.1%で最も高くなっている。女性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が60.9%で最も高く、認知度は30歳代が92.9%で最も高くなっている。

<⑤ジェンダー>

性年齢別にみると、男性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が73.3%で最も高く、認知度は40歳代が98.5%で最も高くなっている。女性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が82.6%で最も高い。認知度も10・20歳代が100.0%で最も高く、60歳代までの年代では9割を超えている。

<⑥LGBT／LGBTQ+>

性年齢別にみると、男性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が73.3%で最も高く、認知度は30歳代が93.3%で最も高くなっている。女性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が76.1%で最も高く、認知度も10・20歳代が95.7%で最も高くなっている。

<⑦ダイバーシティ>

性年齢別にみると、男性では、「内容まで知っている」は30歳代が37.8%で最も高く、認知度は40歳代が84.4%で最も高くなっている。女性では、「内容まで知っている」は10・20歳代が45.7%で最も高く、認知度は40歳代が73.4%で最も高く、70歳以上では26.1%と最も低い割合となっている。

<⑧アンコンシャス・バイアス>

性年齢別にみると、男性では、「内容まで知っている」は30歳代が15.6%で最も高く、認知度は40歳代が43.7%で最も高くなっている。女性では、「全く知らない」は70歳以上が79.9%で最も高く、認知度は50歳代が35.4%で最も高く、70歳以上が8.7%と1割に満たない。

<⑨SOGI（ソジ）>

性年齢別にみると、男性では、「全く知らない」は10・20歳代と60歳代がともに83.3%で最も高く、認知度は30歳代が22.2%で最も高くなっている。女性では、「全く知らない」は40歳代が89.4%で最も高く、認知度は10・20歳代が15.2%で最も高くなっている。

<⑩木津川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度>

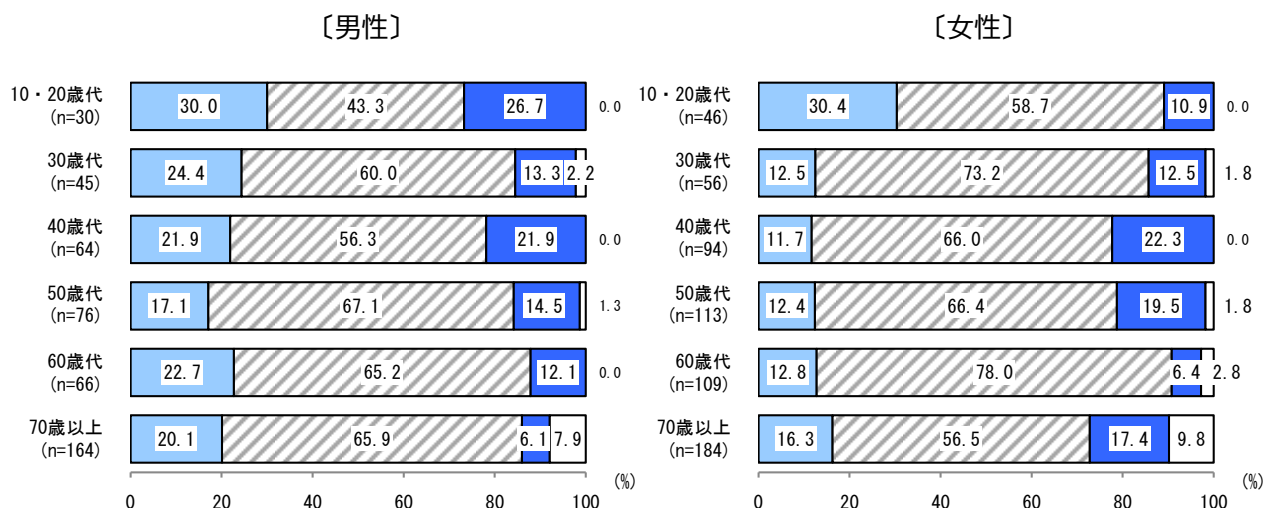
性年齢別にみると、男性では、「全く知らない」は10・20歳代が86.7%で最も高く、認知度は40歳代が26.6%で最も高くなっている。女性では、「全く知らない」は40歳代が84.0%で最も高く、認知度は60歳代が27.5%で最も高くなっている。

<⑪木津川市男女共同参画推進条例>

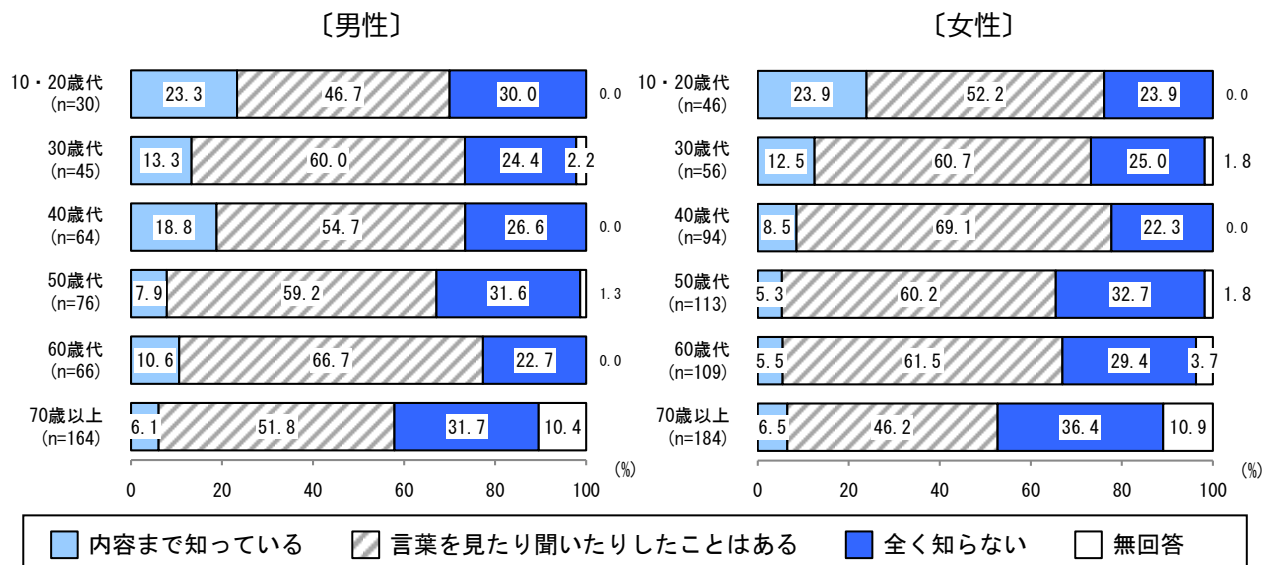
性年齢別にみると、男性では、「全く知らない」は10・20歳代が86.7%で最も高く、認知度は70歳以上が37.2%で最も高くなっている。女性では、「全く知らない」は10・20歳代が80.4%で最も高くなっている。認知度は高齢になるほど割合が高くなり、70歳以上が40.7%で最も高くなっている。

【図 性年齢別 男女共同参画に関する用語の認知度】

①男女共同参画社会

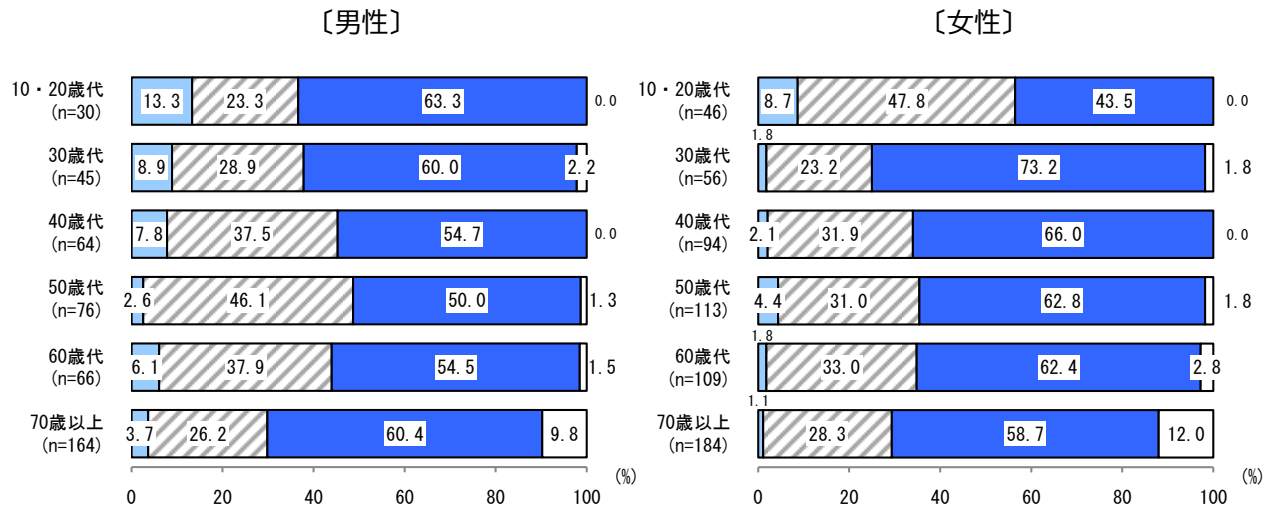


②女性活躍推進法

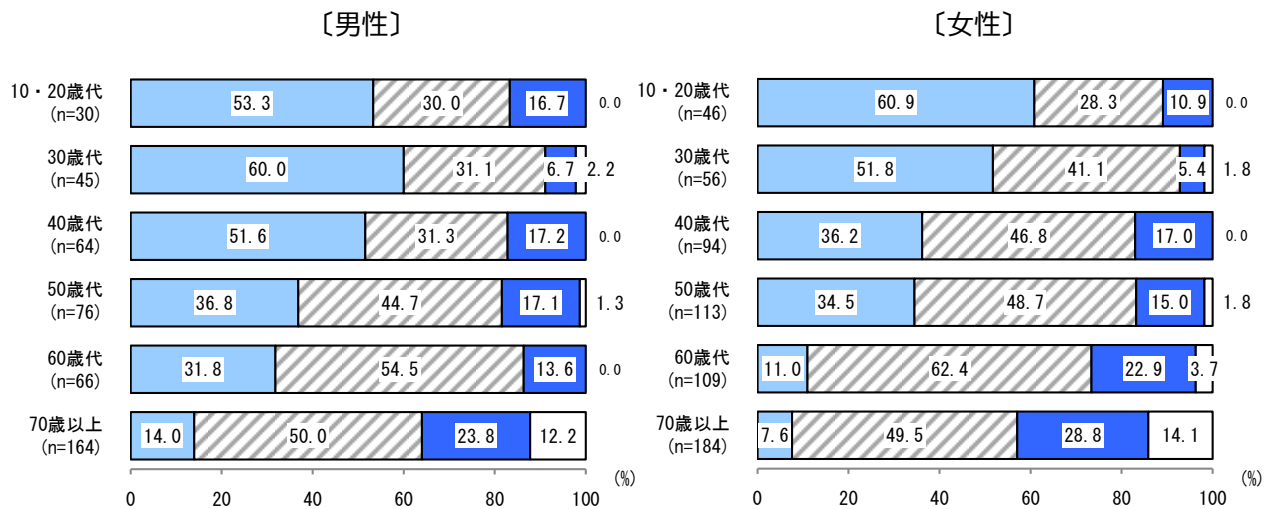


■ 内容まで知っている ■ 言葉を見たり聞いたりしたことはある ■ 全く知らない □ 無回答

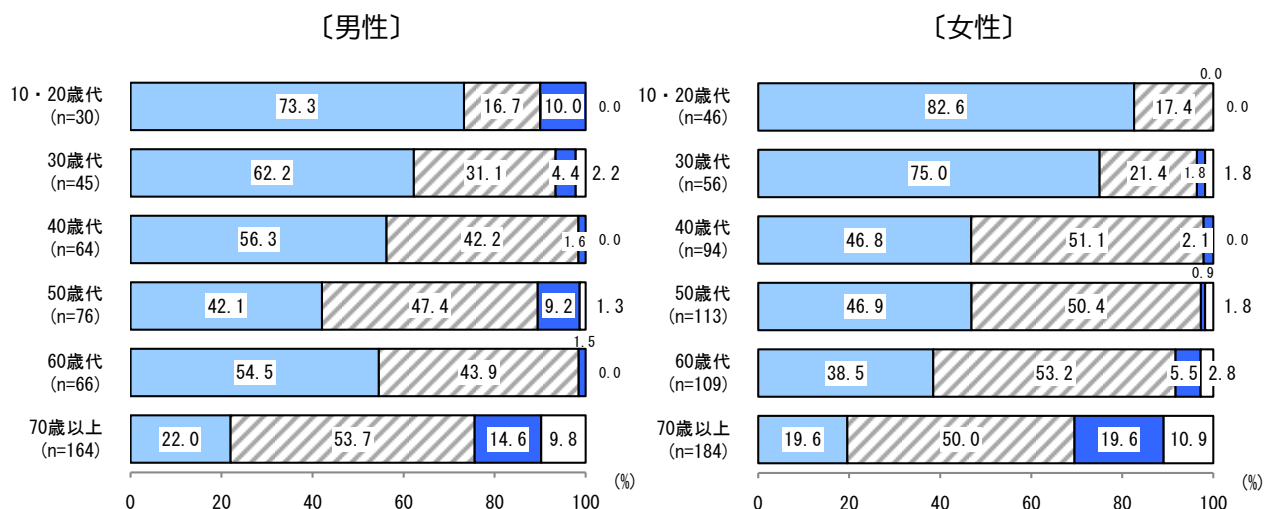
③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



④仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）



⑤ジェンダー



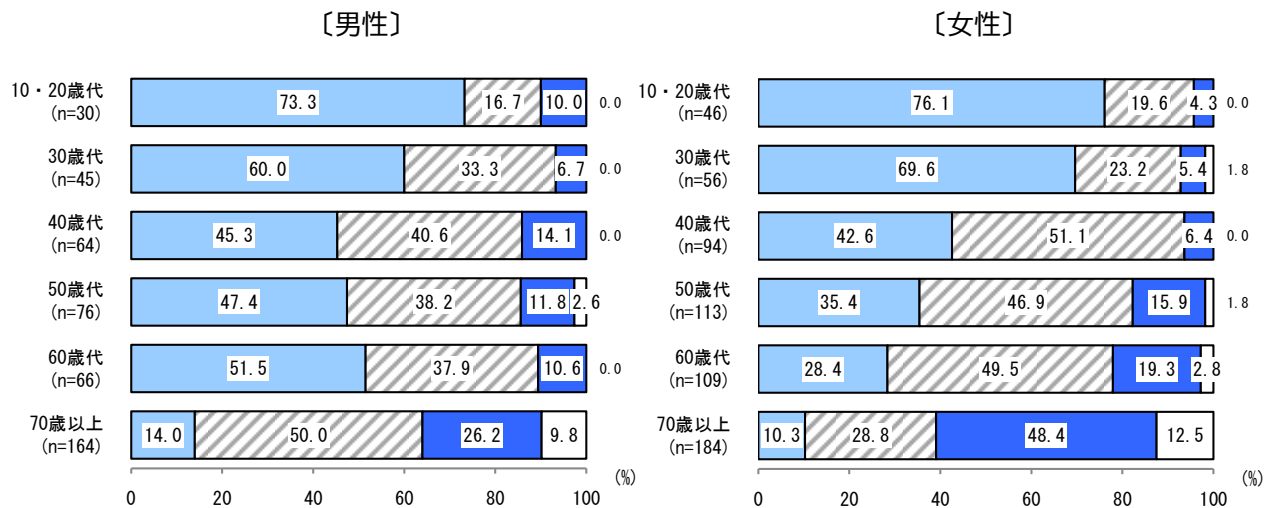
内容まで知っている

言葉を見たり聞いたりしたことはある

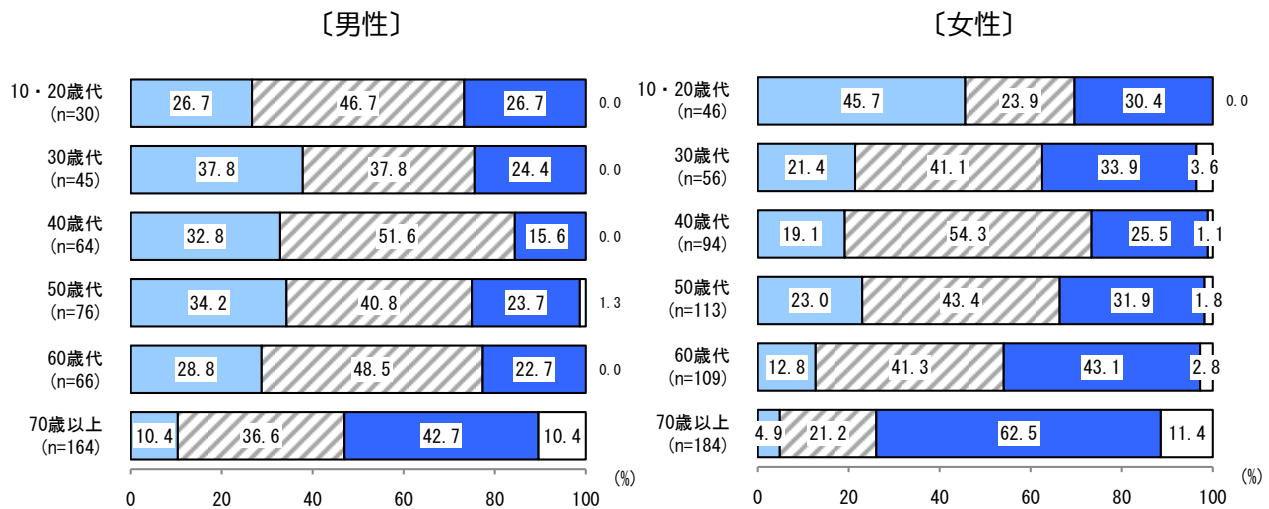
全く知らない

無回答

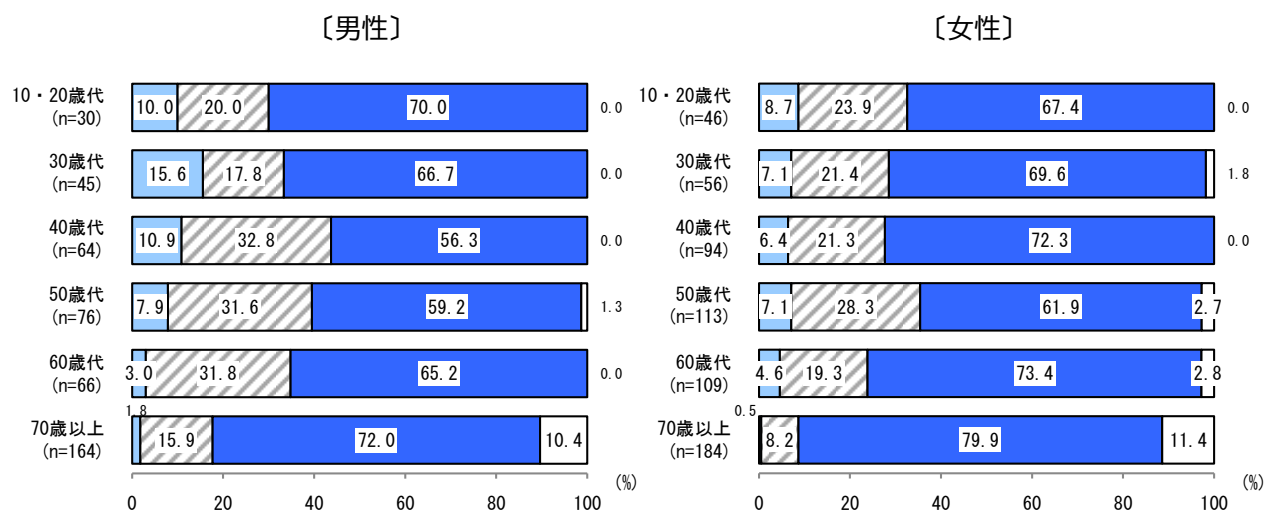
⑥LGBT／LGBTQ+



⑦ダイバーシティ

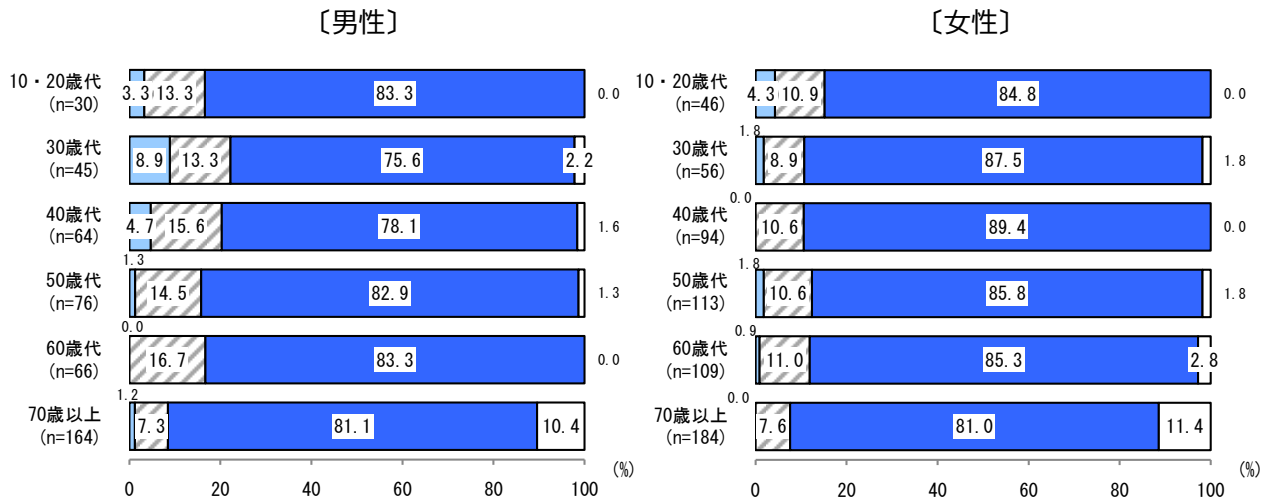


⑧アンコンシャス・バイアス

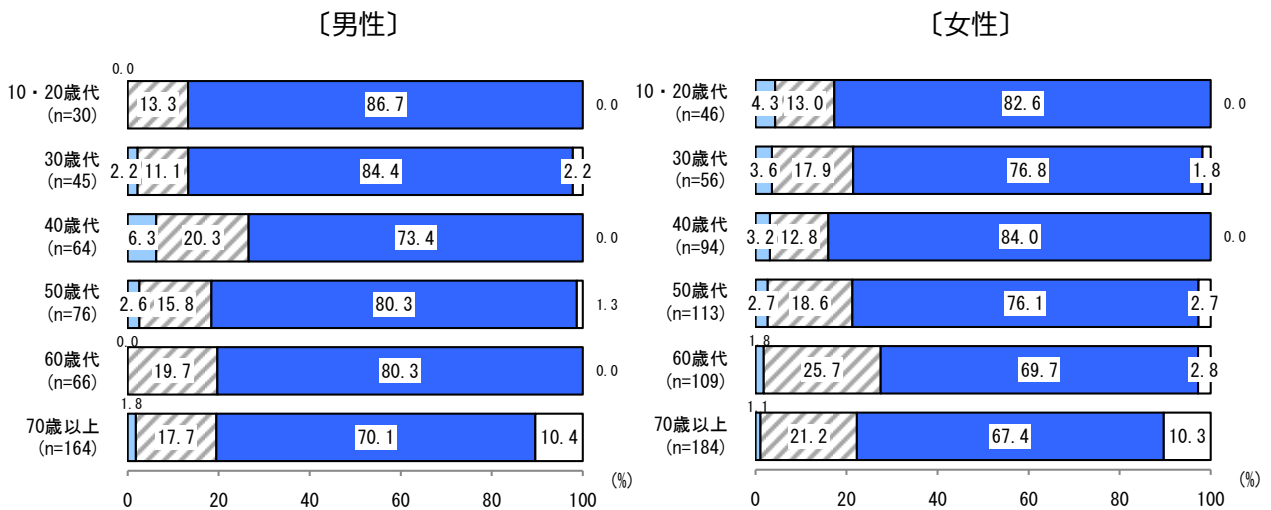


内容まで知っている
 言葉を見たり聞いたりしたことはある
 全く知らない
 無回答

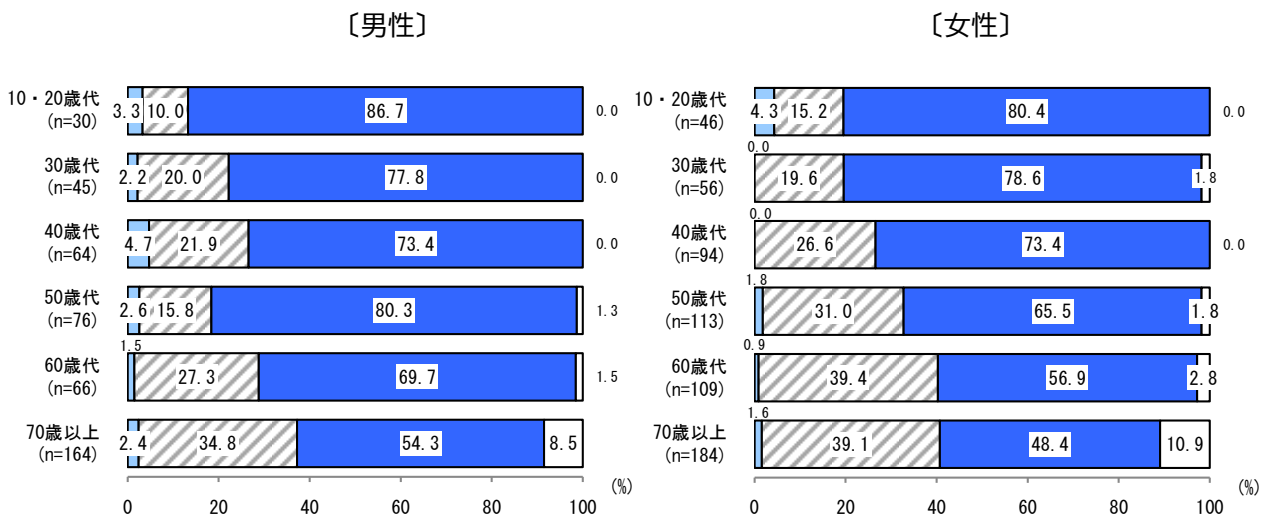
⑨SOGI（ソジ）



⑩木津川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度



⑪木津川市男女共同参画推進条例

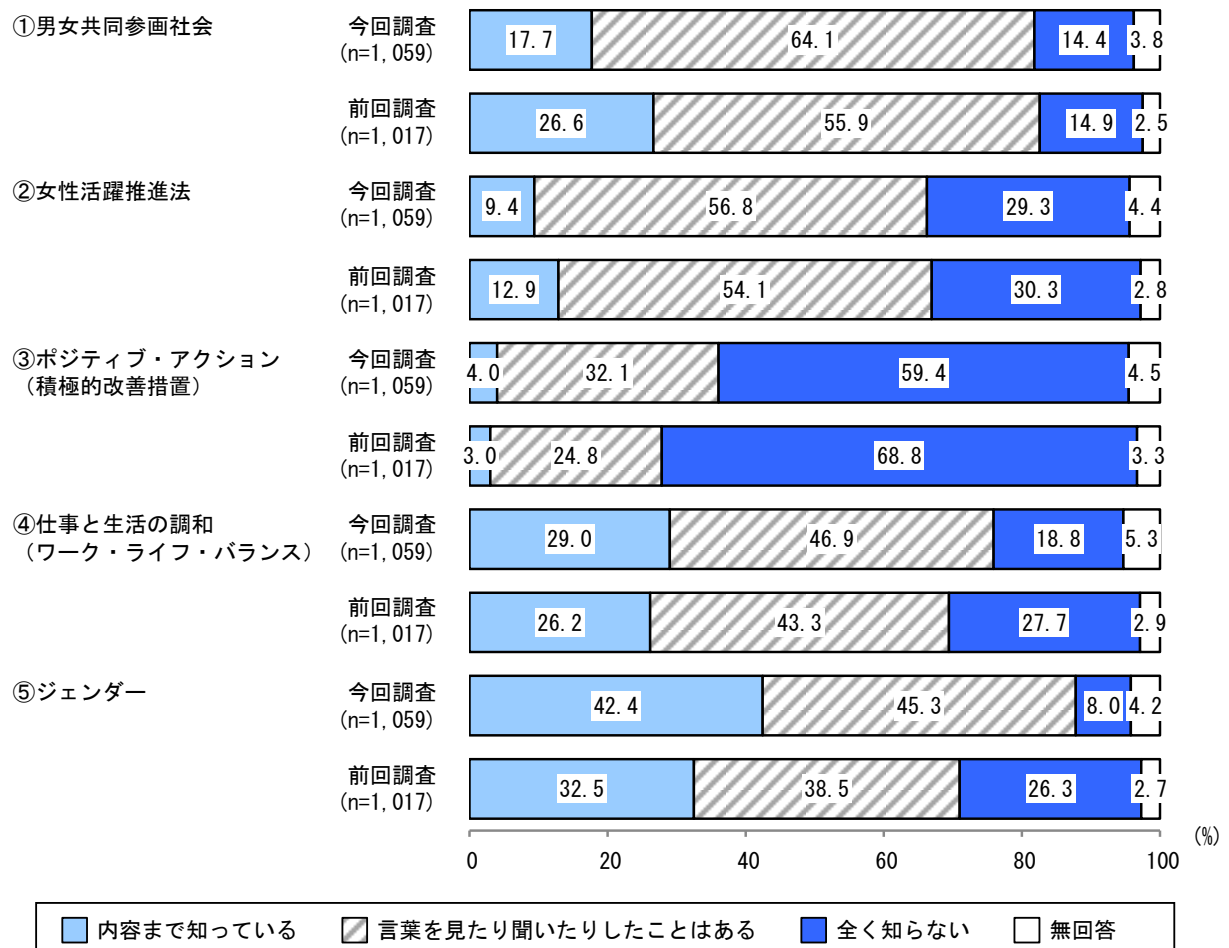


内容まで知っている
 言葉を見たり聞いたりしたことはある
 全く知らない
 無回答

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、認知度は、“⑤ジェンダー”の割合が前回より16.7ポイント高く、“③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）”も前回より8.3ポイント高くなっている。

【図 男女共同参画に関する用語の認知度（前回調査との比較）】



※前回調査の「③候補者男女均等法」は今回調査では削除。

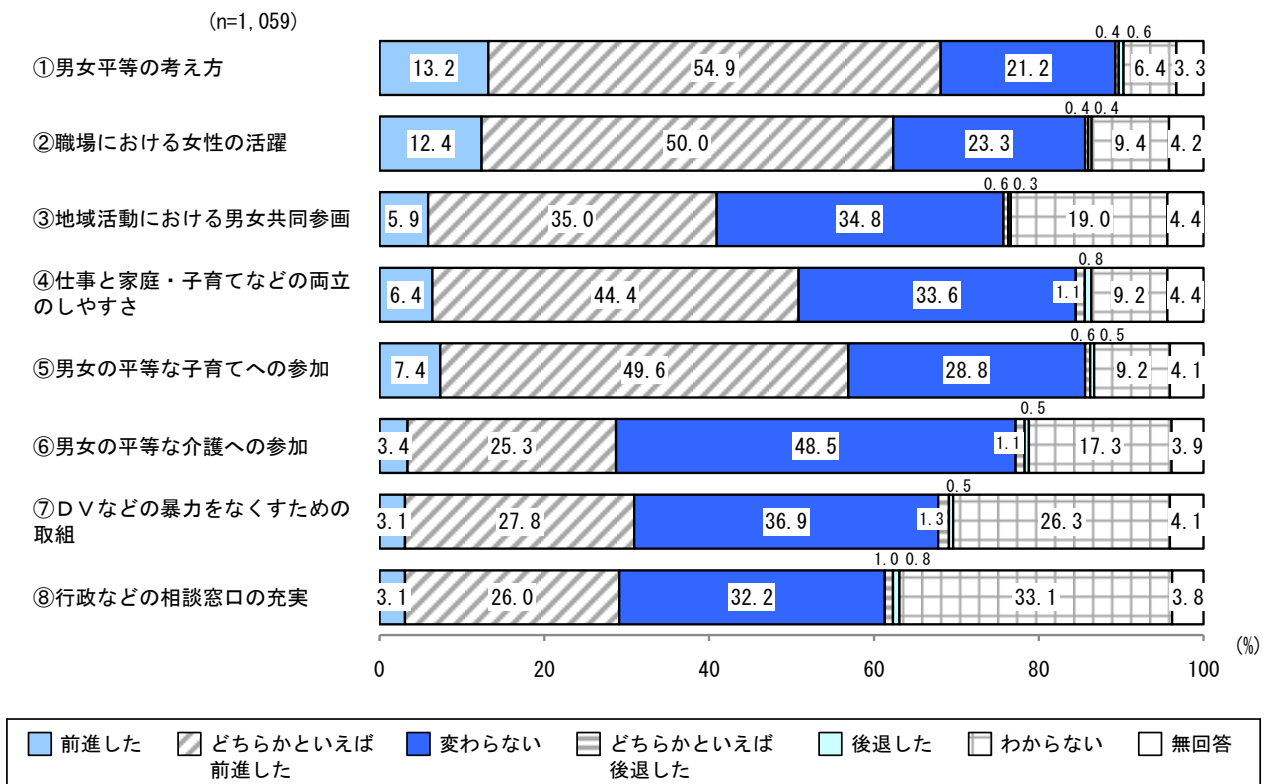
※今回調査の「⑥LGBT／LGBTQ+」、「⑦ダイバーシティ」、「⑧アンコンシャス・バイアス」、「⑨SOGI（ソジ）」、「⑩木津川市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」、「⑪木津川市男女共同参画推進条例」は新規項目。

(4) この10年間の男女共同参画の変化

問28 この10年間で、あなたの周囲の状況から判断して次の事柄はどの程度進んだと思いますか。

この10年間の男女共同参画の変化については、「前進した」と「どちらかといえば前進した」をあわせた『前進』は“①男女平等の考え方”が68.0%で最も高く、次いで“②職場における女性の活躍”が62.4%、“⑤男女の平等な子育てへの参加”が57.0%となっている。「変わらない」は“⑥男女の平等な介護への参加”が48.5%で最も高く、次いで“⑦DVなどの暴力をなくすための取組”が36.9%となっている。

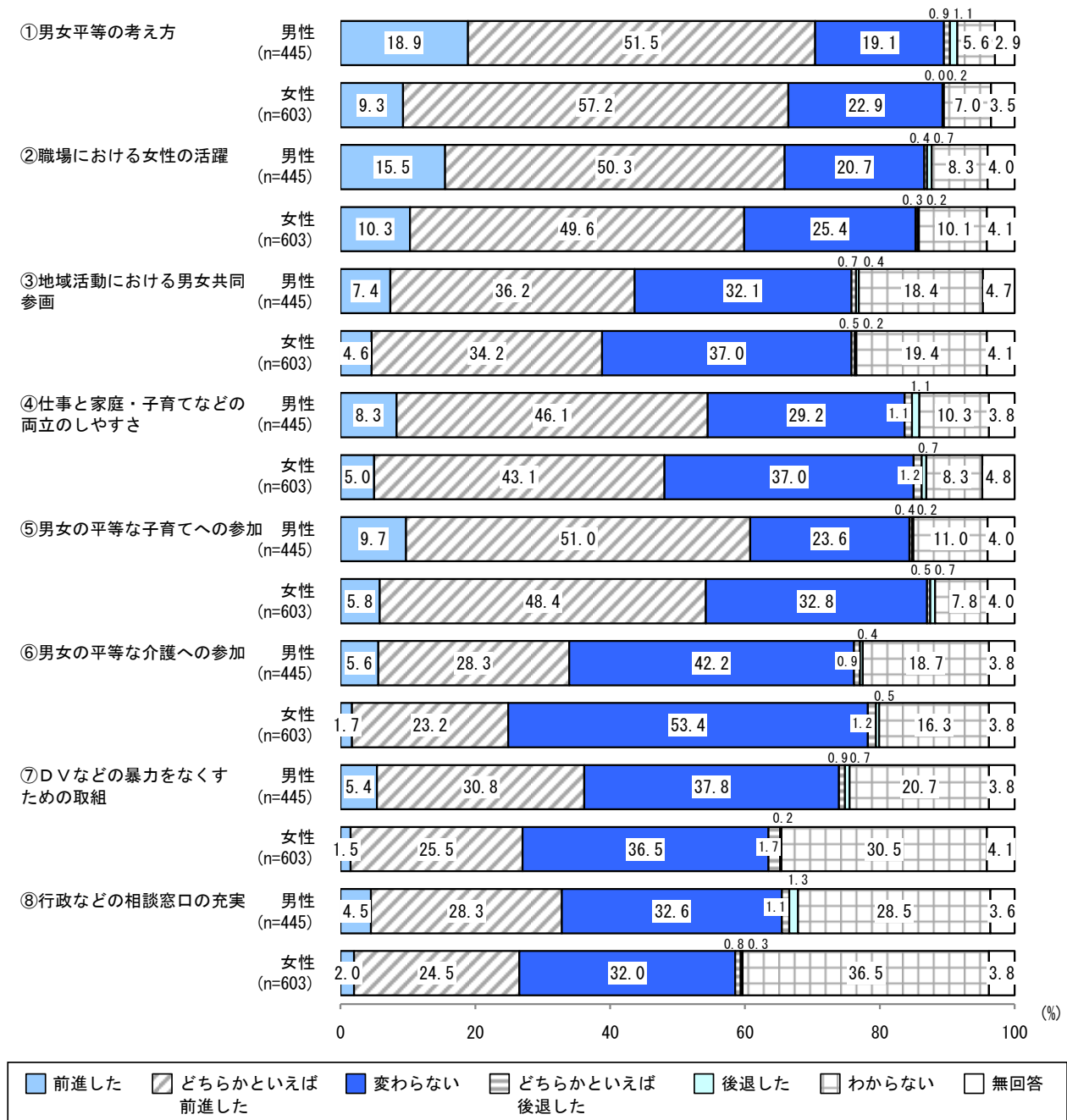
【図 この10年間の男女共同参画の変化】



【性別】

性別にみると、『前進』はすべての項目で女性より男性のほうが高く、“⑦DVなどの暴力をなくすための取組”では男性のほうが9.2ポイント高くなっている。

【図 性別 この10年間の男女共同参画の変化】



【性年齢別】

<①男女平等の考え方>

性年齢別にみると、男性では、『前進』は50歳代が76.3%で最も高く、次いで10・20歳代が73.3%となっている。女性では、『前進』は10・20歳代が76.0%で最も高く、次いで30歳代が75.0%となっている。

<②職場における女性の活躍>

性年齢別にみると、男性では、『前進』は50歳代が73.7%で最も高く、次いで40歳代が71.8%となっている。女性では、『前進』は10・20歳代が69.6%で最も高く、次いで60歳代が67.9%となっている。

<③地域活動における男女共同参画>

性年齢別にみると、男性では、『前進』は50歳代が47.3%で最も高く、次いで60歳代が47.0%となっている。女性では、『前進』は10・20歳代が45.7%で最も高く、次いで70歳以上が43.0%となっている。

<④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ>

性年齢別にみると、男性では、『前進』は50歳代が69.8%で最も高く、次いで30歳代と40歳代がともに57.8%となっている。女性では、『前進』は60歳代が54.1%で最も高く、次いで10・20歳代が52.2%となっている。

<⑤男女の平等な子育てへの参加>

性年齢別にみると、男性では、『前進』は50歳代が76.3%で最も高く、次いで30歳代が73.3%となっている。女性では、『前進』は60歳代が64.2%で最も高く、次いで10・20歳代が56.5%となっている。

<⑥男女の平等な介護への参加>

性年齢別にみると、男性では、『前進』は50歳代が40.8%で最も高く、次いで70歳以上が36.0%となっている。女性では、『前進』は70歳以上が33.7%で最も高く、次いで10・20歳代が32.6%となっている。

<⑦DVなどの暴力をなくすための取組>

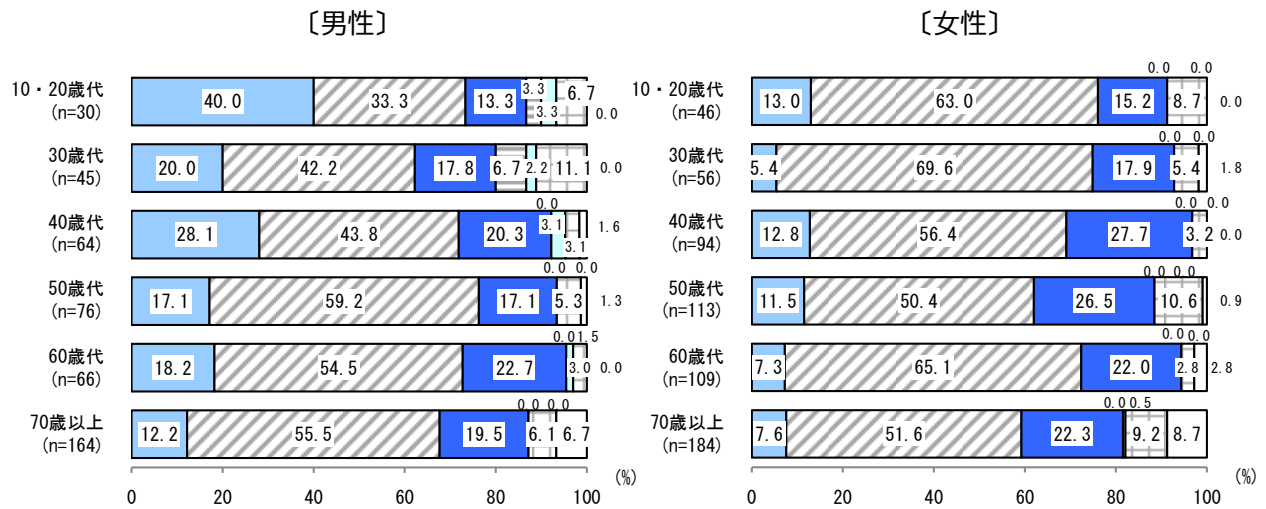
性年齢別にみると、男性では、『前進』は50歳代が40.8%で最も高く、次いで10・20歳代が40.0%となっている。女性では、『前進』は60歳代が29.4%で最も高く、次いで50歳代が29.2%となっている。

<⑧行政などの相談窓口の充実>

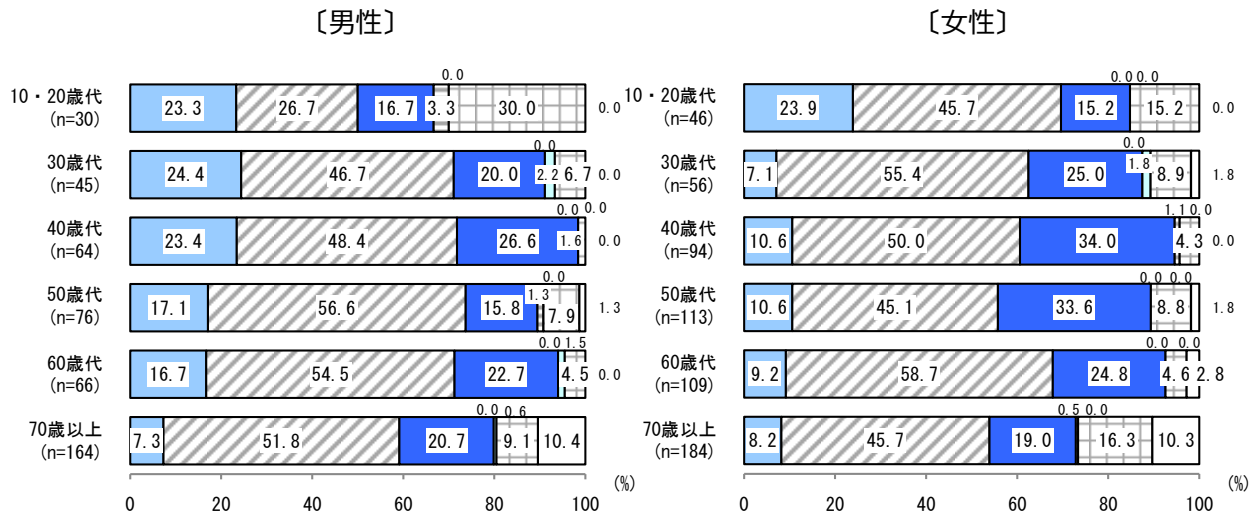
性年齢別にみると、男性では、『前進』は10・20歳代が40.0%で最も高く、次いで70歳以上が34.7%となっている。女性では、『前進』は10・20歳代が32.6%で最も高く、次いで60歳代が30.3%となっている。

【図 性年齢別 この10年間の男女共同参画の変化】

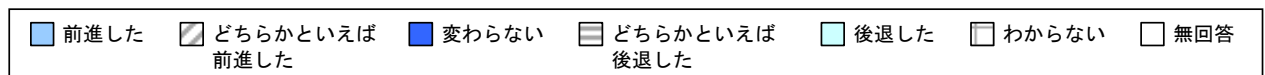
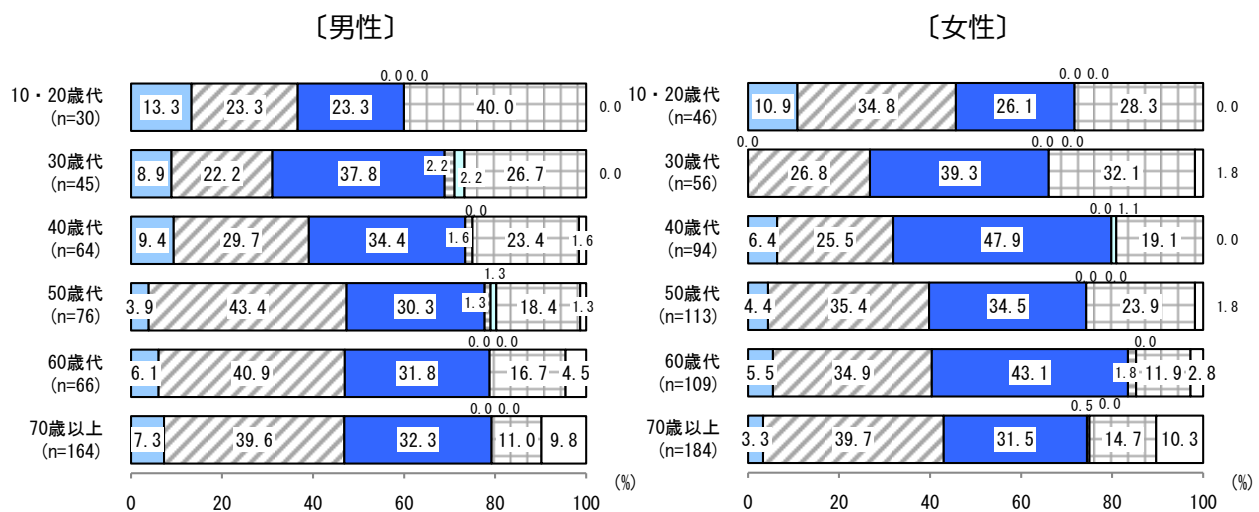
①男女平等の考え方



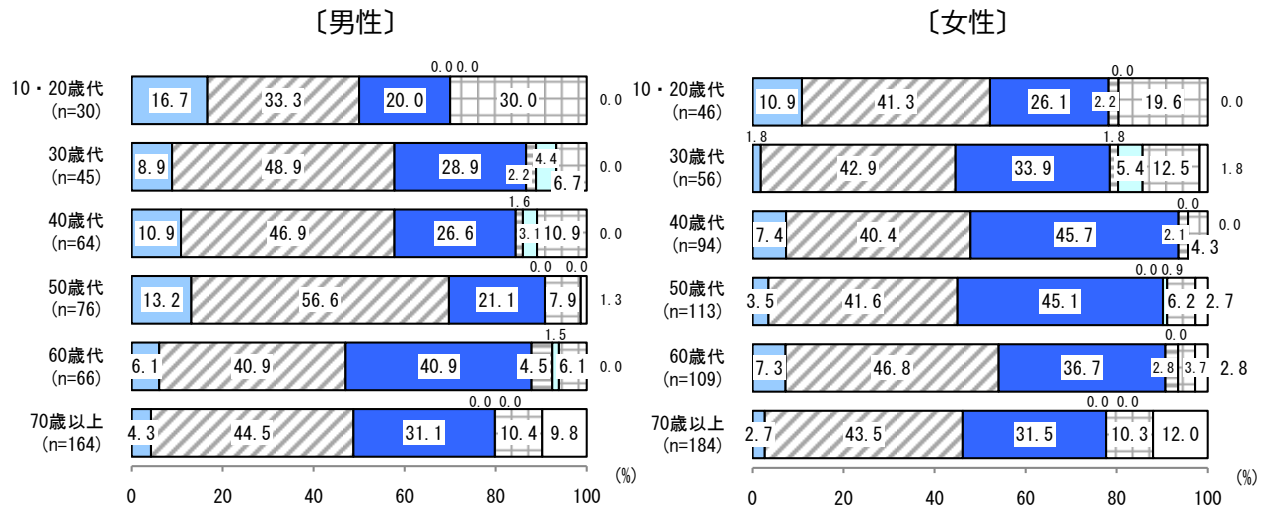
②職場における女性の活躍



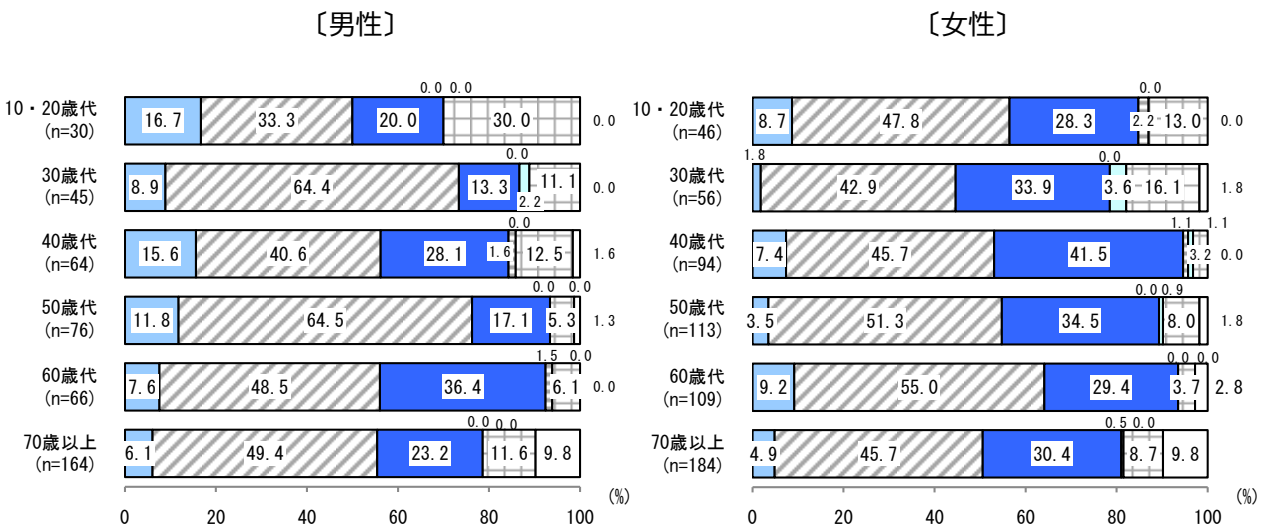
③地域活動における男女共同参画



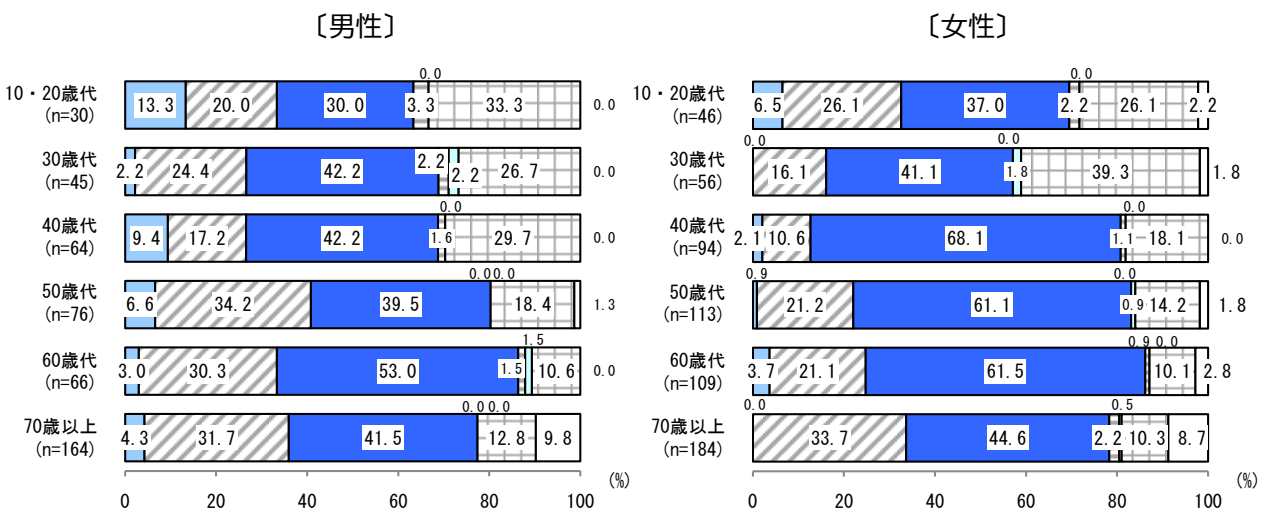
④仕事と家庭・子育てなどの両立のしやすさ



⑤男女の平等な子育てへの参加

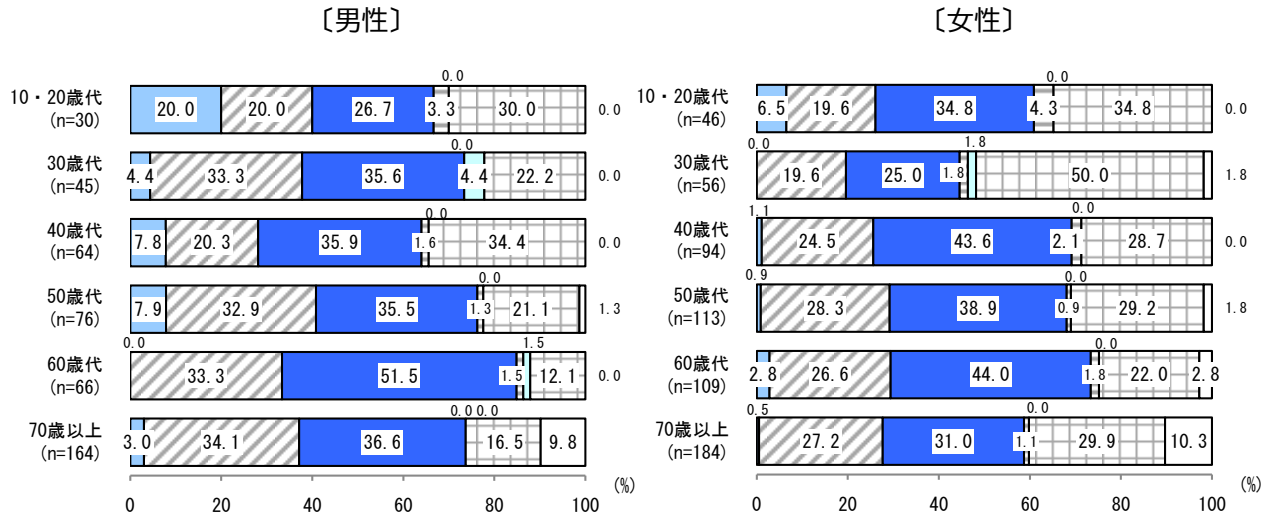


⑥男女の平等な介護への参加

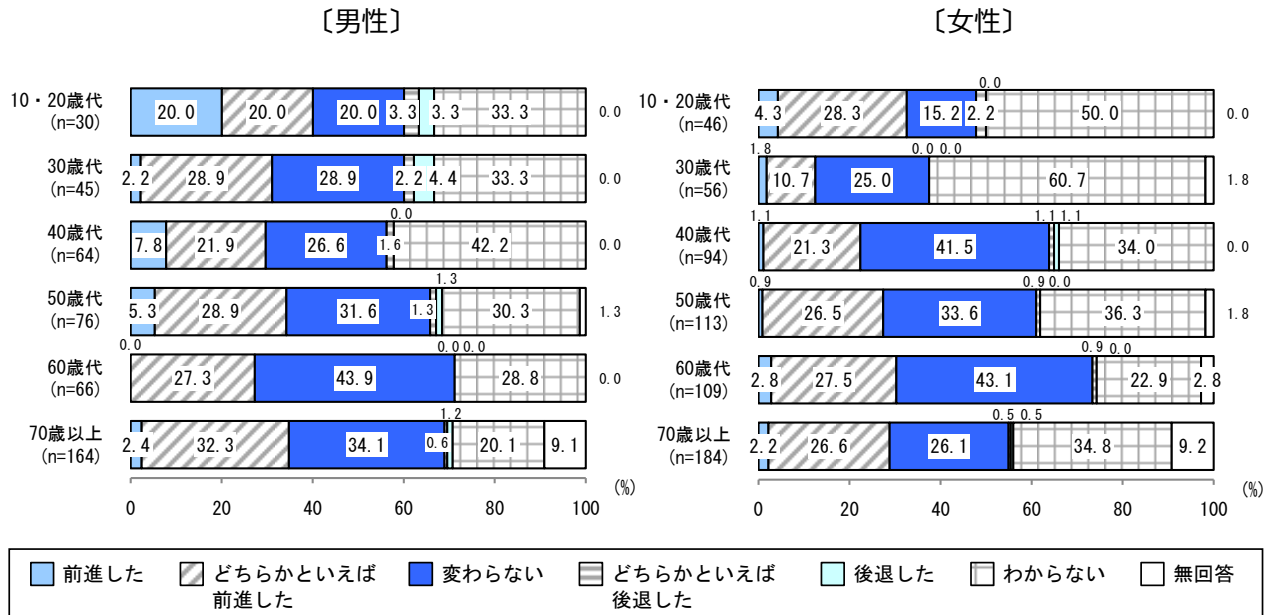


前進した
 どちらかといえば前進した
 変わらない
 どちらかといえば後退した
 後退した
 わからない
 無回答

⑦DVなどの暴力をなくすための取組



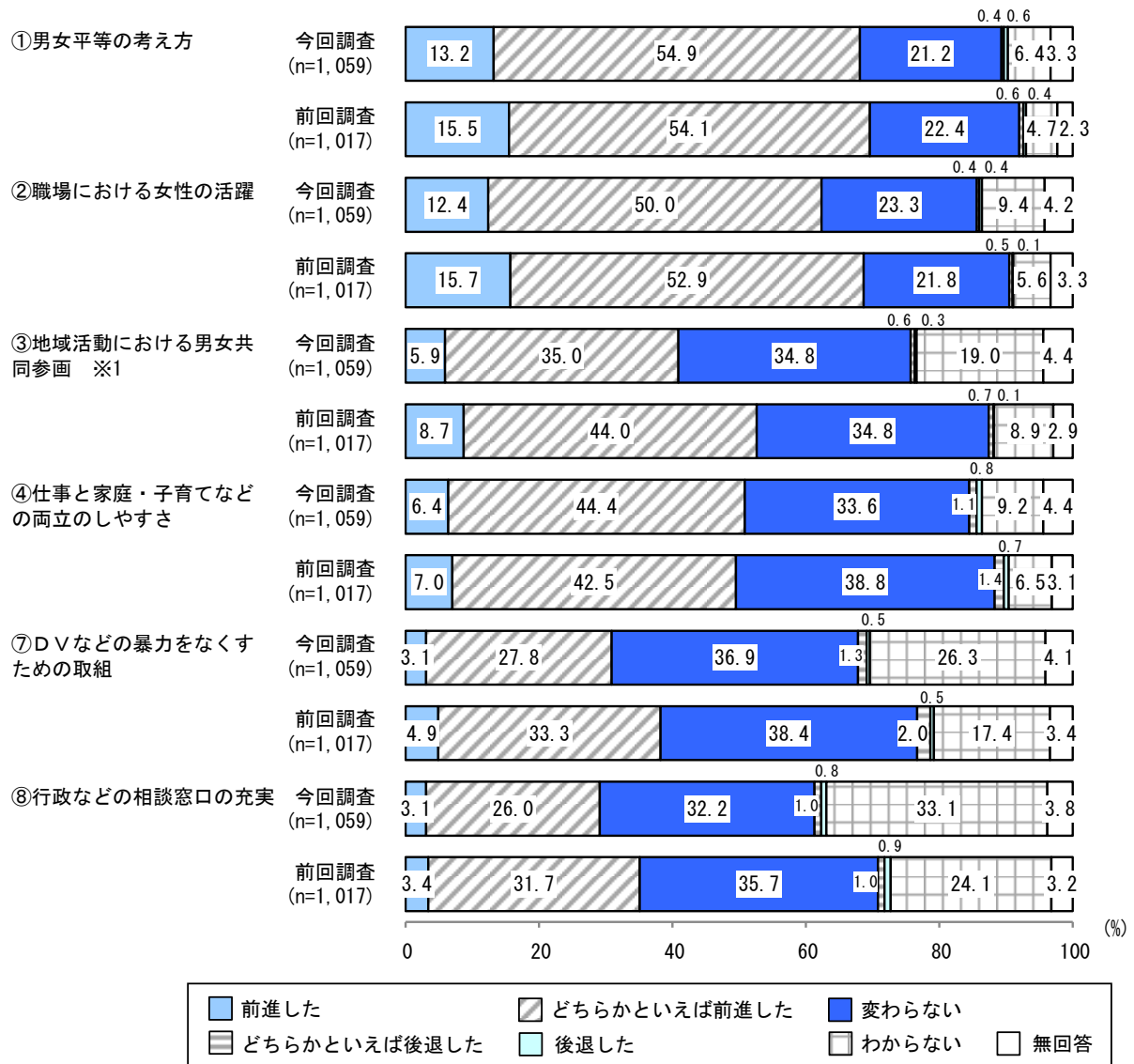
⑧行政などの相談窓口の充実



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、『前進』は“③地域活動における男女共同参画”の割合が前回より11.8ポイント、“⑦DVなどの暴力をなくすための取組”の割合が前回より7.3ポイント、それぞれ低くなっている。

【図 この10年間の男女共同参画の変化（前回調査との比較）】



※1 前回調査では「③地域活動における女性の活躍」

※ 前回調査の「⑤男性の子育て、介護への参加」を削除。

※ 「⑤男女の平等な子育てへの参加」と「⑥男女の平等な介護への参加」は新規項目。

(5) 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと

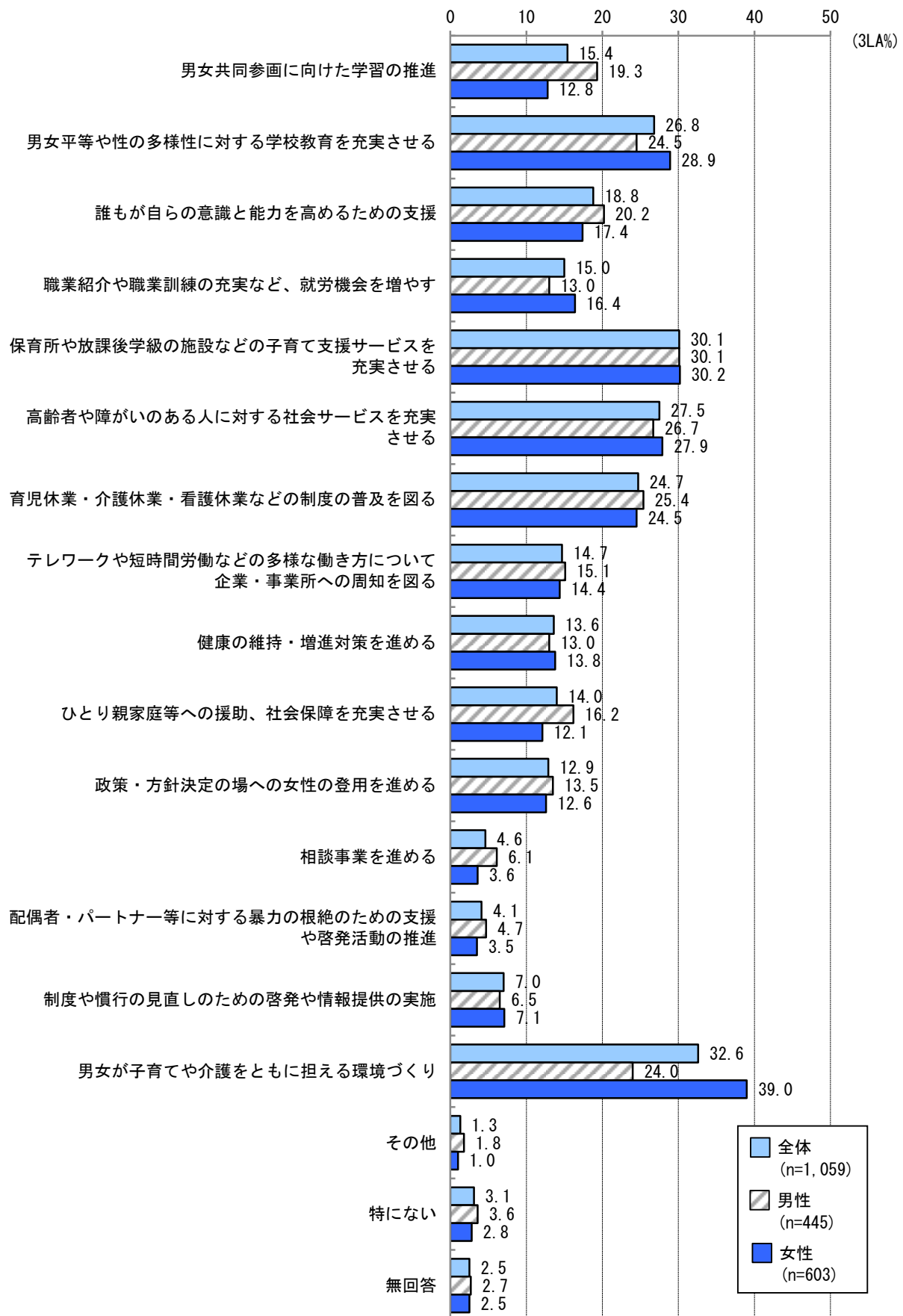
問29 男女共同参画社会をめざして、行政が今後さらに力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。(〇は3つまで)

男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきことについては、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が32.6%で最も多く、次いで「保育所や放課後学級の施設などの子育て支援サービスを充実させる」が30.1%、「高齢者や障がいのある人に対する社会サービスを充実させる」が27.5%となっている。

性別にみると、男性は、「保育所や放課後学級の施設などの子育て支援サービスを充実させる」が30.1%で最も多く、次いで「高齢者や障がいのある人に対する社会サービスを充実させる」が26.7%、「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図る」が25.4%となっている。

女性は、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が39.0%で最も多く、次いで「保育所や放課後学級の施設などの子育て支援サービスを充実させる」が30.2%、「男女平等や性の多様性に対する学校教育を充実させる」が28.9%となっている。

【図 性別 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと】



【性年齢別】

性年齢別にみると、男性では、30歳代では「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図る」が最も多く、40歳代、50歳代では「保育所や放課後学級の施設などの子育て支援サービスを充実させる」が最も多くなっている。また、「高齢者や障がいのある人に対する社会サービスを充実させる」は高齢になるほど割合が高く、70歳以上が32.3%で最も高くなっている。女性では、30歳代では「保育所や放課後学級の施設などの子育て支援サービスを充実させる」が最も多く、40歳代、50歳代、60歳代では「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」が最も多くなっている。

【表 性年齢別 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと】

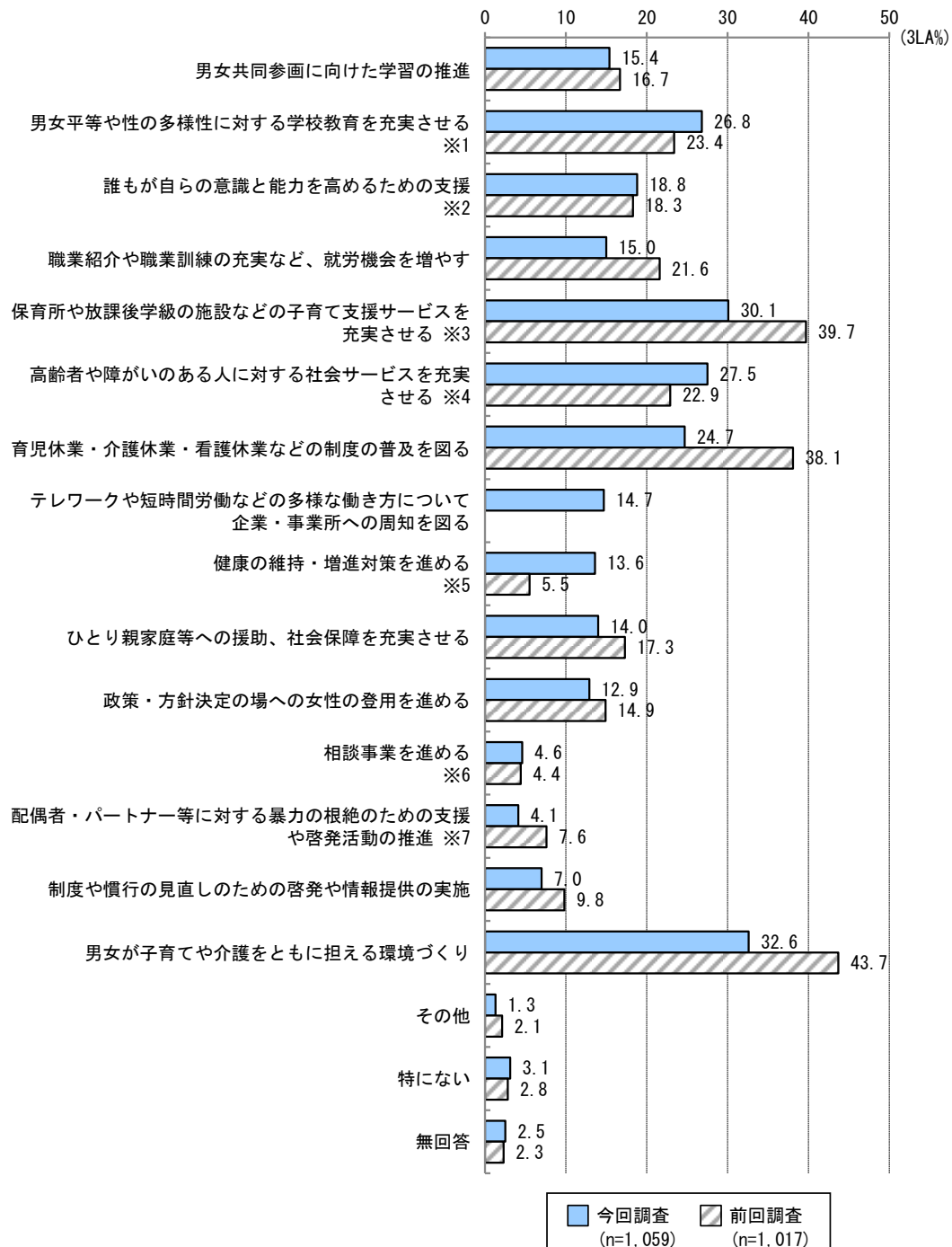
(31A%)												
		回答者数（n）	男女共同参画に向けた学習の推進	男女平等や性の多様性に対する学校教育を充実させる	誰もが自らの意識と能力を高めるための支援	職業紹介や職業訓練の充実など、就業機会を増やす	保育所や放課後学級の施設などの子育て支援サービスを充実させる	高齢者や障がいのある人に対する社会サービスを充実させる	育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図る	業・多様な働き方に関する周知を図る	健康の維持・増進対策を進める	
全 体		1,059	15.4	26.8	18.8	15.0	30.1	27.5	24.7	14.7	13.6	
年 齢 別	男 性	10・20歳代	30	26.7	36.7	23.3	13.3	33.3	13.3	20.0	20.0	6.7
		30歳代	45	8.9	17.8	17.8	17.8	37.8	17.8	51.1	28.9	4.4
		40歳代	64	17.2	21.9	26.6	17.2	28.1	23.4	21.9	18.8	15.6
		50歳代	76	17.1	27.6	21.1	7.9	36.8	25.0	27.6	11.8	14.5
		60歳代	66	16.7	25.8	22.7	15.2	30.3	30.3	24.2	13.6	10.6
		70歳以上	164	23.8	23.2	16.5	11.6	25.0	32.3	20.1	11.0	15.9
	女 性	10・20歳代	46	17.4	43.5	15.2	28.3	28.3	10.9	23.9	34.8	6.5
		30歳代	56	8.9	28.6	10.7	17.9	41.1	5.4	39.3	30.4	8.9
		40歳代	94	8.5	31.9	22.3	16.0	40.4	19.1	30.9	21.3	11.7
		50歳代	113	6.2	32.7	20.4	21.2	27.4	29.2	19.5	14.2	14.2
60歳代		109	15.6	25.7	12.8	12.8	35.8	33.9	29.4	5.5	11.9	
70歳以上	184	16.8	22.8	18.5	12.5	20.7	39.1	16.8	6.5	19.0		

		ひとり親家庭等への援助、社会保障を充実させる	政策・方針決定の場への女性の登用を進める	相談事業を進める	配偶者・パートナー等に対する暴力の根絶のための支援や啓発活動の推進	制度や慣行の見直しのための啓発や情報提供の実施	抱える環境づくり	男女が子育てや介護をともに	その他	特にない	無回答
全 体		14.0	12.9	4.6	4.1	7.0	32.6	1.3	3.1	2.5	
年 齢 別	男 性	10・20歳代	6.7	10.0	3.3	3.3	10.0	30.0	3.3	3.3	-
		30歳代	11.1	6.7	4.4	4.4	11.1	22.2	2.2	11.1	-
		40歳代	12.5	10.9	4.7	3.1	4.7	23.4	3.1	6.3	-
		50歳代	19.7	7.9	6.6	11.8	3.9	18.4	1.3	2.6	2.6
		60歳代	16.7	21.2	6.1	7.6	6.1	28.8	-	1.5	-
		70歳以上	18.9	16.5	7.3	1.2	6.7	24.4	1.8	1.8	6.1
	女 性	10・20歳代	10.9	10.9	4.3	8.7	8.7	41.3	-	2.2	-
		30歳代	5.4	14.3	-	7.1	3.6	33.9	3.6	1.8	-
		40歳代	10.6	8.5	9.6	1.1	8.5	42.6	-	5.3	1.1
		50歳代	12.4	18.6	3.5	0.9	10.6	36.3	1.8	1.8	0.9
60歳代		11.0	12.8	1.8	2.8	3.7	43.1	-	3.7	3.7	
70歳以上	15.8	10.9	2.7	4.3	7.1	37.5	1.1	2.2	4.9		

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図る」の割合が前回より13.4ポイント、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」の割合が前回より11.1ポイント、それぞれ低くなっている。

【図 男女共同参画社会をめざして行政が取り組むべきこと（前回調査との比較）】



- ※1 前回調査では「男女平等の学校教育を充実させること」
 ※2 前回調査では「女性自らの意識と能力を高めるための支援」
 ※3 前回調査では「保育所や放課後学級の施設などを充実させること」
 ※4 前回調査では「高齢者に対する社会サービスを充実させること」
 ※5 前回調査では「母性保護や健康の維持・増進対策を進めること」
 ※6 前回調査では「女性相談事業を進めること」
 ※7 前回調査では「配偶者・パートナー等に対する暴力の根絶のための支援」
 ※ 「テレワークや短時間労働などの多様な働き方について企業・事業所への周知を図る」は新規項目。

8. 自由意見

男女共同参画施策などについて、ご意見等を自由に記述していただいたところ、124人から延べ131件の意見が寄せられた。

意見分類ごとの件数は以下のとおり。

分類	件数
男女平等・男女共同参画の推進	38
男女共同参画に関する意識・啓発	19
子育て・子どもの教育について	16
行政の施策について	15
職場や就労について	11
アンケートについて	23
その他	9
合 計	131

分類ごとの意見は、次ページ以降に記入内容を掲載している。なお、原則として、原文のまま掲載しているが、明らかな誤字・脱字は修正している。

(1) 男女平等・男女共同参画の推進について (38件)

意 見
家庭においても社会においても男女関係なく人間として生き生きと暮らせるような社会になってほしい。学校教育や地域活動で一人一人平等になるように木津川市に住んで良かったと思えるような市に。
日本がこれほどまでに高齢化になったことは良いことですが、問題も多く、子育て世代、介護、そして性問題、もっと情報をつけるべきです。避けないようにいろんな個性があるから思いやりも生まれるような世の中にしたいです。なりたいです。私は障がいのある方、主人の親の介護、また障がいのある方の性などを仕事や家庭で体験してきました。えらそうでごめんなさいです。
平等が必ずしも良いとは思いません。「適材適所」があるかと思います。「男女平等」と言うワードに囚われ過ぎている社会だなと感じています。
私は社会が騒ぎ立てるほど日本の女性が男性から虐げられているとか不平等扱いされているとかそんなことは思いません。よく似合うヘアスタイル、メイク服装で生き生きと女性を満喫していると思います。世界の国別順位では日本の女性の置かれている立場は下位の方にあるが、例えば、企業での役員比率や政治家の女性比率が低いとか、そんなことより女性個人の人生が他国の女性と比べて豊かであればいいのではないのでしょうか。LGBTの人もテレビに多く出ているし、まさしく女性の時代と思っています。マスコミでは女性に対して男性から暴力、性加害等々報じられ、いかにも女性が不利のような印象を社会に与えていますが、どこの国でもあることでまだいい方と思っています。かといって、いい社会を作るために行政があるのなら、行政はこれらの撲滅に取り組まなければなりません。私は提案します。入り口二か所の住宅建設推進です。二所帯住宅の建設には公から百万単位の補助や税の優遇などして促進します。親は自分たちの飯代を若夫婦に支払い(夫婦二人で10~15万円程)、年金のゆとりで老後を楽しみ、若嫁はパートに行く必要もなくなります。親夫婦も老いてくれば自分で自分のことができなくなりますが、若夫婦がいれば不安も解消します。子育ては助けてもらえるし、家にいることは絶えず子ども愛情を注ぐことができます。出生率も上昇するでしょう。今の社会にはびこっている想像も考えることすらできない詐欺やパパ活や、殺人、暴力行為等々の要因は母親の不在による愛情不足にあると思っています。
男女が同等になる世界がいつか来ることを願っています。あれこれ言ってもまだまだ男社会だと思います。これからも、努力して行ってほしいと思います。
まず、あるべき姿を考えることが大切。このアンケートで何に役立つのかよく理解できない。木津川市の男女共同参画のあるべき姿を理解しておくことが重要。
高齢化社会の日本で、将来は稼働年齢人口の少ない中、日本の社会を支えていかなければいけません。そのためには、今よりもっと女性が社会での役割を果たす必要がでてきます。現状の社会構造や政策ではなかなかその役割を果たすことはできません。高齢者も社会参画していくような構造へ変化し、全世代で社会を支えていくような施策が今後必要になると感じました。地域において必要な新しい社会資源を色々な視点(様々な世代)から考えていければと思います。
住みやすいより良い社会を目指して、心がけを大切にしたいですし、一人一人がその気持ちを持てるように、社会や行政はアピールして推進してほしいです。
電話が苦手な方のためにLINEやSNSで相談できる所が少しでも増えてほしいと思います。モラハラ旦那との話し合いに介入してくれるサービス、仲介人制度などあればと思ったことがあります。現在、モラハラで悩んでいるので…。
大正生れの両親に育てられました。男子優先の時代でした。「男女同権、共同参画」と言われるようになりました。「男らしく、女らしく」を基本に男女共同参画を進めて行ってほしいです。
男女平等の教育と言いますが、平等でない中で育ってきた教える側の人間の意識が先に変わらなければ意味がありません。あと、犯罪を誘発する可能性のあるトランス女性を女性トイレや風呂、教育の場に入れるべきではないと思います。こちらからはなりすましで性犯罪に巻き込まれるとばっちりなど気持ち悪すぎます。
国がもっと会社を巻き込んで制度および体制づくりを進めて下さい。遅すぎる。
家庭生活についての問8について補足ですが、これは家庭によって自由に決めて良いと考えています。うまく家庭が回る方法は家庭によって様々だと思いますし、それを尊重するべきであり、男女が平等にとかそういったパターンには当てはまらないと思います。何でもかんでも男女平等と言うのではなく、個人や家庭の意志を尊重し、その上で問題が発生した見過ごせない状態である場合に対応することがベストではないでしょうか？やりすぎると息苦しい世の中になってしまうようにも思います。
「だれでもトイレ」の設置はどんどんしていくのが良いと思う。社会への女性進出はどんどん増えてきていて素晴らしいと思う。バス、タクシー、電車等の交通の運転手等、男性の家事、育児、介護職の参加率も近年急が増えて良い傾向にある。学校行事、地域の行事でも…自治会の代表者会議での女性の比率UP。

意 見
「男女が対等なパートナーである」と言うことに関して、その考え方には世代間でズレがあるように感じます。教育の現場、社会で生きる社会人としての性差や能力差の問題、あるいは高齢者の家庭での問題と、色々な場面で切口を変えて問題提起をし、得られた思いを充分に世代に反映できることを願います。
結婚前に夫から「君は良妻賢母であるので…」と言われて期待されて、家のこと、子ども・義父母の世話をやってきたので、自分のことはいつも最後になるし、仕事をやっていた時期もあるが、帰ってきたら家事は私の仕事となっているのでバタバタした日々を過ごしていた。子どもが社会人になって、一人暮らしを経験したので、家で自分らが不自由なく生活できていたのはどうしてだろうと考えてくれて自立したので安心している。夫の性分はいまだ変わらず、変えようともせず、諦めている。アンケートに回答しましたが、年齢層が広すぎて、具体的に今はどんな生活をしているかは文章で答えさせてもらいました。
男性は男らしく、女性らしく(女性は)。素直に育てること肝要。余りに一方向への推進はダメである。
年代によって求める制度は違ってくると思います。皆が利用できるようなサービスの充実を希望しますが、なかなか難しいし時間もかかると思われます。地域関係も段々と希薄になってきているように感じられますが、南海トラフなど甚大な被害が考えられる災害時などで上手く機能できる地域づくりや防災意識の向上も考えていかなければと思います。
なかなか高齢の方には理解できない部分が多いかと思います。これからの教育も必要ですが、同じ環境で住んでいる高齢者の理解を得ないと、実行が難しい状況かと思っています。
懸念しています。体は男性でも心は女性だとして、トイレの女性用トイレへの利用、温泉施設の女性用への利用、オリンピックなどの競技で女性としてエントリー。アンケートとはずれていますが、男女共同参画施策に男女は平等でなければならないとの意が込められているように感じました。男女は平等ではないが対等だと思います。
私の過ごした時代と随分変わってきているし、現在は女性も社会的に認められていると思います。しかし、外国と比較すれば日本も随分変わりました。まだ少し遅れている所もあるので何事もお互いに協力し合って有意義な日々を過ごしてほしいと思います。
50年ぐらい前よりもだいぶ今の若い人が結婚しなくてもよくなったし、自由にできるようになっていると思う。女の人も働いて生活できるようにもなってきているし、昔よりも今の若い人の方が、親とか世間体とかに影響されず、自分の好きなようにできて幸せだと思う。若い人も生活できたら、地位、名誉、金よりも、愛情や平和、平安で和やかな生活、犬猫を大切に花や木を美しいと思う心の豊さの方が幸せです。足るを知る。
男女の仕事のバランスがどうかとかではなく、互いの立場を尊重し合い、理解し合うことが大事ではないかと考えています。
男女共同参画施策の必要性は重要であることは理解しますが、子どもを産んで育てるためには、女性でないとダメであり、女性が子育てができるように賃金や補助金、働くための制度をもっと充実させる施策を行政として考えるべきです。女性が働かなければ、生活ができないような制度は必要ないと思います。子どもを預けてまで働かなければならないのではなく、働かなくても子どもを育てられるようにすれば、出生率も上がることでしょう。
質問の回答自体が、「男だから女だから～」「男だけど女だけどうでなければ」的なもの多くて辟易しました。男女関係なく一人の人間として個人の考えや生き方を尊重する考え方とは結局違っているのでは。男女が共に参加するとか女性のリーダーとか、男とか女とか関係なく能力ややる気がある人がすれば良いだけでは。
女性が社会進出しないといけないというバイアスを無くす方が良い。専業主婦を希望する女性のことも考えるべき。女性の社会進出が進むと少子化が進む。先進国で女性の社会進出が進んでいる国は人口減少していることから、その方向に意図的に舵を切るのは危険な政策だと思う。むしろ、逆に新婚世帯や専業主婦を支援する政策の方が少子化対策になるのではないのでしょうか。
恥ずかしながら、初めて「木津川市男女共同参画計画」を拝読いたしました。男女がともに輝くと言いながら、少し女性を優遇した内容になっているのではないかという印象を抱きました。女性の権利が全く重視されていない現状があるのであれば、声を大にして権利を主張すべきですし、女性参画を積極的に推し進めるべきだと思います。しかし、令和の今、あらゆる機会は男女フェアに与えられるようになったと感じています。男女が性別によらず個々の能力でもって認められるというのが理想的ではないのでしょうか。女性参画を無理に推し進めると、言い方は悪いですが、適正のない人物まで重要な任務を担う可能性があり、結果的に「やっぱり女性には向かなかった」などという評価につながりかねません。
何事も、ほどほどに推進してほしい。
皆様自分の生活がいっぱいいっぱいです。今こそ助け合いだと思う。行政も企業も国民も、“自分さえ良ければ”は限界だと思う。よろしくお願いします。
不公平な優遇が行われないように配慮願いたい。

意 見
女性のみ地位や機会向上になっている。平等というのは能力で判断するべきものである。男性や女性には超えることのできない身体的側面による差が存在している。それによる社会的差異を生じさせることは差別ではなく、区別であることを周知するべきである。
そもそも男女平等とは何でしょうか？何を基準に平等でしょうか？お互いがバランスをとっていることだと思います。男女が全くすべてを二分して分業する？これは、私は非効率としか感じません。男女には得意不得意があり、現代社会が女性の負荷が大きくなる枠組みになりすぎてきた。私の答えは、世帯年収を増やすために女性の基本賃金を上げる政策を考えれば良いと思います。結局のところ、元凶は今も昔もここにあり、女性の地位が少しずつ確率されてきた現代において露呈してただけだと考えます。「政策、対策」と言いながら、いつまで経っても賃金格差が縮まっていないのが、政治も政府も本気ではない表れです。また、女性だから、子どもがいるからを理由に無責任な働き方をする方もいらっしゃると思います。これは、個人が何を優先するかの話で、間違いではないです。上記理由で、人間という動物は性別で得意不得意がありますので、何が平等はお互いの能力、立場を理解できるかで決まります。
是非、男女が平等に出会える場所づくりをしていただければと思っています。
若い女性が政策の意見を出し、決定できるまでの権限を持てるようにすべきだと考えます。
昔ながらの風習などの中に根強く残っている差別に、勇気をもってメスを入れてくれたら嬉しいです。
男女に関わらず、経済的にも生活においても一個人として自立することが必要だと思う。援助だけではなく自立できるようにしていく手助けが必要だと思います。
男女平等を謳いながら、どちらか片方を優遇する事例ばかりなので、そういうことがないようにしていただきたい。手を加えてようやく成立することは不自然な状態であることを理解する必要がある。
よりよい社会のためにこれからも頑張ってください。

(2) 男女共同参画に関する意識・啓発について (19件)

意 見
政策の実行力は別にして、若い世代の「声」を聞いてくれたことに感謝しております。男女共同参画施策についてはくれぐれも押しつけないように、なぜなら皆がメディアの伝えることや社会でムーブメントになっていることに興味・関心があるとは限らないからです。ヨーロッパと行き来して20年以上になりましたが、日本では正直なところダイバーシティ、インクルージョン、ジェンダー問題、LGBTQIAの問題はアンコンシャス・バイアスを取り除くのは難しいと存じます。
男女共同参画施策として、著者の方の講演を開催してほしい(永松茂久さん、マツダミヒロさんetc)。11月8、9日に沖縄で開催される質問カンファレンスを実際に見て聴いて体験してほしい。その場所は希望の光です。
一人一人の考え方を考えるために、木津川市として努力してください。
まずは、啓発活動を行い、知ってもらうことが必要だと思うが、専任の人が行わないと変な偏見を生むことにもなる。十分な配慮が必要です。
今回のアンケートで少しは理解が深まりました。広報など様々な媒体で周知されていると思いますが、なかなか自分事として捉えないと積極的に理解することは少ないと思います。市の方から積極的に発信していただく取り組みを進めていかれるととても良いと思います。
問題29の答え、⑩につきますと思いますが、将来を見据えて行すべきでは？
この調査を手にして初めて知る言葉や内容があり勉強になりました。男女共同参画施策そのものを分かりやすく説明するパンフレットが目につく場所に(何ヶ所も)あると意識が変わっていくのではと思います。
幼少期から家庭、職場等でのジェンダー平等の精神の破滅、「当たり前」の精神破滅のための環境づくりは大切。
公報等での啓蒙活動が少ないと思います。
男女共同参画は進んでいると思うが、高齢の方にとってはまだまだ男女共同参画は取り入れていない。病人の世話や育児に対しても女性がするべきものと思込んでいる。生活場面においても、男性は関わろうとしない。旧町においては特に感じられることが多い。年齢を重ねていくと無理ではあろうが、やはり何事においても参画社会は必要である。相手が亡くなり、1人になった時の不安はとても大きい。ぜひ機会をとらえて、高齢の方にも具体的な説明があればと思う。
自分自身が高齢者になって活動するには色々制限されますが、まず共同参画の認知度を上げる広報活動が必要だと思います。そのため、専門広報紙等を作り、具体的な活動をもっともっと知らせるべき。
10/20に女性センターで行われた催しに参加しました。楽しくて、講演も男女共同参画施策に対応した内容でした。男性の参加が少ないように思いましたがどうでしょうか。

意 見
男女共同参画施策をはじめて聞きました。今後勉強します。
知らないことや言葉があり勉強になりました。生きている間に、もっと進歩してほしいものです。
知らない単語が多く、自分が勉強不足だと感じたが、自分が生活している中で男性がとても有利になっていると感じたことがあまりなかったの、幸せな環境で暮らしていると感じた。職場も女性が多いため、不利だなと感じたことがなかった。男女共同参画施策はどういったところで学べるのですか？
地方自治体が施策を充実させていても、一部の意識高い系の人や属していたコミュニティで縁があった人達が知っている、利用している感が否めません。そうならないための着想が必要なのでは？
具体的にどのような取り組みをしているか、及びその実績・効果について定期的に周知してほしい。
積極的に発信！
市のLINEでどんどん周知してください！

(3) 子育て・子どもの教育について (16件)

意 見
弁当作りが大変。学童の対応が大阪府（民間）に比べて悪い。給食（夏休み等）については希望日に食べられるようにしてほしい（公立も認定こども園も）。月単位の計算ではなく、こども園も日割りにしないとフードロスになるのでは？大阪は長期休み中に希望日のみデリバリーを受付けると聞いた（民間の学童）、食中毒の観点、地域飲食店の復興になると思う。学童から習い事への送りに不安を感じる。認定こども園はスムーズだが児童クラブでは困難と聞く、要支援だと思う。
子どもたちが社会に出るための支援を大人である私たちが助けたい。そのために、もう一度その施策が今の時代に合っているのか再度問い直してほしい。この調査をすることで、一步でも現状から進むことを願います。
子どもを産むと女性だけが大きく環境が変わり、自由に動けなくなり、辛い思いをする人が多い。仕事を失う人も多い。社会との関わりも少なくなり、孤独である（特に子どもが小さい間）。悩みを抱えている人が多い。子育てしながら働くことが難しく、収入も増えず、お金の問題から夫の言うことを聞き、我慢することが多い。女性に優しい社会にしないと子どもは増えない。現に、うちの子どもは「子どもを産むと大変だから産まない」と言っている。母親のしんどさを見て育っているから。変な社会。変な日本。未来に希望を持ってない人が増えるのも納得できる。
子ども達が将来に希望を持てる世の中になってほしい。子どもが安全・安心できる場所で生活するには子育て世代の大人達への保障や環境づくり、全ての子ども達を大人の都合や身勝手に犠牲にしたくない。
本市の学生（大学生、高等学校、中学）を中心に100人会等を設置して検討すればどうですか。お疲れさまでした。期待しています。
人間一人一人を互いに尊重し、敬うことが、全ての基本にあると思うので、見た目の言葉を変えてアプローチするのはやめた方がよいと思う。認識を持つことは大切だが、子どもへの教育には、一人一人を尊重し敬い平等に扱われる日々を過ごさせることで自然と身に付くものです。その中で身に付けた人権意識、相手を敬う心を育てることで上記施策に対しての日々の行動も伴ってくると思います。改めて教育をしようとしないう方がよいと思う。
私達の子育て時代の20～30年前からすれば、随分男女の立場も変化しました。共働きが通常、多様化もありまた、選択肢も増し、働きやすいように見えますが、息子達夫婦を見ても、なかなか子育て世代には苦しい状況が続いています。孫達も育成や学童、長時間の保育園での生活も長いのが現状です。仕方ありませんが、親も必至の共働き、なんとか子育て支援策を願うばかりです。小児科も予約制になっている、しんどい時に間に合わない！こんなことは昔なかった。しかしモラルもあり今のご時世カナ？
子ども達が将来に夢が持てるよう、のびのびと成長できるよう、社会全体で見守ってあげられる制度作りをお願いします。
例えば、子どもが病気の時など、保育園や病児保育などの子育て支援サービスの利用を促すのではなく、しんどい子どもが安心して家族のもとで過ごせるような、社会の風潮、仕組みが大切だと思います。
未就学児2人の育児を行っているが、とてもじゃないが共働きができる状態ではない。現在は妻が育児休業を取得しているが、下の子が1歳になり、職場復帰を考えると絶望でしかない。私の収入のみで賄えるのであれば、妻には家庭を守ってほしいと思うが、この先どうなるかわからない状態では、働けるうちに稼いでいきたいと思う。お金を気にせずに安心して子育てがしたい。私の家庭ではまだ需要がないが、学生の通学定期（バスだけでも）を負担してほしい。市に対する要望ではないが、男性育休を取得した際、実質手取りの8割は育児休業給付金で賄えるが、これにはボーナスが加味されていない。これは会社起因するところで、ノーワーク・ノーペイの原則に基づくと思うが、賞与重視の企業の場合は顕著に影響があると思う。この点も男性育

意 見
<p>休が取りづらい（なんだかんだ世帯収入の大半は男性が稼いでいることが多い）のかなと思う。実際、私が3か月間の育休を取得した際は、最低評価×出勤日数での賞与支給となった。</p>
<p>学校での取り組みを知る機会がないため、今（近年）はどのような学校教育をされているか教えていただきたい（小・中・高）。</p>
<p>子育て中、介護を担っている人たちも安心して生活できる社会にしてほしいです。ひと段落した後に速やかに就労できる社会になってほしいです。子育てや介護に十分に取り組める、金銭的な心配のない世の中になってほしいです。扶養の壁を引き上げて子どもや老後のために思いっきり働ける世の中になってほしいです。子どもが全員大学を卒業するまで、人数や所得の制限を無しで無償化してほしいです。福岡市や神戸市で行っている育児用品定期便があると、産後、出歩きづらいので嬉しいです。</p>
<p>里帰り出産時の保育園退園制度を改善するべき。木津川市で出産し、育児休業を取得すると保育園を退園する必要がないのに対し、里帰り出産で他府県に数か月行くとすると保育園を退園しなければならないのは不平等である。木津川市で出産してほしいのであれば、制度や対策をより強化するべきである。</p>
<p>共働き家庭の多い木津川市で実施してほしい。子ども食堂の提案について。現代は、共働きでないと生活ができない家庭が多いのではないかと。それなのに支援が手厚いのは低所得者や生活保護者である。このような人のほとんどは何も努力をせず金を手に入れている。その時点で何が共同参画社会なのか。毎日夫婦共に働いて子ども一人育てるのに精一杯だ。競争率が高いこれからの時代、学校だけの勉強では社会でうまくやっていける人材になれないから、習い事代など生活費以外に必要なお金が要ることは、子どもが多い木津川市にはもう少し理解していただきたい。また、共働きをするということは家事や育児に時間が足りないことが現状だ。「小1の壁」は現代の問題であるが、木津川市民にはこの問題を抱えている人が多いと思う。そこで他県や他地域をみると、小学校の門を朝の7時に開け、家庭科室を利用した子ども食堂の実施をしている地域もある。運営や開門は学校の教員ではなく、地域の高齢者などに協力してもらう。そうすることで栄養バランスを考えた朝ご飯も忙しくて提供できない家庭の助けにもなり、預けられる時間が早ければ仕事にも行きやすいし、防犯の面でも安心だと思う。子どもが多い木津川市こそ、子どもの教育や環境にもっと力を入れて、将来の木津川市に貢献できる人材作りに投資するべきだと思う。運営の費用や人材の確保など考えることは山積みだが、こういうことをぜひ前向きに考えてくださる人が一人でも市役所職員に入ることを望んでいます。</p>
<p>女性の社会進出は必須と思いますが、出産後すぐに保育園に預けられる環境が果たして良いことなのかと疑問に思ったので書かせていただきます。保育園に行くことと愛情の稀薄が比例するとは思いますが、母親が仕事を優先した場合、子どもはほとんどの時間を保育園で過ごすことになるでしょう。故に、おむつの外し方がわからない、離乳食を知らない、作れない、食事の与え方や限界を知らない、癇癪を起す子どもへの対応がわからない、育児に携わらない母が増えそうです。今よりもっと乳幼児を扱う（保育園以外の）専門職ができると思います。子どもを産んだら（育児は専門に任せて、それを支払うお金を稼ぐために）仕事に行くことが社会のルーチンとなるのが「男女が共に輝くまちづくり」になるのかいささか疑問に思います。そして、子どもたちの成育がなおざりになっているとも感じます。いずれ問24のような問題が（環境と承認欲求を求めて）もっと身近になるのだらうと悲しくなります。女性が出産直後から社会復帰をするということは、愛情の稀薄を助長すると思います。ネグレクトの増加や父親に至っては父性の欠落等、幼児虐待、歴史を見ても往々にして想像できます。そして推進した結果が現在の問題であると…。それも含めて男女共同参画を進めてほしいと願います。女性がすぐに働ける環境ということは、聞こえは良いですが、時間に追われ気持ちに余裕のない生活になることも意味しています。男女が共に輝くまちづくりであるなら、幼稚園無償化に加え、自治体からの育休中の育児休業給付金を検討したり、育児に不安がある人や育児環境が整っていない人への更なる経済的な支援や訪問等を検討し、子育てを人任せにしない、子どもと接することが家族の心身の育成につながり、また大切な仕事であることを普及する方が各々の役割を確認しながら輝くまちづくりになるのではないかと一個人として思ったので、つらつらと思いを書かせていただきました。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>男女問わず、それぞれ自分がどう生きたいか、どう働きたいかを考えることが大切かと思います。子どもが小さいうちは仕事せず、自分で子育てしたい人、息抜きに少しでも働きたい人、バリバリ働きたい人、女性でも色々なので、色々なパターンに対応してもらえよう、一時保育に気軽に預けられるような保育園があれば助かるかな</p>

（４）行政の施策について（15件）

意 見
<p>社会保障制度が変わらないと、政治家が変わらないと、男女共同参画施策は絵に描いた餅、根本的には何も進まないと思います。</p>

意 見
SNSで気軽に相談できて内容によっては専門家が相談に対応できるようなシステム。市議や職員に女性を増やす。
施策の根本はルール、そしてルールの根本は人権です。リーダー、上司が率先して部下の人権を大切にする役所でなければ、その施策も“仏作って魂入れず”になってしまいます。やさしく風通しのいい市役所でありますように。
日本の政治家の思いがまず封建的であることが問題。欧州特にスカンジナビア地方の考え方、社会のあり様の良い点を具体的に考慮する必要がある。男女平等化の勉強がもっと必要。
1にも2にもまず経済的余裕がないと進まないと思う。国の税金の使い方を改めなければならないのかなと思う。今回の衆議院選挙で自公が大敗したので、少しは良い方向に進むかなと期待している。
関係者皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。また、デリケートな事案も多いと存じますので、皆様のご心労が溜まりすぎないように、うまく息抜きしながらどうぞご自愛くださいませ。皆様の活動に影ながら感謝する一市民より。
「女性センター」や「女性の支援の法律」みたいなものが考えられていることに違和感がある。男性か女性かに関わらず、困っている人が誰でも助けを求められるような環境が整ってほしい。以前、自分自身が夫に対して手を上げてしまうことがあり、市役所で相談できるか聞いたことがある。「DVの相談先ってありますか？」と尋ねたので「女性センターとかで話を聞けますよ」と回答されたが、女性センターを調べるとDV被害の窓口でしかなく、加害者側の困り事の相談はできなかった。女性が被害者で男性が加害者という偏見があるように感じた。性別に関係なく誰でも色んなことで困るし悩む。性別で分けて、誰でも助けてほしい。
緑豊かな環境のよい木津川市。老若男女、地域問わず、住んでいる方々が「幸せ」と感じられる木津川市だと嬉しいですね。
スマホとかは市としてやさしくないですね。
返信遅れてすみません。木津川市への転入理由は京都大阪への通勤可能な立地が大きいと考えます。決して政策で選ばれた訳ではありません。子育てしやすい街づくり、女性がくらしやすい街づくりが急務だと考えます。また、市民からの声をしっかり受け止め、必要に応じて国に伝えてほしいと考えます。
木津川市役所に妻は勤務しているが、産後復帰のキャリアを検討するために、人事課にフレックス制度を聞きに行ったところ、「現在利用している方はいない」との回答のみで、利用の可否など詳細は伝えてもらえなかった。男女平等を謳うのであれば、市役所がまず、多様な働き方を実現しやすいようにすべきなのでは。
住宅リフォーム、ワクチン接種、母子家庭他等の補助金制度が他の地域ほど整っていない。市民の負担が軽減されていない。
本当に困った時、なかなか相談できないのが現実で、自分もその経験があります。気さくに聞いていただける、相談にのってもらえる、また、対策を教えていただける機関があると助かります。特に対策については、調べてみても素人では分からなかったり、後になって知って残念な思いをすることも多かったです。全面的には言いませんが、困った時に少しでも頼れるところがあるのとは全然違います。ただ役割で相談にのるのではなく、気持ちが伝わり、本当の意味で助けてもらえる窓口を作ってほしいと思います。
木津川市の会計年度職員でした。ハラスメント・嫌がらせで悩み、上司に相談しましたが、全く返答なし、無視されました。木津川市は相談窓口、内部通報窓口がありません。必要だと思います。
市行政自身が男女共同参画にマッチした市政なのか正して、市長、市議員、市職員が自ら変え市民に発信してください。

(5) 職場や就労について (11件)

意 見
現在は子育てと仕事の両立が特に女性においては難しい。正社員では、仕事時間の規制が厳しく、小さい子どもの世話をするためには、アルバイト・フリーター等の選択をせざるを得ない。小学校の学童の制度もあるが、内容的に充実しておらず、子どもも行きたがらない(スポーツ少年団等の強化が必要)。アルバイト・フリーターでは収入が安定せず、子どもの教育面、個性を伸ばすことが難しく、子どもの将来にも不安がある。
仕事に関しては、少しずつ改善が見受けられますが、1960年代生まれの私には、モデルケースが見当たらず、昇進しても苦勞…男性社会の中での、女性の昇進は、コミュニケーションに難渋しました。今は、部下の女性が台頭してきて、過ごしやすくなったと感じています。男女が子育て、介護とありますが、介護については、もっと行政が社会として動いていただかないと、親の介護が当たり前の考えはやめていただきたいです。実際に独居老人がとて増え、今後、これを地域で支えるのも難しいと思います。
家庭(家事)や子育てにおいてまだまだ女性が主となっている。女性側も働いていることが多く、女性の負担を軽減できる仕組みがまだまだ必要だと思う。例えば・育児短時間労働(男性側も利用促進)を小学6年まで延長

意 見
<p>する。子どもが風邪を引いて看病が必要な場合、父親側も休みがとりやすいよう職場で配慮する。共働き世帯への減税処置。年少扶養控除の復活。共働き子育て世代は毎日疲弊しています。</p>
<p>正社員ですが、たらいまわしにされているように感じます。周りが昇任されているのに、子育て世代ということで役職も10年以上そのままです。置かれた場所で頑張っていますが、評価されずにきたのが事実です。子どもたちがいるから、合わない環境でも我慢しています。風通しの良い、強みが生かせる職場になってほしいし、可能性を信じてほしいと願います。今の状況では、心（メンタル）がやられてしまいそうな方が増えているように思います。</p>
<p>年齢、性別関係なく、社員で働ける場所がほしい。</p>
<p>個人的な経験もあるが、子どもが病気になった場合、核家族のため、預けるところがなく、父親、母親のどちらかが仕事を休まなければならない。休める場合はよいが、出張や業務的に休むことが難しい場合、子どもが幼い間は共働きすることが難しく、主に女性が自分の仕事を継続することが難しくなっていると思う。突発的に病気になった場合でも、出勤前の早朝から仕事が終わる帰宅までの長い時間で預けることのできる施設の設置が必要と思う。少子化の社会情勢では女性の社会進出を促す政策を打たないと税収も増えず、社会の担い手も減少して立ち行かなくなると思う。</p>
<p>女性管理職の登用割合を上げる取組も、個人的には不要だと思っています。本当に有能な女性が管理職になっても「女性管理職の数増やしたがつてたもんね」と不当な評価をされる可能性があるのではないのでしょうか。男女フェアに。それが一番の男女共同参画ではないのでしょうか。</p>
<p>男性が子育て交流の場をたくさん作る（土日のイベントなど）女性が働きやすい時間帯の雇用を増やす。</p>
<p>専業主婦で子育てや介護に専念することも夫に任せて仕事に専念することも色々な選択肢があって良いと思います。また、男性女性や年齢関係なく、ブランクがあっても正規に働ける職場があり、ブランクに応じた職業訓練が受けられる場や育児介護のサポートの充実があればと思います。例えば、障がいを負ったり、ひとり親になっても働き、生きていける社会になればと思います。そうすれば、差別する側が淘汰されていくのではないのでしょうか。</p>
<p>特に木津川市の問題ではないが、国の施策は制度を画一的に実施するだけで、実際役に立っているのか分からないことが多い。例えば、職場で子どもが生まれた男性がいて、3か月程度休暇を取ることが増えたが、そもそもずっと休み続ける必要があるのかと不思議でならない。奥さんの調子が悪かったり、子どもを健診に連れて行くために休むとか、上の子どもの幼稚園への送迎で短縮勤務をしたらかなら分かるが、意味もなくずっと休む意味が分からない。そういうところをもっと弾力的に運用できる制度を作してほしい。ただただ女性を優遇し、子育て世帯にバラまきというような、力で押さえ込むような制度は逆差別を生みかねない。</p>
<p>旦那が中学校教員です。長時間労働、土日の部活動で家にいる時間がとても少ないです。そのため、幼子の育児は私に負担がかかります。私の仕事でも繁忙期等に必要の残業ができずストレスです。学校現場において、子どものいる女性の先生は優先的に担任や顧問を外されたりしてませんか？それが悪いことではないですが、子どもがいる男性の教員やその家庭にも目を向けてほしいです。奥さんがいるから土日部活しても大丈夫でしょという、現場、旦那本人の考えに心からうんざりしています。土日に中学生の面倒を終日みっていますが、家庭では幼子が寂しい思いをしています。部活動地域移行を早く進めて下さい。無理なら部活動廃止をして下さい。中学生は自分達である程度のことはできます。幼子は親がいないと何もできません。部活動地域移行の取り組みが全く見えてきません。本気で取り組んで下さい。</p>

（６）アンケートについて（23件）

意 見
<p>本調査の質問回答について、後期高齢者に理解できない言葉、設問等が多々あって十分に回答不能があったので不十分になって申し訳ありません。</p>
<p>質問には真摯に答えたつもりですが、80歳以上の者には答えにくい問が多々あったように思います。</p>
<p>この調査票が男女同数に送っていない時点で共同参画など絵空事ではないのでしょうか？と思いましたがいかがでしょう？世帯主宛てに安易に送っていないことを願います。アンケートの中身も男性優位（特に問12）になっており（フリーコメントできない）、子育て、教育では儒教の教えが強く出ているように感じます。ドメスティック・バイオレンスは女性の問題点を強く出していますが、最近のニュースは男性同士の弱者への性暴力が紙面に多く見受けられるように感じます。キラリさわやかでなく芋虫を噛み締め、ドロ水にまみれて文化をつくる必要がありますよ、行政さん。</p>
<p>こんなつまらないアンケートに予算を割くより、子どもの貧困対策等に予算を使ってほしい。男女各々が負担する率は個人の事情によって違うと思う。</p>

意 見
このアンケートですが、男性にも同じものを答えてもらう必要があるのでは？絶対に解答に偏りが出ると思うので、その男女の意識の差を埋めることが大切ではないでしょうか。
質問が多すぎる！いいかげんにしてほしい。
アンケートの内容自体にそもそも性差別を感じるような質問があり、困惑した。
世間知らずの年寄りには、あまり分かりません。
私みたいな高齢者でも参加してよろしいでしたか？自分達時代を思い回答させていただきました。
こんなアンケートは税金のムダ使いだと思う。
アンケートがうまく活用されるようにしてほしい。結果、成果の報告もなく、何に利用されているか不明、何の活動のために行っているか不明、わかりにくい。
男女共同参画に対するアンケートなら、女性にもアンケート調査をするべきと思う。男性ばかりアンケートを取るのはどうかと思う。こういうことこそが、アンケートの誠意が問われる。
87歳の一人暮らしの女性には、現在このようなアンケートは意味がないと思います。途中でやめさせていただきます。
結婚しておりませんのでよく分からない点もございます。協力という意味では不十分ですが返信させていただきます。
調査用紙に3つ折り線をつけてほしい。
アンケートの内容が多くて時間がかかりました。もう少し短めをお願いしたいです。
提出が遅くなってすいませんでした。
問8の理想というのがちょっと引っかかった。その時々によったり向き不向きもあるので、決めつけみたいと感じた。その時にあった人がするみたいな選択肢があったらよかったと思う。
引っ越してきてまだ一年半ほどでわからない事が多い回答で申し訳ないです。
このアンケート自体にあまり良い印象がない。問19に女性本人の意志を一切尊重する選択肢がないことからこのアンケート自体があまり男女参画についてあまり興味がないのかと思ってしまう。
全部を通じて、アンケート設問構造の古さ、このようなアンケートはこれを聞けば済むという考えで作られている感じがする。正しい回答はこれ、というのがあまりにもあからさまで、これをどう統計処理しても、何の新規性も出ないであろう。それに、10代から80代まで同じ設問で済ませるという考えにもついていけない。よほど回答拒否しようかと考えたことか。
そもそも、このアンケートの内容が偏った内容に感じる。民間への周知は進んできているが、特に政治、政府が実感として持っていない人が、いくら政策、対策を考えても無理ではないでしょうか。全く、物事の根本を理解していないように感じ、回答に困った。どれもこれも根本解決となる案では無く、その場凌ぎの対策だと感じた。
問27については、ほとんど知らなかったが、用語の解説が添付されており、知ることができた。

(7) その他(9件)

意 見
現在職場を退職して3年位になり多忙だった日々を思い出しますが、現在は穏やかな日々で組織の中に入っていないので自由な日々を過ごしています。もともと、いろんな組織など活動も含めて苦手な方なので現状を満喫している状況です。活動的に接さなければと思うのですが、現在は人々に迷惑かけないで自分の身のみ労わっていかねば！と思っています。もう少し積極的に参加、助けられることを行わねばと思いますが迷惑になるのではと案じています。すみません！
しょうもないことをすな！
旧村の名残でしょうか、町内会等でもやはり長老に従う等も多々あり、新しい家に来た若い住民達の意見も取り上げていくことも大切。高齢の健康寿命を延ばすために気軽に集まれるところや運動できる場所などが身近な所にてできれば。
ここ山城町は木津と比べてどんどん過疎化が進んでいると思います。“男女共同参画”といってもそもそも若い人がどんどん出ていく中で、この街をどのようにしていくのか、今のままでは都会にいる子どもに帰ってくるようには到底言うことができません。自身ももっと高齢になったら他所へ引っ越すことも考えています。せめて、災害の時など「安全が確保されている」という安心感は持たせていただきたいと思います。
山城町平尾区にコンビニか小さなスーパーをつくってほしい！
論点がズレてるかもしれませんが、あらゆる分野に対して得意不得意はあるし、気持ちは「やってみたい」と思ってもできないこと、やれないことは実際にあります。努力しても、できること・できないことがあります。

意 見
<p>す。できる人がしなかったり、できないからと任せると意識は、何か違うような気がします。対等で責任を持ってするならば、できる・できないではなく、お互いに協力(共有)してするという意認、認識で物事の課題に取り組む、進めるのが大切だと思う。</p>
<p>令和6年現在、この団地40年で2,200戸、人口8,000人だったが、多分5,000人くらいだと思う。近所をみても、一人住まい、夫婦二人住まい、空き家、この丁目も人口600人だったが、今はたぶん300人くらいでしょう。そして70才以上が半分くらいだと思います。自治会も退会者、続出、行事はなし、防火訓練なし、近所の方、亡くなってもわからない。男女共同参画施策と言われても、毎朝生きていることを確認しあって、ああ…生きている毎日です。夫76才、私69才、二人共元気です！</p>
<p>ごめんなさい。大分から奈良県に引っ越しました。一人暮らしから始めて、とてもさみしい毎日でした。それから、ある時に「うつ病」になり、3か月半くらい、精神科で暮らして退院。そして、老人施設に入居して、現在に至る。まだ、精神科に月1回通っていますが、もうほとんど健康になりました。まだ、木津川のことはよくわかりません。調査の内容は、わからないことが多く、大変迷惑かけてすみません。</p>
<p>21世紀、宇宙、地球の変動、よく考えるべき。</p>

IV 事業所アンケート調査結果

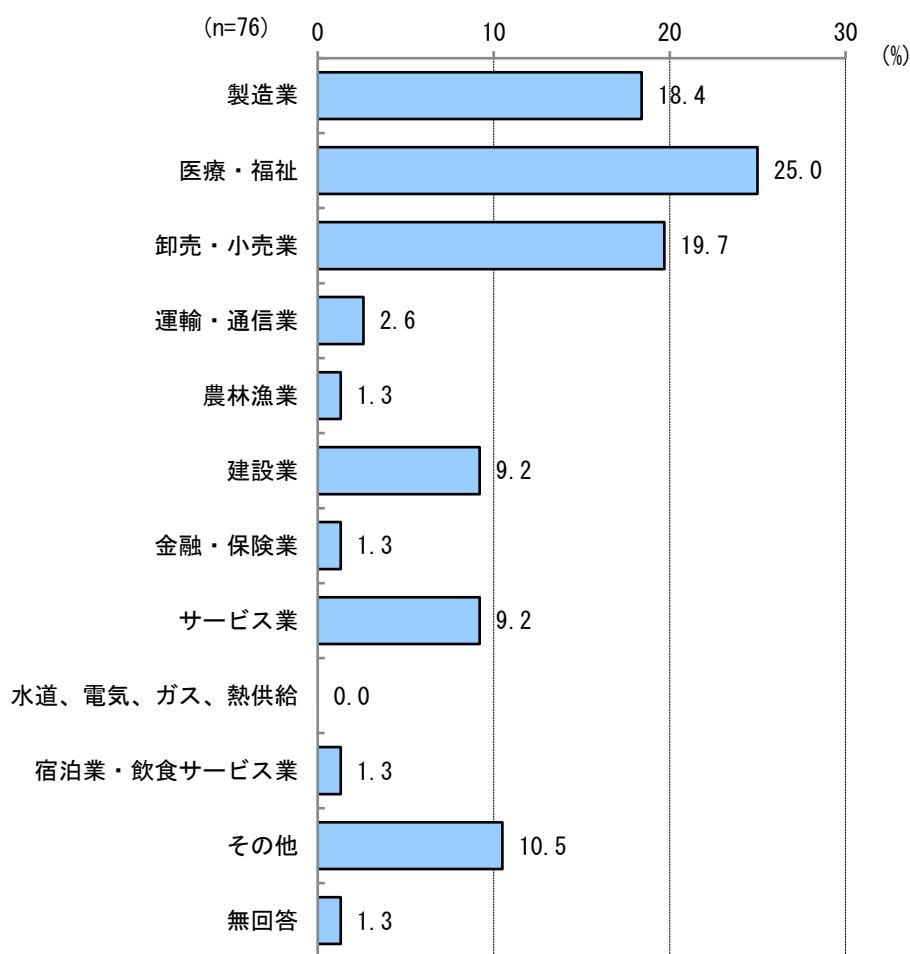
1. 事業所の概要

(1) 業種

問1 貴事業所の主な業種は何ですか。(○は1つ)

業種は、「医療・福祉」が25.0%で最も多く、次いで「卸売・小売業」が19.7%、「製造業」が18.4%、「建設業」と「サービス業」がそれぞれ9.2%、「運輸・通信業」が2.6%となっている。

【図 業種】



(2) 従業員数・雇用形態

問2 貴事業所の従業員数・雇用形態についてご回答ください。
該当者がいない場合は「0」をご記入ください。

従業員数については、“管理職数”は、男性が419人、女性が69人となっており、回答事業所全体の管理職数に占める女性割合は14.1%となっている。“正規従業員数”は、男性が1,602人、女性が1,021人となっており、正規従業員の女性割合は38.9%となっている。フルタイム勤務の“非正規従業員数”は、男性が221人、女性が365人、短時間勤務の“非正規従業員数”は、男性が397人、女性が1,278人となっており、非正規従業員の女性割合はフルタイム勤務が62.3%、短時間勤務が76.3%となっている。

【表 従業員数・雇用形態】

		男性	女性	合計
従業員数全体（管理職を含む）		2,639 人 (49.1%)	2,733 人 (50.9%)	5,372 人 (100.0%)
管理職数		419 人 (85.9%)	69 人 (14.1%)	488 人 (100.0%)
正規従業員数（管理職を除く）		1,602 人 (61.1%)	1,021 人 (38.9%)	2,623 人 (100.0%)
非正規従業員数 （管理職を除く）	フルタイム勤務	221 人 (37.7%)	365 人 (62.3%)	586 人 (100.0%)
	短時間勤務	397 人 (23.7%)	1,278 人 (76.3%)	1,675 人 (100.0%)

(3) 育児・介護休業の取得状況

問3 貴事業所では、過去3年間に育児休業・介護休業を取得した従業員はいますか。
取得した人数を男女別に記入してください。(①と②にそれぞれ○は1つずつ)

育児休業の取得状況については、「取得者がいる」が50.0%で最も多く、次いで「対象者がいなかったため取得者はいない」が47.4%、「その他の理由で取得者はいない」が2.6%となっている。

直近3年間の育児休業の取得者数は、男性が60人、女性が101人となっている。

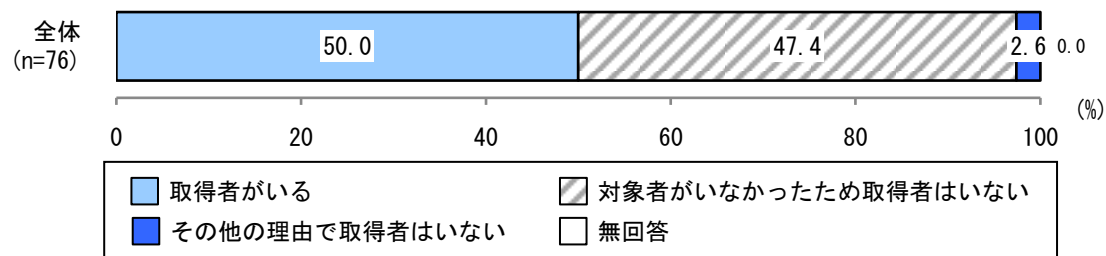
育児休業の取得状況については、「対象者がいなかったため取得者はいない」が77.6%で最も多く、次いで「取得者がいる」が11.8%、「その他の理由で取得者はいない」が1.3%となっている。

直近3年間の介護休業の取得者数は、男性が3人、女性が14人となっている。

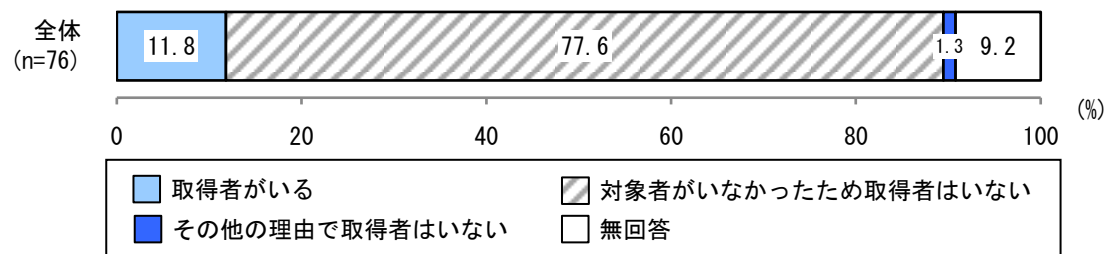
【表 育児・介護休業の取得状況】

	男性	女性	合計
①育児休業の取得者数	60人	101人	161人
②介護休業の取得者数	3人	14人	17人

<育児休業の取得状況>



<介護休業の取得状況>



2. 女性の登用について

(1) 女性の雇用状況の変化

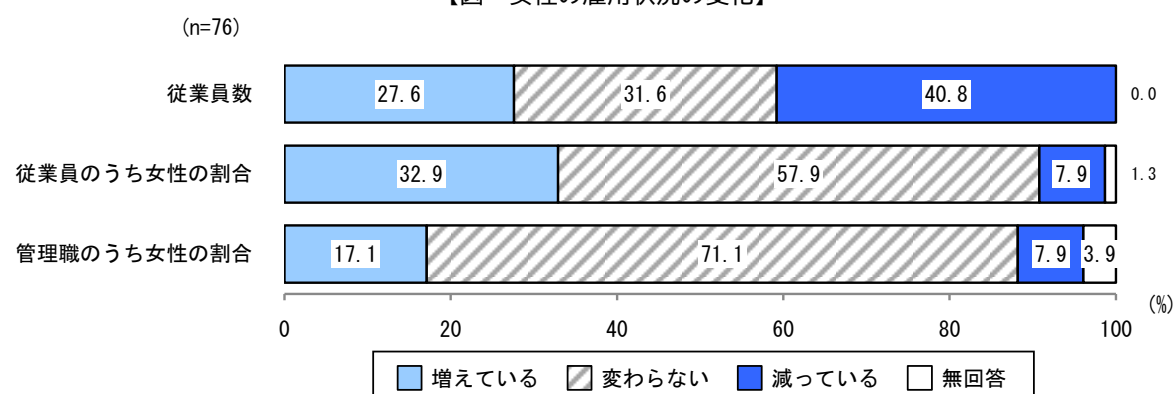
問4 貴事業所では、5年前と比べて雇用状況はどのようになっていますか。(○は1つ)

女性の雇用状況の変化については、従業員数は、「減っている」が40.8%で最も多く、次いで「変わらない」が31.6%、「増えている」が27.6%となっている。

従業員のうち女性の割合は、「変わらない」が57.9%で最も多く、次いで「増えている」が32.9%、「減っている」が7.9%となっている。

管理職のうち女性の割合は、「変わらない」が71.1%で最も多く、次いで「増えている」が17.1%、「減っている」が7.9%となっている。

【図 女性の雇用状況の変化】

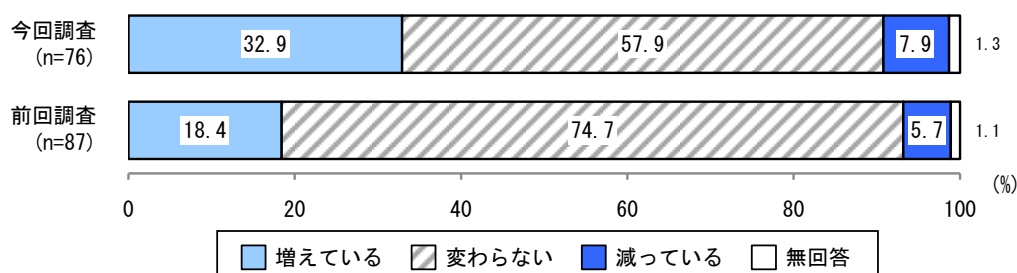


《前回調査との比較》

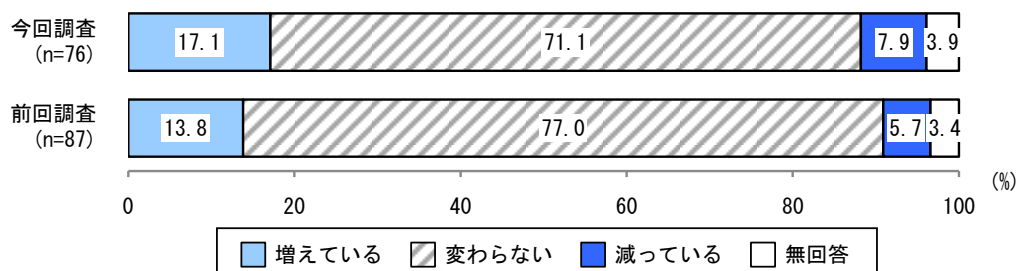
前回調査と比較すると、従業員のうち女性の割合は「増えている」の割合が前回より14.5ポイント高くなっている。

管理職のうち女性の割合は、「増えている」の割合が前回より3.3ポイント高くなっている。

【図 女性の雇用状況の変化（前回調査との比較）・従業員のうち女性の割合】



【図 女性の雇用状況の変化（前回調査との比較）・管理職のうち女性の割合】



(2) 今後の雇用についての考え方

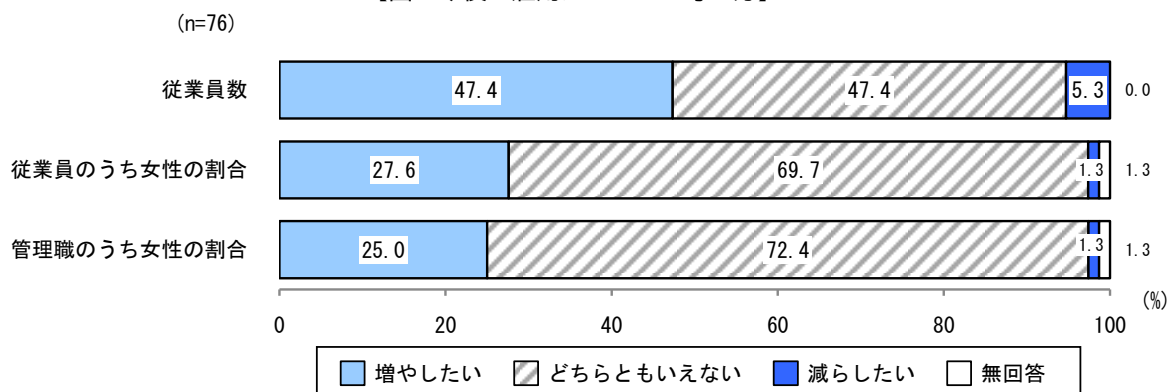
問5 貴事業所では、今後、雇用をどのようにしたいと考えていますか。(○は1つ)

今後、雇用をどうしたいかについては、従業員数は、「増やしたい」と「どちらともいえない」がそれぞれ47.4%で最も多く、次いで「減らしたい」が5.3%となっている。

従業員のうち女性の割合は、「どちらともいえない」が69.7%で最も多く、次いで「増やしたい」が27.6%、「減らしたい」が1.3%となっている。

管理職のうち女性の割合は、「どちらともいえない」が72.4%で最も多く、次いで「増やしたい」が25.0%、「減らしたい」が1.3%となっている。

【図 今後の雇用についての考え方】

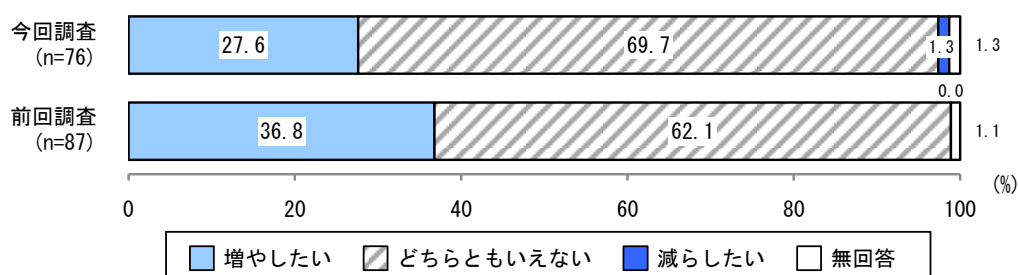


《前回調査との比較》

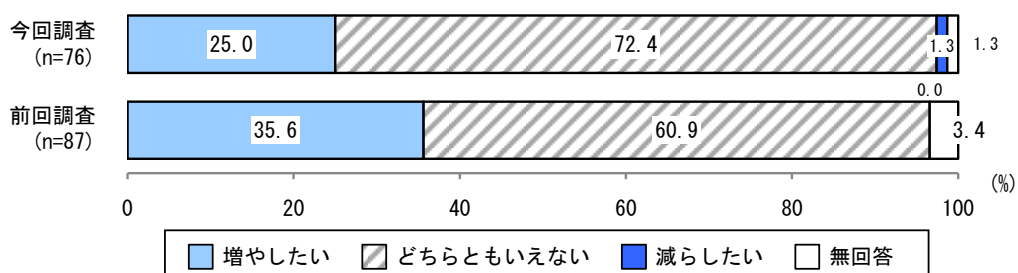
前回調査と比較すると、従業員のうち女性の割合は「増やしたい」の割合が前回より9.2ポイント低くなっている。

管理職のうち女性の割合は、「増やしたい」の割合が前回より10.6ポイント低くなっている。

【図 今後の雇用についての考え方（前回調査との比較）・従業員のうち女性の割合】



【図 今後の雇用についての考え方（前回調査との比較）・管理職のうち女性の割合】

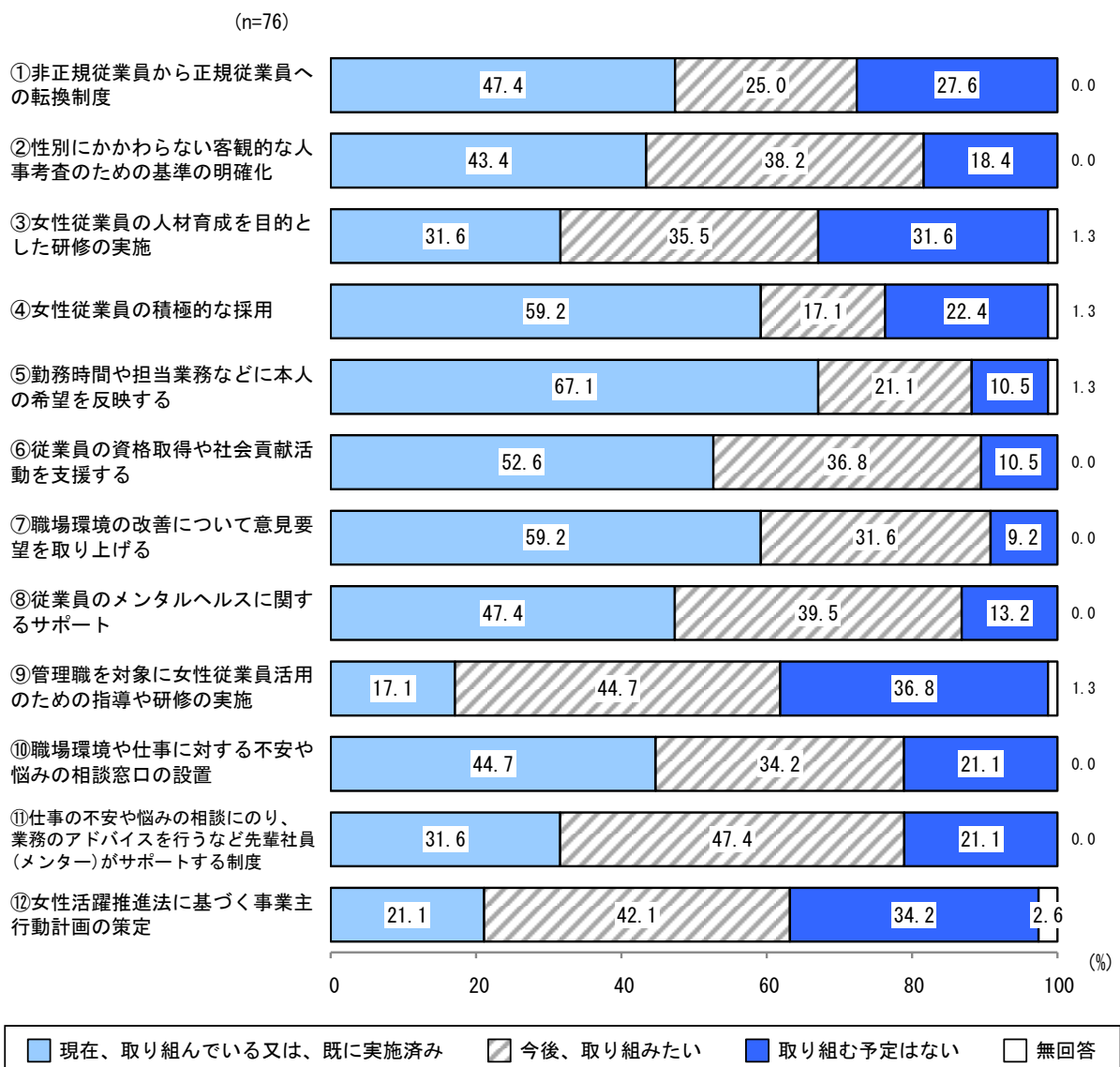


(3) 女性の積極的登用のための取組の状況

問6 貴事業所において、女性を積極的に登用するために、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

女性の積極的登用のための取組の状況についてたずねたところ、「現在、取り組んでいる又は、既に実施済み」は“⑤勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映する”が67.1%で最も高く、次いで“④女性従業員の積極的な採用”と“⑦職場環境の改善について意見要望を取り上げる”がともに59.2%、“⑥従業員の資格取得や社会貢献活動を支援する”が52.6%となっている。「今後、取り組みたい」は、“⑪仕事の不安や悩みの相談にのり、業務のアドバイスを行うなど先輩社員（メンター）がサポートする制度”が47.4%で最も高く、次いで“⑨管理職を対象に女性従業員活用のための指導や研修の実施”が44.7%、“⑫女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定”が42.1%となっている。

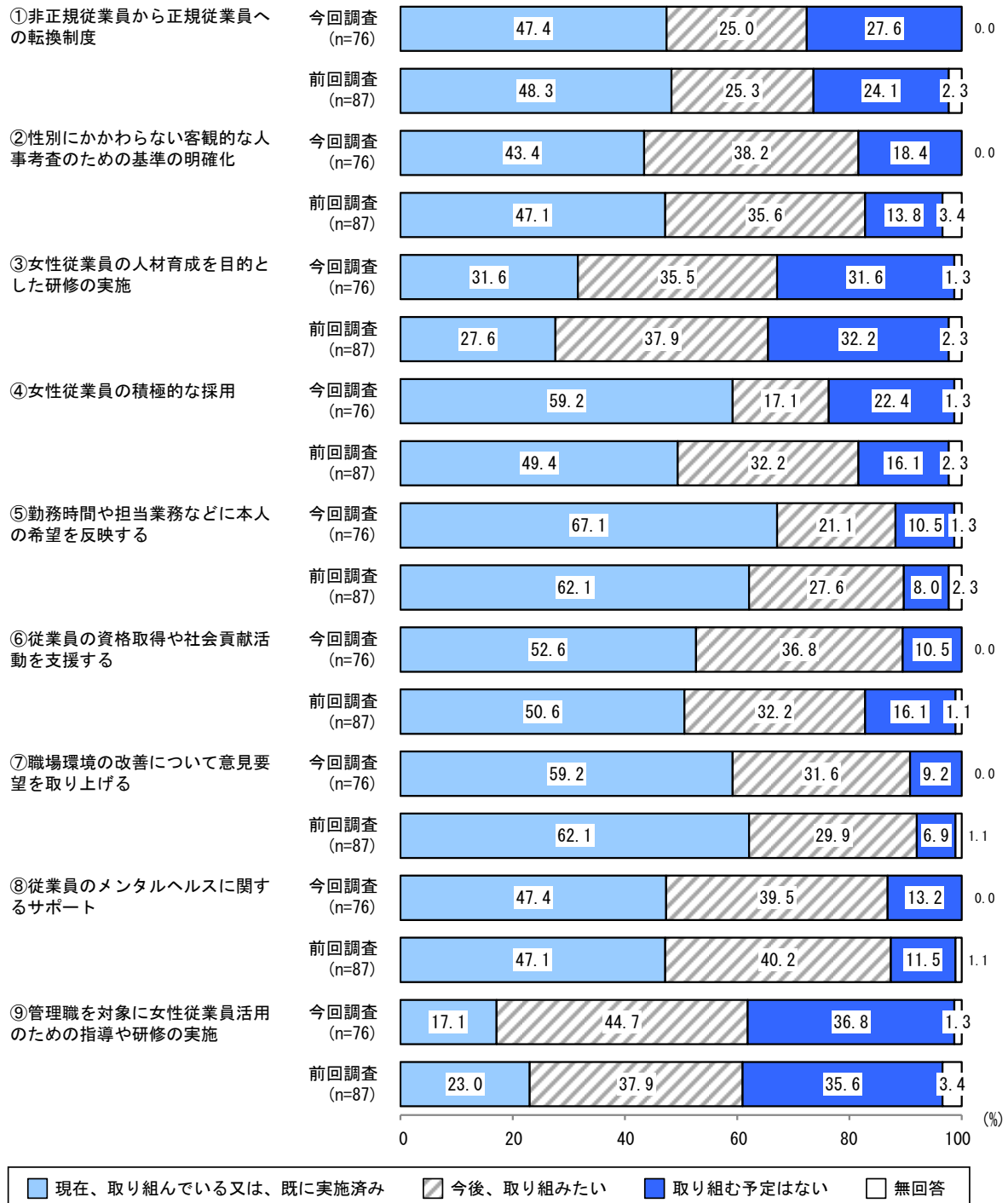
【図 女性の積極的登用のための取組の状況】



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「現在、取り組んでいる又は、既に実施済み」は、“④女性従業員の積極的な採用”が前回より9.8ポイント、“⑤勤務時間や担当業務などに本人の希望を反映する”が前回より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。「取り組む予定はない」は“④女性従業員の積極的な採用”が前回より6.3ポイント、“②性別にかかわらず客観的な人事考査のための基準の明確化”が前回より4.6ポイント、それぞれ高くなっている。

【図 女性の積極的登用のための取組の状況（前回調査との比較）】



※「⑩職場環境や仕事に対する不安や悩みの相談窓口の設置」、「⑪仕事の不安や悩みの相談にのり、業務のアドバイスを行うなど先輩社員（メンター）がサポートする制度」、「⑫女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」は新規項目。

(4) 労働力不足解消のための女性が活躍できるような取組の状況

問6-1 将来予測されている労働力不足を解消するため、女性がもっと活躍できるような取り組みとして、問6の①～⑫以外で実施されている、または今後実施を考えておられる取り組みがありましたら、ご記入ください。

問6の回答以外に、労働力不足解消のための女性が活躍できるような取組として、実施している、または今後実施を考えている取組を自由に記入していただいたところ、8件の意見が寄せられた。

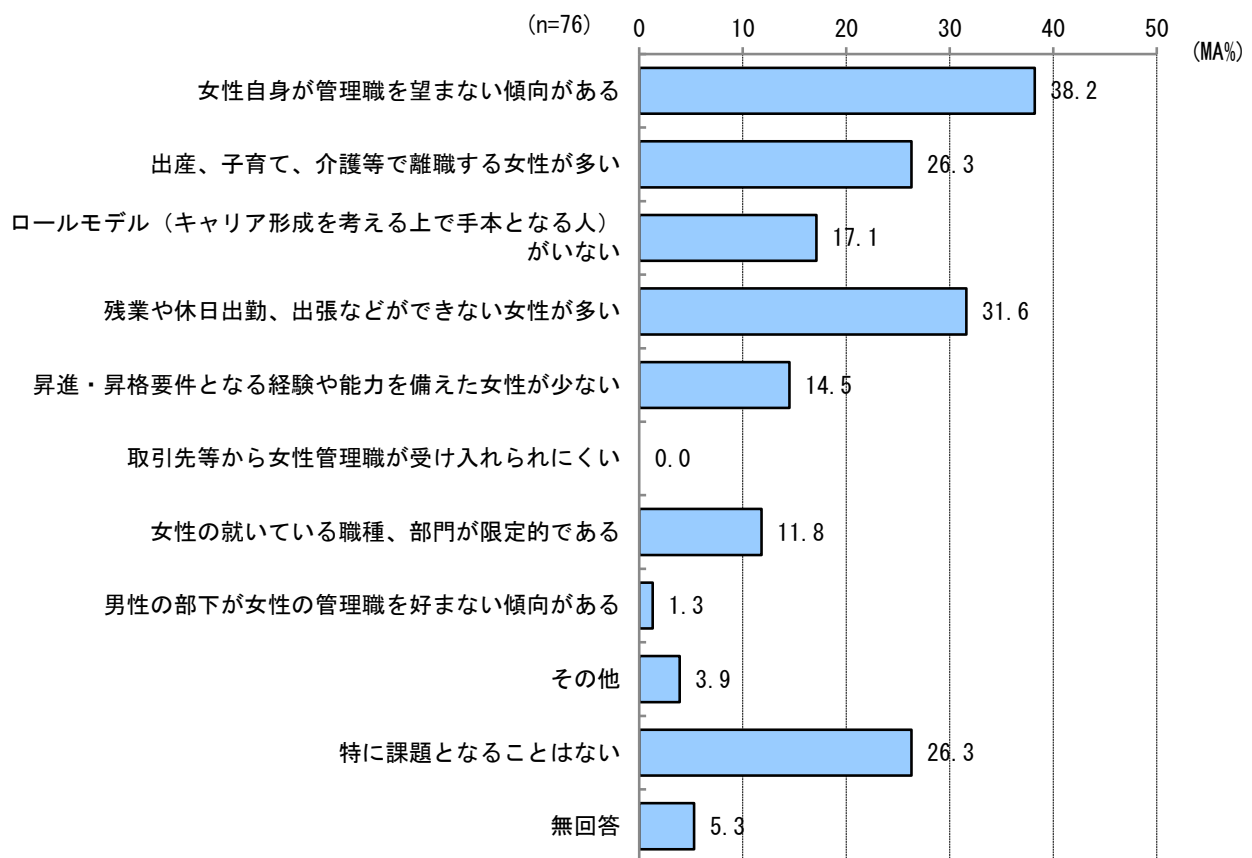
意 見
事務及び営業職において、スキルアップできる研修会などに積極的に参加させたい。現場管理などにおいても研修すれば女性もできる。今現在も実践している。
障がい者・グローバル社員の雇用。
103万円の壁。保育園にすぐに入園できるようにする。
女性中心の職場である。
そもそも男性や女性で業務や給料に差もなく、この質問自体が差を生む原因になっていると思います。
補助金の配布。
気軽に相談できる環境づくりや先進的取り組みの情報提供。(理由:価値観や意識の変化が顕著なため)
自主的な会議の場を提供している。

(5) 女性を管理職に登用するうえでの課題

問7 女性を管理職に登用する上で課題となるのは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

女性を管理職に登用するうえでの課題については、「女性自身が管理職を望まない傾向がある」が38.2%で最も多く、次いで「残業や休日出勤、出張などができない女性が多い」が31.6%、「出産、子育て、介護等で離職する女性が多い」と「特に課題となることはない」がともに26.3%となっている。

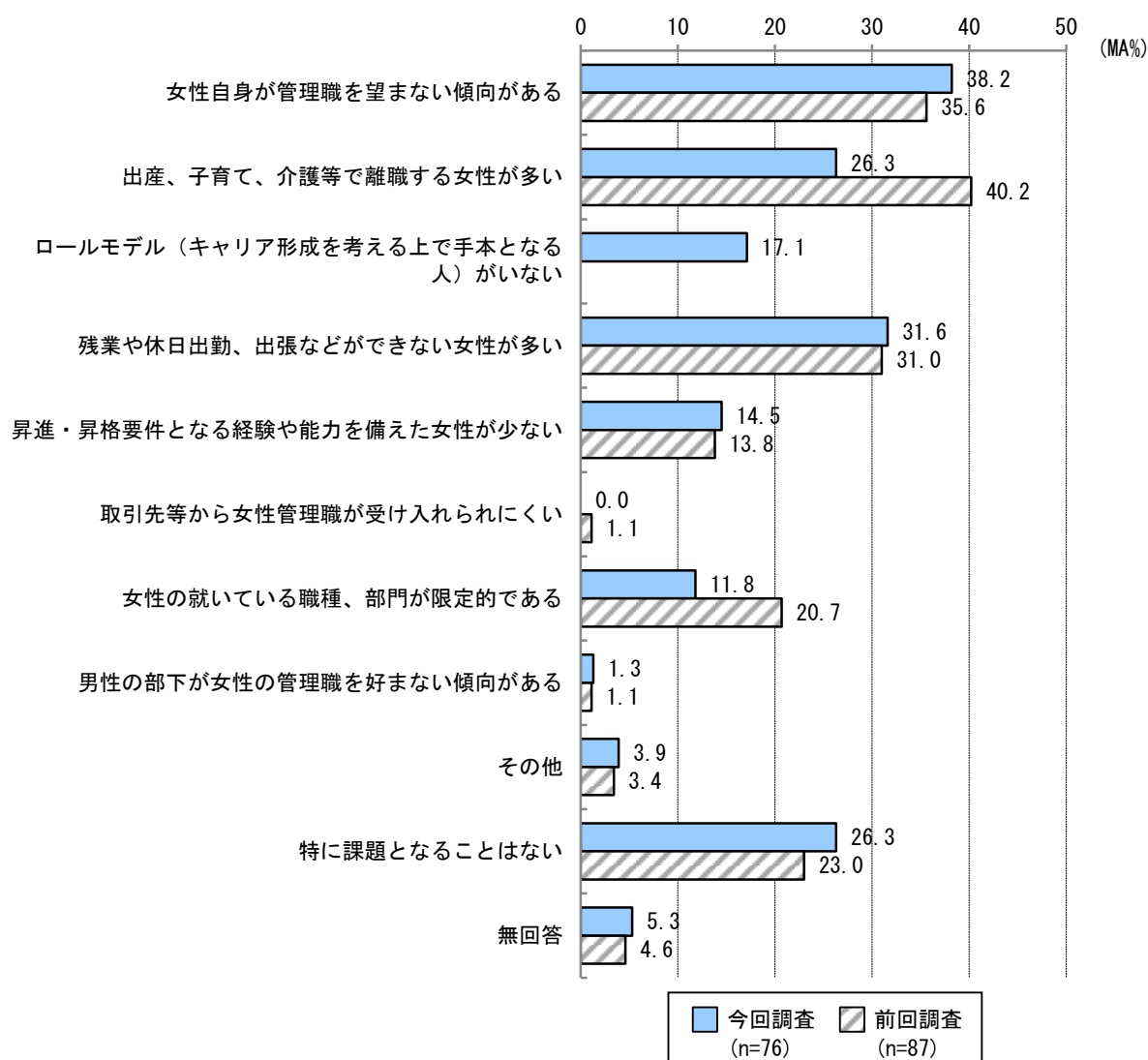
【図 女性を管理職に登用するうえでの課題】



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「出産、子育て、介護等で離職する女性が多い」の割合が前回より13.9ポイント、「女性の就いている職種、部門が限定的である」の割合が前回より8.9ポイント、それぞれ低くなっている。

【図 女性を管理職に登用するうえでの課題（前回調査との比較）】



※「ロールモデル（キャリア形成を考える上で手本となる人）がいない」は新規項目。

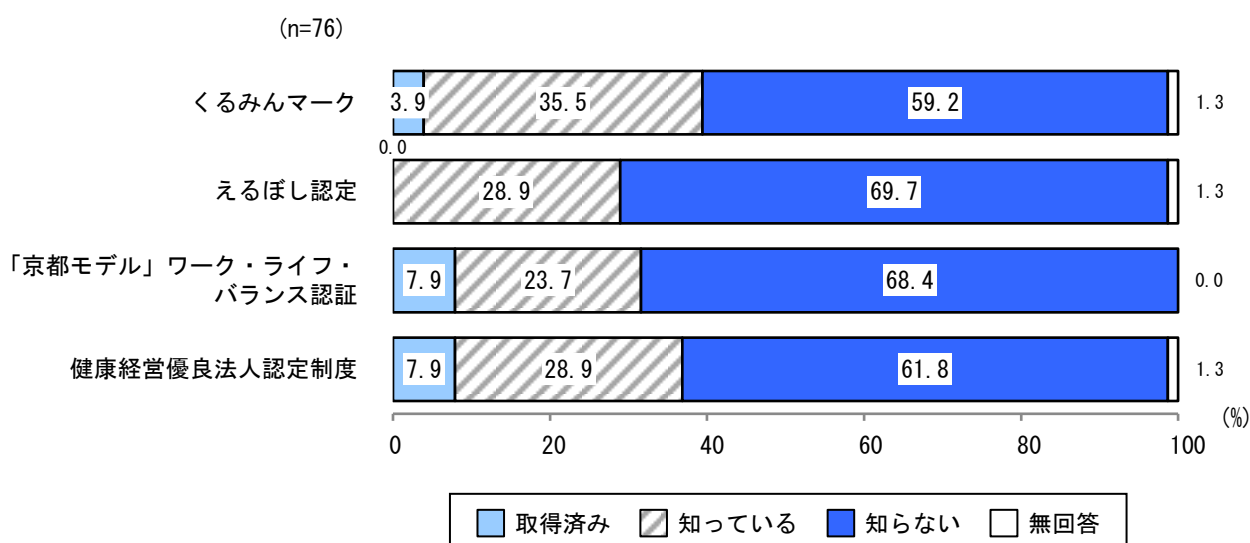
3. 男女がともに働きやすい環境について

(1) 企業認定・認証制度の認知度

問8 国や京都府が取り組む、次の企業認定・認証制度をご存知ですか。

企業認定・認証制度の認知度については、いずれも「知らない」が過半数を占めており、「えるぼし認定」が69.7%で最も高く、次いで「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証が68.4%となっている。一方、「取得済み」は「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証と「健康経営優良法人認定制度」がともに7.9%で最も高くなっている。

【図 企業認定・認証制度の認知度】



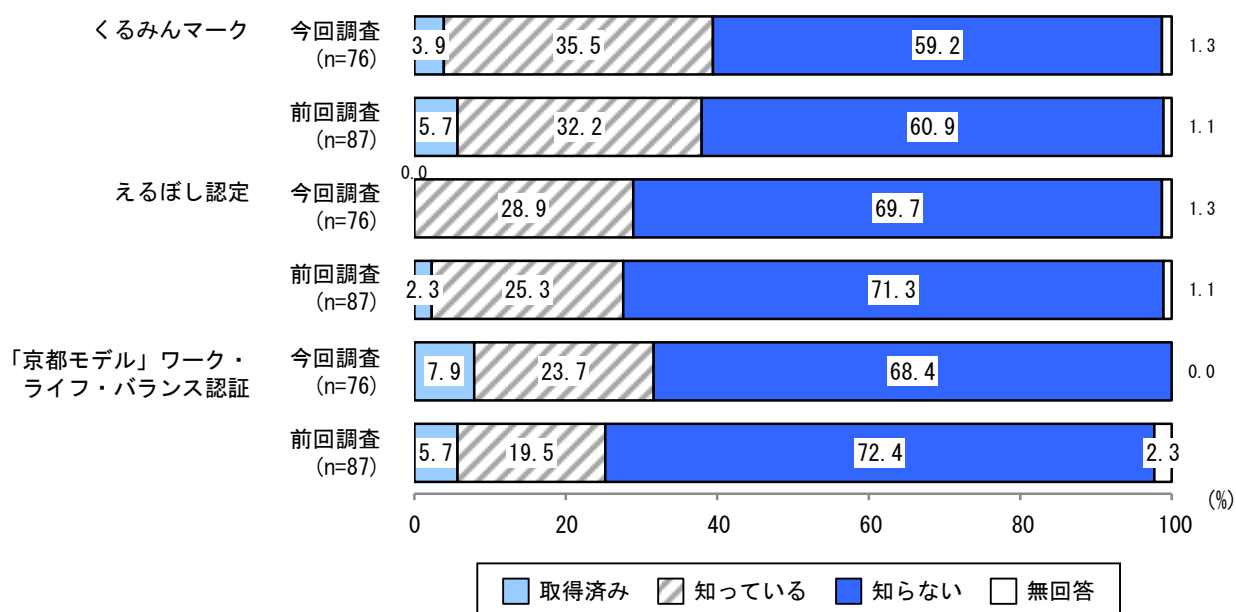
くるみんマーク 「子育てサポート企業」としての認定 (次世代育成支援対策推進法)	 
えるぼし認定 女性の活躍推進に関する状況等が 優良な事業主の認定 (女性活躍推進法)	  
「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証 ワーク・ライフ・バランスに取り組む方針を 宣言し、認証基準を満たす従業員 300 人以下の 府内事業所を京都府が認証	
健康経営優良法人認定制度 従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、 健康の保持・増進につながる取組を戦略的に 実践する企業を認定する制度	 

《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「取得済み」は“「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証”の割合が前回より2.2ポイント高くなっている。

「知っている」も“「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス認証”の割合が前回より4.2ポイント高くなっている。

【図 企業認定・認証制度の認知度（前回調査との比較）】



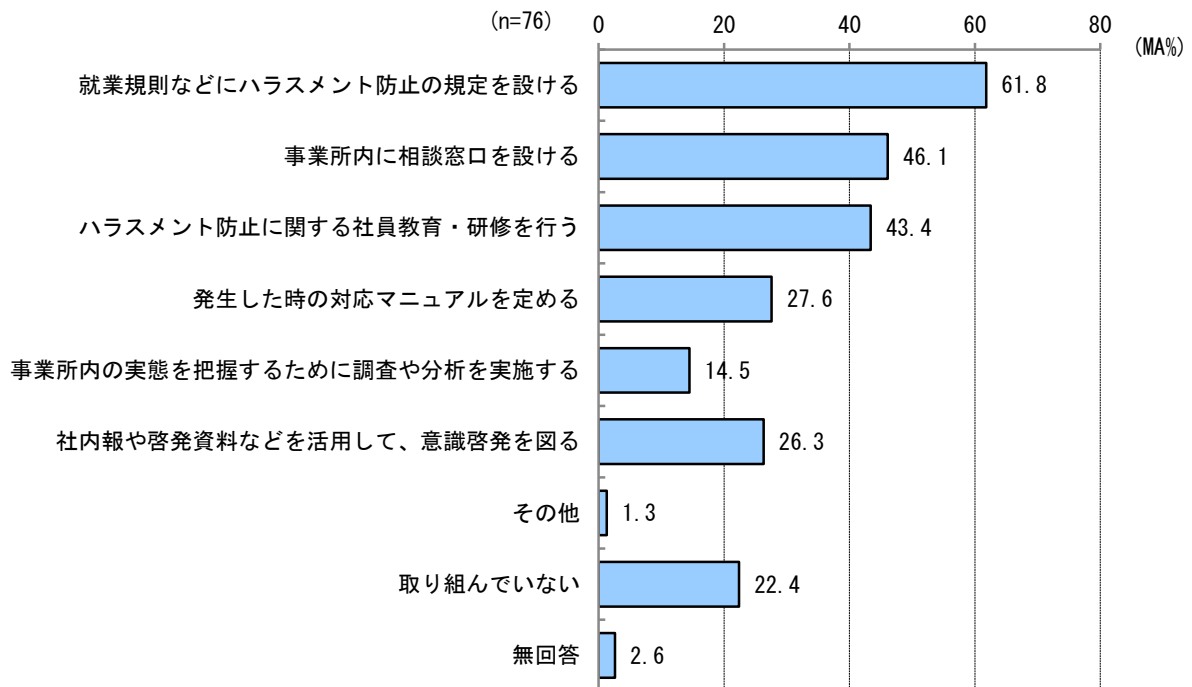
※「健康経営優良法人認定制度」は新規項目。

(2) ハラスメント防止のための取組の状況

問9 貴事業所では、職場におけるハラスメントを防止するため、現在、取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

ハラスメント防止のために現在取り組んでいることについては、「就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける」が61.8%で最も多く、次いで「事業所内に相談窓口を設ける」が46.1%、「ハラスメント防止に関する社員教育・研修を行う」が43.4%となっている。

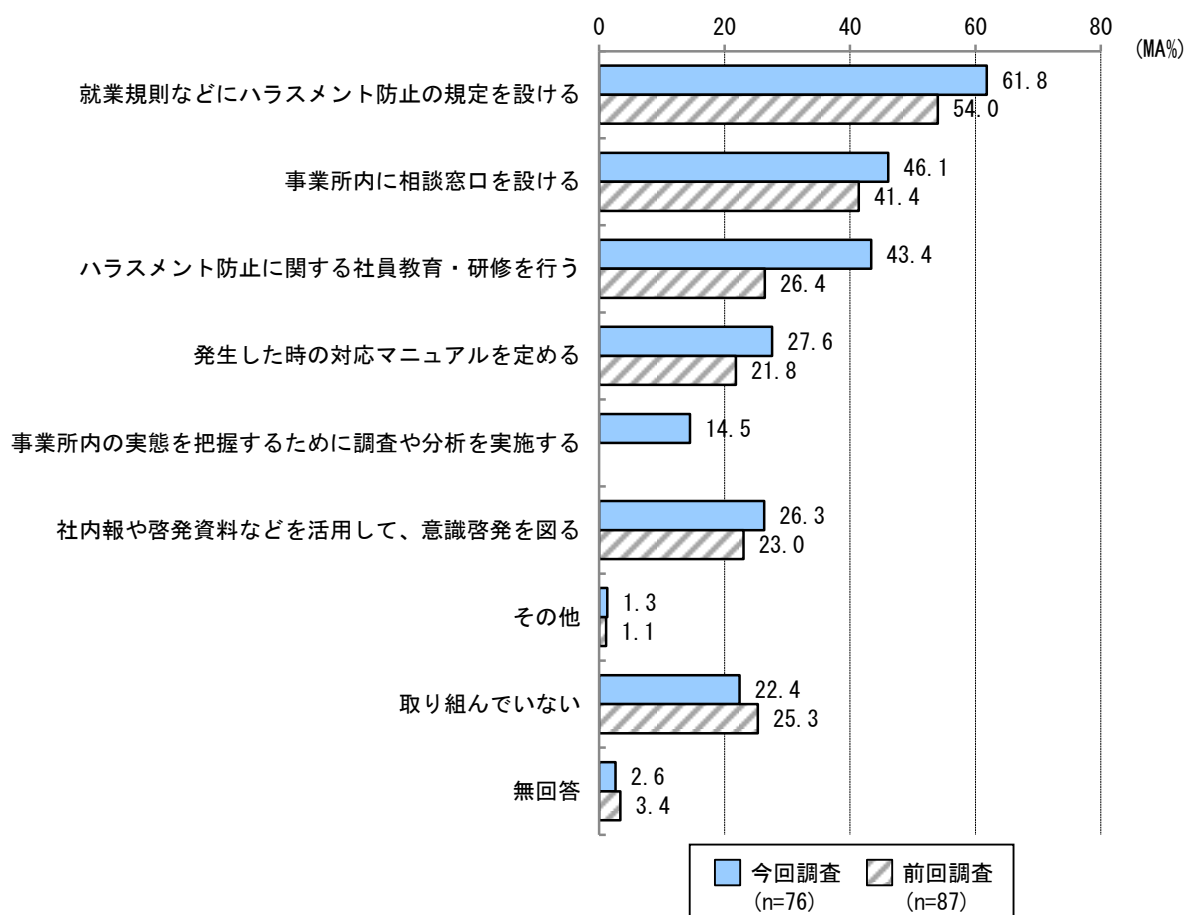
【図 ハラスメント防止のための取組の状況】



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「ハラスメント防止に関する社員教育・研修を行う」の割合が前回より17.0ポイント、「就業規則などにハラスメント防止の規定を設ける」の割合が前回より7.8ポイント、それぞれ高くなっている。

【図 ハラスメント防止のための取組の状況（前回調査との比較）】



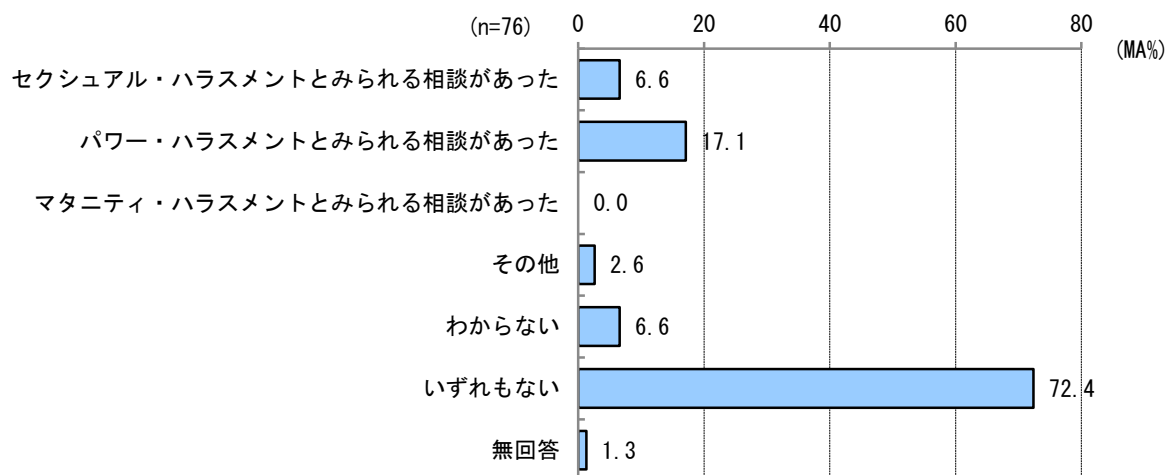
※「事業所内の実態を把握するために調査や分析を実施する」は新規項目。

(3) ハラスメントなどの相談事例の有無

問10 貴事業所では、この3年間にハラスメントに関する相談事例はありましたか。(〇はいくつでも)

この3年間のハラスメントに関する相談事例の有無については、「いずれもない」が72.4%で最も多いが、相談があった事業所では、「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」が17.1%で最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメントとみられる相談があった」が6.6%となっている。

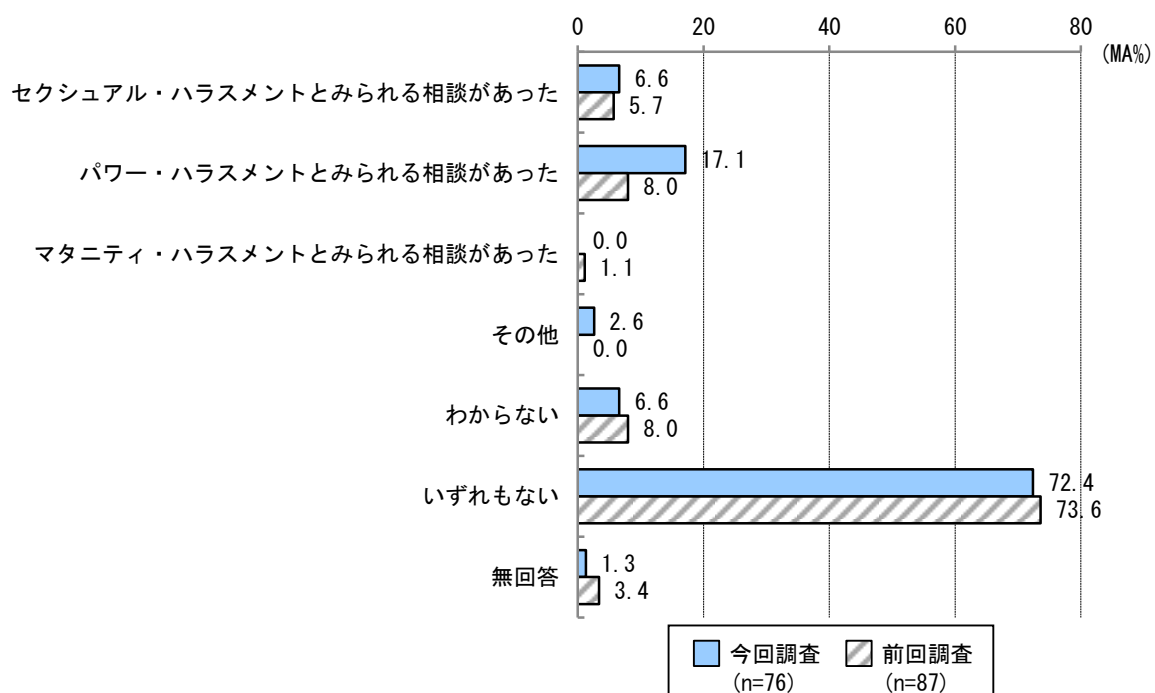
【図 ハラスメントなどの相談事例の有無】



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「パワー・ハラスメントとみられる相談があった」の割合が前回より9.1ポイント高くなっている。

【図 ハラスメントなどの相談事例の有無（前回調査との比較）】



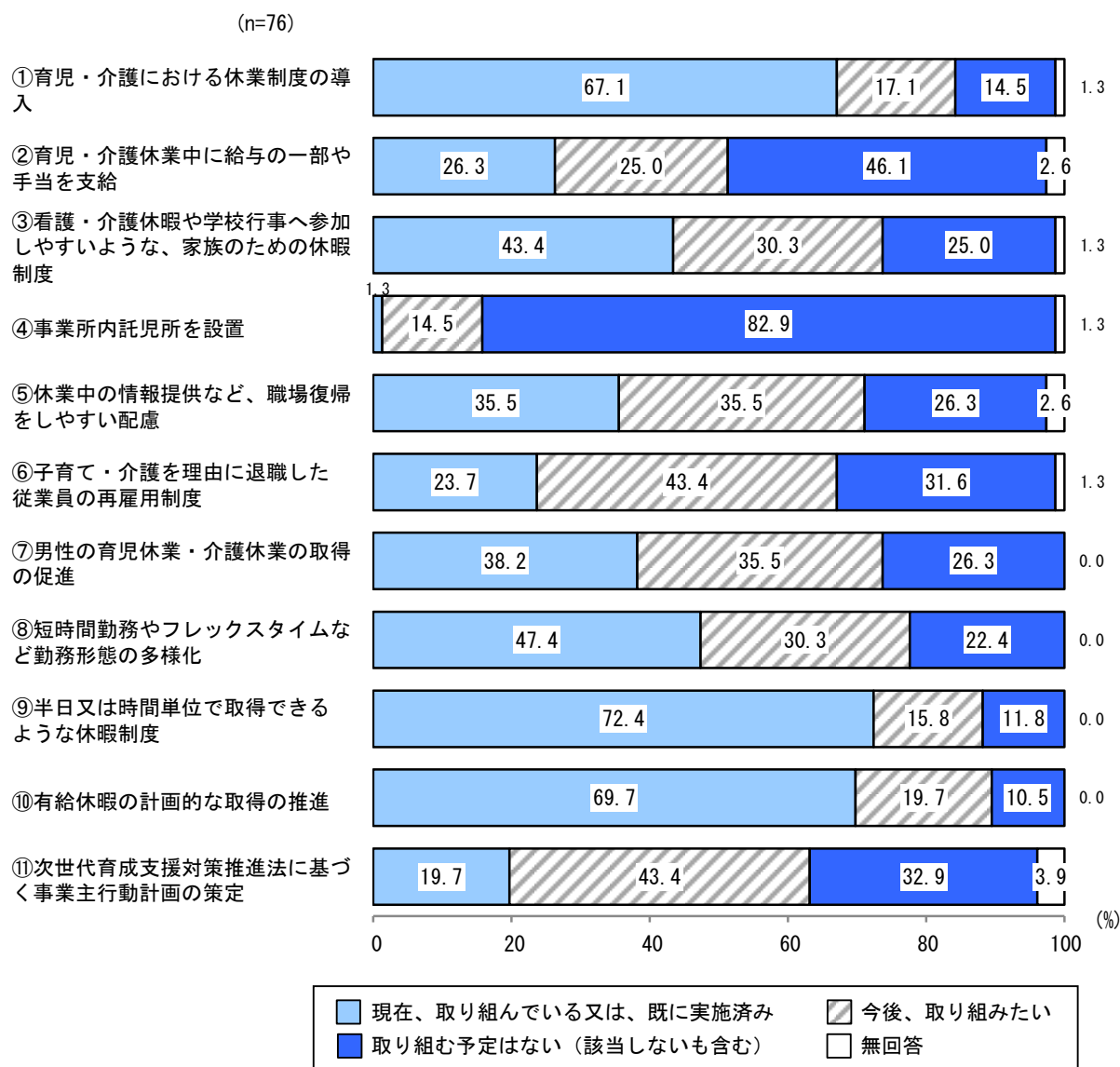
4. 子育て・介護との両立支援について

(1) 両立支援のための取組の状況

問11 貴事業所では、男女がともに子育て・介護をしながら働くことについて、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。

両立支援のための取組の状況をたずねたところ、「現在、取り組んでいる又は、既に実施済み」は“⑨半日又は時間単位で取得できるような休暇制度”が72.4%で最も高く、“⑩有給休暇の計画的な取得の推進”が69.7%、“①育児・介護における休業制度の導入”が67.1%となっている。「今後、取り組みたい」は“⑥子育て・介護を理由に退職した従業員の再雇用制度”と“⑪次世代育成支援対策推進法に基づく事業主行動計画の策定”がともに43.4%で最も高くなっている。一方、「取り組む予定はない（該当しないも含む）」は“④事業所内託児所を設置”が82.9%で最も高く、次いで“②育児・介護休業中に給与の一部や手当を支給”が46.1%となっている。

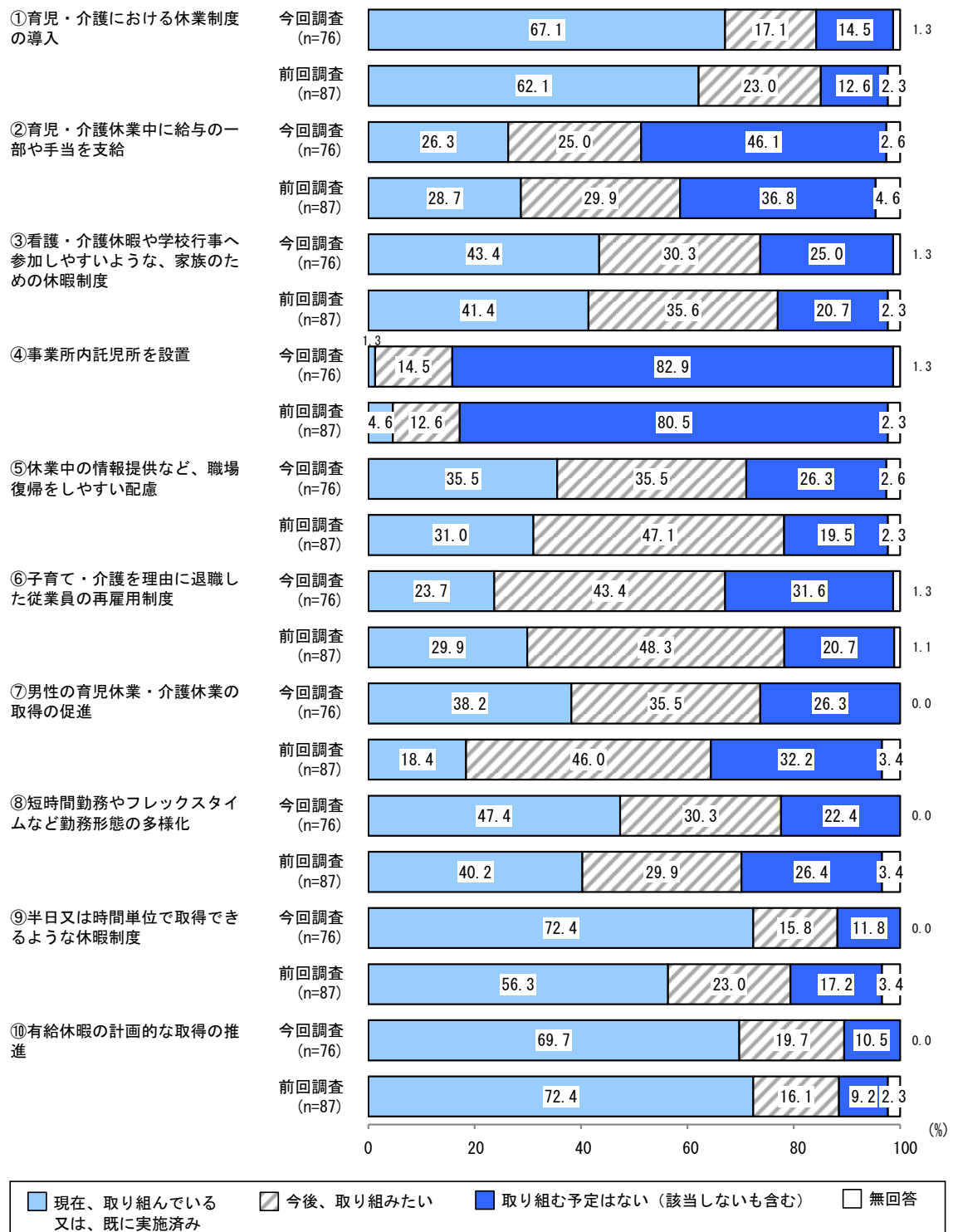
【図 両立支援のための取組の状況】



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「現在、取り組んでいる又は、既に実施済み」は“⑦男性の育児休業・介護休業の取得の促進”の割合が前回より19.8ポイント、“⑨半日又は時間単位で取得できるような休暇制度”の割合が前回より16.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「取り組む予定はない（該当しないも含む）」は“⑥子育て・介護を理由に退職した従業員の再雇用制度”の割合が前回より10.9ポイント高くなっている。

【図 両立支援のための取組の状況（前回調査との比較）】



※「⑩次世代育成支援対策推進法に基づく事業主行動計画の策定」は新規項目。

(2) 今後実施を考えている両立支援のための取組

問11-1 問11の①～⑪以外で実施されている、または今後実施を考えておられる取組みがありましたら、ご記入ください。

前問以外で実施している、または今後実施を考えている取組を自由に記入していただいたところ、3件の意見が寄せられた。

【表 今後実施を考えている両立支援のための取組】

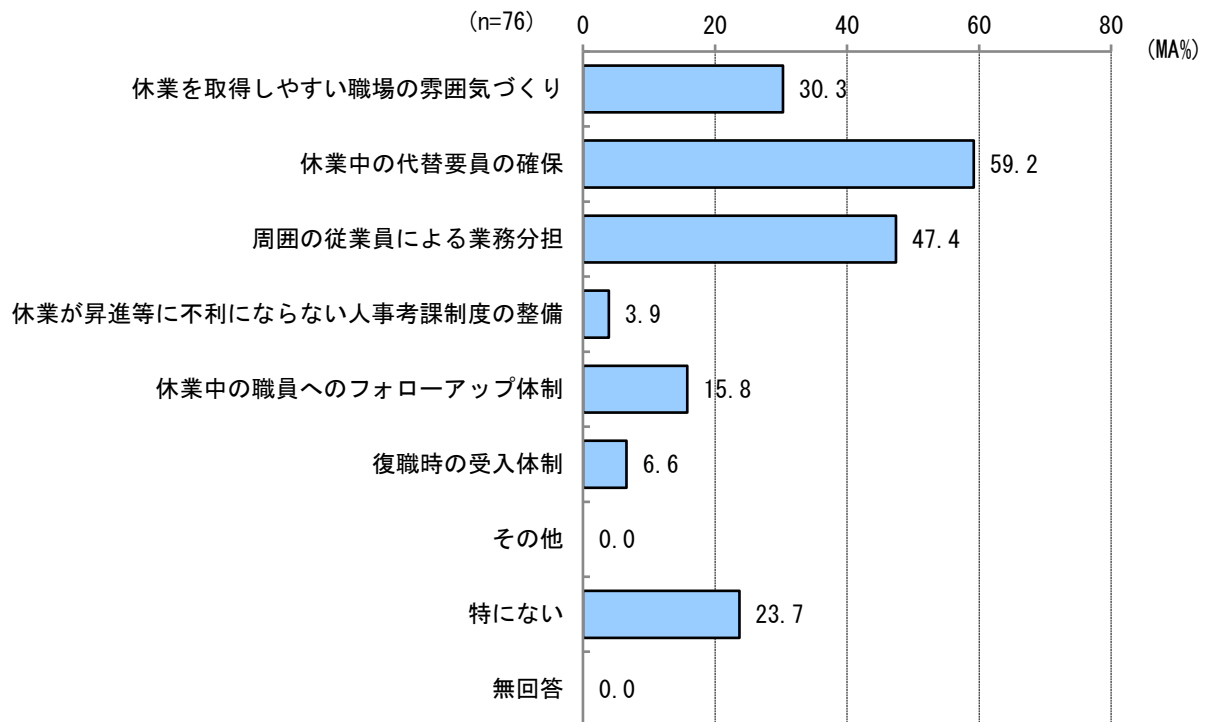
意 見
今は対象者がいない。今後出た場合は、相談窓口を設ける。
経験豊かで意欲あるマンパワーのライフステージに応じた再就業の促進
女性職員が多く、管理職も女性が多いため、男性職員が働きにくい場面がないかなどの確認も実施している。

(3) 男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題

問12 貴事業所において、男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題については、「休業中の代替要員の確保」が59.2%で最も多く、次いで「周囲の従業員による業務分担」が47.4%、「休業を取得しやすい職場の雰囲気づくり」が30.3%となっている。一方、「特にない」は23.7%となっている。

【図 男性の育児・介護休業取得を促進する上での課題】

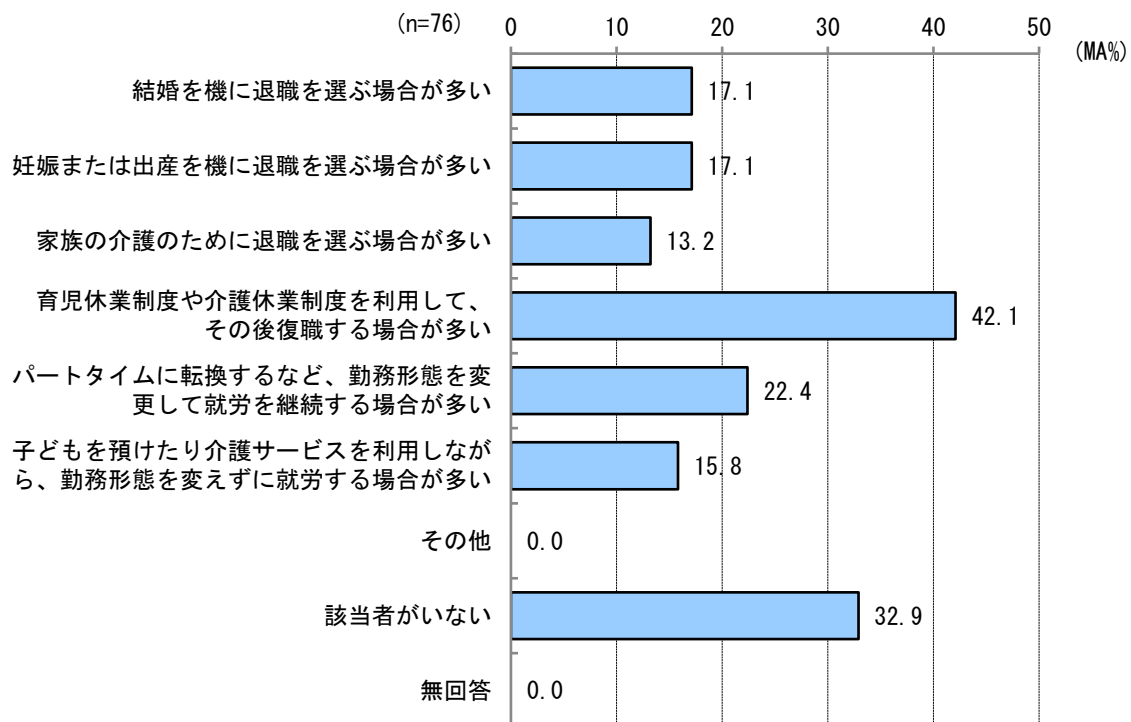


(4) 結婚や妊娠、出産、介護などのライフステージの節目に選ぶ働き方

問13 貴事業所の女性従業員（正社員）は、結婚や妊娠、出産、介護などのライフステージの節目に、どのような働き方を選ぶ傾向にありますか。（〇はいくつでも）

結婚や妊娠、出産、介護などのライフステージの節目に選ぶ働き方については、「育児休業制度や介護休業制度を利用して、その後復職する場合が多い」が42.1%で最も多く、次いで「パートタイムに転換するなど、勤務形態を変更して就労を継続する場合が多い」が22.4%、「結婚を機に退職を選ぶ場合が多い」と「妊娠または出産を機に退職を選ぶ場合が多い」がそれぞれ17.1%となっている。一方、「該当者がいない」は32.9%となっている。

【図 結婚や妊娠、出産、介護などのライフステージの節目に選ぶ働き方】

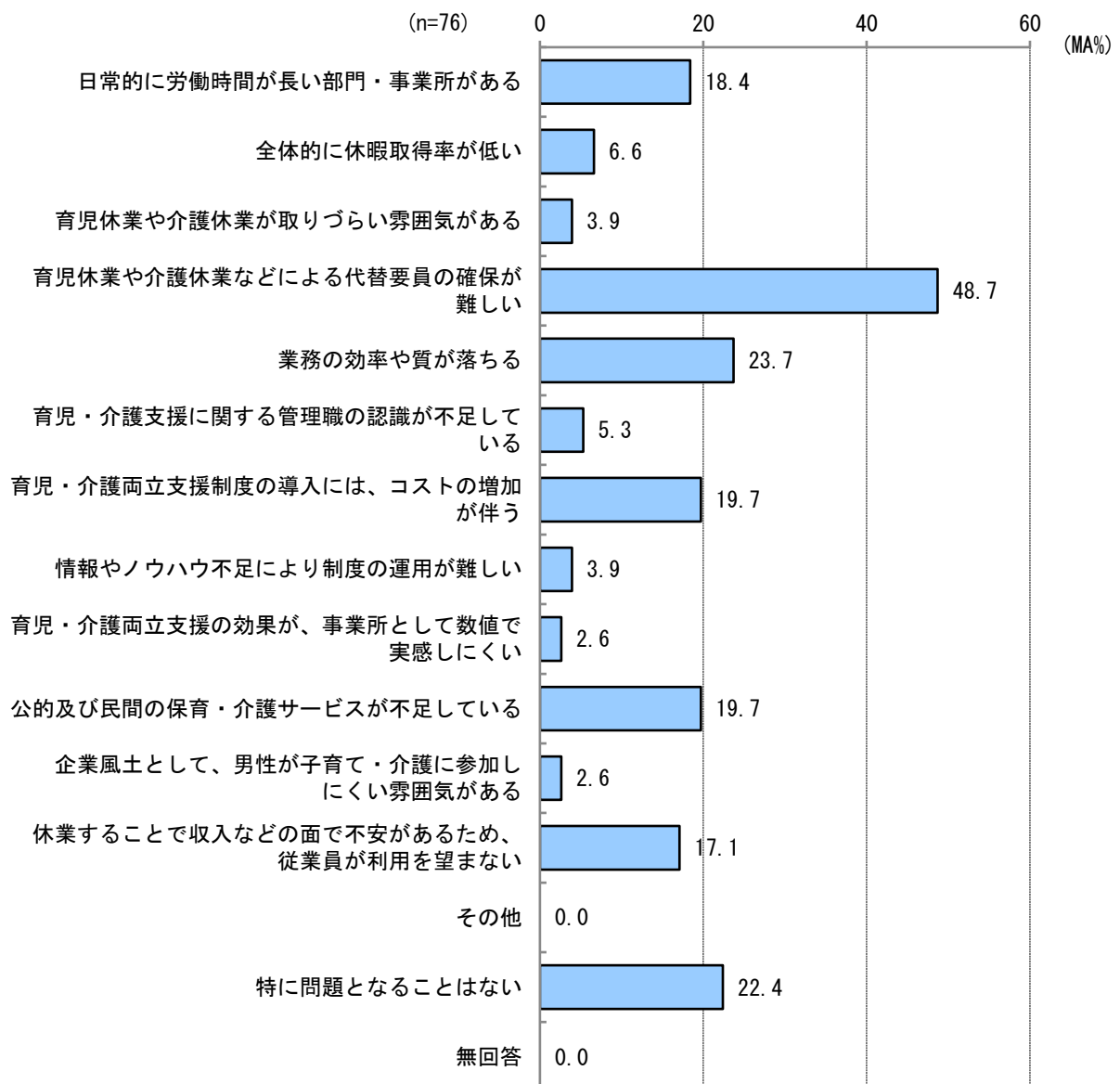


(5) 両立支援を推進するうえでの課題

問14 貴事業所において、仕事と子育てや介護の両立支援を推進しようとする場合、どのような問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

両立支援を推進するうえでの課題については、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」が48.7%で最も多く、次いで「業務の効率や質が落ちる」が23.7%、「育児・介護両立支援制度の導入には、コストの増加が伴う」と「公的及び民間の保育・介護サービスが不足している」がそれぞれ19.7%となっている。一方、「特に問題となることはない」は22.4%となっている。

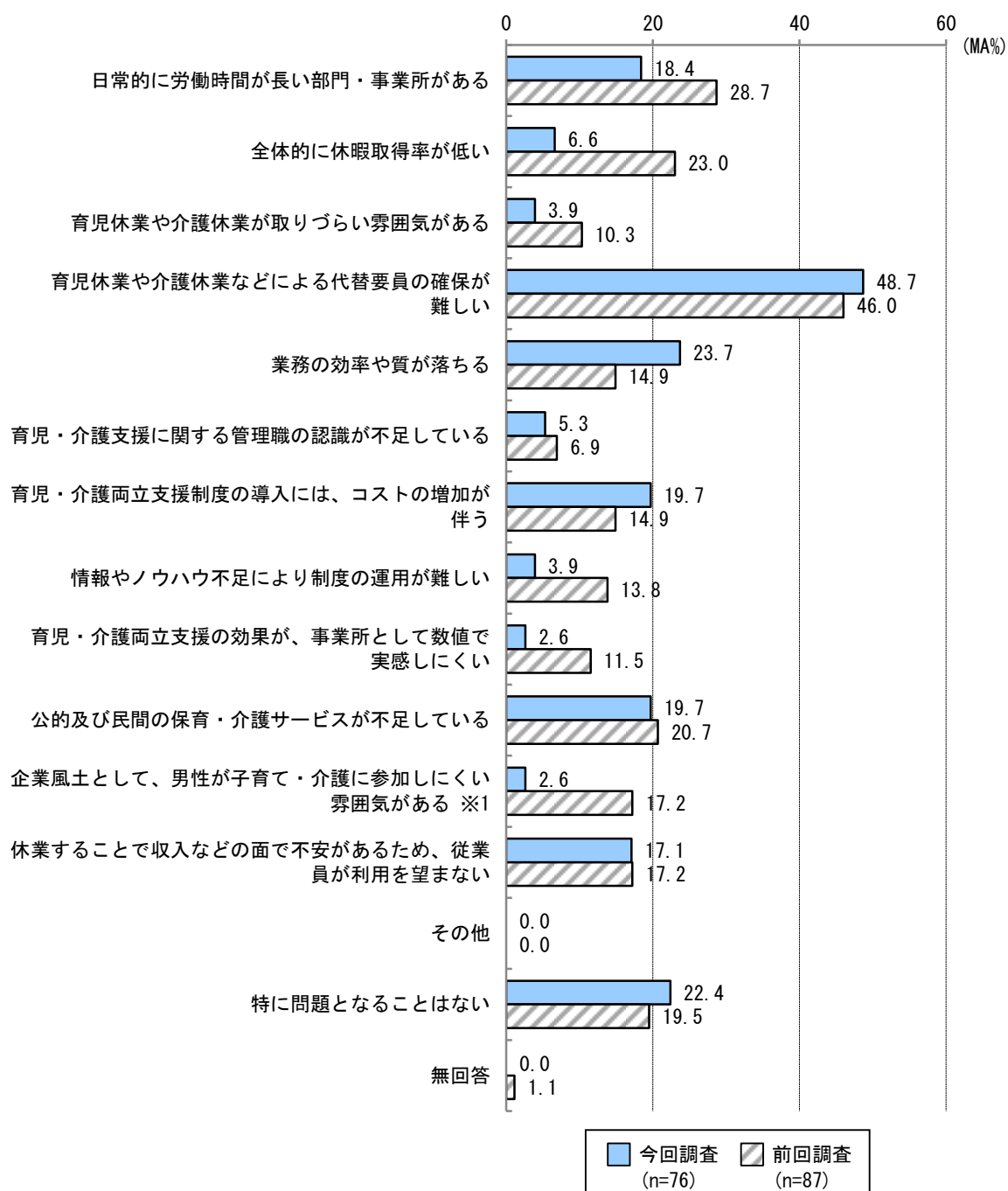
【図 両立支援を推進するうえでの課題】



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「全体的に休暇取得率が低い」の割合が前回より16.4ポイント、「企業風土として、男性が子育て・介護に参加しにくい雰囲気がある」の割合が前回より14.6ポイント、「日常的に労働時間が長い部門・事業所がある」の割合が前回より10.3ポイント、それぞれ低くなっている。

【図 両立支援を推進するうえでの課題（前回調査との比較）】



※1 前回調査では、「社会通念上、男性が育児・介護に参加しにくい」

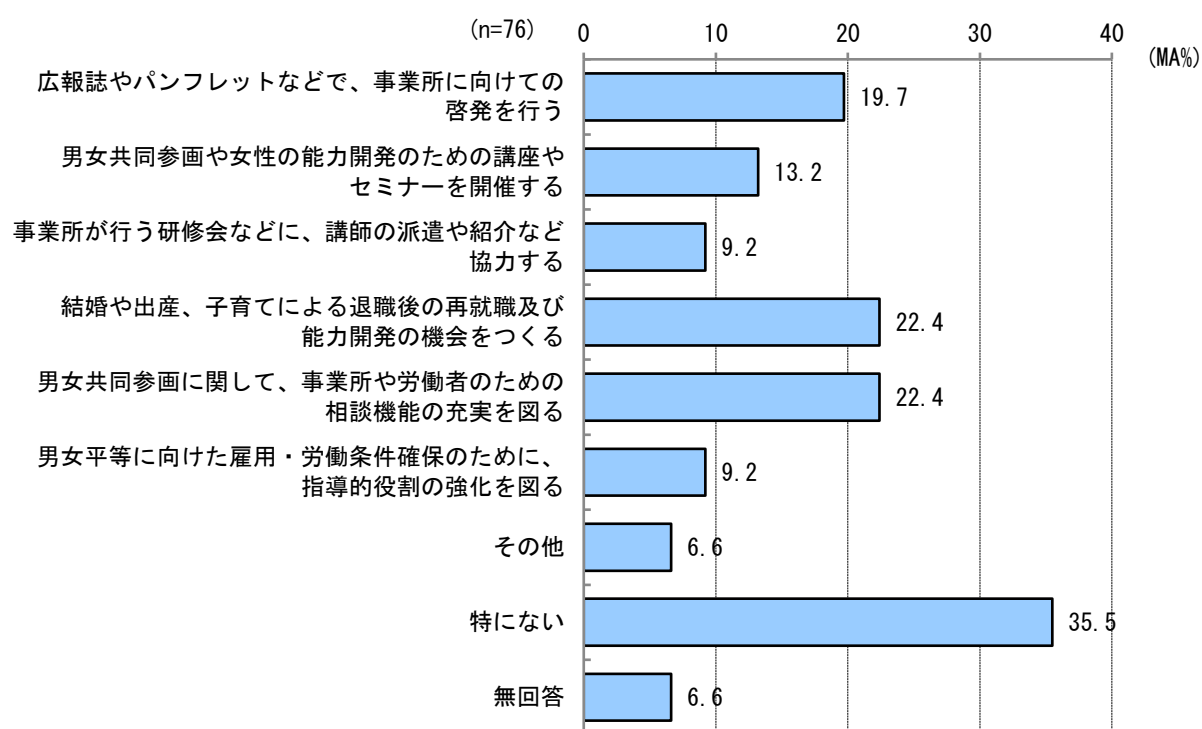
5. 男女共同参画に関する今後の取組について

(1) 男女がともに働きやすい環境をつくるために行政に対して希望すること

問15 今後、事業所が男女がともに働きやすい環境をつくるために、行政に対してどのようなことを望まれますか。(〇はいくつでも)

男女がともに働きやすい環境をつくるために、行政に対して事業所が望むことについては、「特にない」が35.5%で最も多いが、望むことがある人では「結婚や出産、子育てによる退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる」と「男女共同参画に関して、事業所や労働者のための相談機能の充実を図る」がそれぞれ22.4%で最も多く、次いで「広報誌やパンフレットなどで、事業所に向けての啓発を行う」が19.7%となっている。

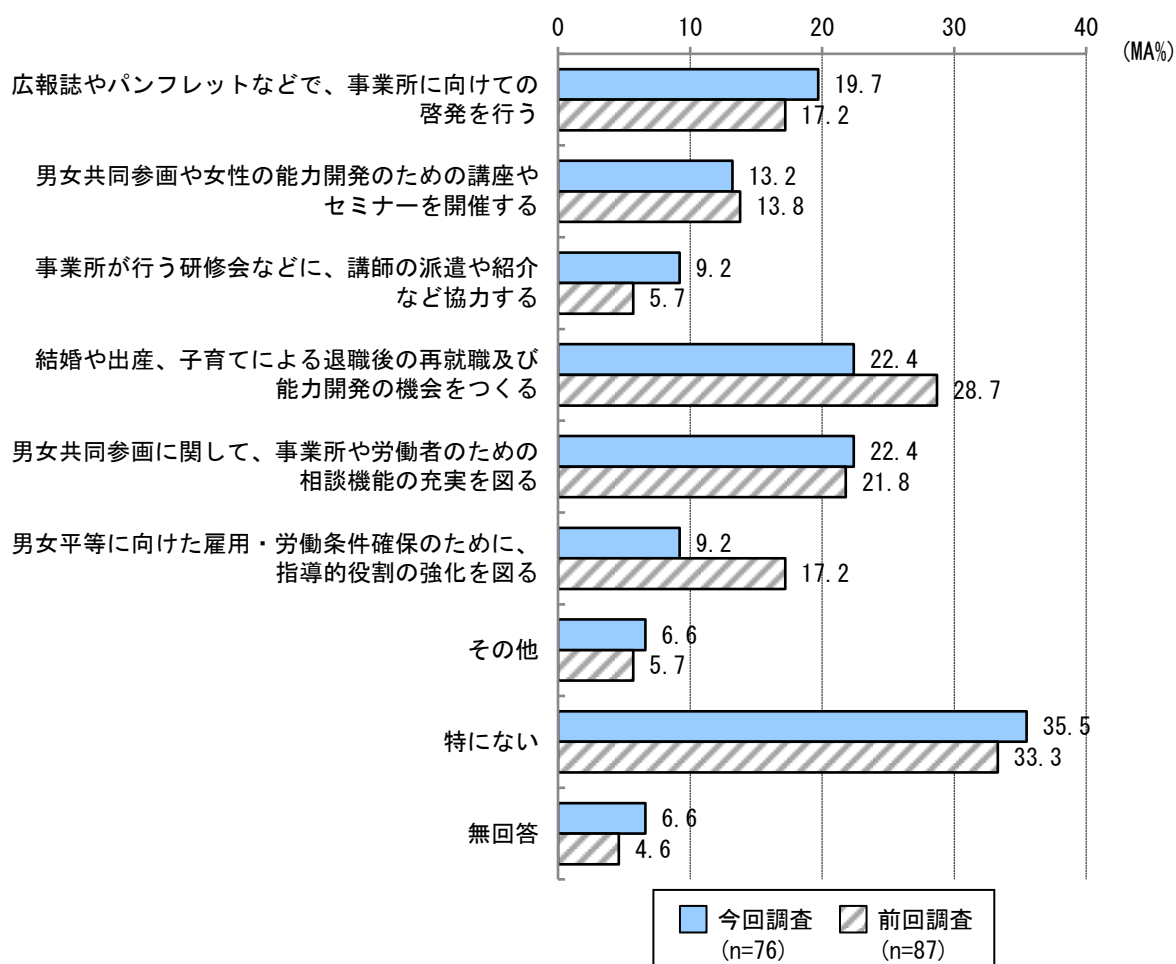
【図 男女がともに働きやすい環境をつくるために行政に対して希望すること】



《前回調査との比較》

前回調査と比較すると、「男女平等に向けた雇用・労働条件確保のために、指導的役割の強化を図る」の割合が前回より8.0ポイント、「結婚や出産、子育てによる退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる」の割合が前回より6.3ポイント、それぞれ低くなっている。

【図 男女がともに働きやすい環境をつくるために行政に対して希望すること（前回調査との比較）】



6. 自由意見

男女共同参画施策などについて、ご意見等を自由に記述していただいたところ、9事業所から意見が寄せられた。

原則として、原文のまま掲載しているが、明らかな誤字・脱字は修正している。

意 見
女性がしっかり仕事ができるように、保育園や学童保育をきちんと利用できるような体制にならなければ、男性と同じように仕事はできないです。
保育園の充実してほしい事、まず一つ、103万円の壁について、これ大切である。取り省いてほしい(国レベル)。
特に期待していません。
市役所内の女性管理職の数が少ない上に、彼女らが生き生きとした姿を見せていないことに不安を感じる。もっと女性が楽しそうに働く姿を見せてほしい。市役所が市民に与える影響は大きいですよ。
収入・生活の安定のため、正規職員の採用数を増やすべき。市のような収入が安定した職場であれば、働きたいと考える方も多い。そもそも男女問わず労働者の数を底上げすべきと考える。
取組の先進事例等の情報提供。
零細企業では人員に余裕がないので、なかなか思うように仕事はかどらないので、どうにか改善されると良いと思います。
意欲を持って取り組むような仕組みづくりが必要である。
男女共同参画というテーマがもう少し古くなってきているように感じています。多様性をテーマにしていくことが必要ではないかと思います。個々の多様性が尊重され、生活しやすい、生きやすい木津川市になってほしいと願っております。